

中津川市
子ども・子育て支援事業に関する
アンケート調査結果報告書

令和6年3月
岐阜県 中津川市

目 次

第1章 調査実施の概要	3
1 調査の目的	3
2 調査の設計	3
3 調査票の配布と回収状況	3
4 報告書の見方について	4
5 調査結果からみた課題等	6
第2章 子育て家庭を取り巻く環境	13
1 就学前・小学生の調査対象者の属性	13
2 子育ての環境について	16
3 保護者の就労状況	22
第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望	33
1 就学前児童の平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望 ...	33
2 就学前児童の地域の子育て支援事業の利用状況	40
3 就学前児童の休日の定期的な教育・保育事業の利用希望	48
4 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ	53
5 不定期の一時保育の利用について	61
6 放課後の過ごし方について	72
第4章 育児休業制度の利用状況	93
1 育児と仕事の両立支援制度について	93
第5章 子育ての環境や支援の満足度	101
1 子どもの家庭環境	101
2 中津川市の子育て支援施策	106
3 ご家庭の状況	110
第6章 小中学生調査結果	117
1 小中学生調査回答者の属性	117
2 ふだんの生活について	119
3 家族のお世話について	131
4 ヤングケアラーについて	135
5 その他について	136

第7章 若者調査結果	141
1 若者調査回答者の属性	141
2 日頃の意識と生活について	146
第8章 ひとり親調査結果	165
1 ひとり親調査回答者の属性	165
2 ご家庭の状況	167
3 生活全般について	172
4 就労状況	180
5 お子さんの状況について	184
6 子どもの家庭環境	188
7 中津川市の子育て支援施策	190
自由意見	195
1 就学前児童の保護者の自由意見（抜粋）	195
2 小学生保護者の自由意見（抜粋）	199
3 小中学生の自由意見（抜粋）	205
4 若者の自由意見（抜粋）	209
5 ひとり親の自由意見（抜粋）	210

第1章

調査実施の概要

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

本市では、子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～令和6年度）に基づき、様々な子育て施策を行っております。

令和7年度からの5年間を計画期間とする新たな計画を策定するにあたり、皆さまの日頃の子育て支援策に関する利用状況や、要望・意見などを把握するため、アンケート調査を実施いたしました。

2 調査の設計

調査票は調査対象者別に作成しており、各調査の件数及び調査期間、方法は、以下のとおりです。

■ 調査票の種類と調査対象者及び調査の実施方法

調査対象者	①中津川市に居住する就学前児童の保護者 1,000人（無作為抽出） ②中津川市に居住する小学生の保護者 1,700人（無作為抽出） ③中津川市に居住する小学5年生、中学2年生 1,330人（悉皆調査） ④中津川市に居住する若者（15～39歳） 500人（無作為抽出） ⑤中津川市に居住するひとり親 300人（無作為抽出）
調査期間	令和6年2月より順次実施
配布、回収方法	①②④⑤郵送配布、郵送回収またはWeb回答 ③学校経由配布、学校回収または学校Web回答

3 調査票の配布と回収状況

調査によるそれぞれの配布、回収状況は、以下のとおりです。

■ 調査票の配布、回収状況

調査対象者	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
就学前児童保護者	1,000	488	48.8
小学生保護者	1,700	817	48.1
小学5年生、中学2年生	1,330	1,074	80.8
若者（一般）	500	103	20.6
ひとり親	300	113	37.7



4 報告書の見方について

(1) 年齢、学年の定義

就学前児童、一般調査の年齢定義は、アンケート調査において誕生日の年月を回答しているため、下記による年齢区分により集計を行いました。

年齢区分	該当する生年月
0歳児	2023年4月2日～2024年2月1日
1歳児	2022年4月2日～2023年4月1日
2歳児	2021年4月2日～2022年4月1日
3歳児	2020年4月2日～2021年4月1日
4歳児	2019年4月2日～2020年4月1日
5歳児	2018年4月2日～2019年4月1日
6歳児	2017年4月2日～2018年4月1日

一般：1985年2月1日～2009年2月1日生まれ（15～39歳）

(2) 電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

なお、基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。

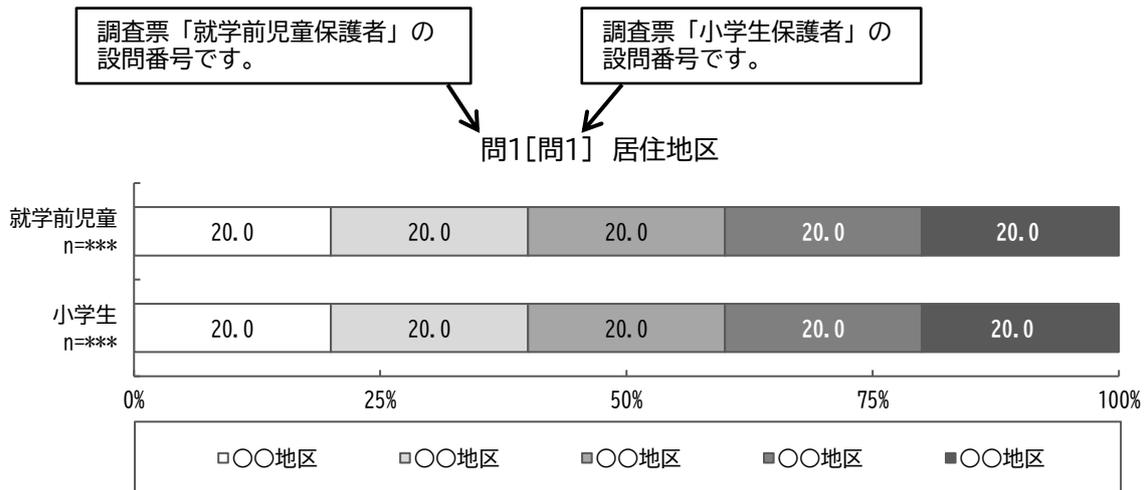
また、複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。



(3) グラフの見方について

本報告書では「就学前児童保護者」については「就学前児童」、「小学生保護者」については、「小学生」、「小学5年生、中学2年生」については「こども」、「若者（一般）」については「若者」と表記しています。

※「ひとり親」はそのまま表記





5 調査結果からみた課題等

分析を通して考察と課題抽出等を行いました。

結果1 周囲の援助が得られない、孤立した子育て環境にいる方は就学前児童保護者で8.0%、小学生で9.5%

子育てに関する親族、知人等協力者の状況は、多くの保護者が日常的、または緊急時、用事の際に祖父母等の親族に子どもをみてもらえると回答しており、協力を得られる状況です。

一方で、協力者が「いずれもない」と回答した、孤立した子育て環境にいる保護者は就学前児童で8.0%、小学生で9.5%となっており、前回調査と比較すると就学前児童1.5ポイント、小学生では2.9ポイント増加しています。

【就学前児童保護者調査 問7、小学生保護者調査 問7】

子育てをする上で気軽に相談できる人(場所)の有無については、就学前児童では「いる/ある」が91.6%、「いない/ない」が6.1%となっています。前回調査と比較すると、「いる/ある」が5.9ポイント、「いない/ない」が1.6ポイント増加しています。

気軽に相談できる人(場所)については、「祖父母等の親族」、「友人や知人」が上位を占め、その多くは身近な人達となっています。前回調査と比較すると、大きな変化がありません。

【就学前児童保護者調査 問8-1、小学生保護者調査 問8】

問7の結果から、前回調査時よりも孤立割合が若干高くなっていることが分かりました。孤立した子育て環境にいる保護者に対してどのような子育て支援が必要とされ、有効であるかの把握が課題となっています。身近な人に相談することが多くなっていることから、相談できる機関の周知や教育・保育施設等との連携、アクセスしやすく気軽に相談できる体制づくりなど、様々なニーズに即した新たな支援施策についても検討する必要があります。

**結果2 母親の就労率（育休等を含む）は就学前児童保護者が80.1%、
小学生保護者が90.7%**

母親の就労状況（産休・育休・介護休業中含む）をみると、就学前児童保護者が80.1%、小学生保護者が90.7%となり、そのうち産休、育休、介護休業中の方は、就学前児童保護者が13.7%、小学生保護者が1.8%となっています。

就労状況を前回調査と比較すると、就学前児童保護者では14.7ポイント、小学生保護者では5.3ポイント増加しています。

【就学前児童保護者 問9、小学生保護者 問9】

働く母親がさらに増加していることから、定期的な教育、保育事業について就労実態に即した事業体制を整える必要があります。

**結果3 病気やケガで通常の事業が利用できなかった場合の対処方法は、
「母親が休んだ」が「父親が休んだ」を大きく上回る**

病気やケガで通常の事業を利用できなかった場合の対処方法は、就学前児童保護者、小学生保護者いずれも「母親が休んだ」（就学前児童84.9%、小学生79.3%）が最も高く、次いで「父親が休んだ」（就学前児童44.4%、小学生24.9%）、「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」（就学前児童34.1%、小学生22.4%）となっています。

前回調査と比較すると、「父親が休んだ」が就学前児童保護者では19.5ポイント、小学生保護者では13.9ポイント、「母親が休んだ」が就学前児童保護者では13.6ポイント、小学生保護者では10.3ポイント、「仕方なく子どもだけで家に居させた」が就学前保護者では1.4ポイント、小学生保護者では5.0ポイントそれぞれ高くなっています。

【就学前児童保護者 問18-1 小学生保護者 問14-1】

以上の結果から、病気やケガをした子どもをみるのは母親の役目であるという役割意識の定着が依然としてうかがわれますが、前回調査と比較すると父親が休んだ割合が大幅に増加していることから、父親が休暇を取得しやすい職場環境づくりが徐々に始まっていると推察されます。さらに父親の育児参加の促進やワーク・ライフ・バランスの取組など、父親の育児参加を促すための対策を進めていく必要があります。

結果4 小学生の放課後児童クラブ（学童保育）の利用は増加傾向

小学生が放課後に過ごしている場所をみると、「自宅」（72.7%）が最も高く、次いで「塾や習い事」（25.7%）、「放課後児童クラブ（学童保育）」（19.3%）、「祖父母宅や友人・知人宅」（12.1%）となっています。前回調査と比較すると、「放課後児童クラブ（学童保育）」が4.1ポイント増加しています。

また、放課後児童クラブを利用している方に、放課後児童クラブに希望することを聞いてみると、「利用料金を安くする」（40.5%）が最も高く、次いで「施設や設備を改善する」（28.5%）となっています。

現在小学1～3年生の方に、小学4年生以降の放課後の過ごし方について望むことについてみると、「放課後児童クラブを利用したい」（79.5%）が最も高く、放課後児童クラブを何年生まで利用したいかについてみると、「6年生」が63.6%となっています。

【小学生保護者 問11・問12-2・問12-3】

前回調査よりも放課後児童クラブ（学童保育）のニーズが高くなっている結果となりました。また、6年生まで預けたいと考えている保護者が半数以上いることも分かりました。子どもの放課後の安全な過ごし方として一定の役割を担っている放課後児童クラブについては、今後も子どもの成長に繋がる事業として、保護者のニーズを反映していくとともに、よりよい事業内容への改善や環境、運営の整備について協議していく必要があります。

結果5 育児休業を取得又は取得中の就学前児童の母親は54.3%、父親は11.9%

就学前児童保護者の育児休業の取得率をみると、母親が54.3%、父親が11.9%となり、前回調査と比較すると、母親は11.7ポイント、父親は10.2ポイント増加しています。

母親の育児休業取得期間についてみると、実際の取得期間では「1歳～1歳半未満」（46.7%）、希望取得期間では「3歳以上」（29.9%）が最も高くなっています。

一方、育児休業を取得していない理由は、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が28.6%で前回調査同様最も高くなっていますが、10.6ポイント減少しています。それ以外では、前回調査において11.4%であった「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が17.9%に増加しています。父親では「仕事が忙しかった」（36.0%）が最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（35.8%）となっています。【就学前児童保護者 問24・問25-2・問26】

以上の結果から、子育て世帯への社会全体の意識の変化にともない、母親父親ともに育児休業取得率が前回調査時よりも高くなっています。

一方で、育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望する月齢との差があることから、希望の育児休業期間を取得できるような職場の環境づくりなど、安心して出産、子育てができるよう、経済的な支援を含めた更なる取得の支援を推進する必要があります。

結果6 子育て環境や支援に対する満足度（「満足」＋「やや満足」＋「ふつう」）は、就学前児童保護者で65.0%、小中学生保護者で63.7%、ひとり親で48.7%

中津川市における子育ての環境や支援に対する満足度「満足している」＋「やや満足している」＋「ふつう」は、就学前児童保護者で65.0%、小中学生保護者で63.7%、ひとり親で48.7%となっています。

【就学前児童保護者 問36 小学生保護者 問26 ひとり親 問32】

中津川市の子育て支援策に期待することについてみると、就学前児童保護者では「園や学校教育環境の充実」（59.0%）、「犯罪や交通事故から子どもを守る取り組みの充実」（57.6%）、小学生保護者では「子どもの医療機関の充実」（49.6%）、「犯罪や交通事故から子どもを守る取り組みの充実」（49.1%）、ひとり親では「ひとり親家庭に対する支援の充実」（48.7%）となっています。

また、「放課後等の子どもの居場所の充実」では就学前児童保護者で54.9%、「児童虐待やいじめ等の対策の充実」では小学生保護者で45.3%となっており、関心が高くなっています。【就学前児童保護者 問35 小学生保護者 問25】

以上の結果から、今後更に満足度を高め、子育てを楽しいと感じてもらうためには、多様化する子育て世帯のニーズに即した事業の見直し、改善が必要となります。

結果7 「所得層Ⅰ」世帯は就学前児童保護者4.9%、小学生6.6%、ひとり親38.9%

世帯収入の設問の選択肢における中間値を置換し、世帯人数の平方根で除した「等価世帯収入」を算出し、有効回答者全体の中央値の半分である133万円未満の世帯を「所得層Ⅰ」としました。該当世帯割合をみると、就学前児童保護者で4.9%、小学生保護者で6.6%、ひとり親で38.9%となっています。

【就学前児童保護者 問41 小学生保護者 問31 ひとり親 問7】

以上の結果から、生活課題を抱える「所得層Ⅰ」世帯の正確な把握とともに、公的制度の周知徹底及び利用の促進、支援団体や民生委員等へ橋渡しができる地域ネットワークの構築強化と環境整備を検討する必要があります。



**結果8 将来の夢が「ない」回答した割合は31.8%
いやなことや悩んでいる時に相談するのは約6割が親**

将来の夢についてみると、「ある」は67.4%、「ない」は31.8%となっており、夢がない理由については、「何も思いうかばないから」(59.1%)が最も高く、次いで「わからない」(20.2%)となっています。【小中学生 問5】

いやなことや悩んでいる時に誰かに相談するかについてみると、「親」(62.5%)が最も高く、次いで「学校の友だち」(56.2%)「担任の先生やほかのクラスの先生」(33.0%)「きょうだい」(25.5%)となっています。一方、「だれにも相談できない」が3.7%、「だれにも相談したくない」が7.5%となっています。【小中学生 問11】

大人になったとき、どのようになっているかについては、「仲間と仲良く暮らしている」(そう思う：68.5%)が最も高くなっています。一方で、「結婚している」、「子どもを育てている」ではそう思うと回答した割合は各3割となっています。【小中学生 問26】

日々色々と思うことがある中で学校生活を送っていることが推察されます。こどもが置かれている状況は一様ではないことから一般化はできませんが、大人に頼ることができないこどもたちが含まれている可能性があります。また、将来について考えることができているこどもが一定数いることから、キャリア教育を始めとした将来について考え、話をする機会を設けることが求められています。

結果9 社会生活や日常生活が円滑に遅れない状態になった時に、家族・知り合い以外の相談先をみると、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」が5割

社会生活や日常生活を円滑に送れない状態となったときの家族や知り合い以外の相談先、相談相手についてみると「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」(52.4%)が最も高く、次いで「相手が同世代である」(37.9%)、「無料で相談できる」(26.2%)となっています。一方、「誰にも相談したくない」は6.8%となっています。【若者 問26】

以上の結果から、家族や知り合い以外の相談先として、同世代であったり、無料で相談できるところを希望していること、同じ悩みを抱えている/いたことで、相談しやすくなることが分かりました。

今後、気軽に相談できる場所の周知や体制づくりなど、様々なニーズに即した支援施策について検討する必要があります。

第2章

子育て家庭を取り巻く環境



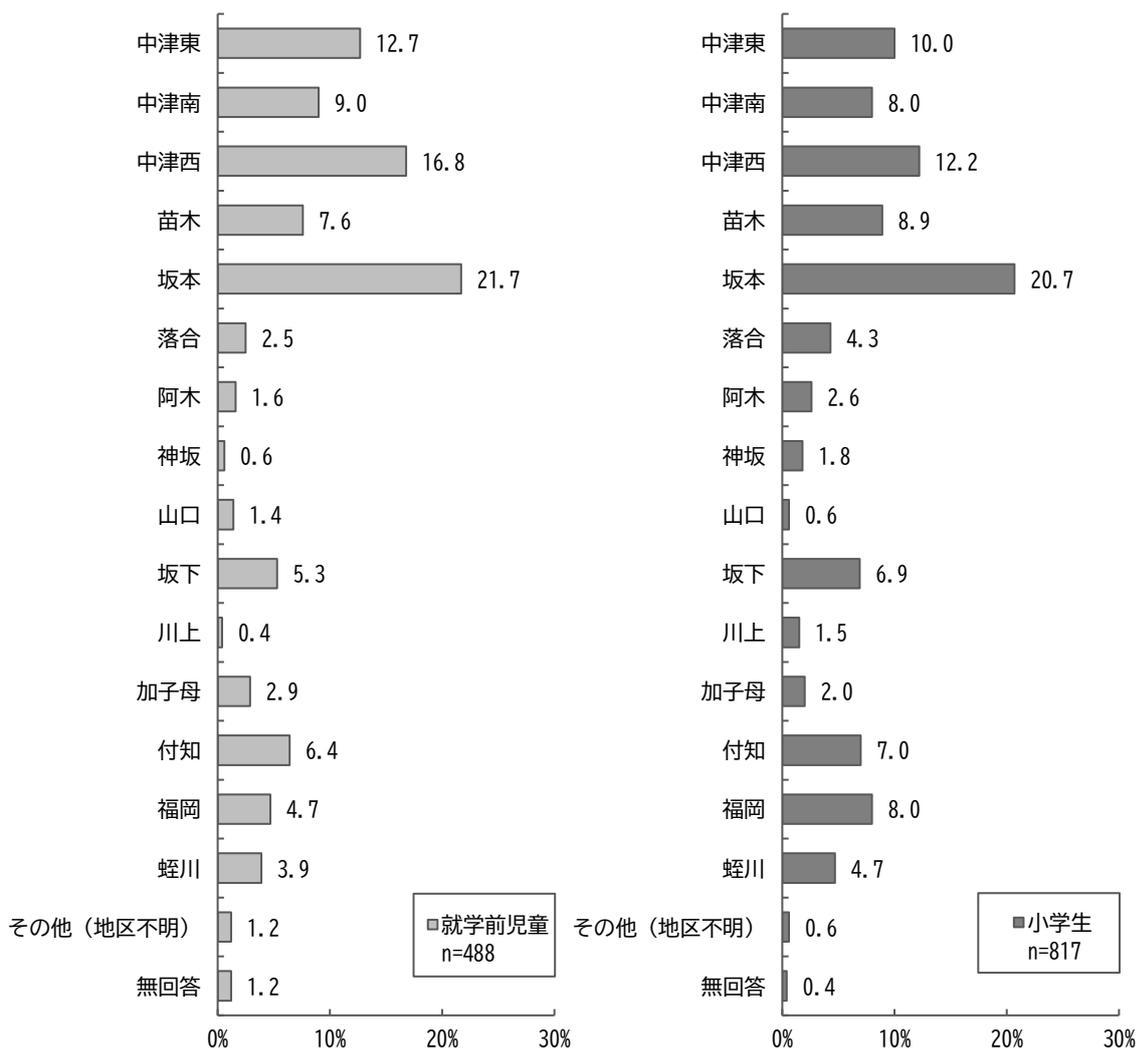
第2章 子育て家庭を取り巻く環境

1 就学前・小学生の調査対象者の属性

(1) 居住地域の状況

○回答者が居住する地区は、以下のとおりです。

問1[問1] 居住地区



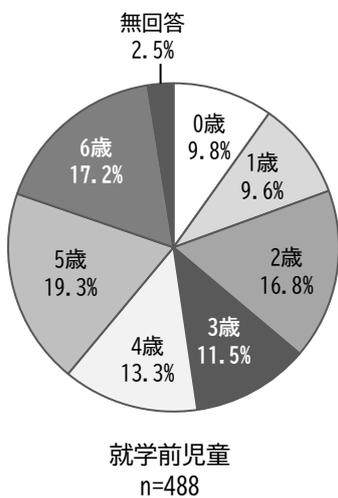


(2) 回答者の属性

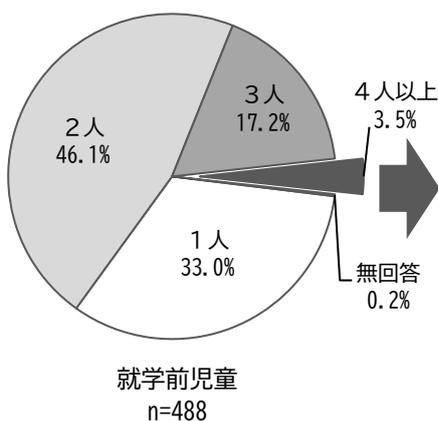
① 就学前児童

○回答者の属性は、以下のとおりです。

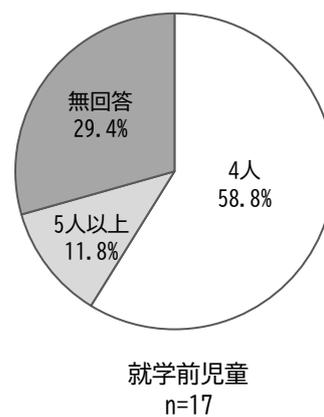
問2 こどもの年齢



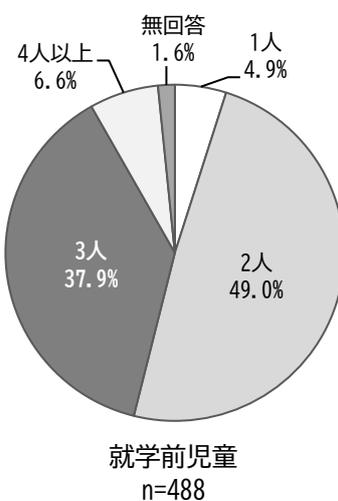
問3 きょうだいの人数



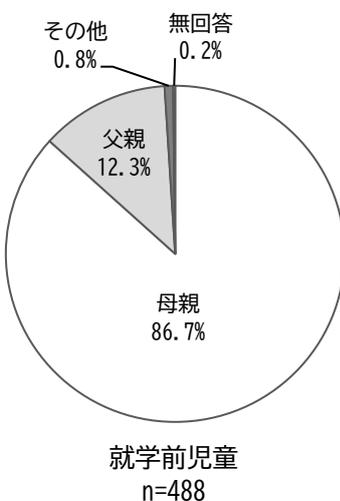
問3 4人以上の内訳



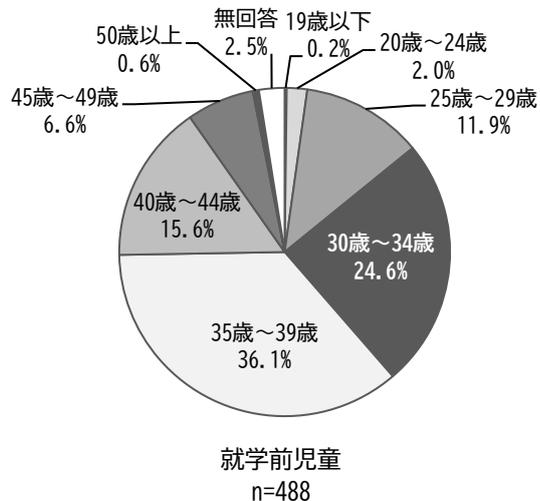
問3-1 理想的なこどもの数



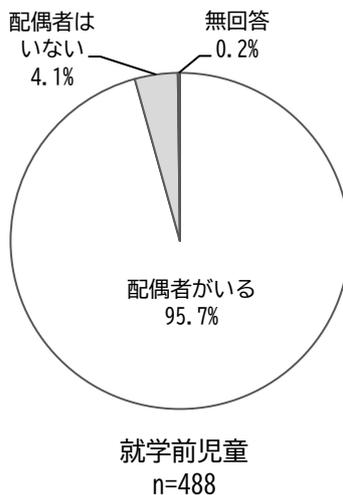
問4 調査回答者



問4-1 回答者の年齢



問5 配偶者の有無

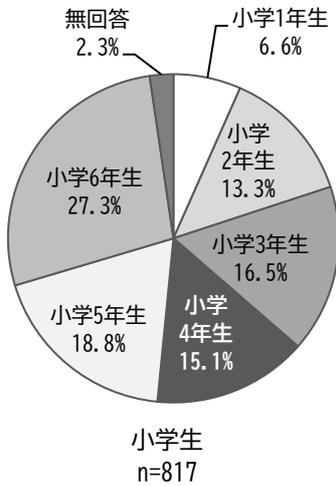




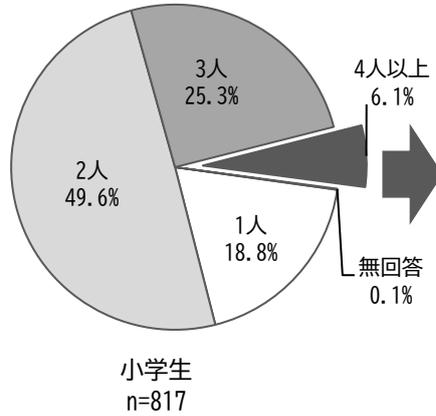
②小学生

○回答者の属性は、以下のとおりです。

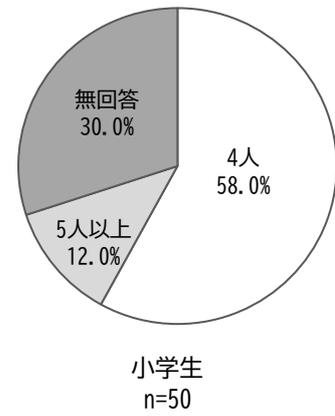
[問2] こどもの学年



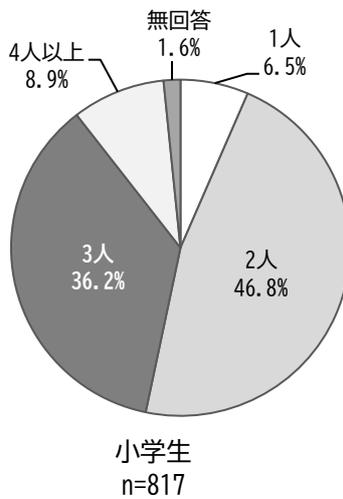
[問3] きょうだいの人数



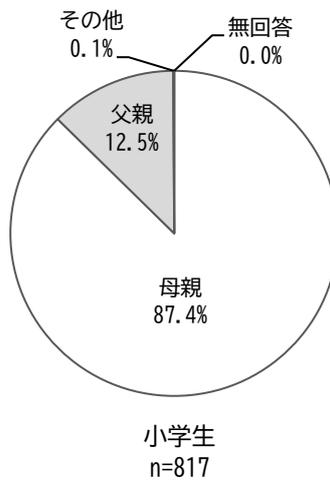
[問3] 4人以上の内訳



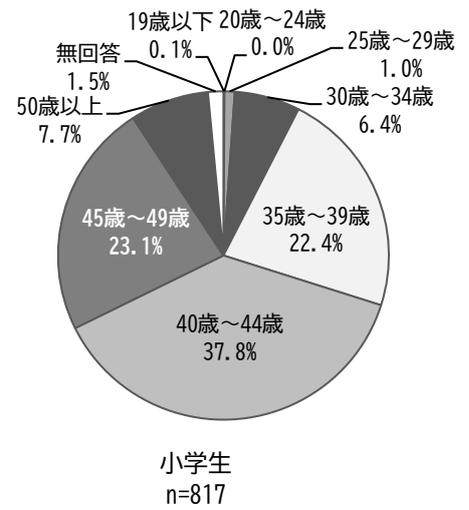
[問3-1] 理想的なこどもの数



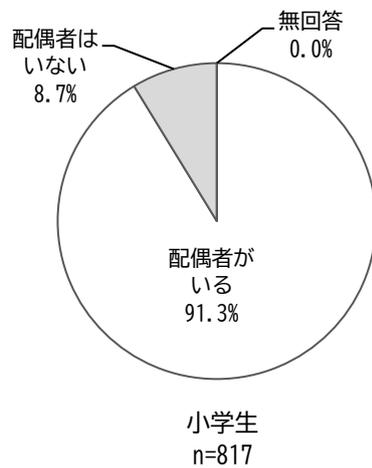
[問4] 調査回答者



[問4-1] 回答者の年齢



[問5] 配偶者の有無



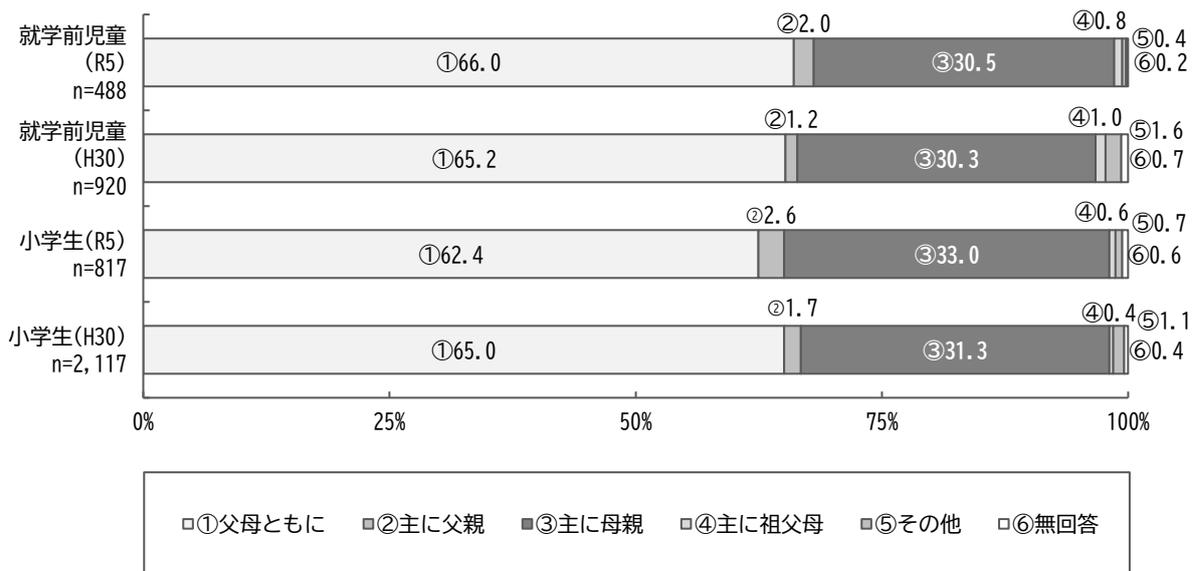


2 子育ての環境について

(1) 主な保育者と親族等協力者の状況

○主な保育者の状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「父母ともに」「主に母親」をあわせると9割以上を占めています。前回調査（H30年）と比較すると、大きな変化はみられません。

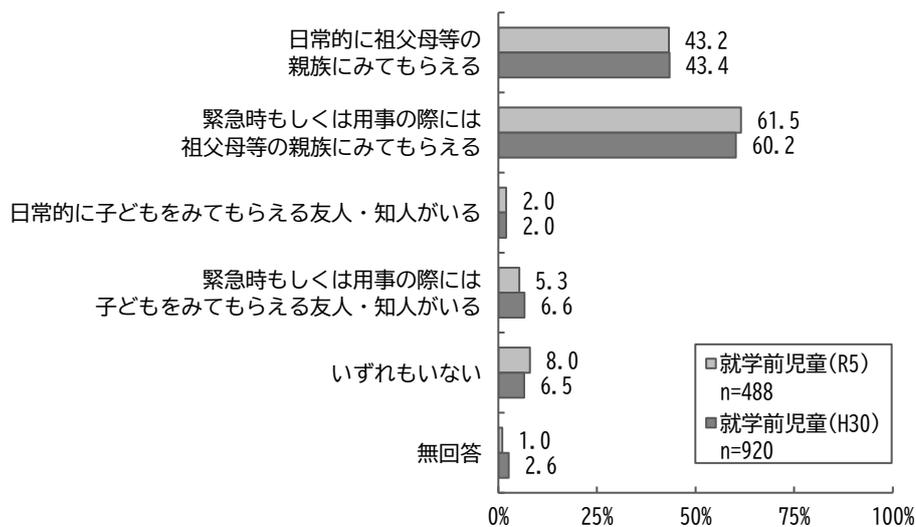
問6〔問6〕 主な保育者の状況（経年比較）



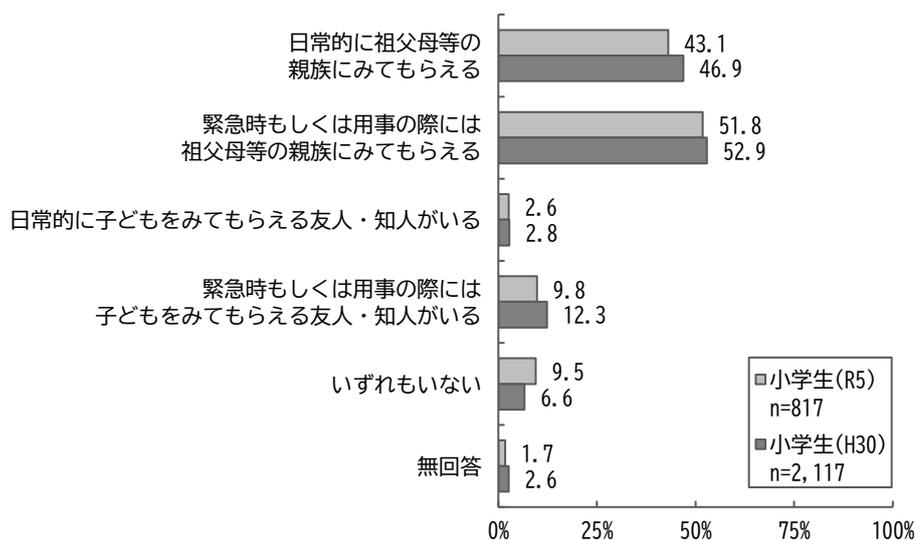


○親族、知人等の協力者の状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(就学前児童61.5%、小学生51.8%)、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(就学前児童43.2%、小学生43.1%)となっています。一方で、「いずれもない」と回答した方が就学前児童では8.0%、小学生では9.5%となっており、前回調査と比較すると、就学前児童では1.5ポイント、小学生では2.9ポイント増加しています。

問7 親族、知人等の協力者の状況（経年比較）



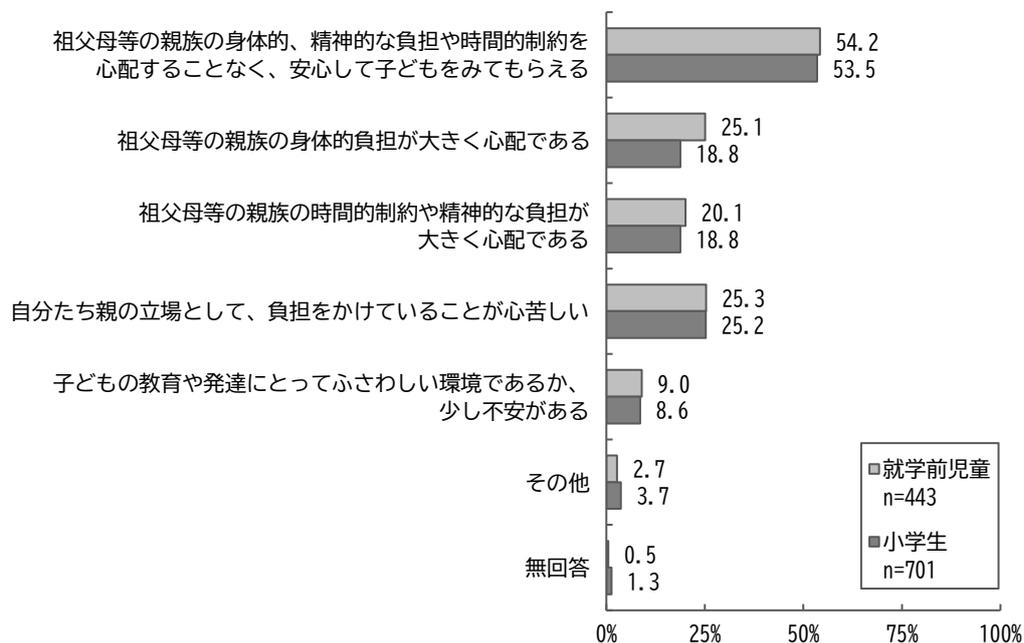
〔問7〕 親族、知人等の協力者の状況（経年比較）





○祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「祖父母等の親族の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」（就学前児童54.2%、小学生53.5%）が最も高くなっています。一方で、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」（就学前児童25.1%、小学生18.8%）、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（就学前児童20.1%、小学生18.8%）「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（就学前児童25.3%、小学生25.2%）と祖父母等の負担を心配しながらみてもらっている割合も高くなっています。

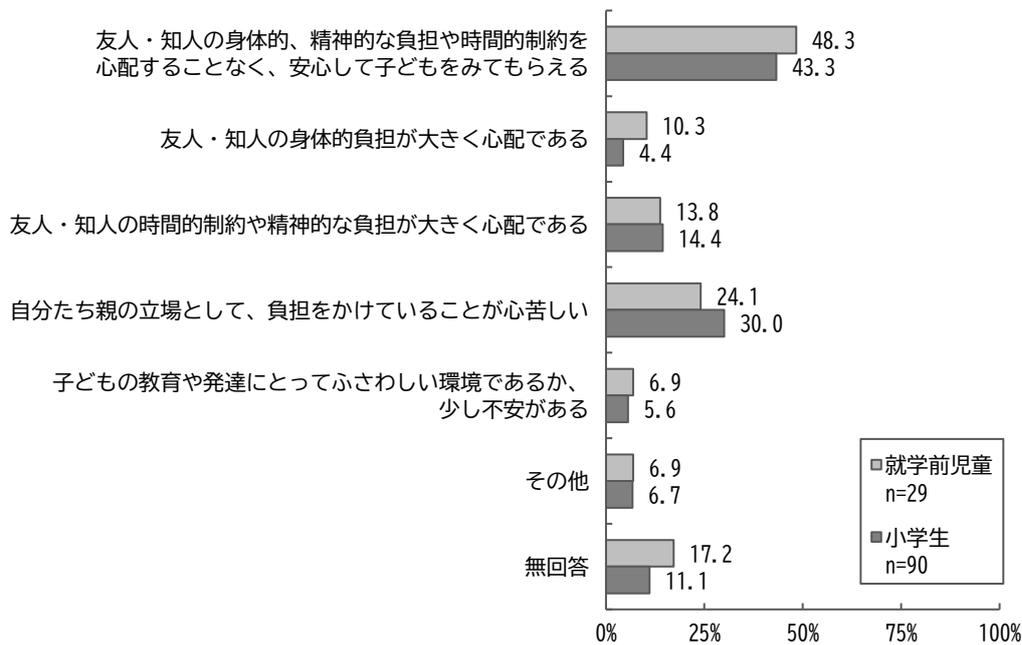
問7-1[問7-1] 祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考え





○友人、知人に子どもを預かってもらっている状況を見ると、就学前児童、小学生いずれも「友人・知人の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」（就学前児童48.3%、小学生43.3%）が最も高くなっています。一方で、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（就学前児童24.1%、小学生30.0%）「友人、知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（就学前児童13.8%、小学生14.4%）と回答した方の割合も高く、友人、知人の負担を心配しながらみてもらっている状況です。

問7-2[問7-2] 友人、知人に子どもをみてもらうことへの考え



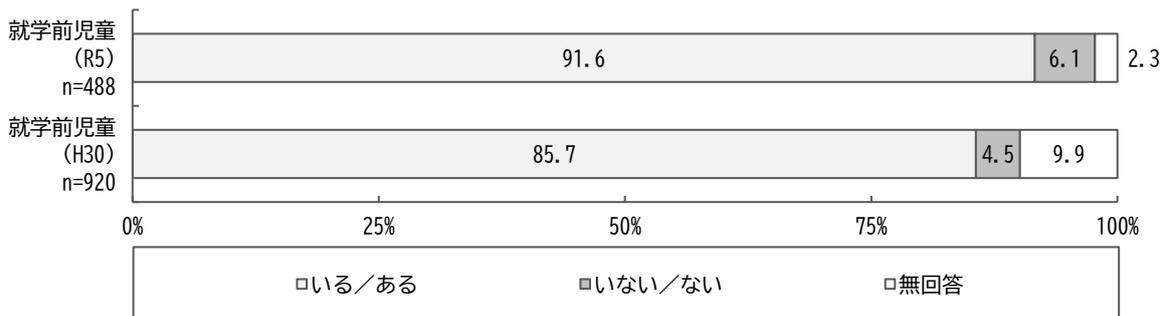


(2) 子育てに関する相談者の状況

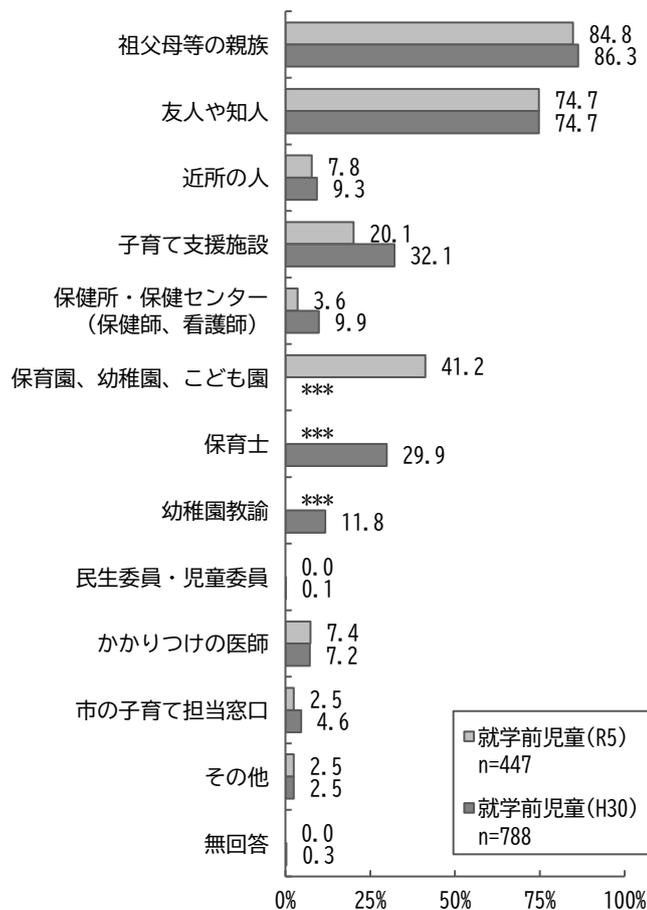
○気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」が就学前児童では91.6%となっています。前回調査と比較すると「いる／ある」は増加しています。

○気軽に相談できる人の状況をみると、「祖父母等の親族」(84.8%)が最も高く、次いで「友人や知人」(74.7%)となっています。前回調査と比較すると、特に「子育て支援施設」の割合が減少しています。

問8 子育てに関して気軽に相談できる人(場所)の有無 (経年比較)



問8-1 気軽に相談できる人 (経年比較)



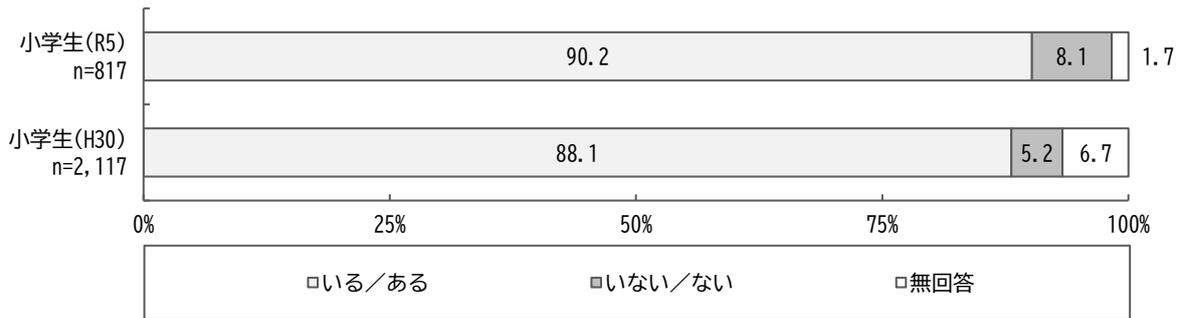
※「保育園、幼稚園、こども園」について、H30調査では「保育士」「幼稚園教諭」と選択肢が分かれていたため、「***」としています。



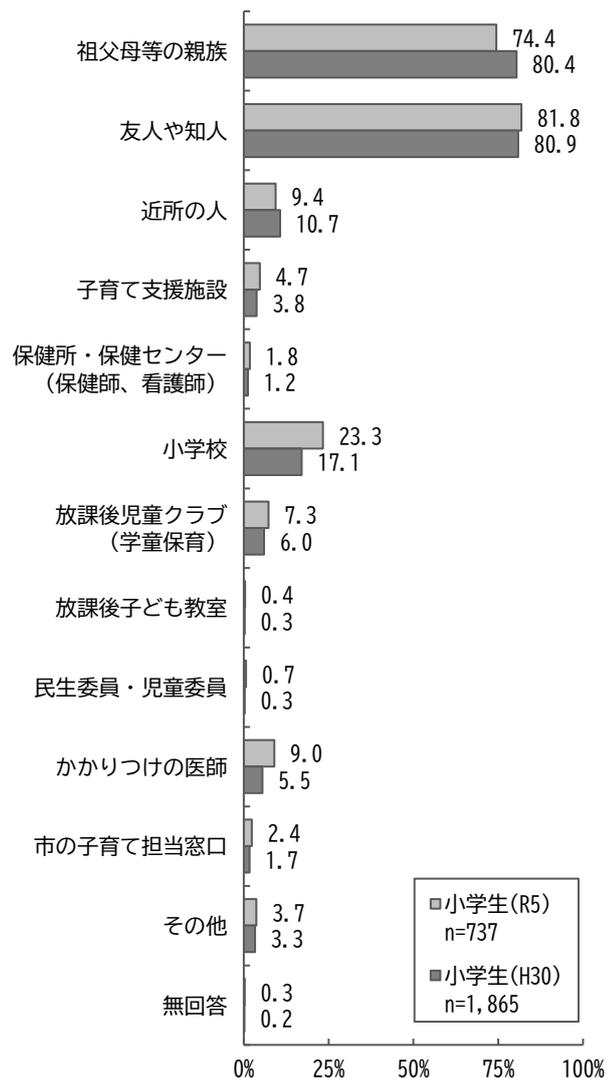
○気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」が小学生では90.2%となっています。前回調査と比較すると「いる／ある」は増加しています。

○気軽に相談できる人の状況をみると、「友人や知人」(81.8%)が最も高く、次いで「祖父母等の親族」(74.4%)となっています。前回調査と比較すると、特に「小学校」の割合が増加しています。

【問8】 子育てに関して気軽に相談できる人(場所)の有無 (経年比較)



【問8-1】 気軽に相談できる人 (経年比較)



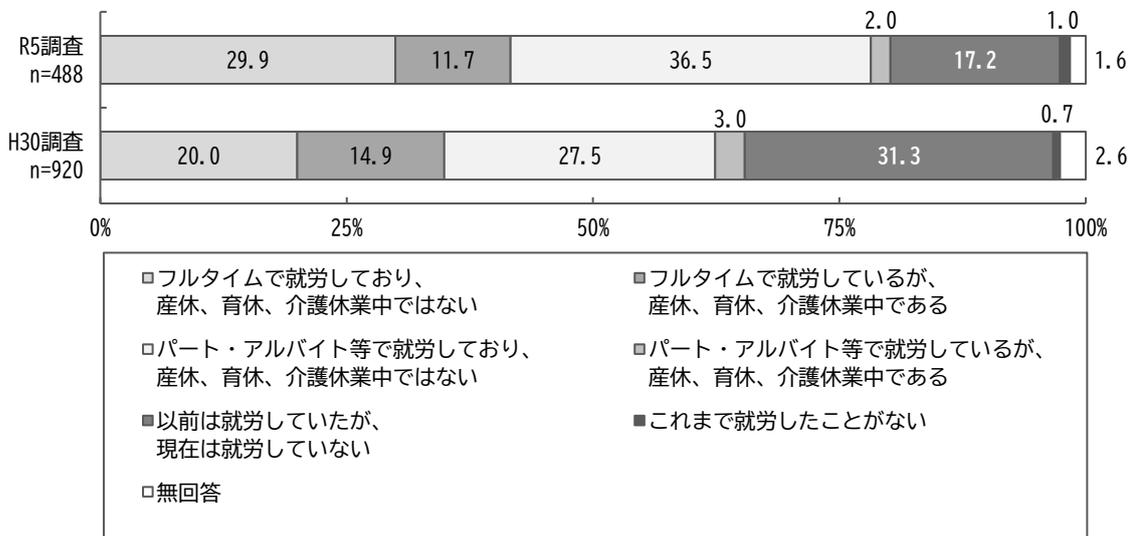


3 保護者の就労状況

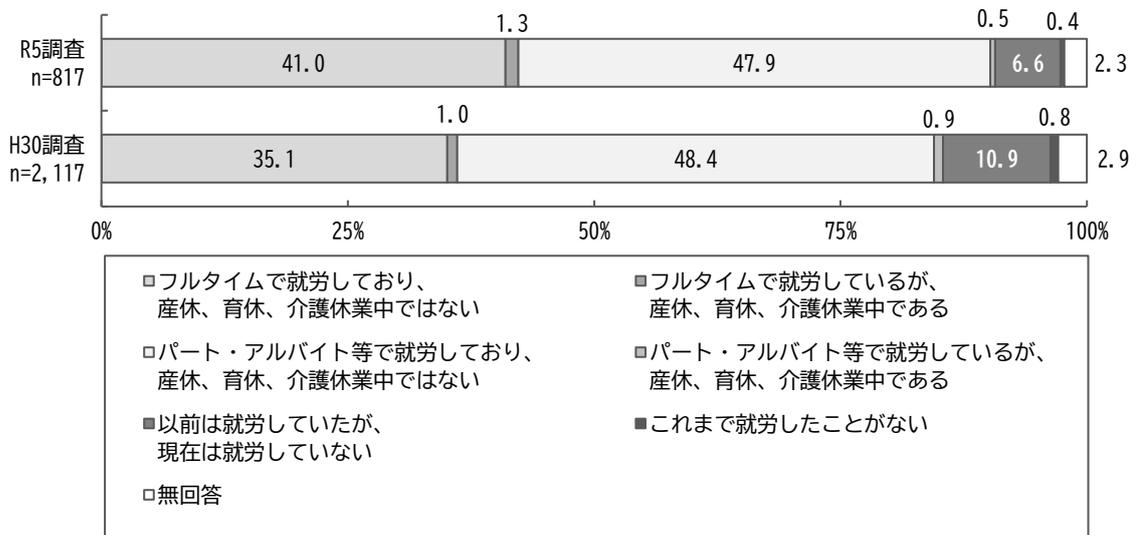
(1) 母親の就労状況

- 母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」（産休・育休・介護休業中含む）を合わせた現在就労している方は、就学前児童が80.1%、小学生が90.7%となっています。そのうち産休、育休、介護休業を取得中の方は、就学前児童が13.7%、小学生が1.8%となっています。
- 前回調査と比較すると、就労している母親は、就学前児童が14.7ポイント、小学生が5.3ポイント増加しています。

問9 母親の就労状況（経年比較）



【問9】 母親の就労状況(経年比較)





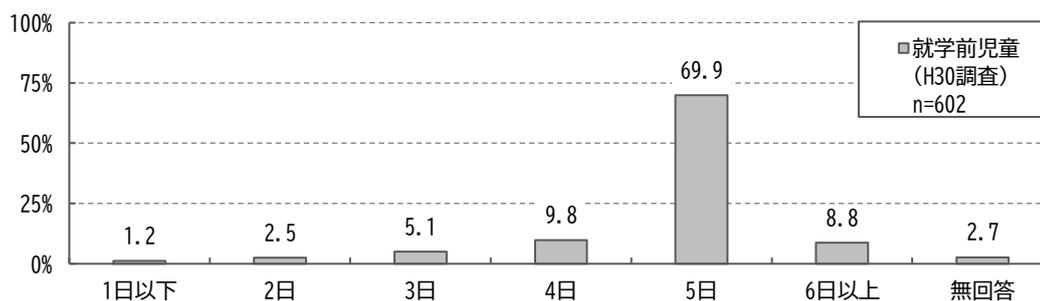
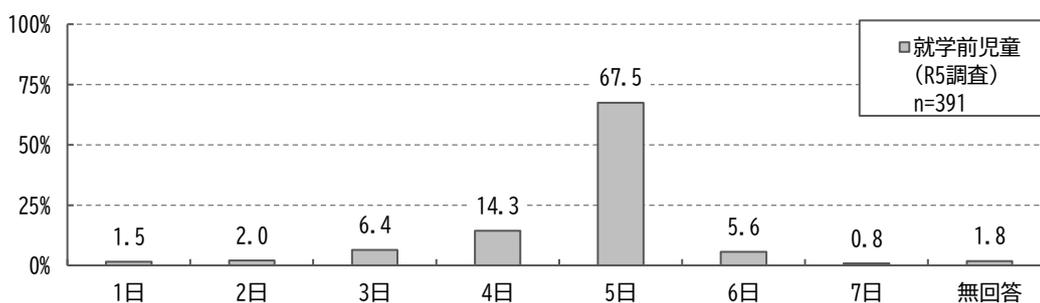
○母親の就労日数をみると、就学前児童では「5日」(67.5%)が最も高く、次いで「4日」(14.3%)となっています。

○前回調査と比較すると、「4日」は4.5ポイント増加し、「5日」は2.4ポイント減少しています。

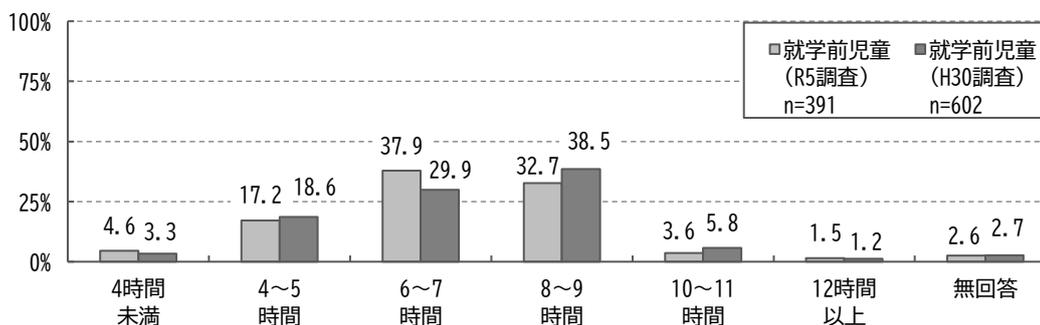
○母親の就労時間をみると、就学前児童では「6～7時間」(37.9%)が最も高く、次いで「8～9時間」(32.7%)、「4～5時間」(17.2%)となっています。

○前回調査と比較すると、「6～7時間」は8.0ポイント増加し、「8～9時間」は5.8ポイント減少しています。

問9-1 母親の就労日数(1週当たり) (経年比較)



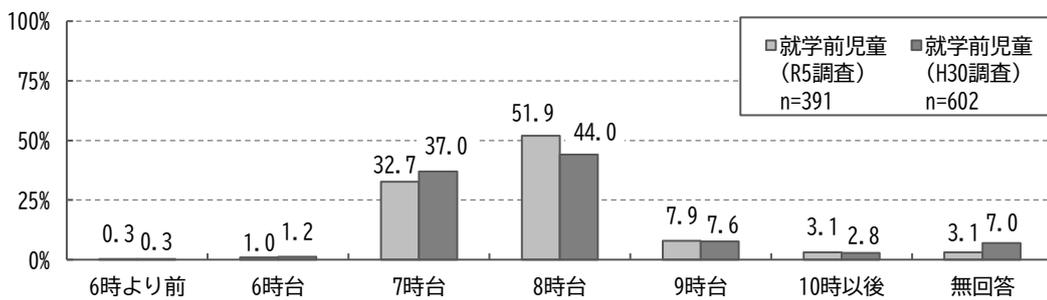
問9-1 母親の就労時間(1日当たり) (経年比較)



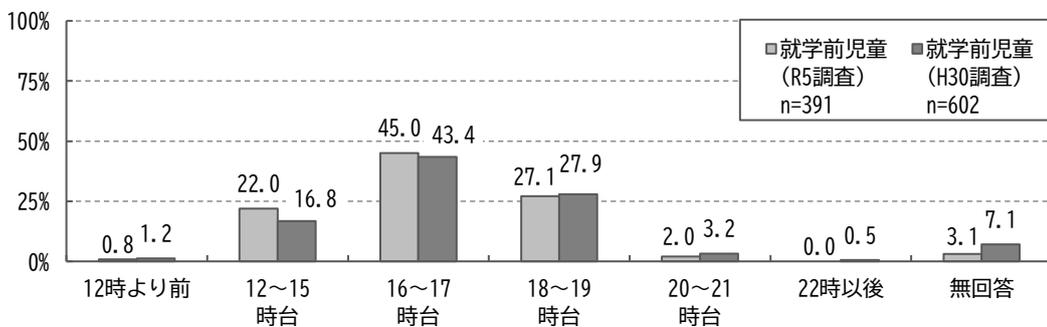


- 母親の家を出る時刻をみると、就学前児童で、「8時台」(51.9%)が最も高く、次いで「7時台」(32.7%)となっています。
- 前回調査と比較すると、「8時台」は7.9ポイント増加、「7時台」は4.3ポイント減少しています。
- 母親の帰宅時刻をみると、就学前児童で、「16～17時台」(45.0%)が最も高く、次いで「18～19時台」(27.1%)となっています。
- 前回調査と比較すると、「12～15時台」が5.2ポイント増加しています。
- 母親のフルタイム勤務に対する意向をみると、就学前児童、小学生いずれも「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」と回答した方が約半数となっています。

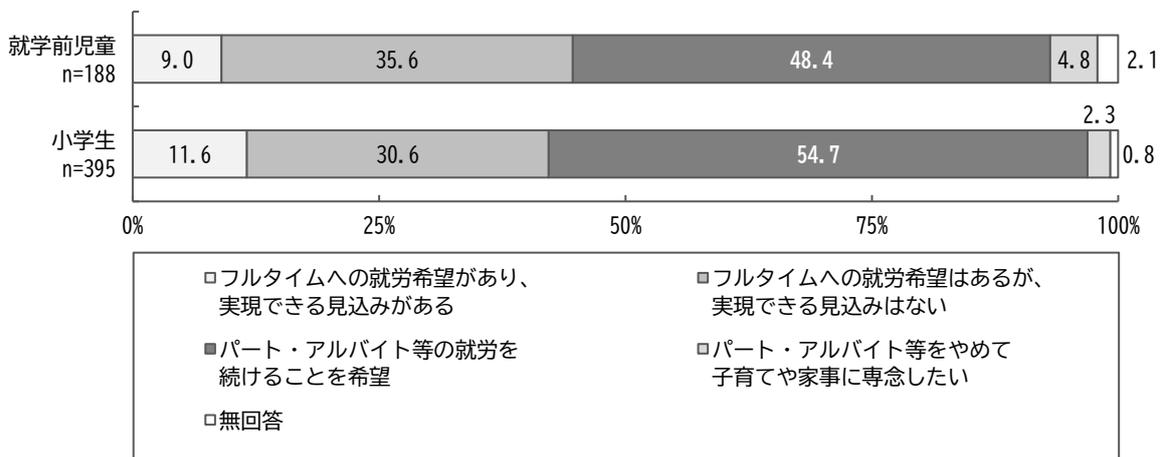
問9-2 母親の家を出る時刻（経年比較）



問9-2 母親の帰宅時刻（経年比較）



問9-3[問9-1] 母親のフルタイム勤務に対する意向

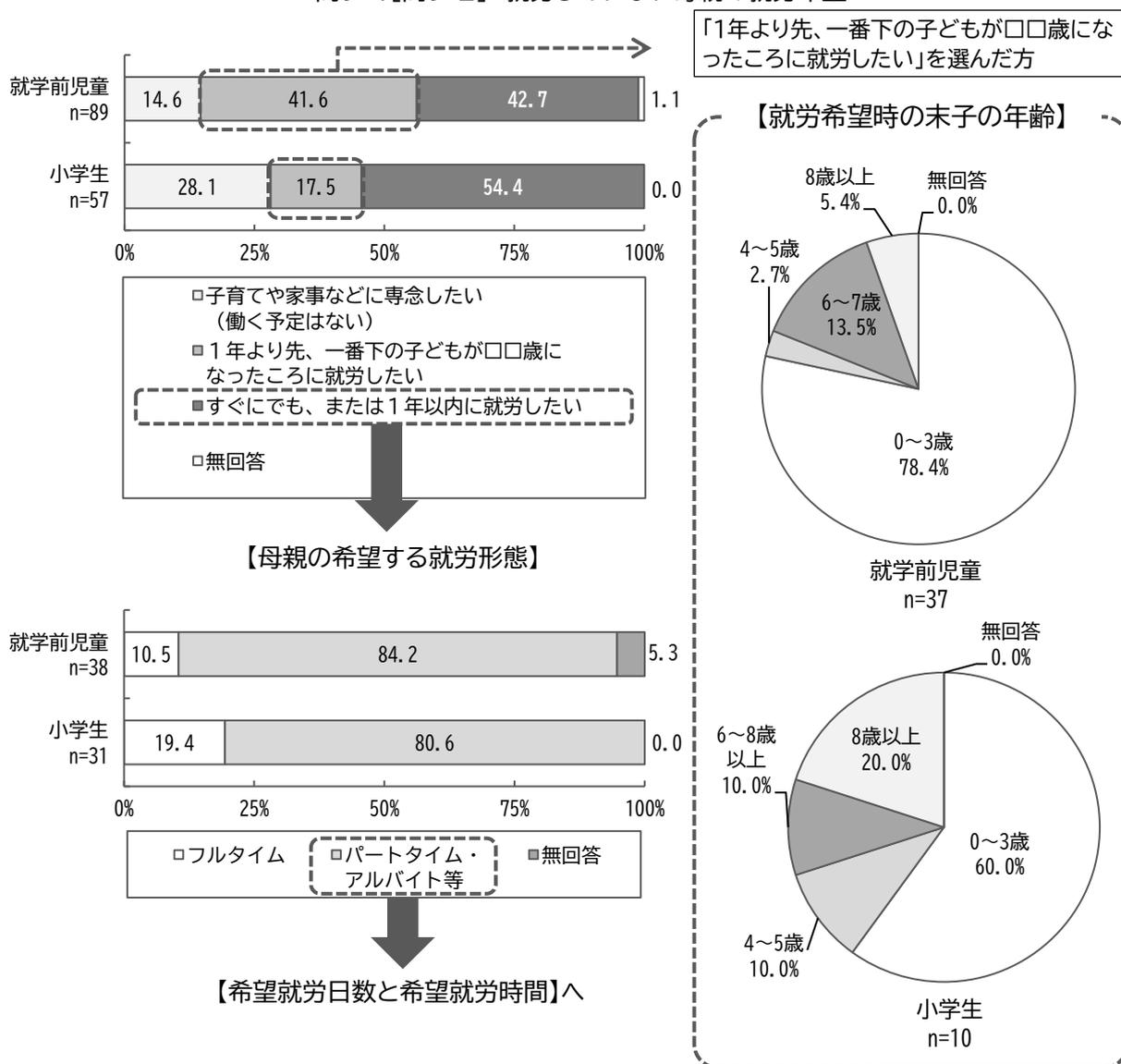


○現在就労していないが、今後就労したい母親の希望をみると、就学前児童では84.3%となっており、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったときに働きたい」(41.6%)、「すぐにでも、または1年以内に働きたい」(42.7%)となっています。小学生では71.9%となっており、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったときに働きたい」(17.5%)、「すぐにでも、または1年以内に働きたい」(54.4%)となっています。

○現在就労していないが、今後就労したい母親の希望する就労形態をみると、就学前児童では「パートタイム・アルバイト等」(84.2%)、「フルタイム」(10.5%)となっています。小学生では「パートタイム・アルバイト等」(80.6%)、「フルタイム」(19.4%)となっています。

○現在就労していないが、今後就労したい母親の希望する就労時期となる子どもの年齢は就学前児童では「0～3歳」(78.4%)、小学生では「0～3歳」(60.0%)が最も高くなっています。

問9-4[問9-2] 就労していない母親の就労希望

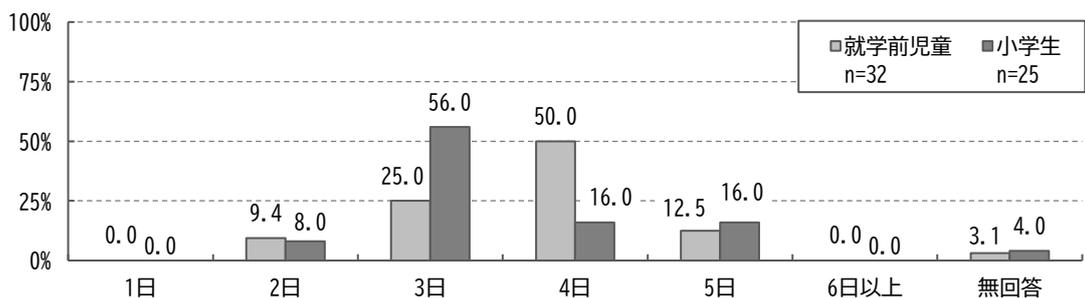




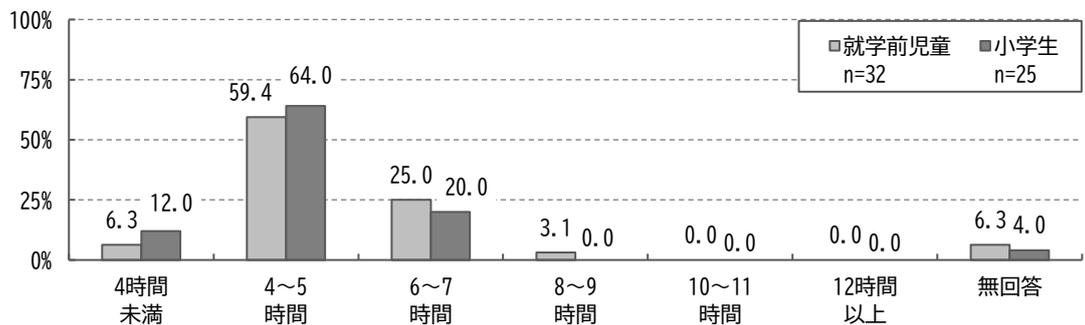
○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労日数をみると、就学前児童では「4日」(50.0%)が最も高く、次いで「3日」(25.0%)となっています。小学生では「3日」(56.0%)が最も高く、次いで「4日」「5日」(各16.0%)となっています。

○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「4～5時間」(就学前児童59.4%、小学生64.0%)が最も高くなっています。

問9-4[問9-2] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労日数(1週当たり)



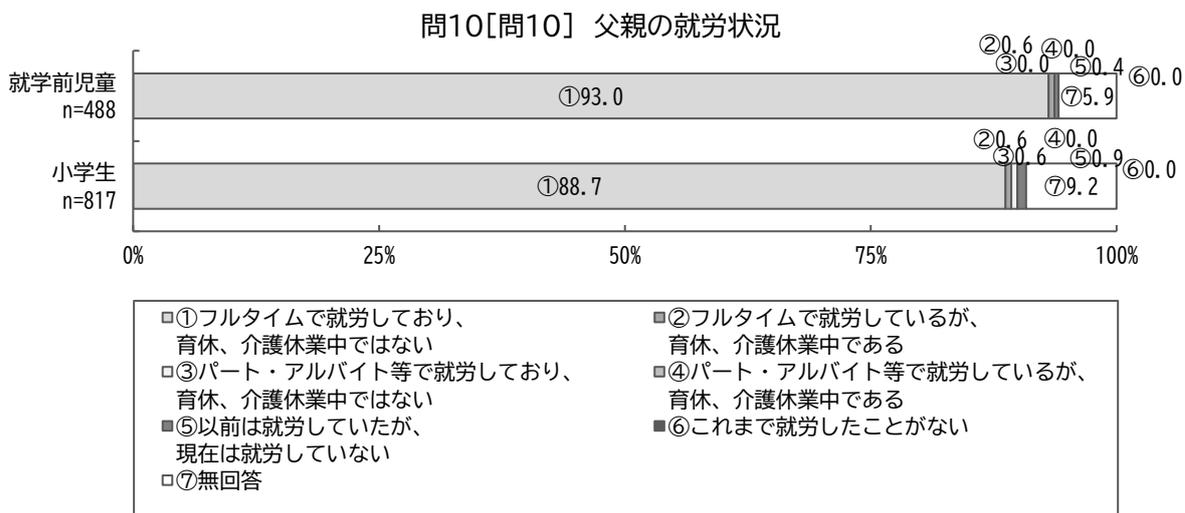
問9-4[問9-2] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労時間(1日当たり)



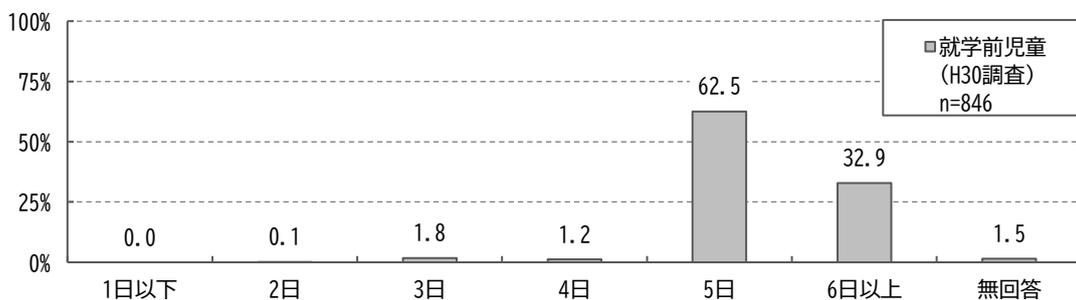
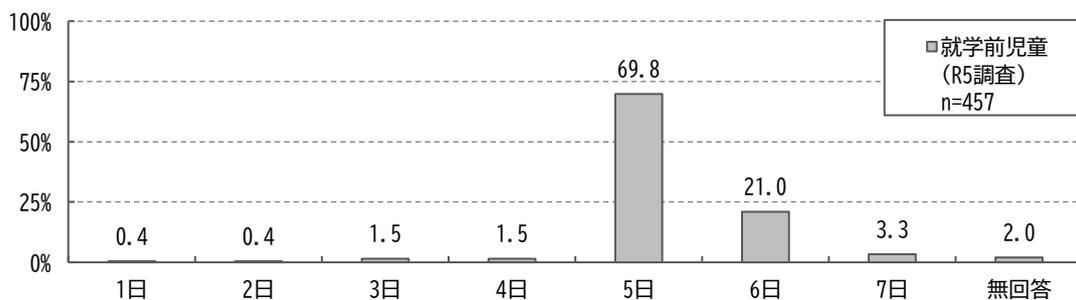
(2) 父親の就労状況

○父親の就労状況をみると、就学前児童、小学生いずれも約9割が「フルタイムで就労している」となっています。

○父親の就労日数をみると、就学前児童では「5日」(69.8%)が最も高く、次いで「6日」(21.0%)となっています。

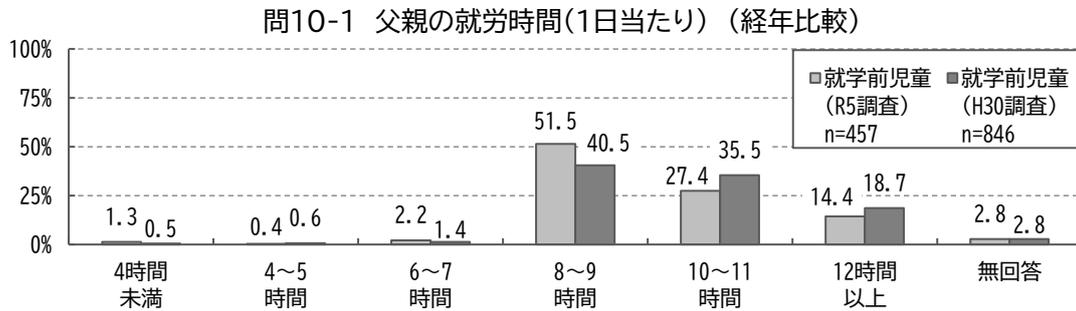


問10-1 父親の就労日数(1週当たり) (経年比較)





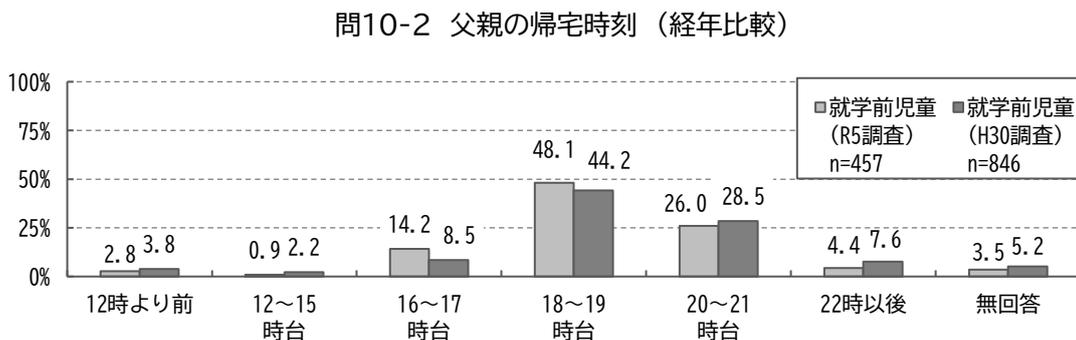
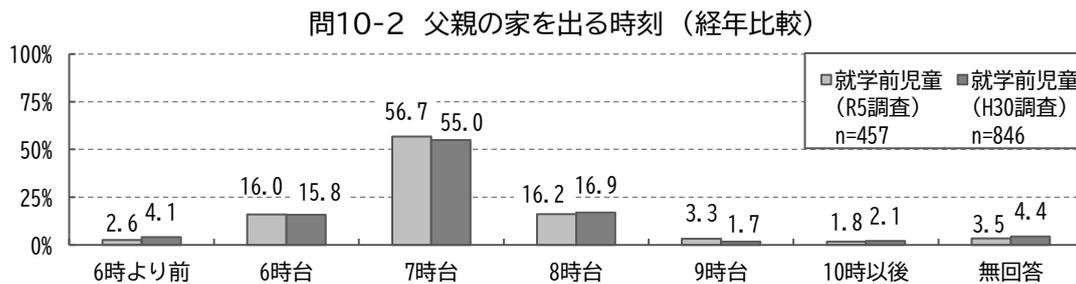
○父親の就労時間をみると、就学前児童では「8～9時間」(51.5%)が最も高く、次いで「10～11時間」(27.4%)、「12時間以上」(14.4%)となっています。



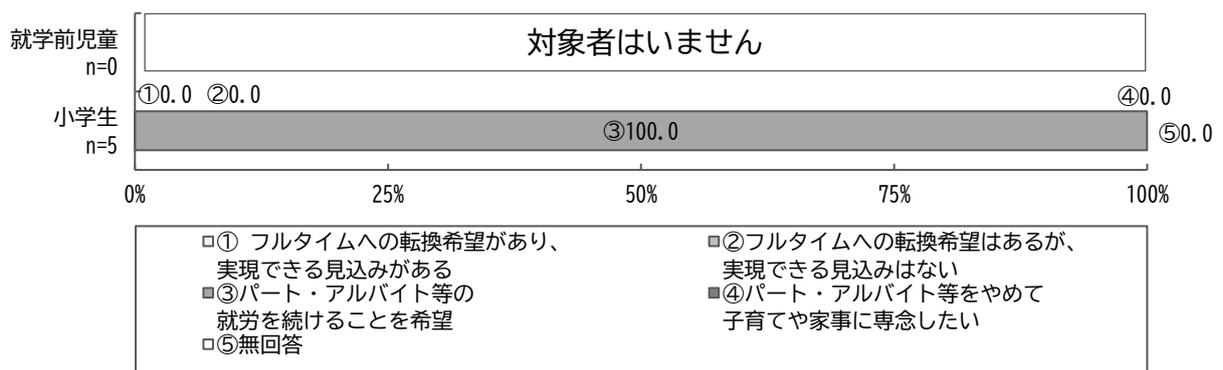
○父親の家を出る時刻をみると、就学前児童では「7時台」(56.7%)が最も高く、次いで「8時台」(16.2%)、「6時台」(16.0%)となっています。

○父親の帰宅時刻をみると、就学前児童では「18～19時台」(48.1%)が最も高く、次いで「20～21時台」(26.0%)、「16時～17時台」(14.2%)となっています。

○父親のパートタイムからフルタイムへの転換意向は以下のとおりです。

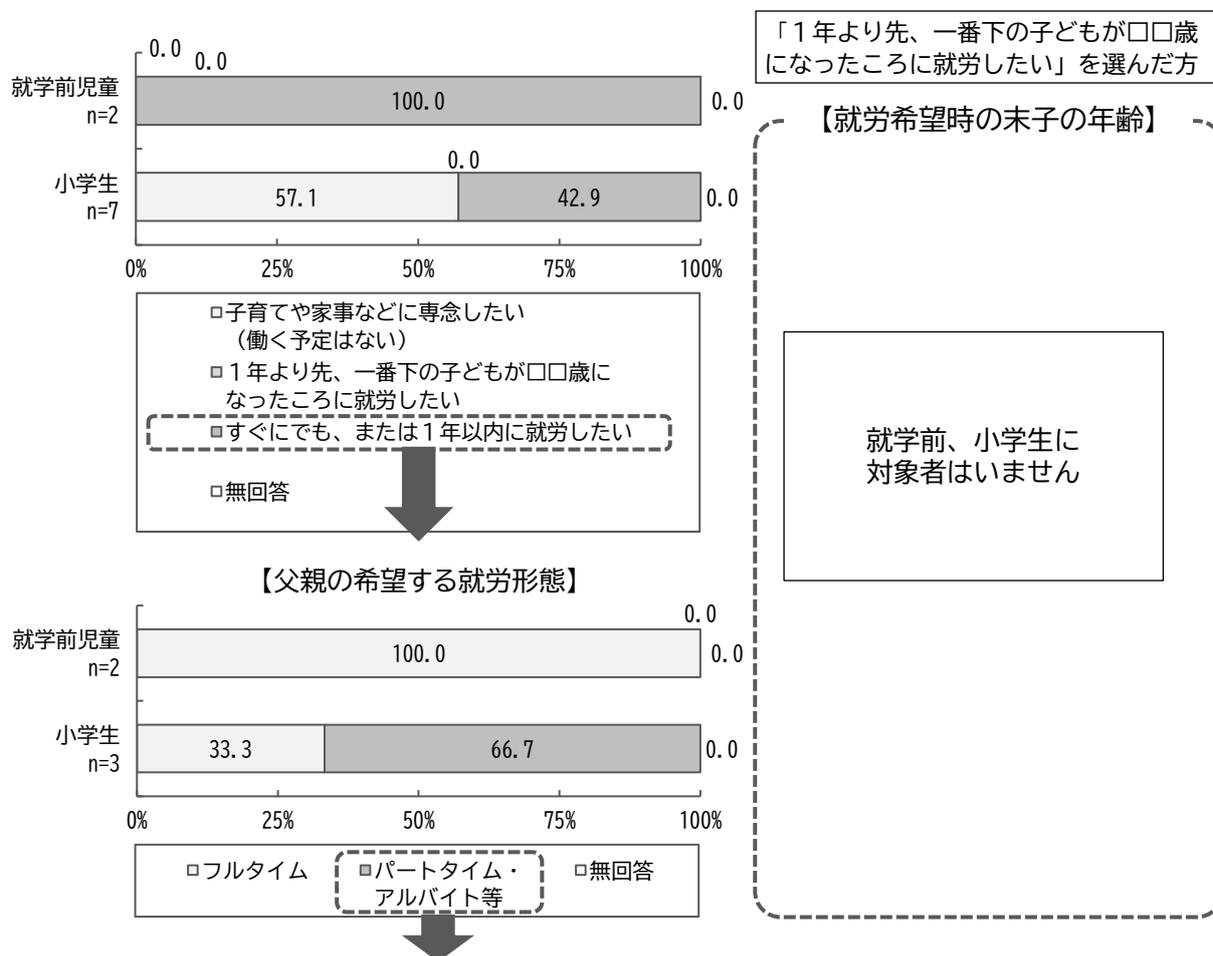


問10-3[問10-1] 父親のフルタイム勤務に対する意向

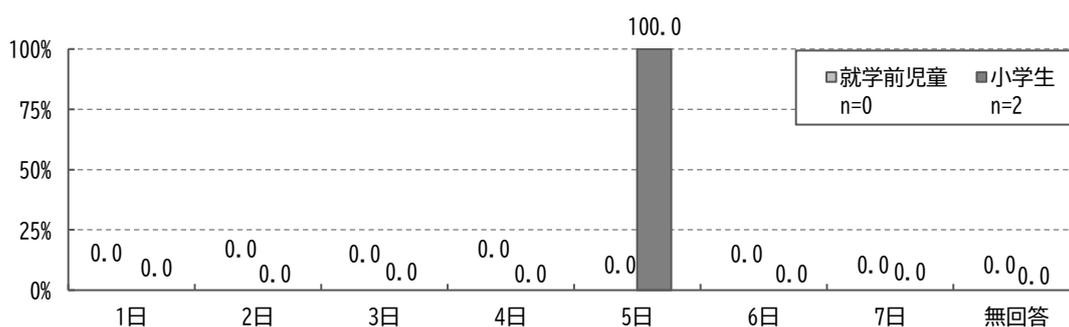


○現在就労していない父親の今後の就労意向は、以下のとおりです。

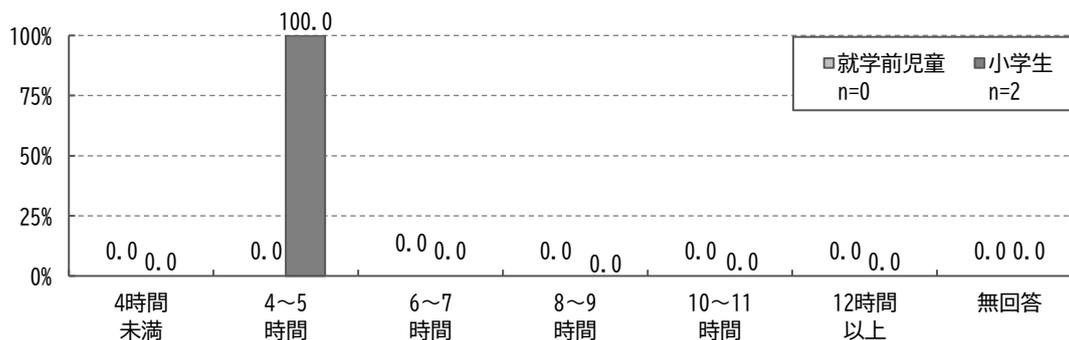
問10-4[問10-2] 就労していない父親の就労希望



問10-4[問10-2] 就労希望のある父親の希望就労日数(1週当たり)



問10-4[問10-2] 就労希望のある父親の希望就労時間(1日当たり)



第3章
子育て支援サービスの現状と
今後の利用希望



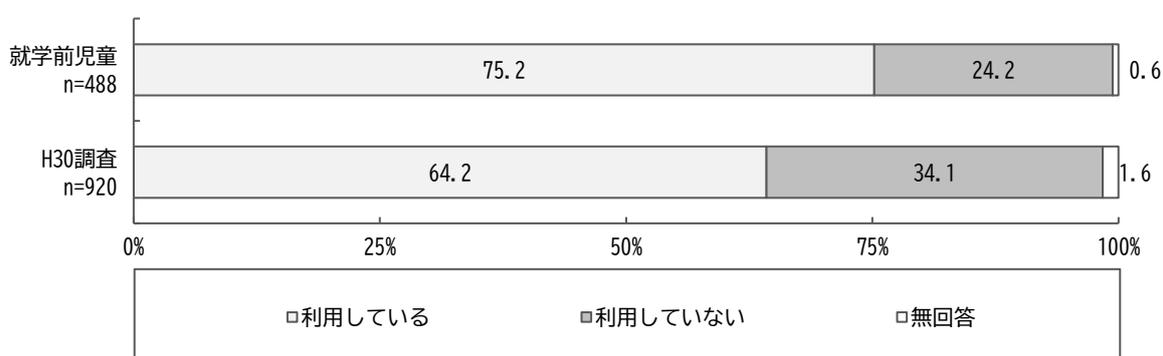
第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

1 就学前児童の平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

(1) 平日の定期的な教育・保育事業

- 定期的な教育・保育事業の利用状況をみると、「利用している」が75.2%となっています。
- 前回調査と比較すると、11.0ポイント増加しています。

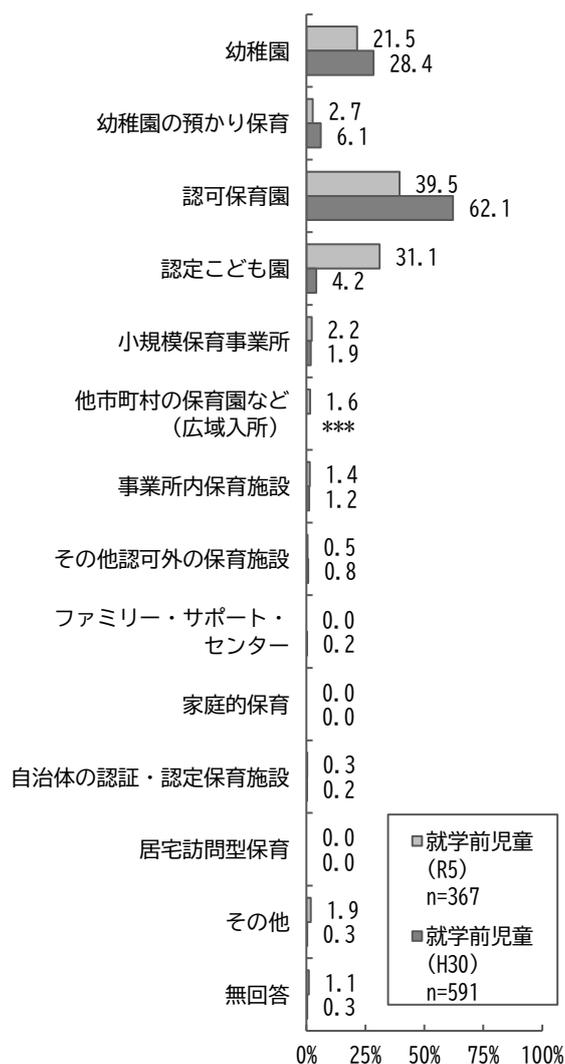
問11 定期的な教育・保育事業の利用状況





- 実際に利用中の定期的な教育・保育事業をみると、「認可保育園」(39.5%)が最も高く、次いで「認定こども園」(31.1%)、「幼稚園」(21.5%)となっています。
- 前回調査と比較すると、特に「認定こども園」の割合が増加し、「認可保育園」の割合が減少しています。

問11-1 定期的な教育・保育事業の利用状況



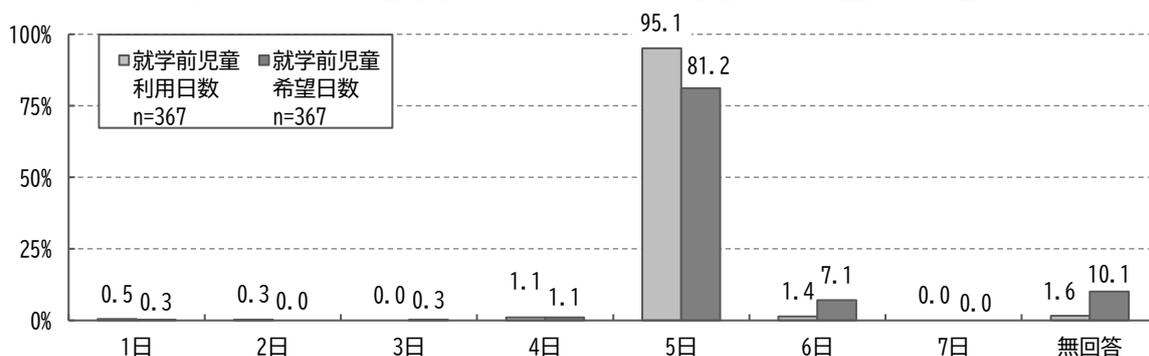
※「家庭的保育」「自治体の認証・認定保育施設」「居宅訪問型保育」は中津川市にない事業です

※「***」は選択肢がない項目

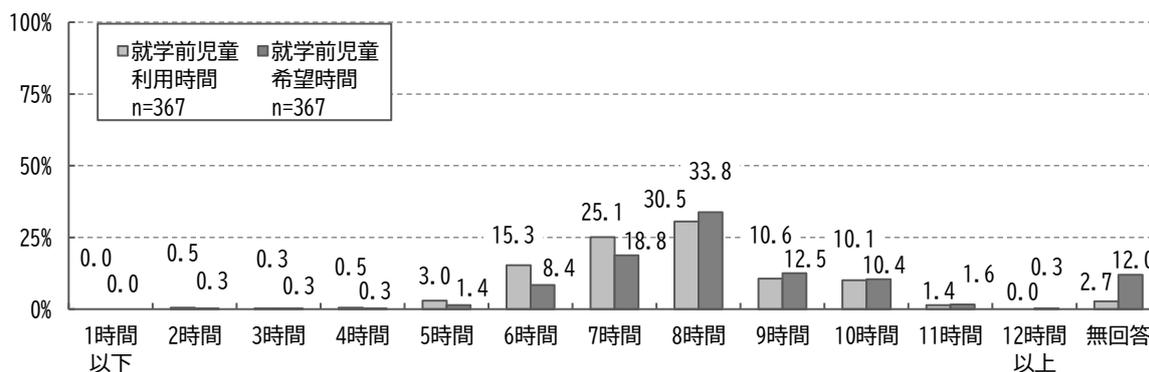


- 定期的な教育・保育事業の1週当たりの利用日数と希望日数をみると、利用日数、希望日数いずれも「5日」(利用日数95.1%、希望日数81.2%)が最も高くなっています。
- 1日当たりの利用時間と希望時間をみると、利用時間、希望時間いずれも「8時間」(利用時間30.5%、希望時間数33.8%)が最も高く、次いで「7時間」(利用時間25.1%、希望時間数18.8%)となっています。

問11-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数(1週当たり)



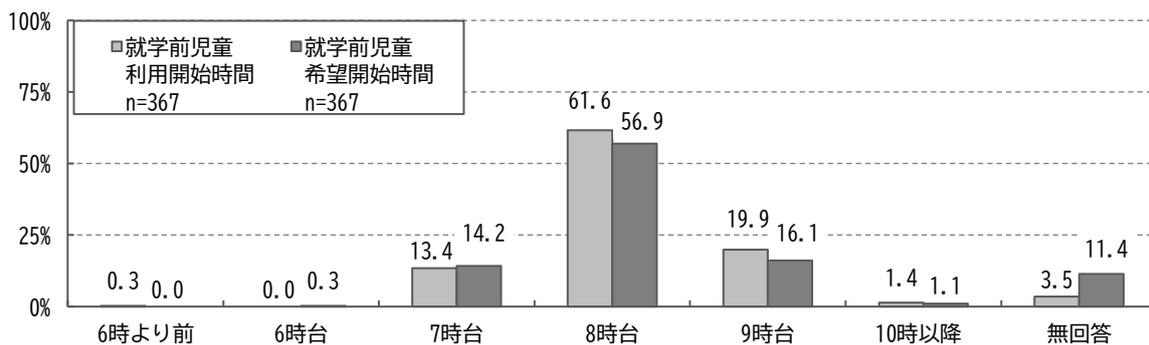
問11-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間(1日当たり)



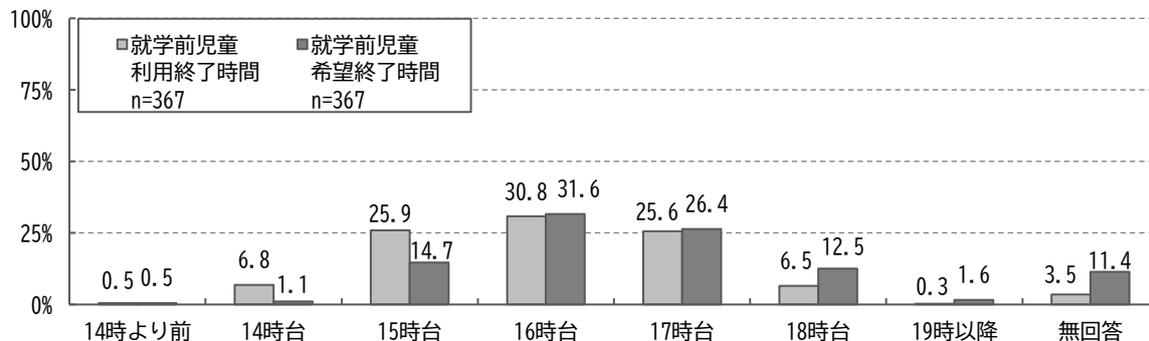


- 定期的な教育・保育事業の利用開始時間と希望開始時間をみると、利用開始時間、希望開始時間いずれも「8時台」(利用開始時間61.6%、希望開始時間56.9%)が最も高く、次いで「9時台」(利用開始時間19.9%、希望開始時間16.1%)となっています。
- 定期的な教育・保育事業の利用終了時間と希望終了時間をみると、利用終了時間、希望終了時間いずれも「16時台」(利用終了時間30.8%、希望終了時間31.6%)が最も高くなっています。

問11-2(1)(2) 利用開始時間 希望開始時間



問11-2(1)(2) 利用終了時間 希望終了時間

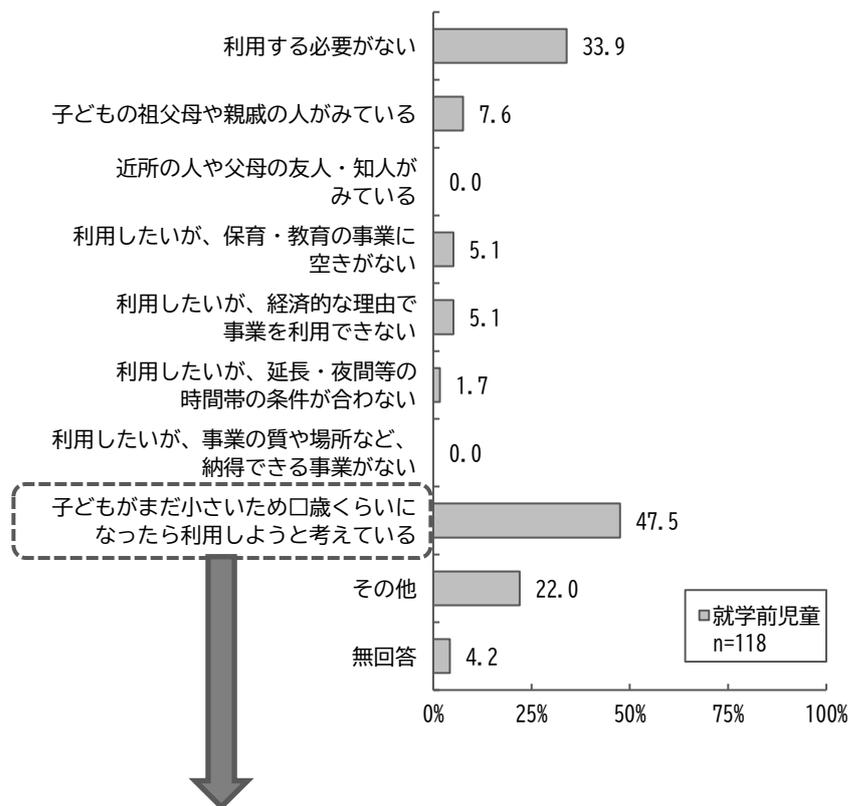




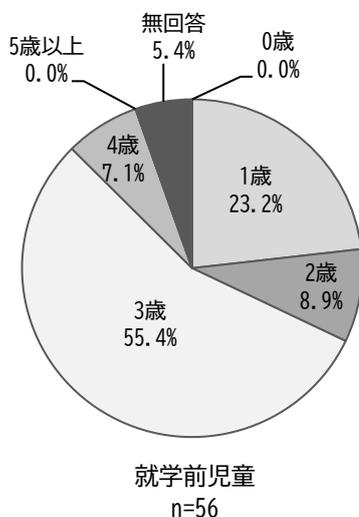
○定期的な教育・保育事業を利用していないと回答した方の理由をみると、「子どもがまだ小さいため（□□歳くらいになったら利用しようと考えている）」（47.5%）が最も高く、次いで「利用する必要がない」（33.9%）となっています。

○「子どもがまだ小さいため（□□歳くらいになったら利用しようと考えている）」と回答した人が、教育・保育事業の利用を希望する子どもの年齢をみると、「3歳」（55.4%）が最も高くなっています。

問11-3 教育・保育事業を利用していない理由



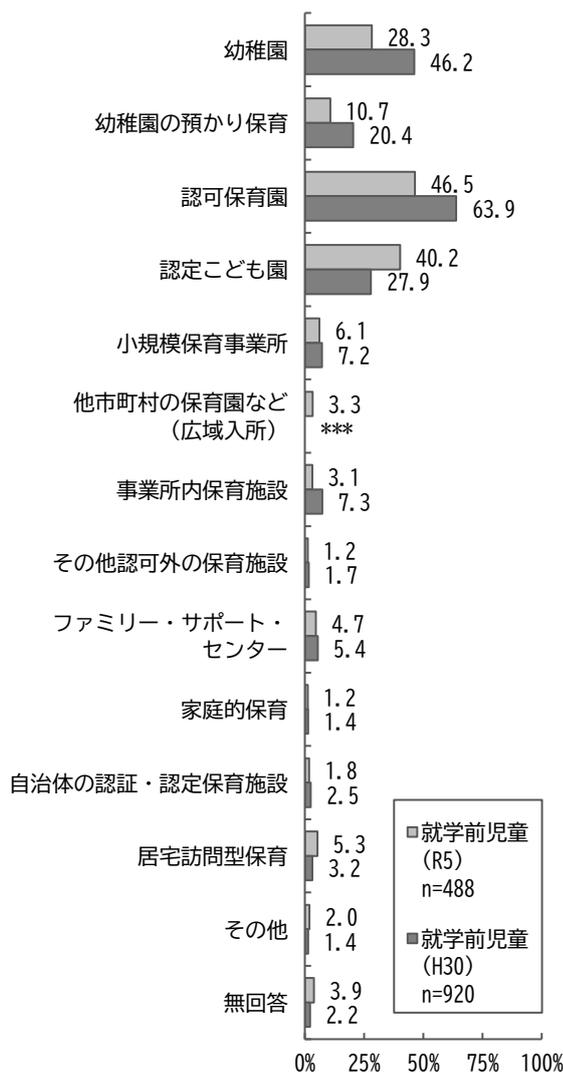
問11-3.8 利用を希望する子どもの年齢





- 希望する定期的な事業をみると、「認可保育所」(46.5%)が最も高く、次いで「認定こども園」(40.2%)、「幼稚園」(28.3%)となっています。
- 前回調査と比較すると、特に「認定こども園」の割合が増加し、「幼稚園」「認可保育所」「幼稚園の預かり保育」の割合が減少しています。

問12 希望する定期的な教育・保育事業



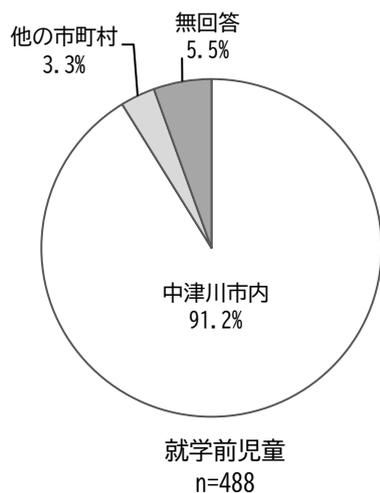
※「家庭的保育」「自治体の認証・認定保育施設」「居宅訪問型保育」は中津川市にない事業です
 ※「***」は選択肢がない項目



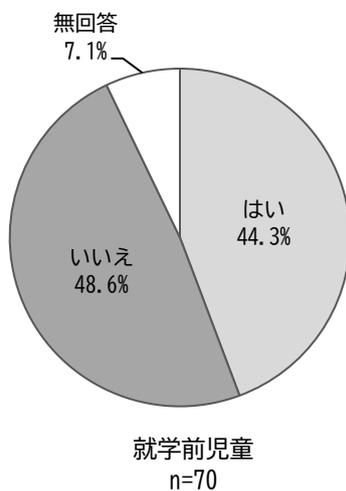
○教育・保育事業を利用したい場所をみると、就学前児童では、「中津川市内」が9割以上となっています。

○定期的な教育・保育事業として、「幼稚園」や「幼稚園の預かり保育」と合わせてほかの事業の利用も希望される方のうち、特に「幼稚園」の利用を強く希望している方は、4割となっています。

問12-1 教育・保育事業を利用したい場所



問12-2 幼稚園の利用を強く希望



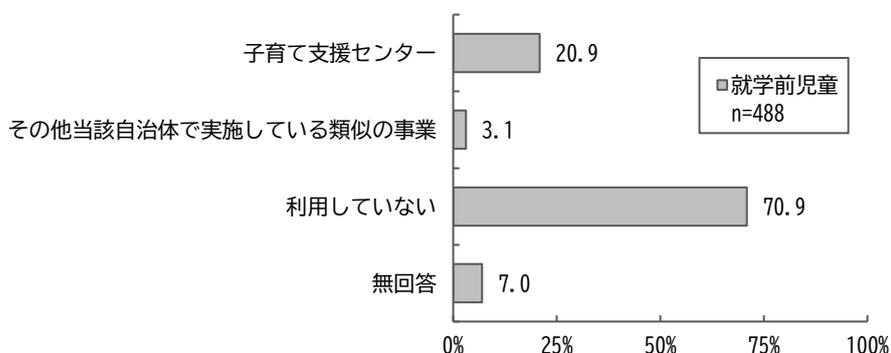


2 就学前児童の地域の子育て支援事業の利用状況

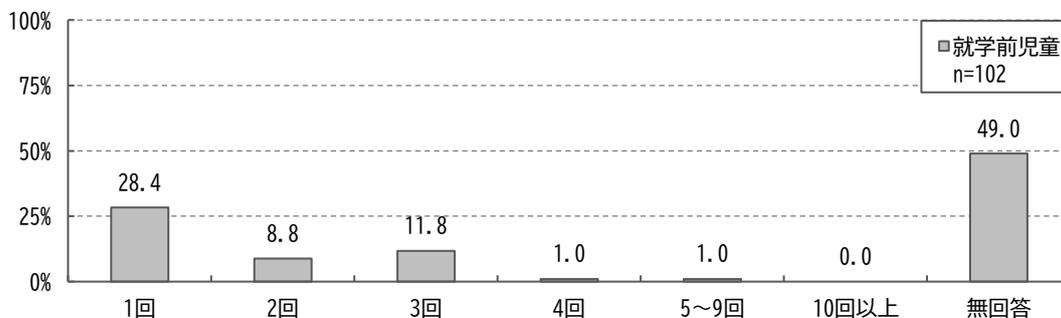
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

- 「子育て支援センター」の利用割合は20.9%となっています。
- 「子育て支援センター」利用者の1週当たりの利用回数をみると、「1回」(28.4%)が最も高く、次いで「3回」(11.8%)となっています。
- 「子育て支援センター」利用者の1か月当たりの利用回数をみると、「1回」(25.5%)が最も高く、次いで「2回」(17.6%)となっています。

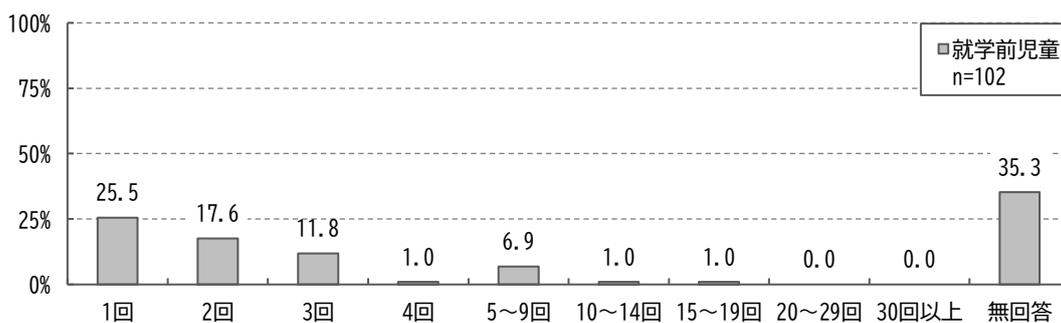
問13 地域子育て支援拠点事業の利用状況



問13.1 子育て支援センターの利用回数(1週当たり)



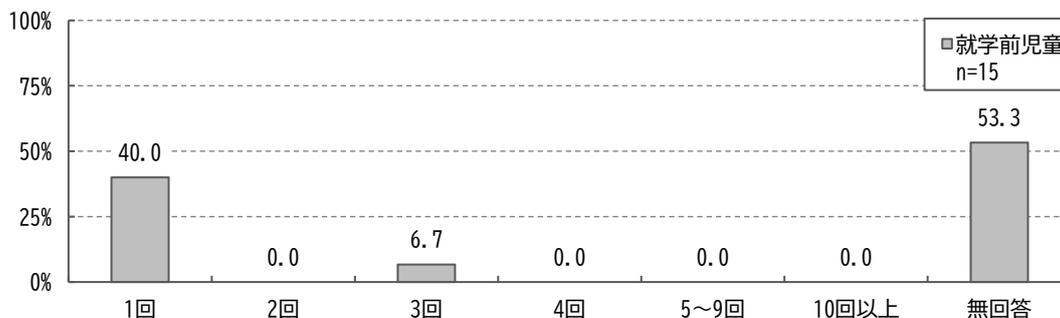
問13.1 子育て支援センターの利用回数(1か月当たり)



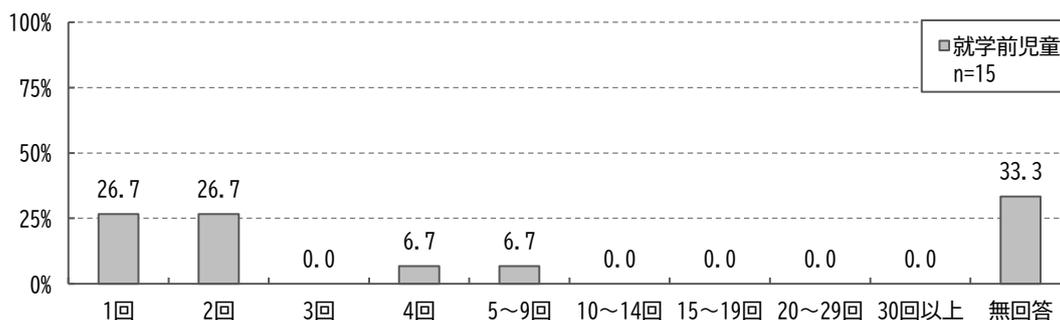


- 「その他当該自治体で実施している類似の事業」利用者の1週当たりの利用回数をみると、「1回」(40.0%)が最も高くなっています。
- 「その他市内でおこなわれている類似の事業」利用者の1か月当たりの利用回数をみると、「1回」「2回」(各26.7%)が最も高くなっています。

問13.2 その他当該自治体で実施している類似の事業の利用回数(1週当たり)



問13.2 その他当該自治体で実施している類似の事業の利用回数(1か月当たり)

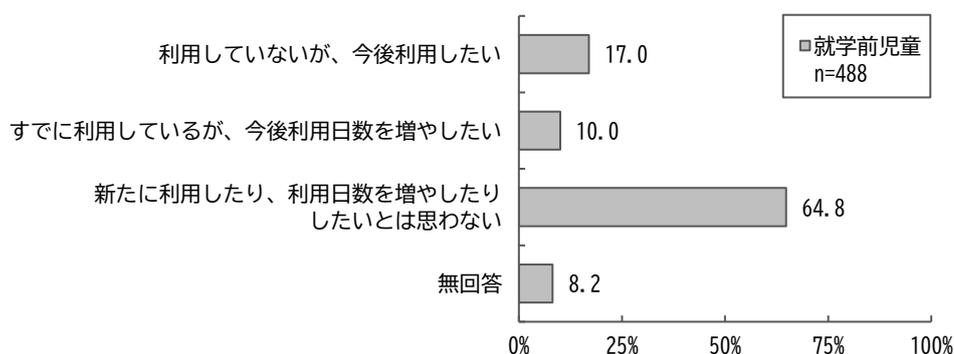




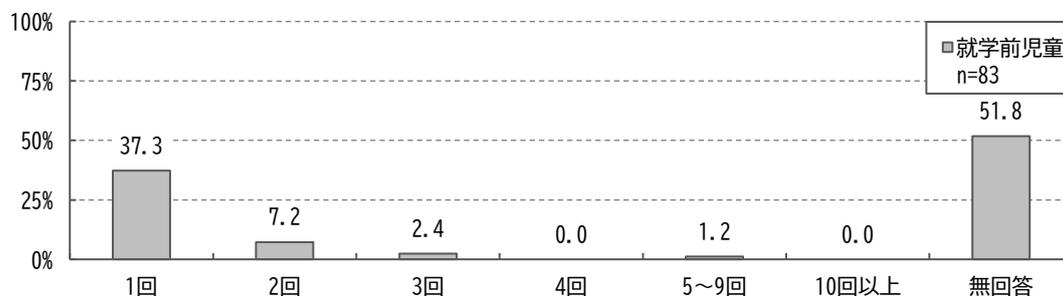
(2) 今後の利用意向

- 子育て支援センターの今後の利用意向をみると、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が6割以上となっています。
- 未利用者の今後の1週当たりの利用希望回数をみると、「1回」(37.3%)が最も高くなっています。
- 未利用者の今後の1か月当たりの利用希望回数をみると、「1回」(24.1%)が最も高く、次いで「2回」(15.7%)となっています。

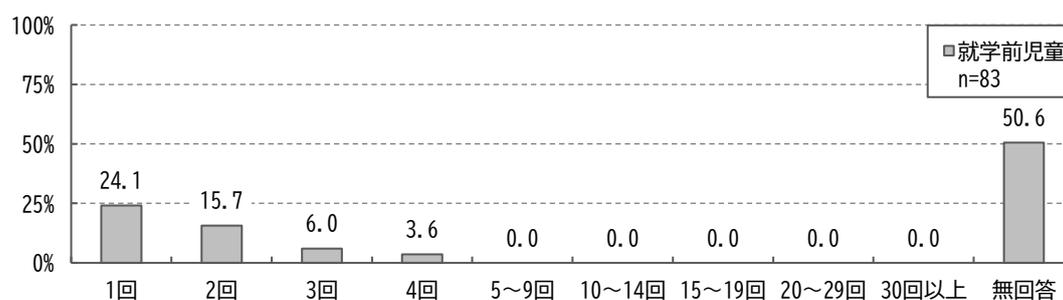
問14 子育て支援センターの今後の利用意向



問14.1 未利用者の今後の利用希望回数 子育て支援センター (1週当たり)



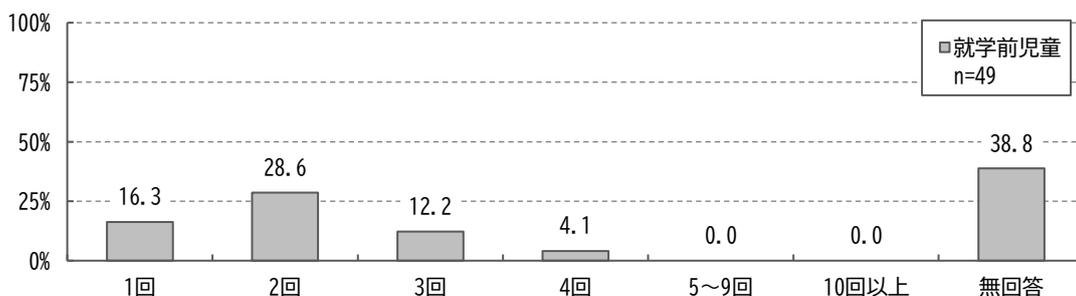
問14.1 未利用者の今後の利用希望回数 子育て支援センター (1か月当たり)



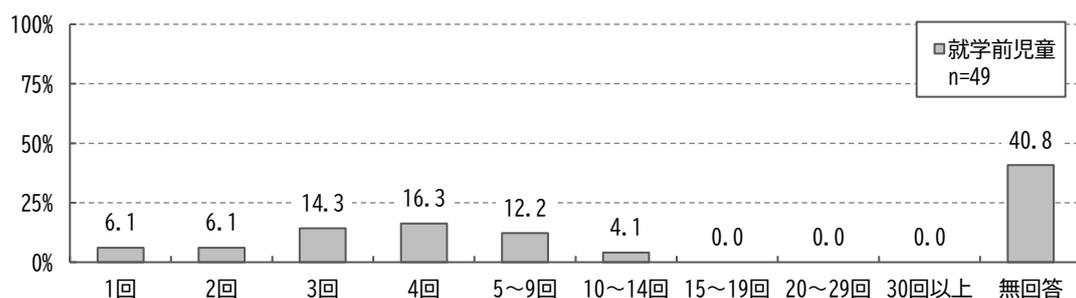


- 既利用者が今後増やしたい1週当たりの利用回数をみると、「2回」(28.6%)が最も高く、次いで「1回」(16.3%)となっています。
- 既利用者が今後増やしたい1か月当たりの利用回数をみると、「4回」(16.3%)が最も高く、次いで「3回」(14.3%)となっています。

問14.2 既利用者の今後増やしたい利用回数(1週当たり)



問14.2 既利用者の今後増やしたい利用回数(1か月当たり)



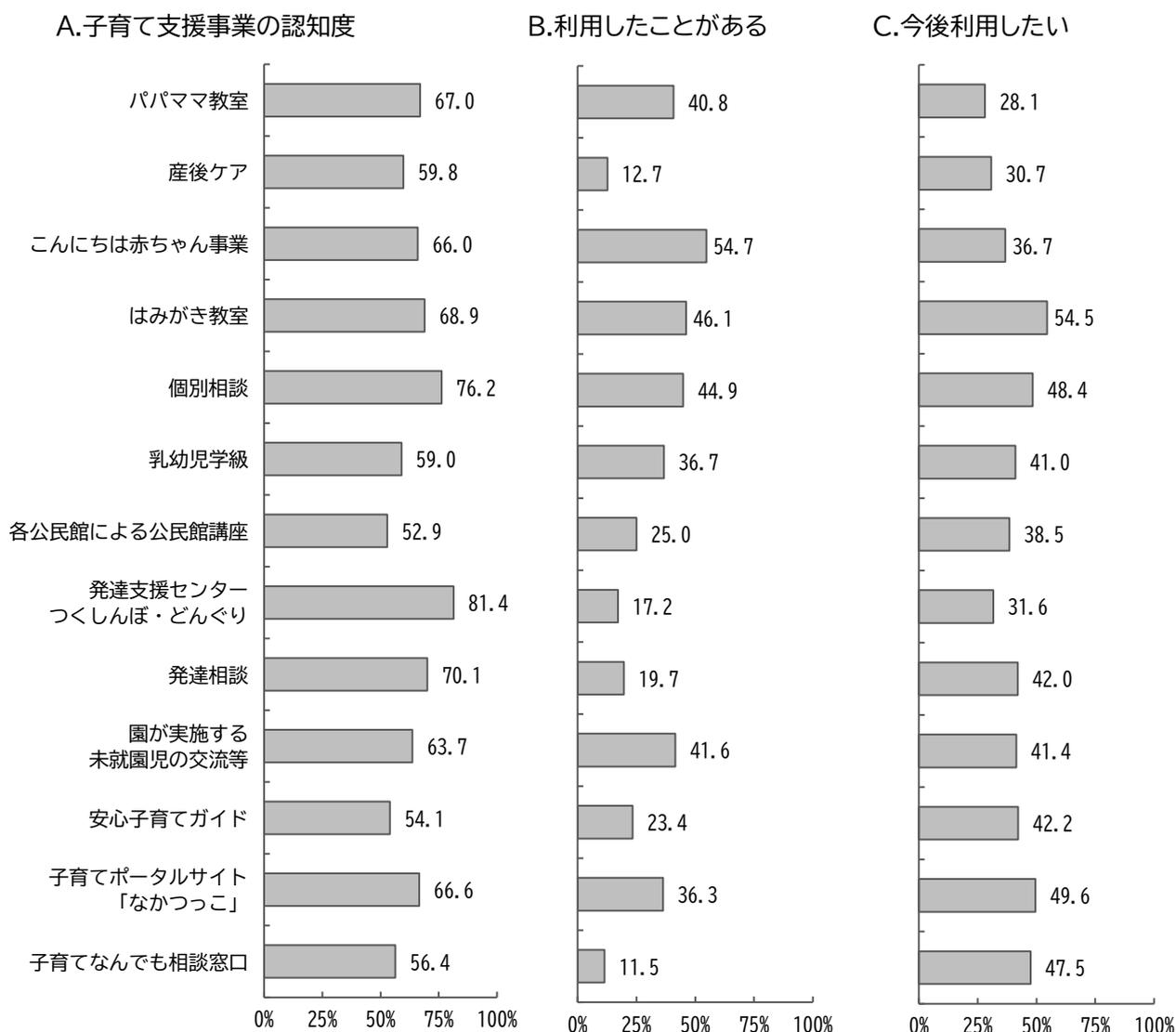


(3) 子育て支援事業の認知度、利用状況と今後の利用意向について

- 子育て支援事業の認知度をみると、「発達支援センターつくしんぼ・どんぐり」(81.4%)が最も高く、次いで「個別相談」(70.1%)、「発達相談」(70.1%)となっています。
- 子育て支援事業の利用状況をみると、「こにちは赤ちゃん事業」(54.7%)が最も高く、次いで「はみがき教室」(46.1%)、「個別相談」(44.9%)、「園が実施する未就園児の交流等」(41.6%)となっています。
- 子育て支援事業の利用意向をみると、「はみがき教室」(54.5%)が最も高く、次いで「子育てポータルサイト「なかつっこ」」(49.6%)、「個別相談」(48.4%)となっています。

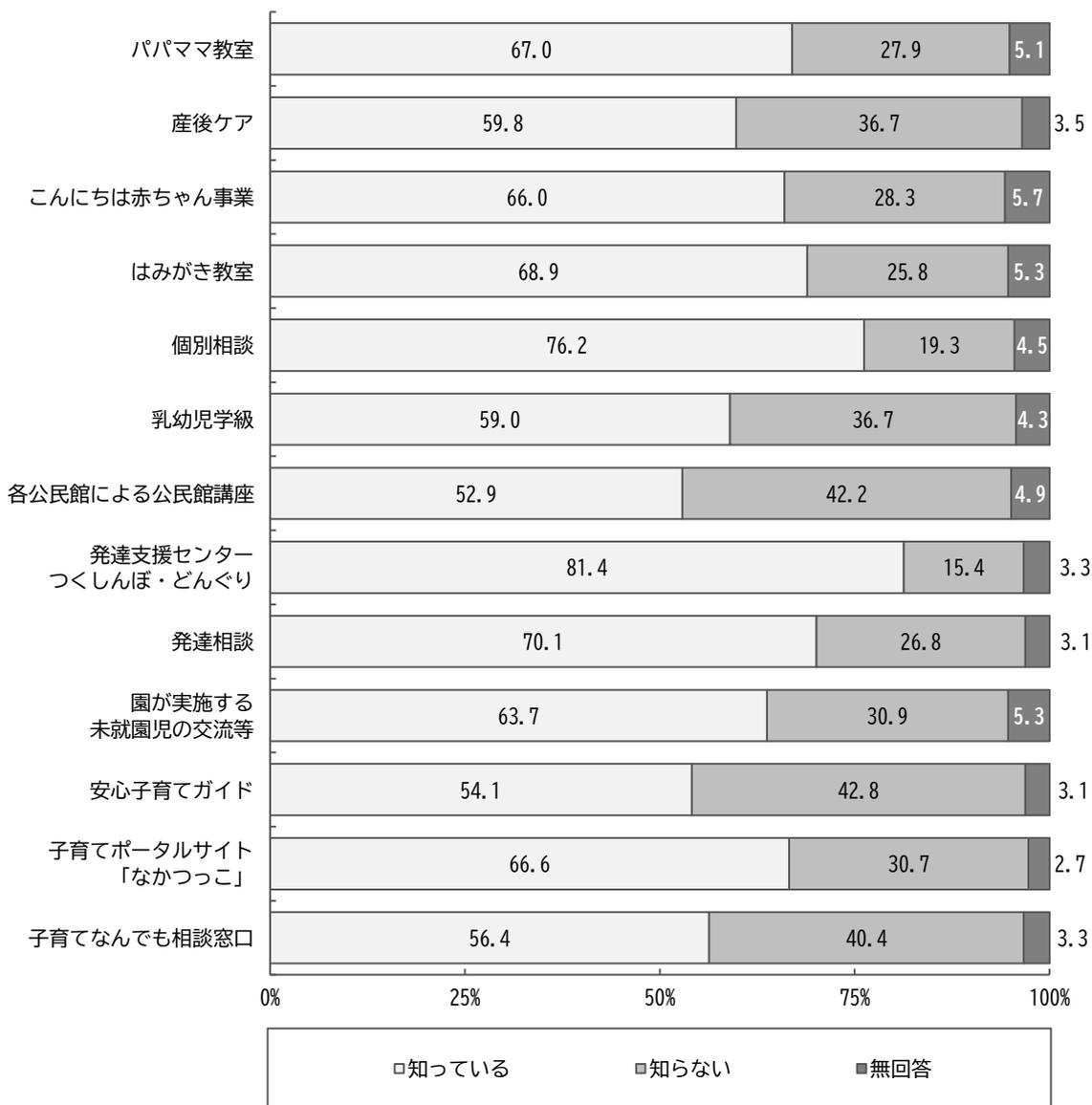
問15 子育て支援事業の認知度、利用状況、今後の利用意向

就学前児童 n=488



問15 A 子育て支援事業の認知度

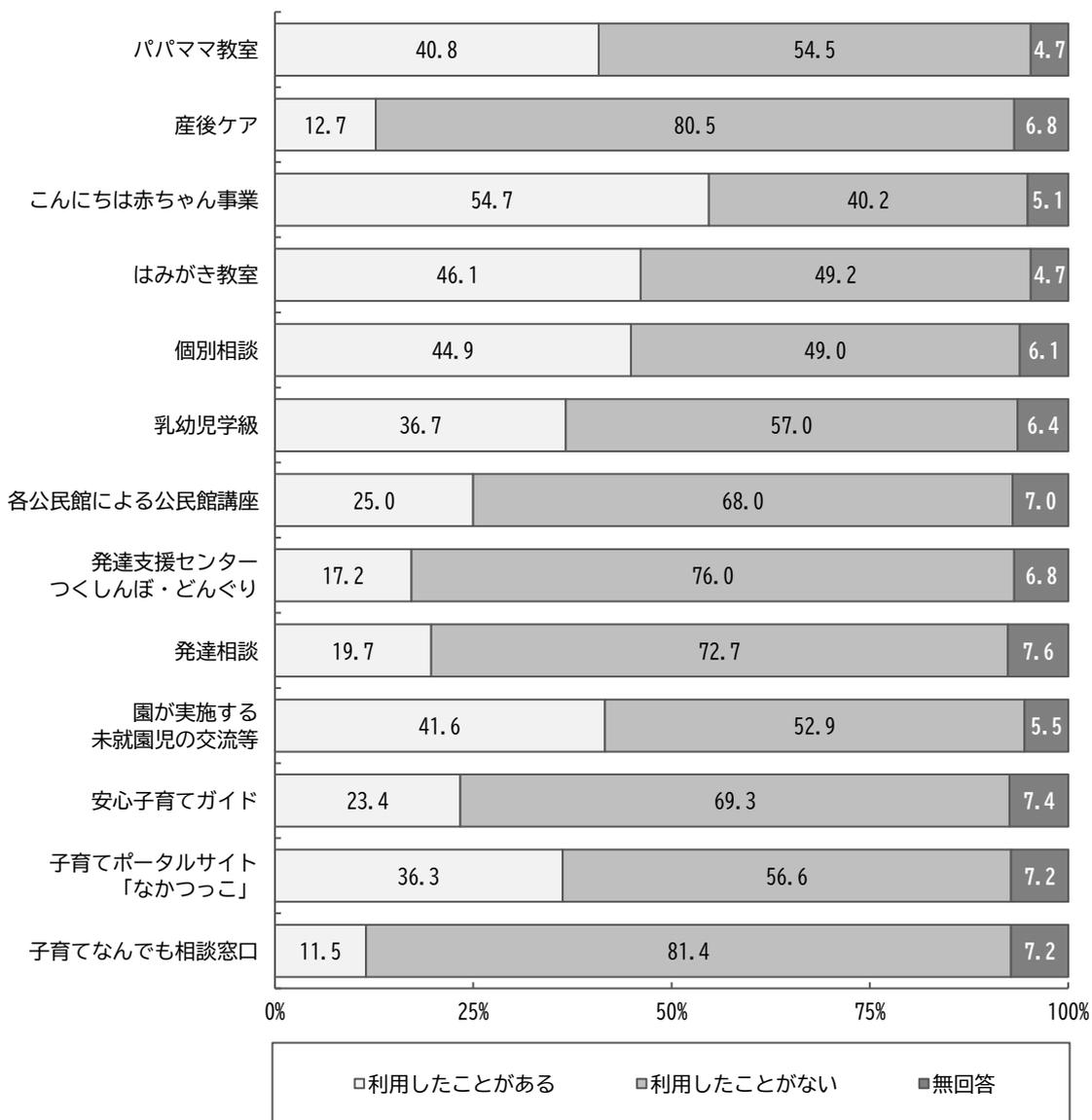
就学前児童 n=488





問15 B これまでに利用したことがあるか

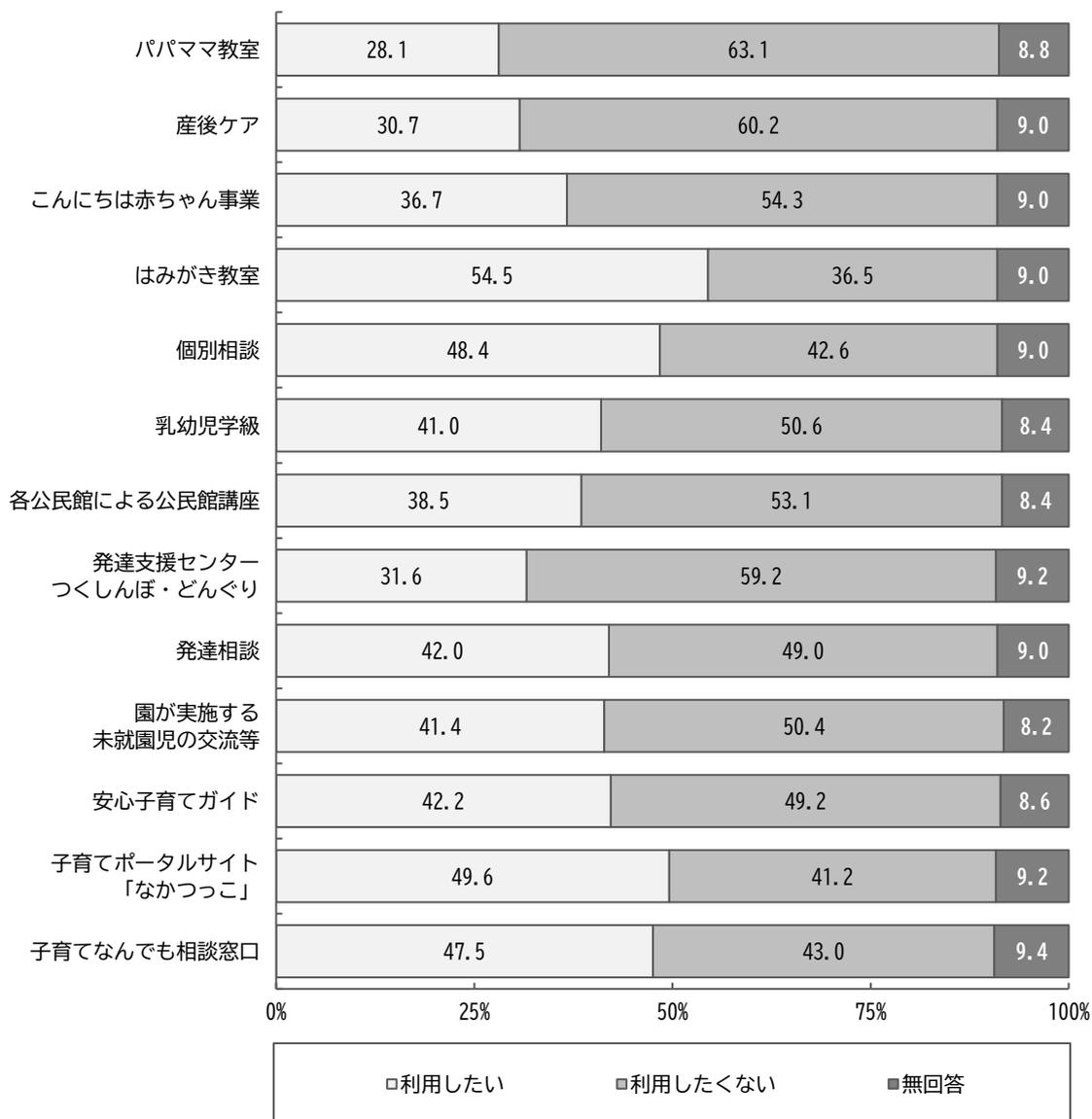
就学前児童 n=488





問15 C 今後利用したい

就学前児童 n=488





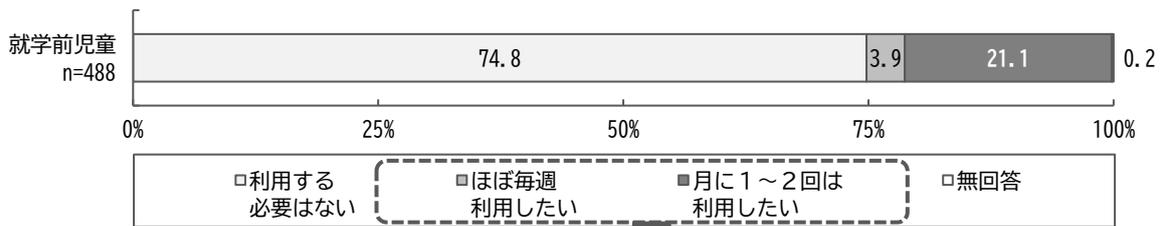
3 就学前児童の休日の定期的な教育・保育事業の利用希望

(1) 土曜日と日曜日、祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

○土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向をみると、「ほぼ毎週利用したい」(3.9%)、「月に1～2回は利用したい」(21.1%)となっています。

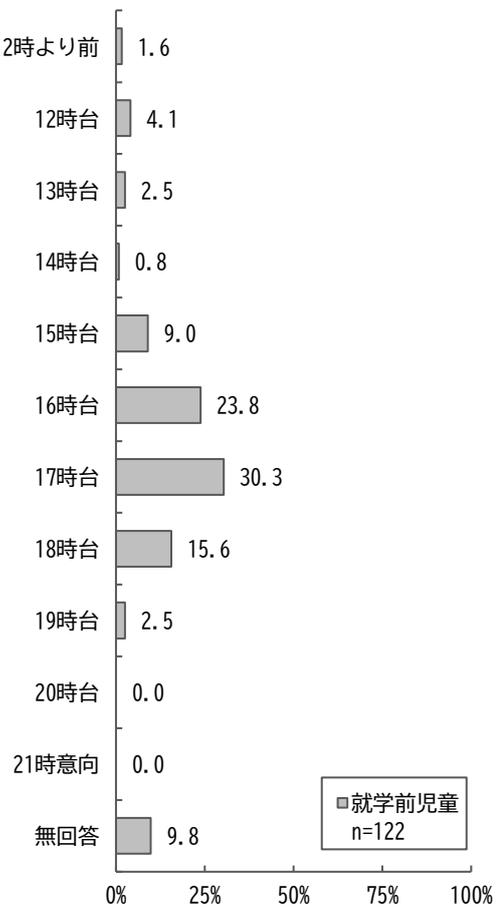
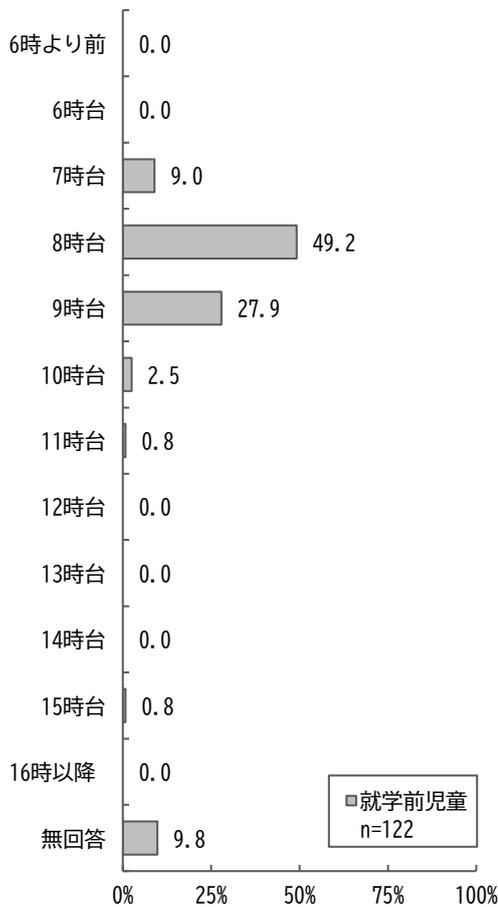
○利用希望者の利用したい時間帯をみると、開始時間で「8時台」(49.2%)、終了時間で「17時台」(30.3%)が最も高くなっています。

問16(1) 土曜日の利用希望



問16(1) 希望開始時間

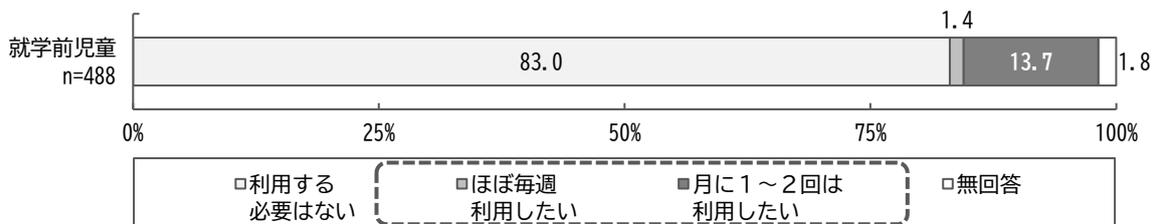
問16(1) 希望終了時間



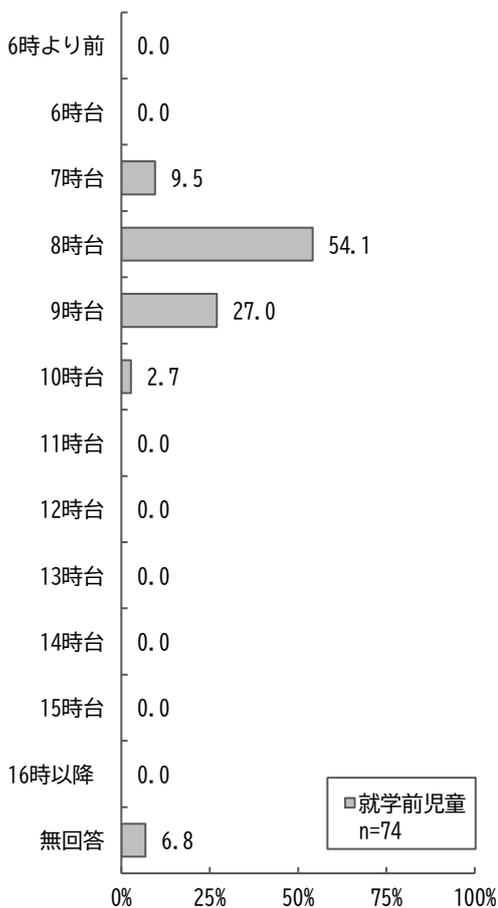


- 日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向をみると、「ほぼ毎週利用したい」(1.4%)、「月に1～2回は利用したい」(13.7%)となっています。
- 利用希望者の利用したい時間帯をみると、開始時間で「8時台」(54.1%)、終了時間で「17時台」(33.8%)が最も高くなっています。

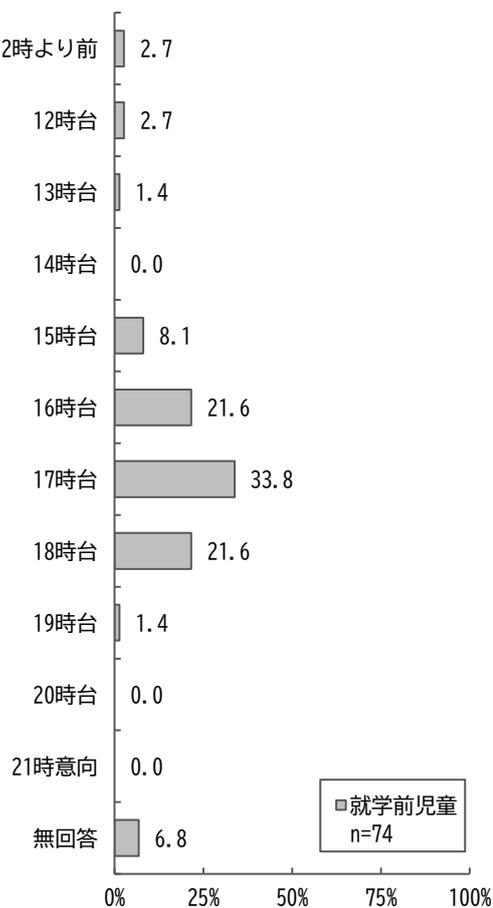
問16(2) 日曜日・祝日の利用希望



問16(2) 希望開始時間



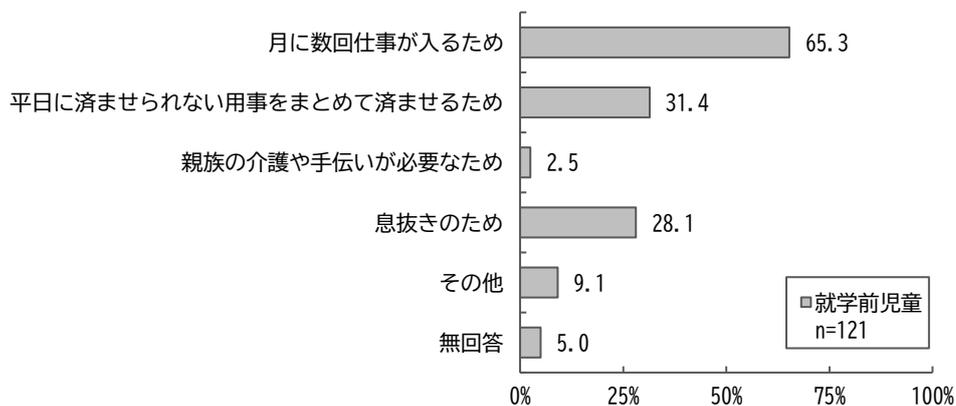
問16(2) 希望終了時間





○土曜日と日曜日・祝日において「月に1～2回は利用したい」と回答した方の理由をみると、「月に数回仕事が入るため」(65.3%)が最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(31.4%)、「息抜きのため」(28.1%)となっています。

問16-1 毎週ではなく「月に1～2回利用したい」理由

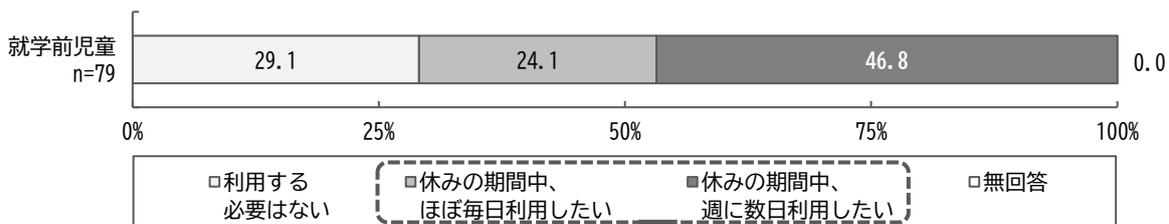


(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

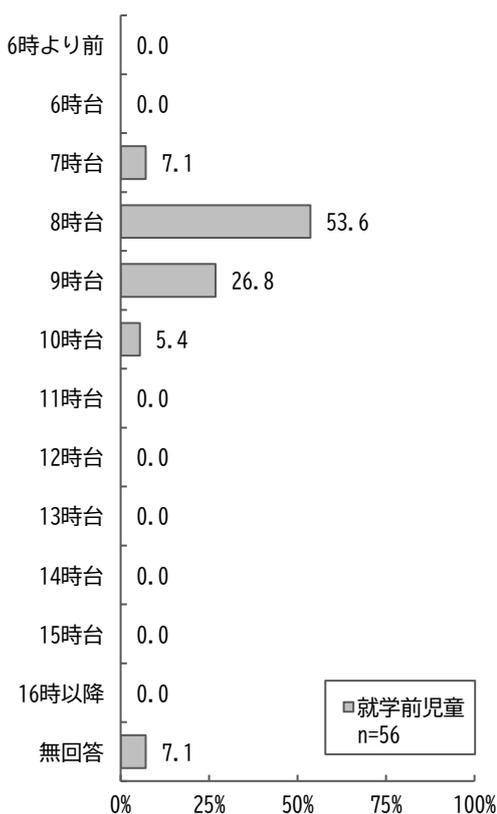
○幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業の利用意向をみると、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」(24.1%)、「休みの期間中、週に数日利用したい」(46.8%)となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、開始時間で「8時台」(53.6%)、終了時間で「15時台」(30.4%)が最も高くなっています。

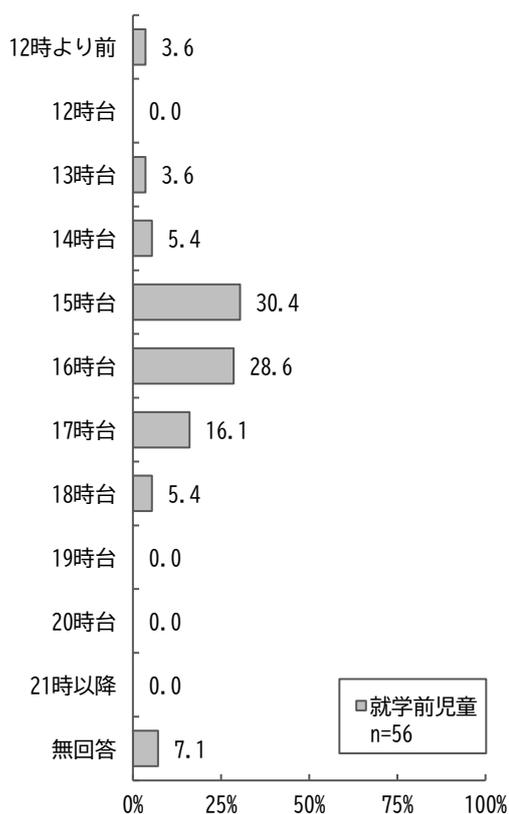
問17 長期休暇中の利用希望(幼稚園利用者)



問17 希望開始時間



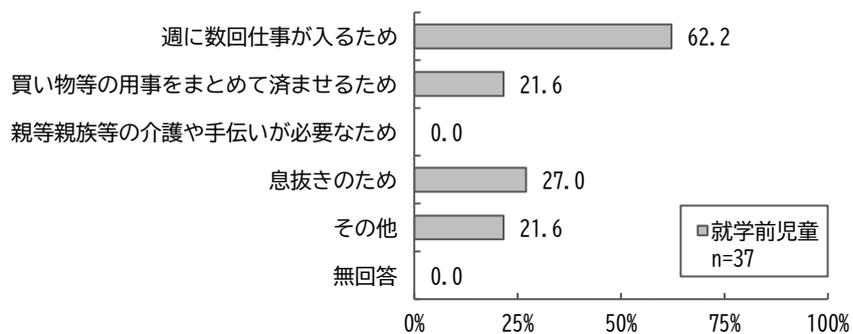
問17 希望終了時間





○長期休暇中において「休みの期間中、週に数日利用したい」と回答した方の理由をみると、「週に数回仕事が入るため」(62.2%)が最も高く、次いで「息抜きのため」(27.0%)となっています。

問17-1 「休みの期間中、週に数日利用したい」理由

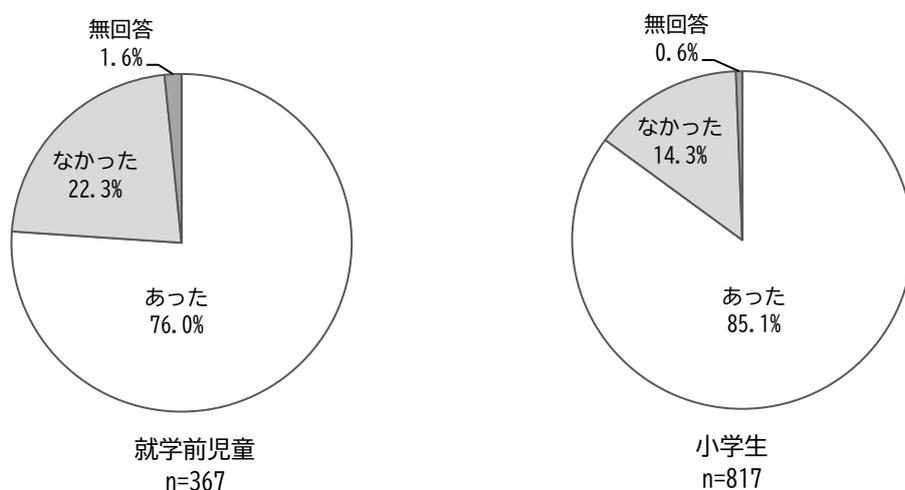


4 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

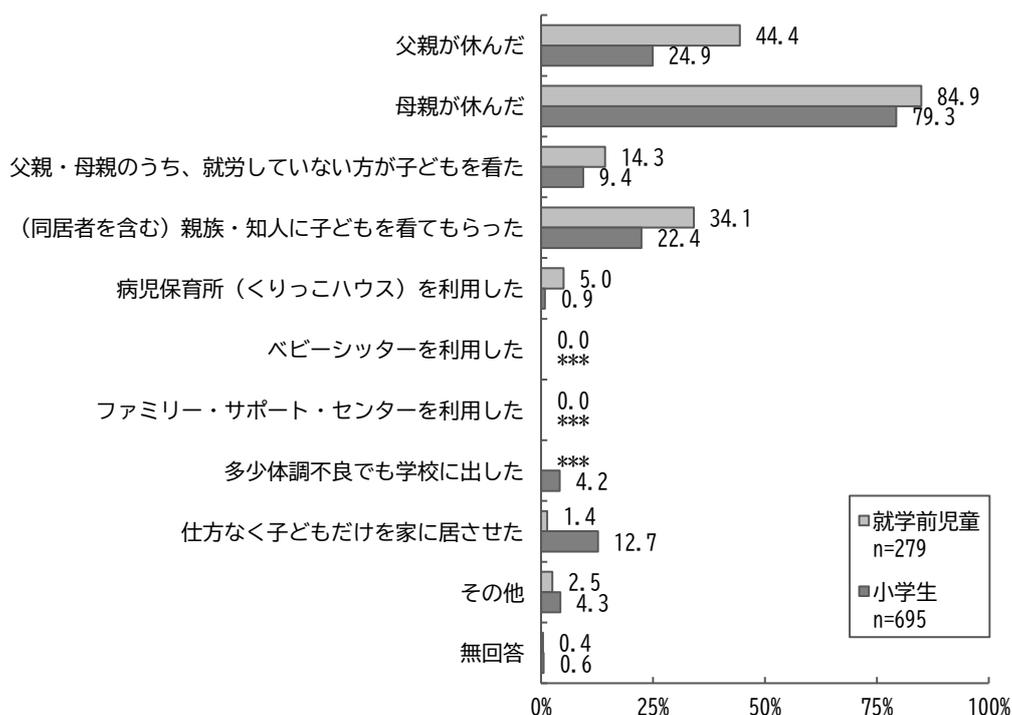
○病気やケガで通常の事業が利用できなかったことが、「あった」と回答した方をみると、就学前児童では76.0%、小学生では85.1%となっています。

○その際の対処方法をみると、就学前児童、小学生いずれも「母親が休んだ」（就学前児童84.9%、小学生79.3%）が最も高く、次いで「父親が休んだ」（就学前児童44.4%、小学生24.9%）、「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」（就学前児童34.1%、小学生22.4%）となっています。

問18[問14] 病気やケガで通常の事業が利用できなかったことの有無



問18-1[問14-1] この1年間の対処方法

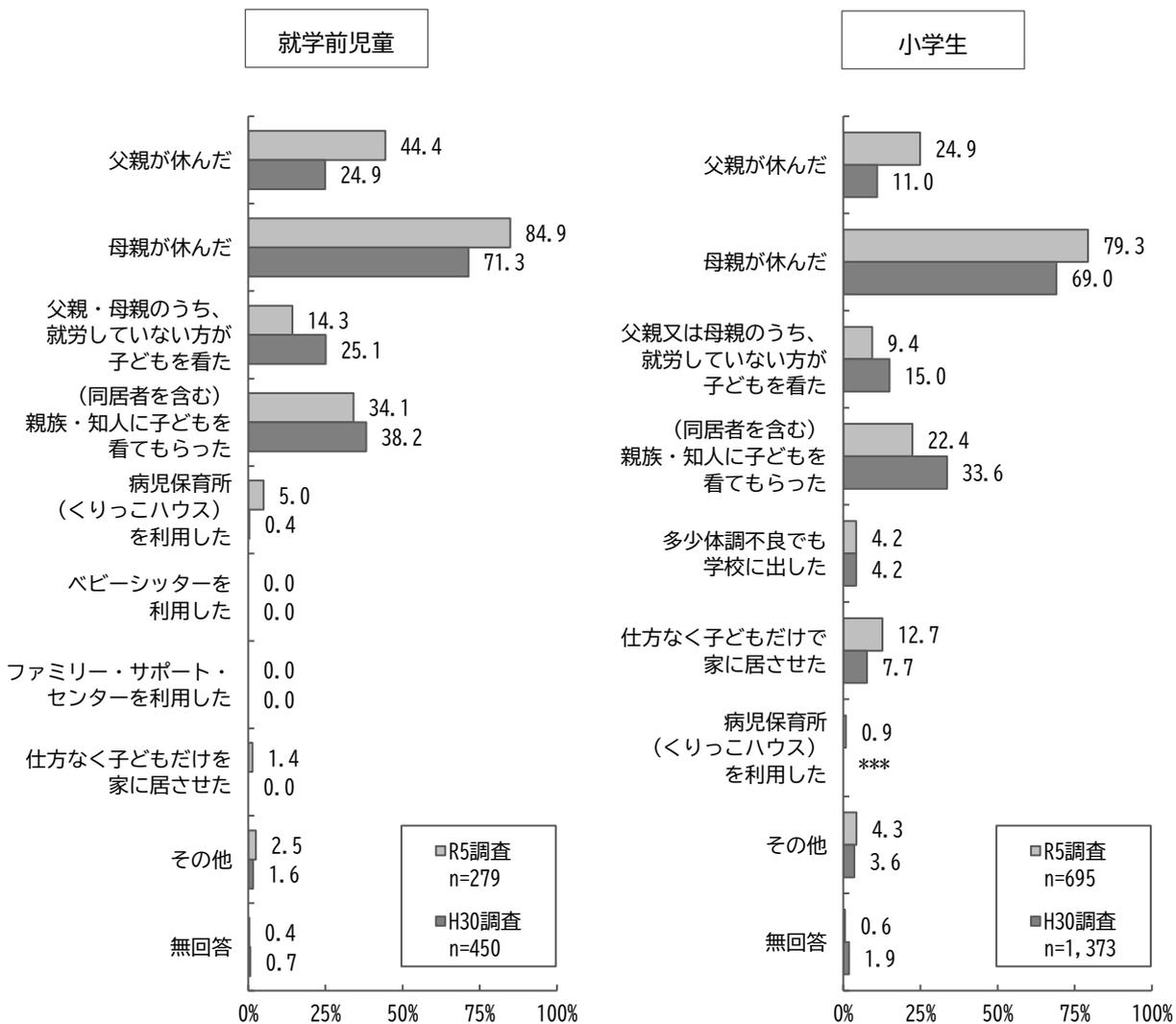


※「***」は選択肢がない項目



○病気やケガで通常の事業が利用できなかった場合の対処方法について前回調査と比較すると、就学前児童では、「父親が休んだ」が、19.5ポイント、「母親が休んだ」が13.6ポイント増加しています。小学生では「父親が休んだ」が13.9ポイント、「母親が休んだ」が10.3ポイント、「仕方なく子どもだけで家に居させた」が5.0ポイント増加しています。

■ 問18-1[問14-1] この1年間の対処方法（経年比較）

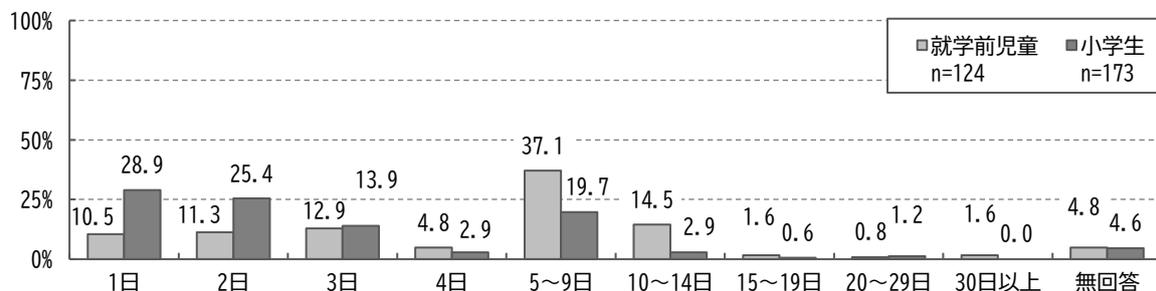


※「***」は選択肢がない項目



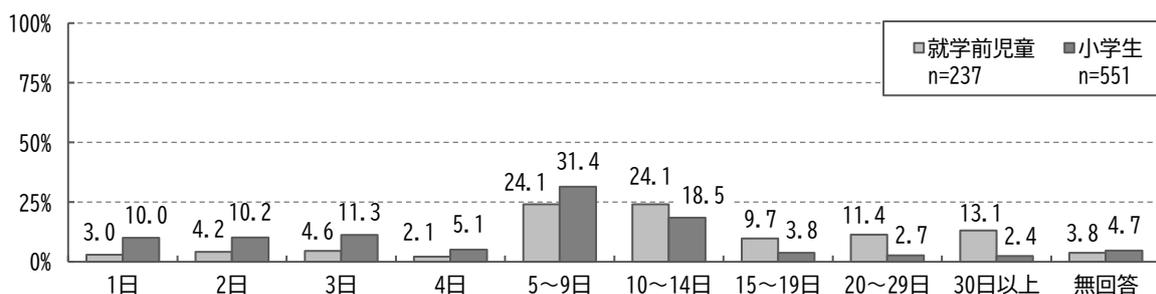
○対処方法別にこの1年間の対処日数をみると、「父親が休んだ日数」は、就学前児童では「5～9日」(37.1%)、小学生では「1日」(28.9%)が最も高くなっています。

問18-1.1[問14-1.1] 父親が休んだ日数



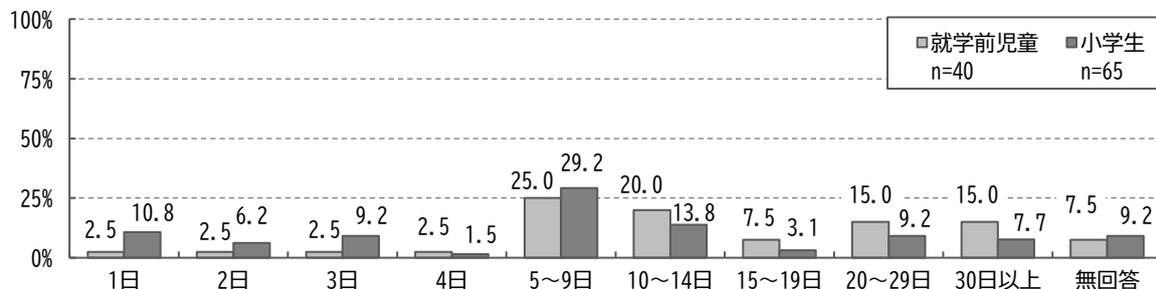
○「母親が休んだ日数」は、就学前児童では「5～9日」「10～14日」(各24.1%)、小学生では「5～9日」(31.4%)が最も高くなっています。

問18-1.2[問14-1.2] 母親が休んだ日数



○「父親・母親のうち就労していない方が子どもをみた日数」は、就学前児童、小学生いずれも「5～9日」(就学前児童25.0%、小学生29.2%)が最も高くなっています。

問18-1.3[問14-1.3] 父親・母親のうち就労していない方が子どもをみた日数

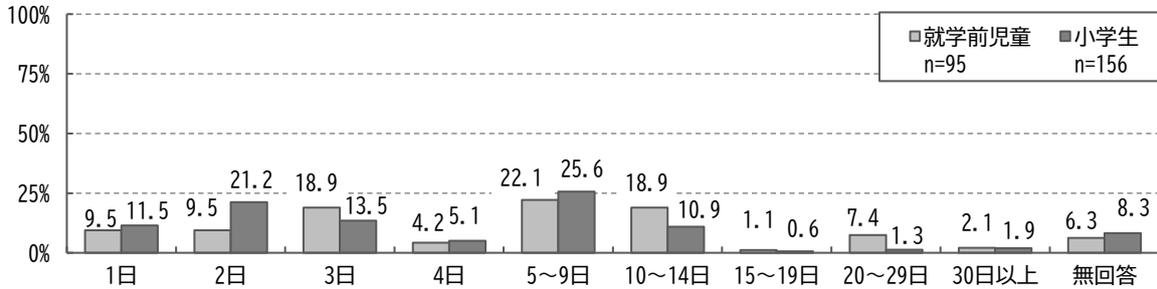


中津川市



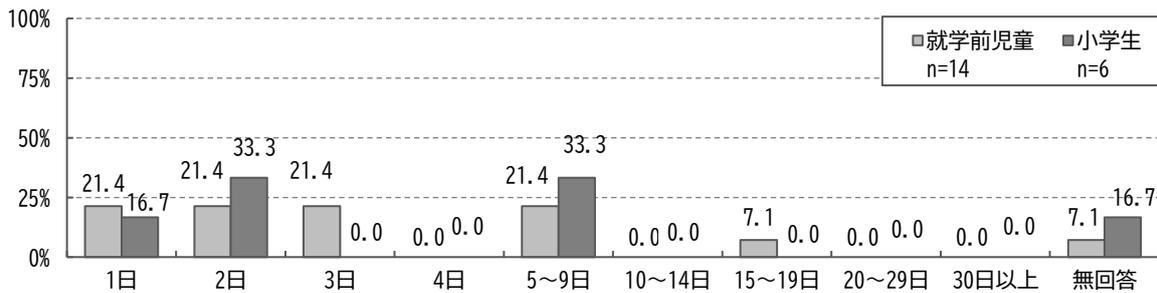
- 「親族・知人に子どもをみてもらった日数」は、就学前児童、小学生いずれも「5～9日」（就学前児童22.1%、小学生25.6%）が最も高くなっています。

問18-1.4[問14-1.4]（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった日数



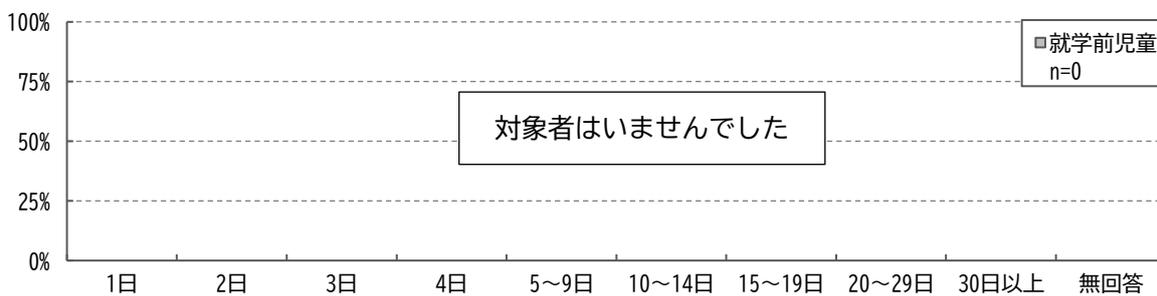
- 「病児保育所（くりっこハウス）を利用した日数」は、以下のとおりです。

問18-1.5[問14-1.7] 病児保育所(くりっこハウス)を利用した日数



- 「ベビーシッターを利用した日数」は、以下のとおりです。

問18-1.6 ベビーシッターを利用した日数

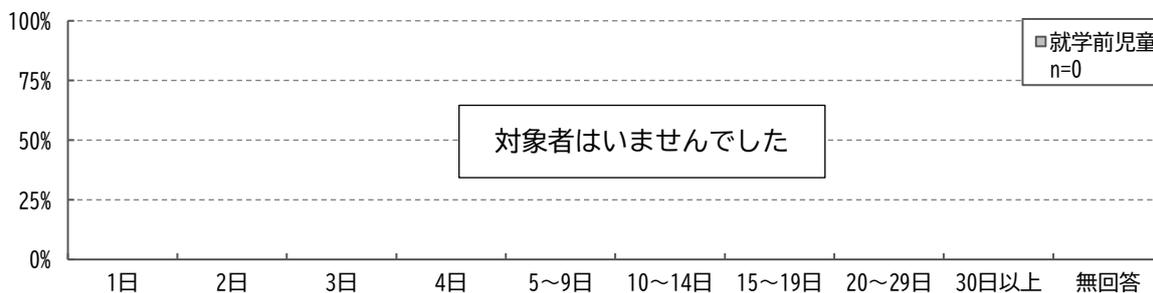


※就学前児童のみ



○「ファミリー・サポート・センターを利用した日数」は、以下のとおりです。

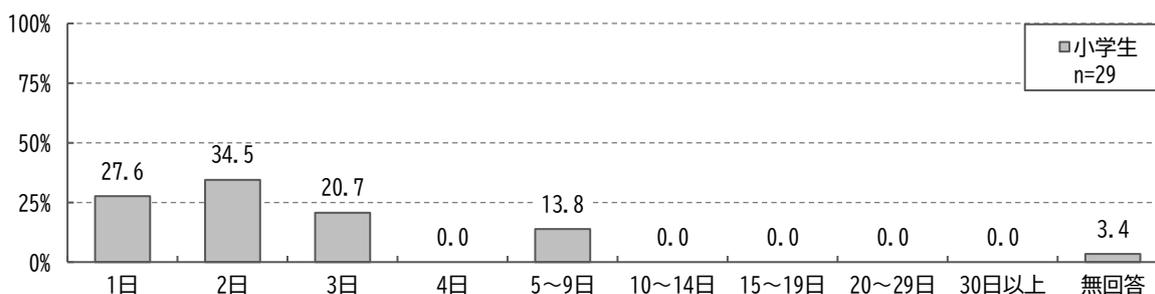
問18-1.7 ファミリー・サポート・センターを利用した日数



※就学前児童のみ

○「多少体調不良でも学校に出した日数」は、以下のとおりです。

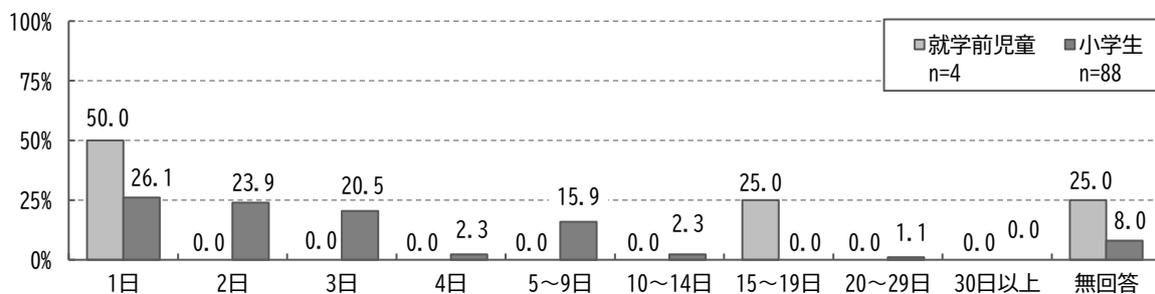
[問14-1.5] 多少体調不良でも学校に出した日数



※小学生のみ

○「仕方なく子どもだけを家に居させた日数」は、小学生では「1日」(26.1%)が最も高くなっています。

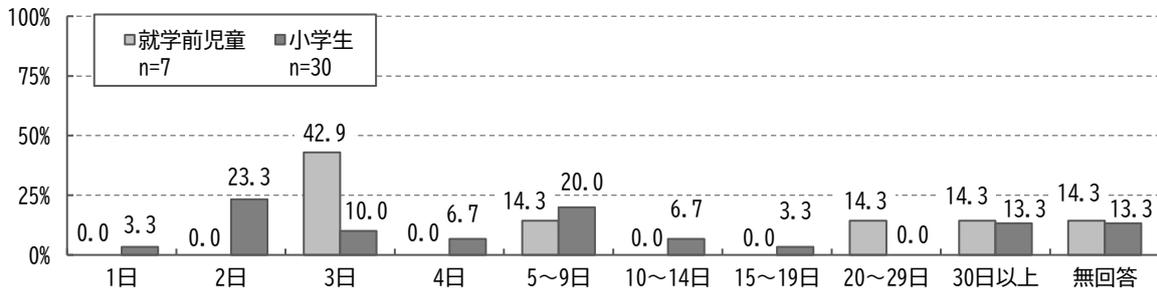
問18-1.8[問14-1.6] 仕方なく子どもだけを家に居させた日数





○「その他の日数」は、以下のとおりです。

問18-1.9[問14-1.8] その他の日数

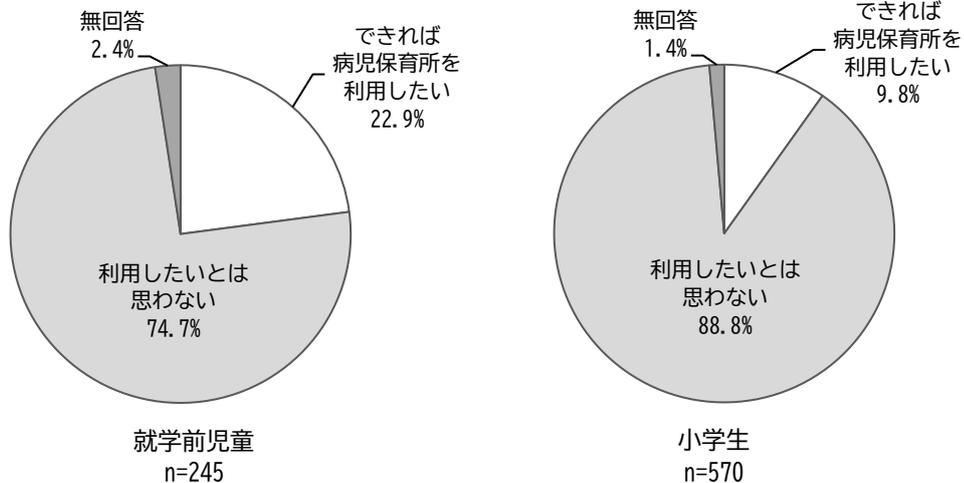


(2) 病児・病後児の保育施設の利用希望

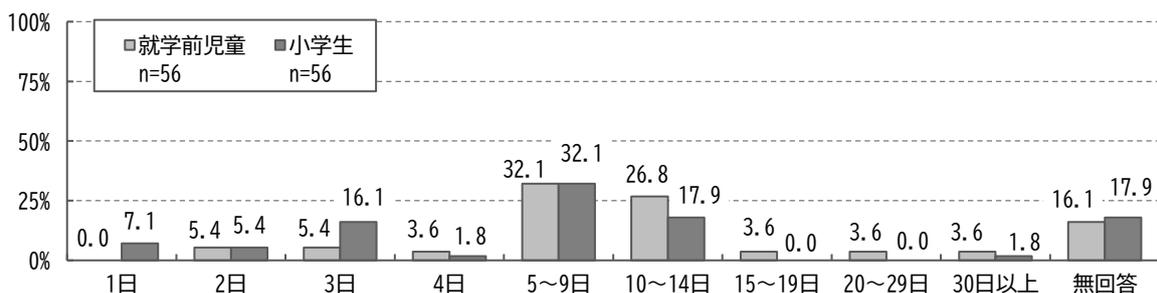
○病気やケガで通常の事業が利用できなかった際に、父親・母親が休んだ方に病児保育所（くりっこハウス）を利用したいかについてみると、「利用したい」は就学前児童では22.9%、小学生では9.8%となっています。

○利用したい年間日数については、就学前児童、小学生いずれも「5～9日」（就学前児童、小学生各32.1%）が最も高くなっています。

問18-2[問14-2] 病児保育所(くりっこハウス)を利用したいか



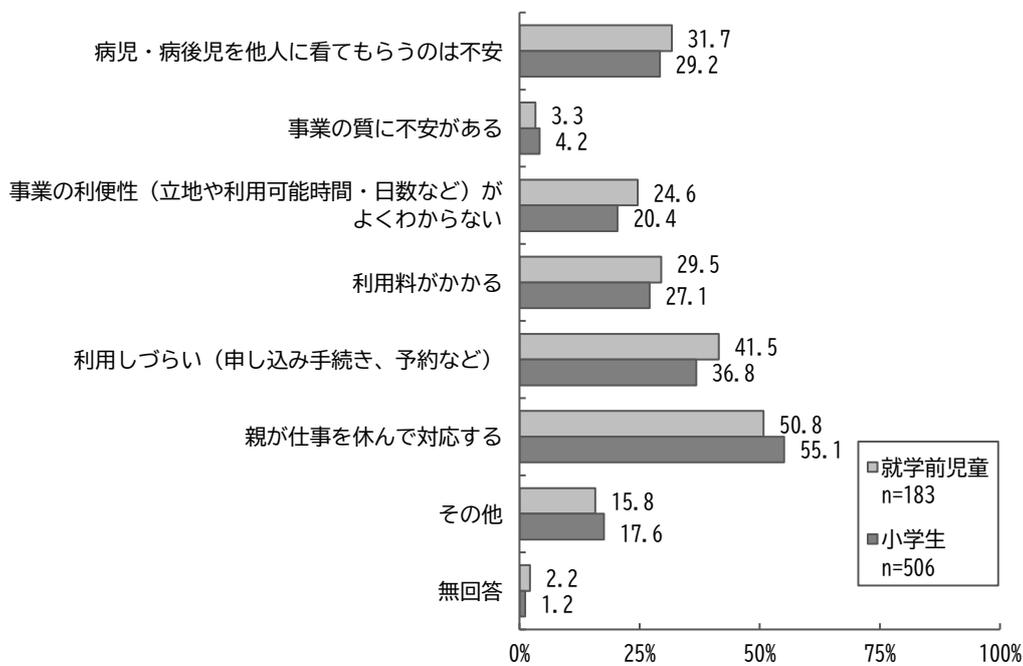
問18-2[問14-2] 「病児・病後児保育施設等を利用したい」希望日数(年間)





○病児保育所（くりっこハウス）を利用したいとは思わないと回答した理由をみると、就学前児童、小学生いずれも「親が仕事を休んで対応する」（就学前児童50.8%、小学生55.1%）が最も高くなっています。

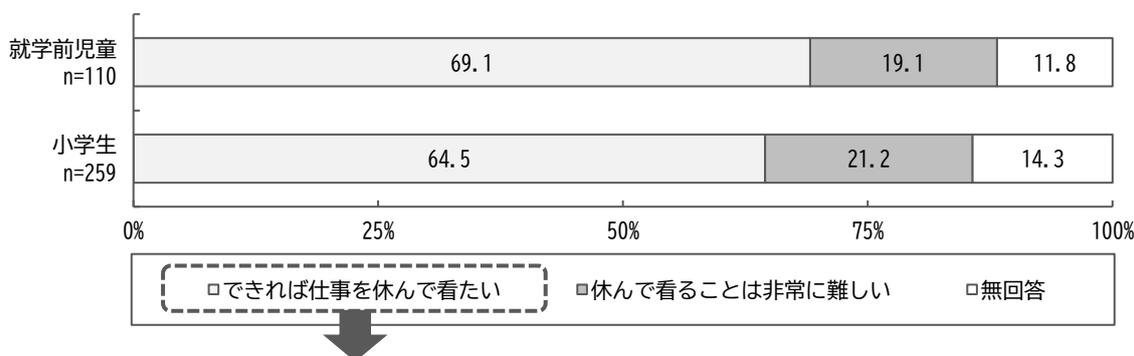
問18-3[問14-3] 病児保育所(くりっこハウス)を利用したいと思わない理由



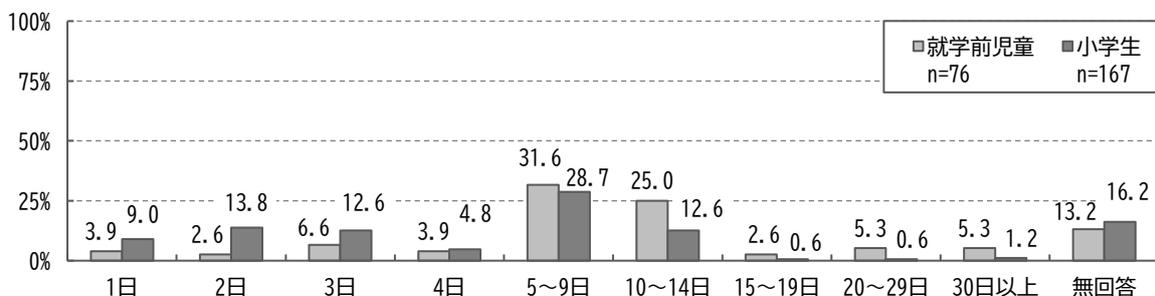


- 父母が休む以外の対処方法を選んだ方のうち、「できれば仕事を休んで看たい」は、就学前児童では69.1%、小学生では64.5%となっています。
- 「できれば仕事を休んで看病したい」と回答した方の年間希望日数は、就学前児童、小学生いずれも「5～9日」(就学前児童31.6%、小学生28.7%)が最も高くなっています。
- 「休んで看病することは非常に難しい」と回答した方の理由をみると、就学前児童では「休暇日数が足りないので休めない」(61.9%)、小学生では「その他」(54.5%)が最も高くなっています。「その他」が就学前児童でも42.9%となっていることから、選択項目以外にもさまざまな理由があることがうかがえます。

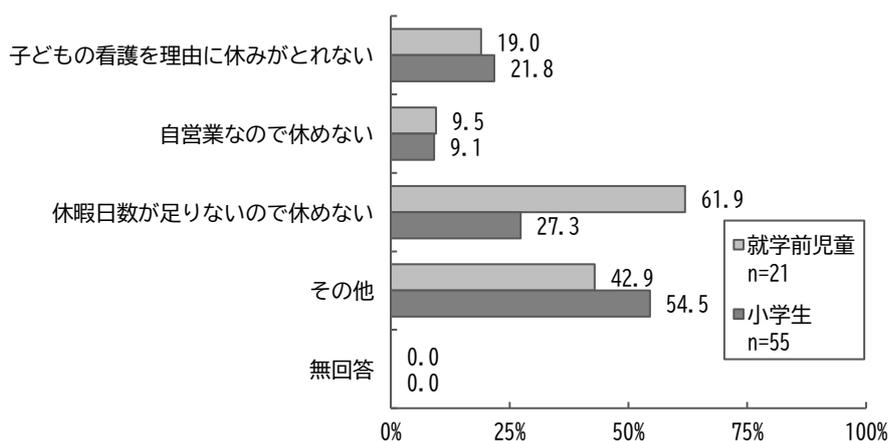
問18-4[問14-4] 「父母が仕事を休んで看病したい」意向



問18-4.1[問14-4.1] 「できれば仕事を休んで看たい」希望日数(年間)



問18-5[問14-5] 「休んで看病することは非常に難しい」理由





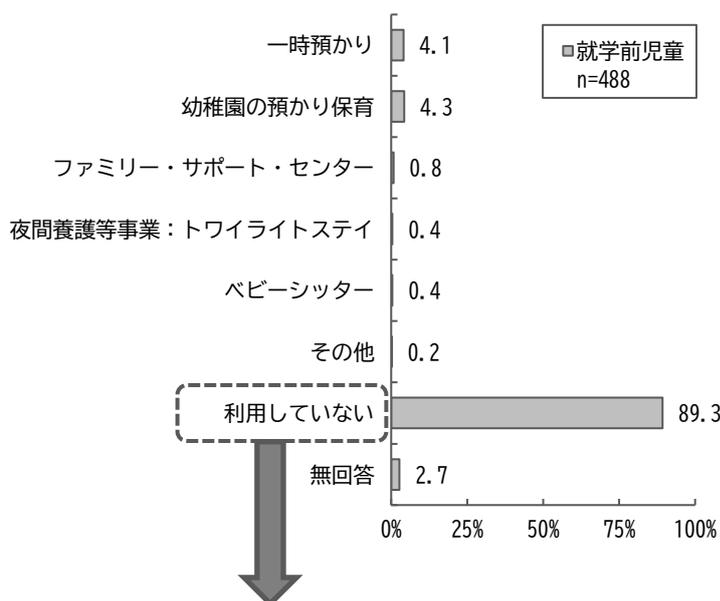
5 不定期の一時保育の利用について

(1) 就学前児童保護者が不定期的に利用している教育・保育事業の状況

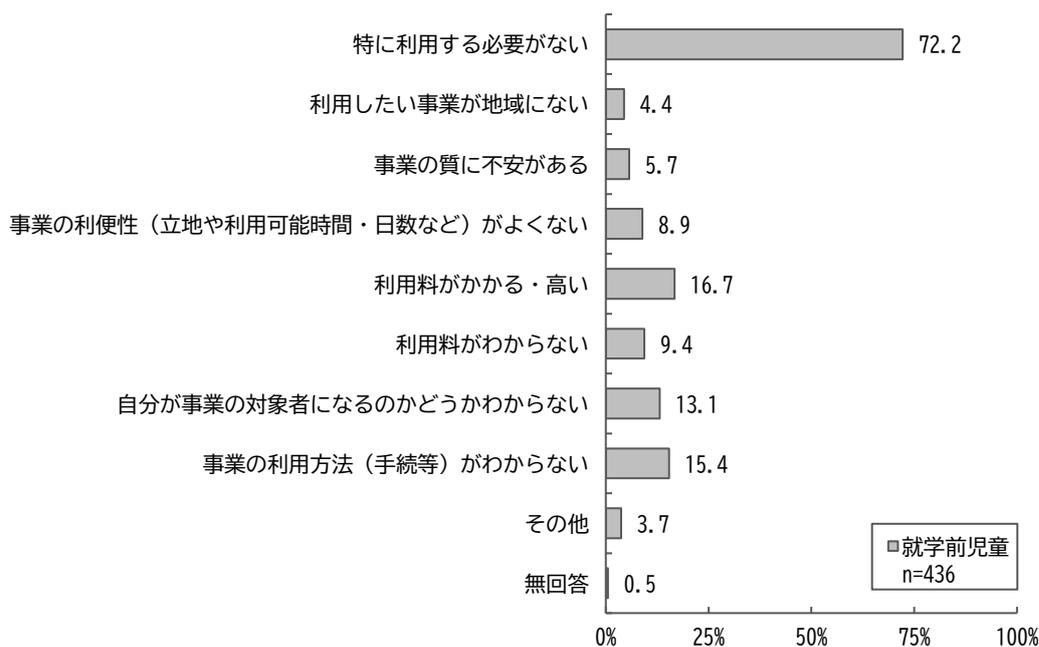
○不定期的に利用している一時預かり事業の状況をみると、「利用していない」(89.3%)が最も高くなっています。一方、利用している事業は「幼稚園の預かり保育」(4.3%)、「一時預かり」(4.1%)となっています。

○「利用していない」理由をみると、「特に利用する必要がない」が7割以上となっています。

問19 不定期的に利用している一時預かり事業



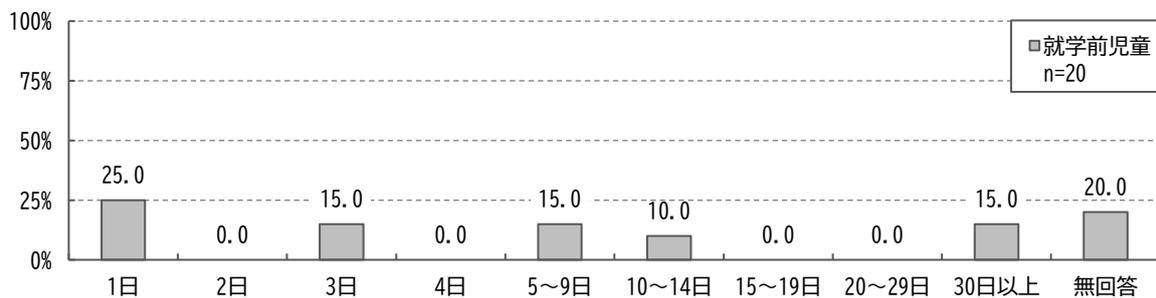
問19-1 現在利用していない理由



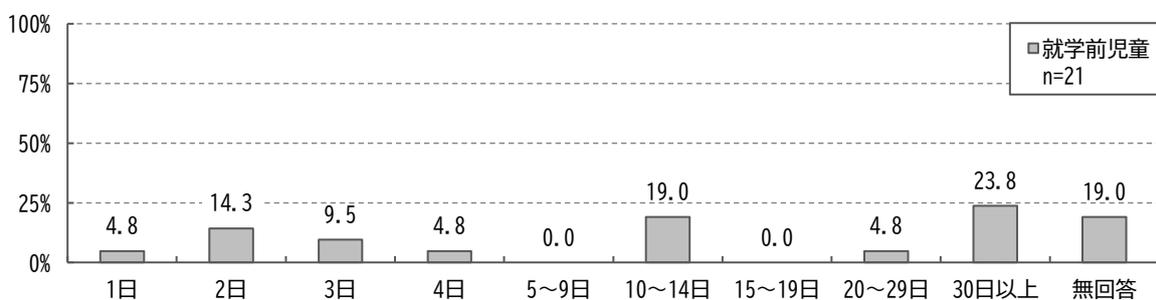


○事業別の年間利用日数は以下のとおりです。

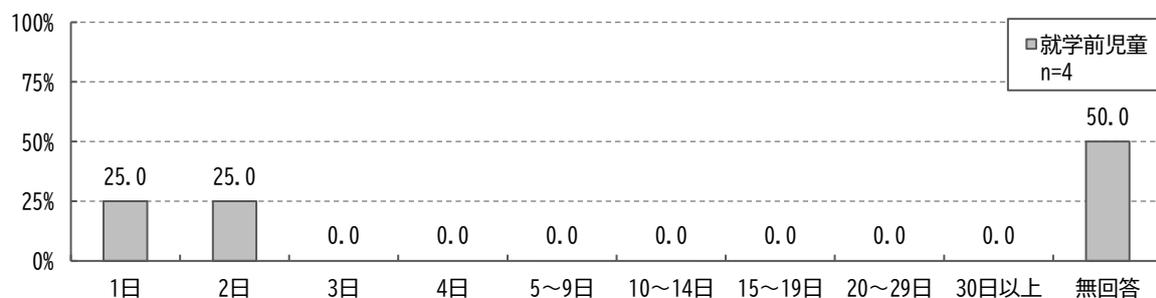
問19.1 「一時預かり」年間利用日数



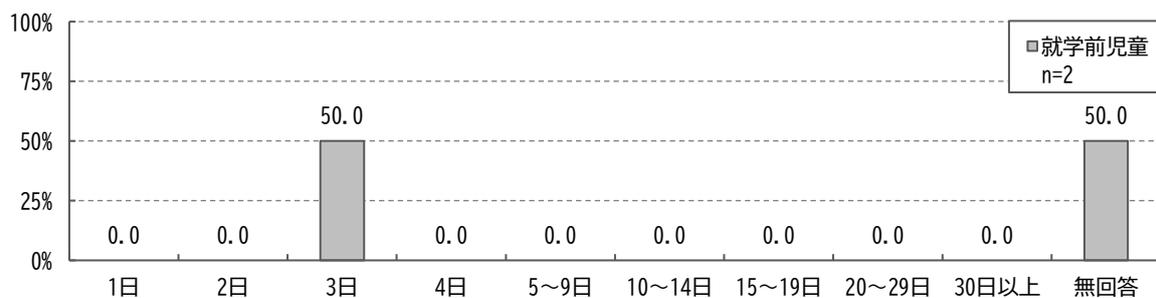
問19.2 「幼稚園の預かり保育」年間利用日数



問19.3 「ファミリー・サポート・センター」年間利用日数

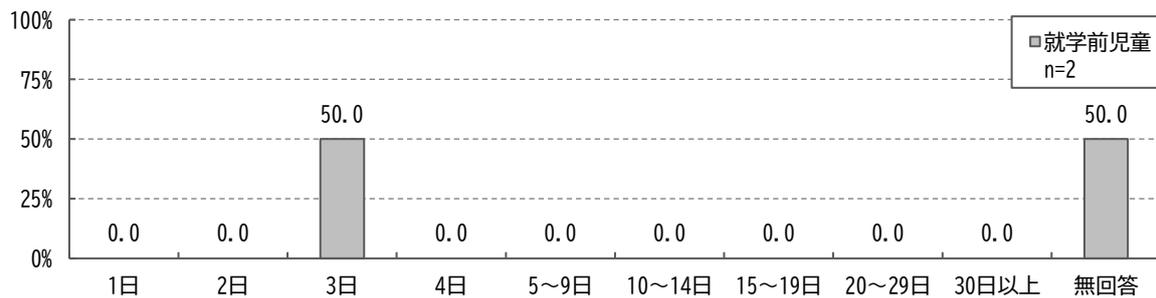


問19.4 「夜間養護等事業:トワイライトステイ」年間利用日数

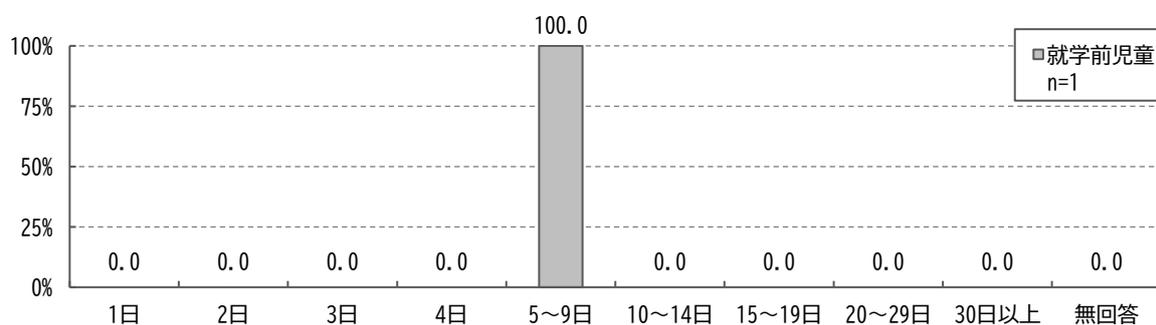




問19.5 「ベビーシッター」年間利用日数



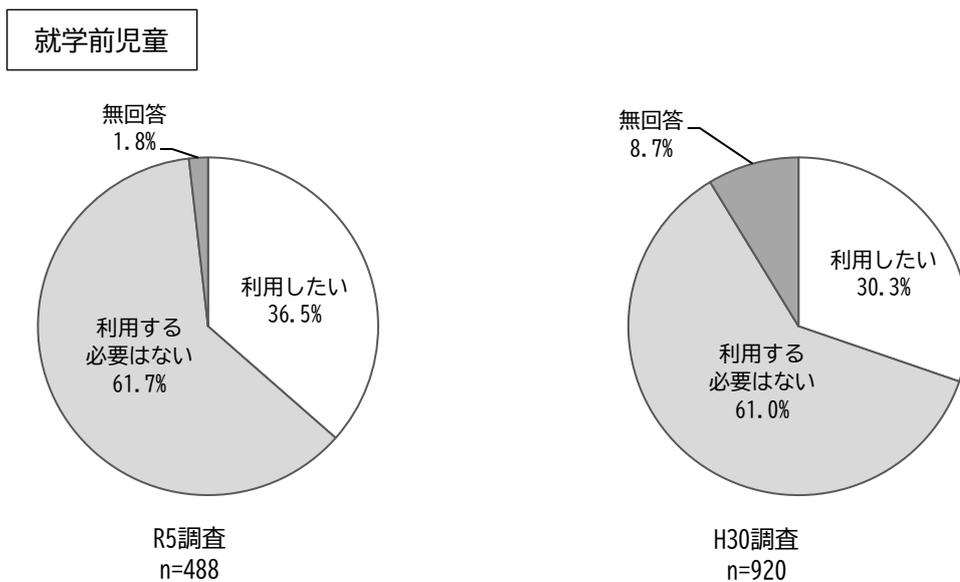
問19.6 「その他」年間利用日数



(2) 就学前児童保護者の一時預かり等の利用について

○一時預かり等の事業の利用希望をみると、「利用したい」と回答した方は36.5%となっており、前回調査と比較すると6.2ポイント高くなっています。

問20 一時預かり等の利用希望とその目的（経年比較）

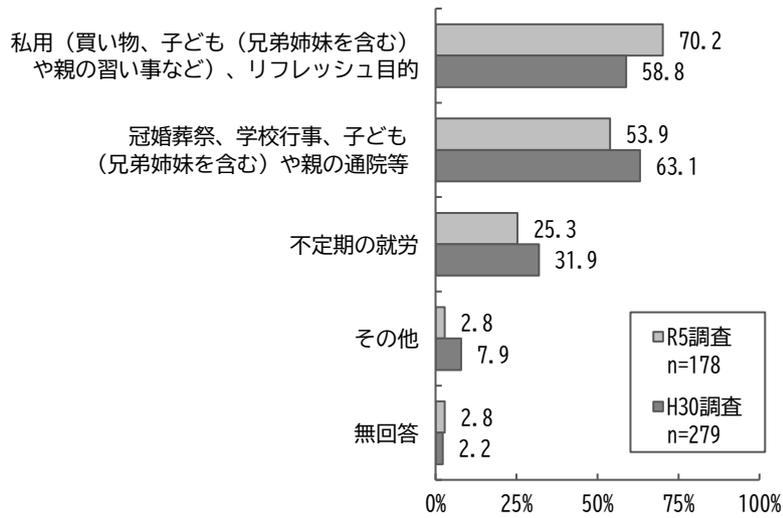




- 一時預かり等の利用目的をみると、「私用、リフレッシュ目的」(70.2%)が最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」(53.9%)となっています。
- 前回調査と比較すると、特に「私用、リフレッシュ目的」の割合が増加しています。

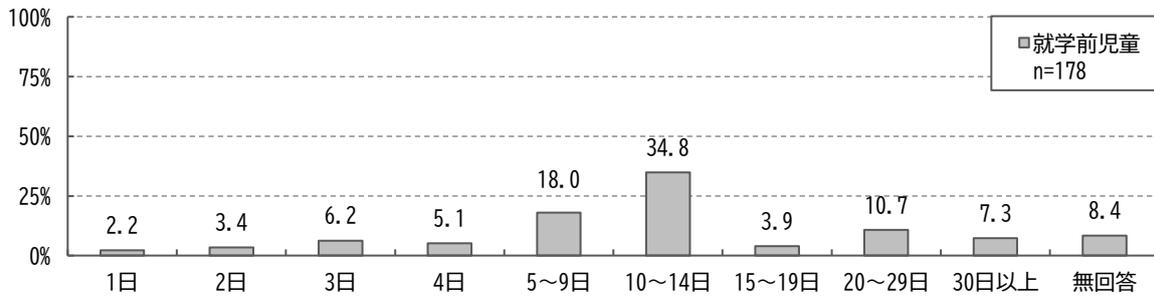
問20(1) 一時預かり等の利用目的 (経年比較)

就学前児童



- 利用希望年間合計日数をみると、「10~14日」(34.8%)が最も高くなっています。

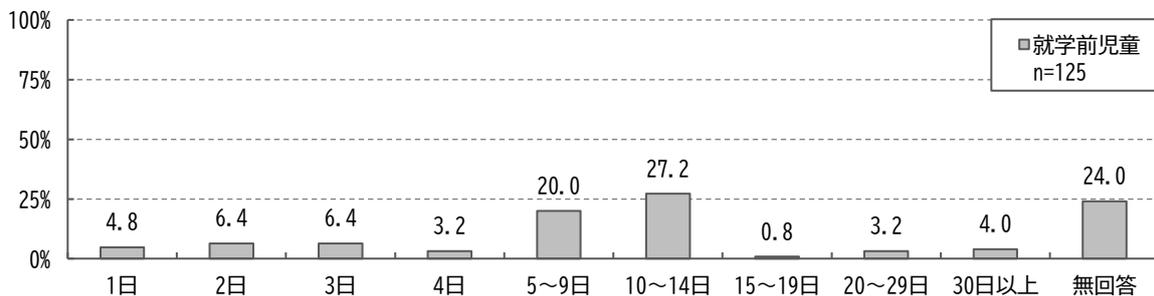
問20.1 一時預かり等の利用希望年間合計日数



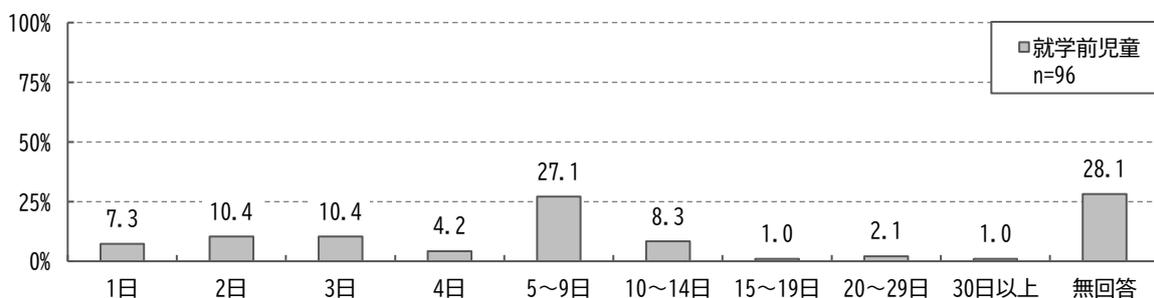


○目的ごとの年間利用希望日数は以下のとおりです。

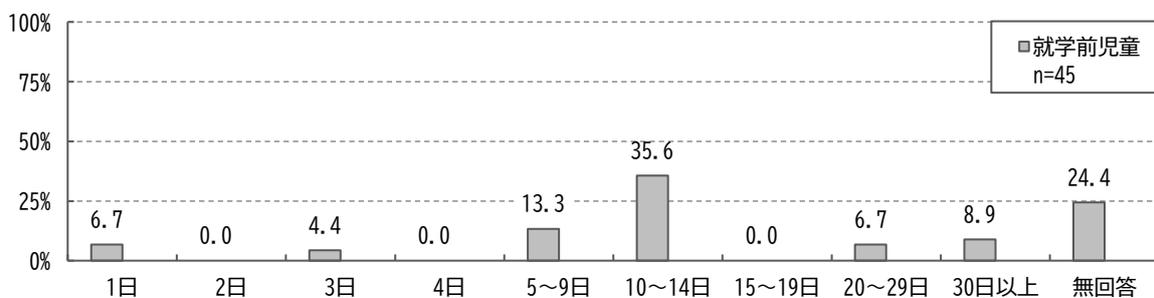
問20.1 私用



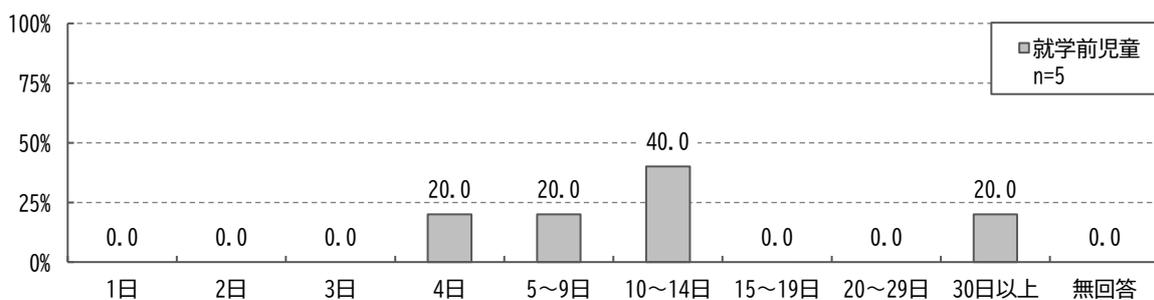
問20.1 冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等



問20.1 不定期の就労



問20.1 その他



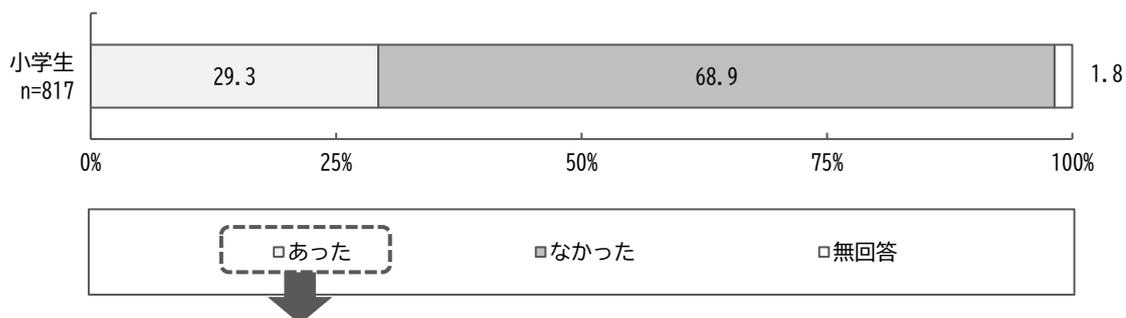


(3) 小学生保護者の一時預かり等の利用について

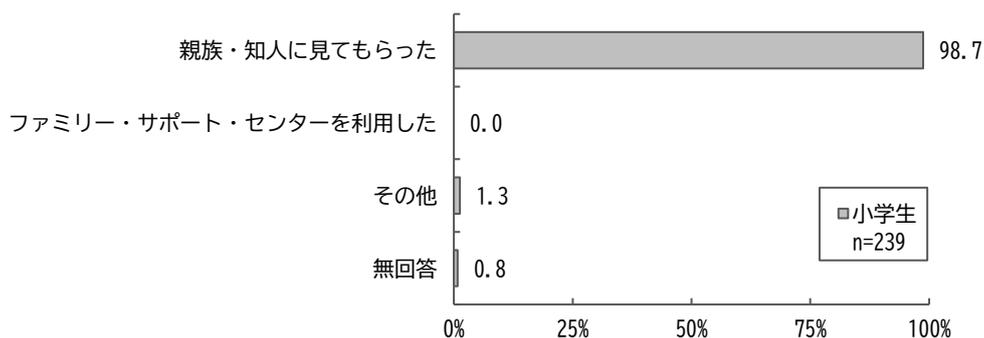
○この1年間に家族以外の誰かに一時的に預けたことの有無についてみると、「あった」は就学前児童では29.3%となっています。

○あったと回答した方の対処方法をみると、「親族・知人に見てもらった」は98.7%となっています。

【問15】 この1年間に家族以外の誰かに一時的に預けたことの有無



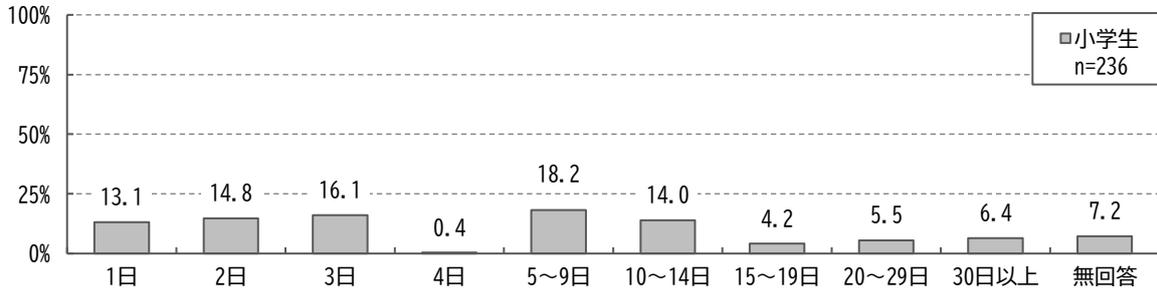
【問15(1)】 1年間の対処方法



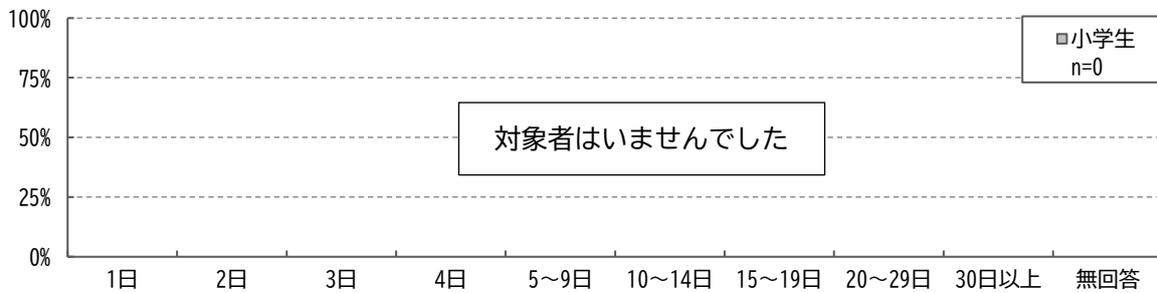


○目的ごとの年間利用希望日数は以下のとおりです。

[問15(1)①] 親族・知人に見てもらった日数(年間)



[問15(1)②] ファミリー・サポート・センターを利用した日数(年間)

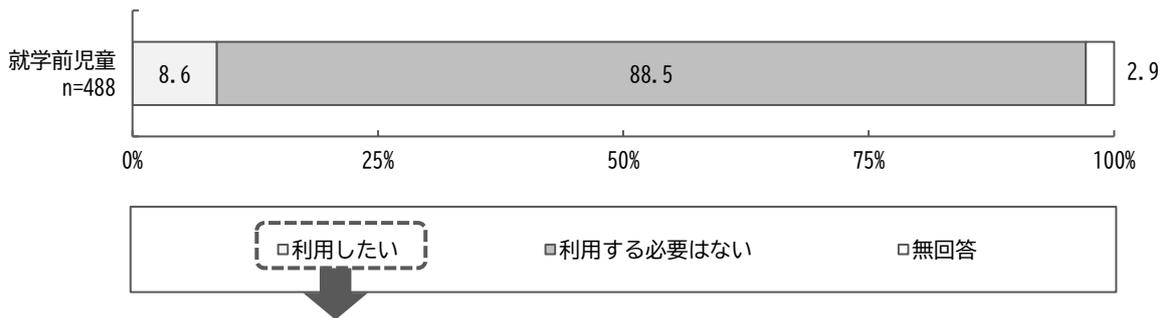




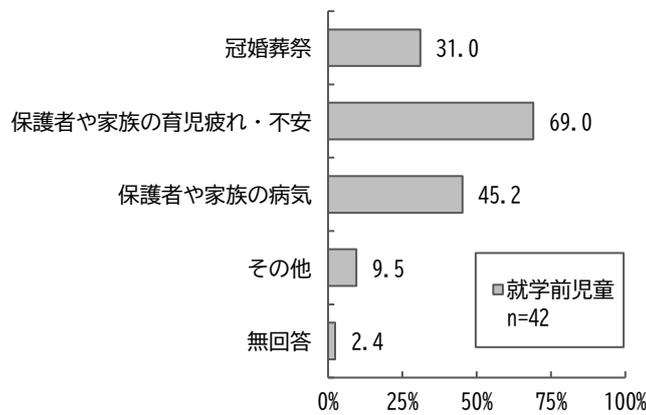
(4) 就学前児童保護者の宿泊を伴う一時保育の利用状況

- 保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預ける事業の利用希望をみると、「利用したい」と回答した方は8.6%となっています。
- 泊りがけで家族以外に預ける事業を利用したい目的についてみると、「保護者や家族の育児疲れ・不安」(69.0%)が最も高くなっています。
- 利用希望年間合計日数をみると、「1泊」(21.4%)が最も高くなっています。

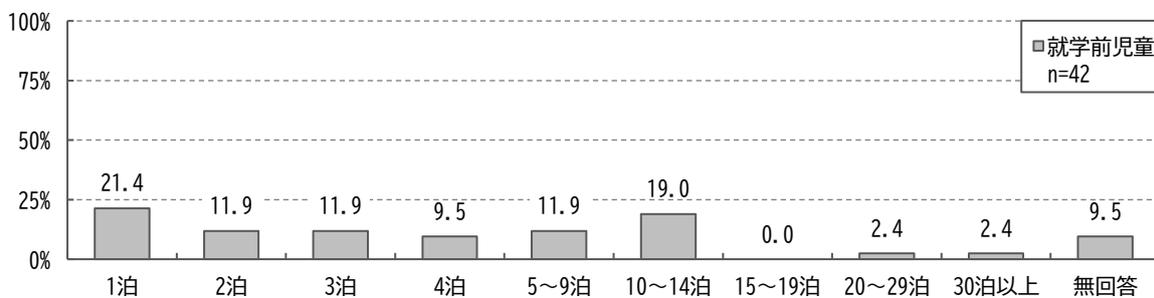
問21 保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預ける事業の利用希望



問21.1 利用したい目的



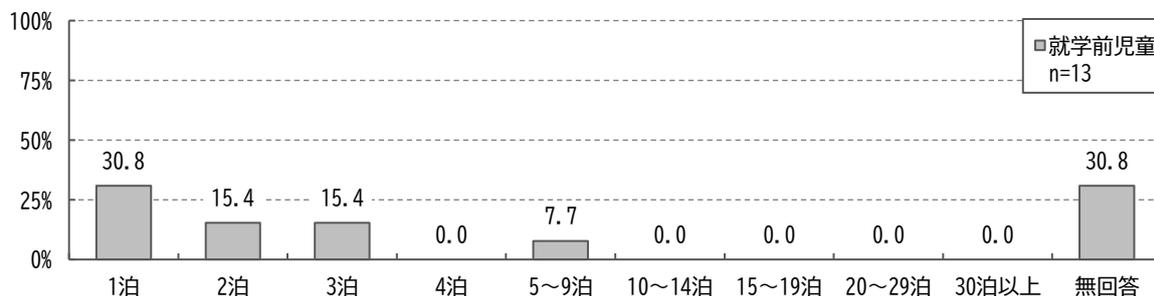
問21.1 利用希望年間合計日数



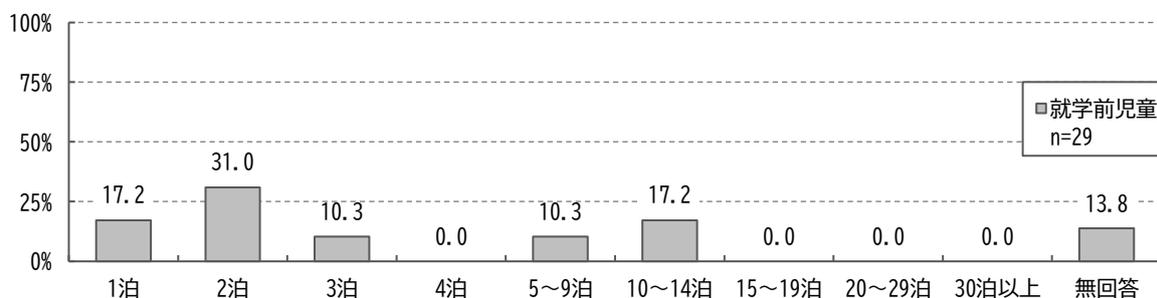


○目的ごとの年間利用希望日数は以下のとおりです。

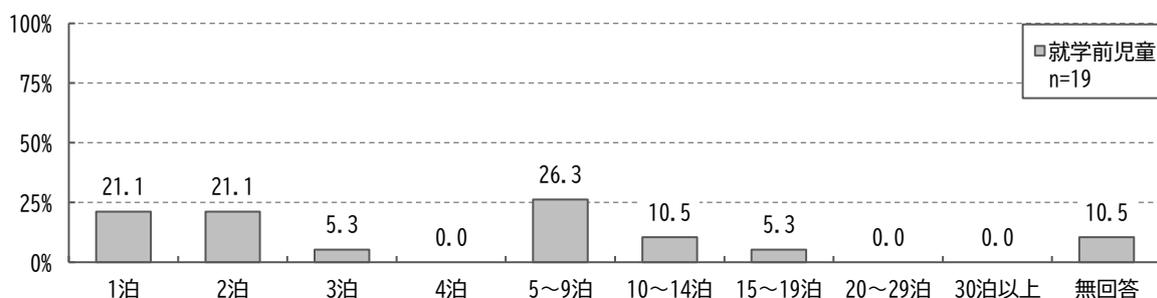
問21.1① 冠婚葬祭



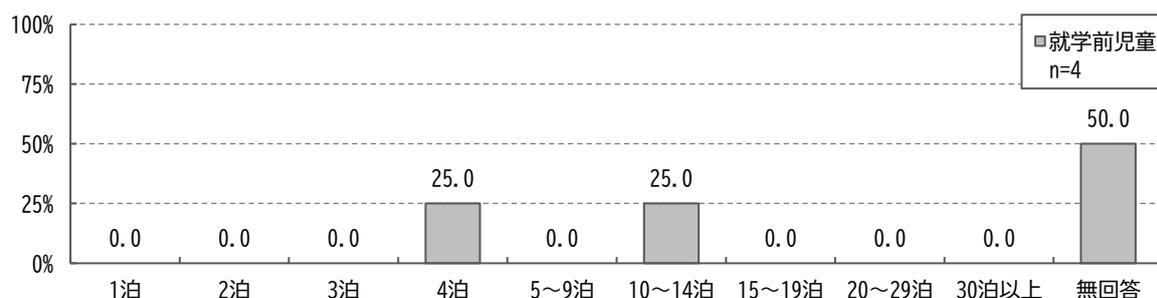
問21.1② 保護者や家族の育児疲れ・不安



問21.1③ 保護者や家族の病気



問21.1④ その他



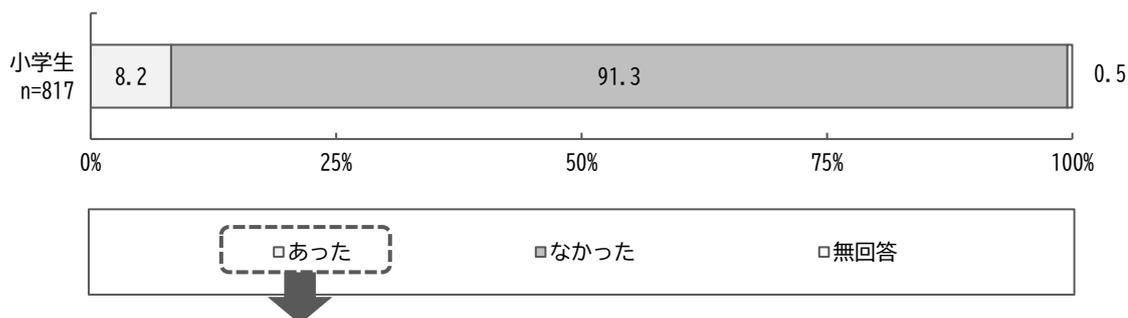


(5) 小学生保護者の宿泊を伴う一時保育の利用状況

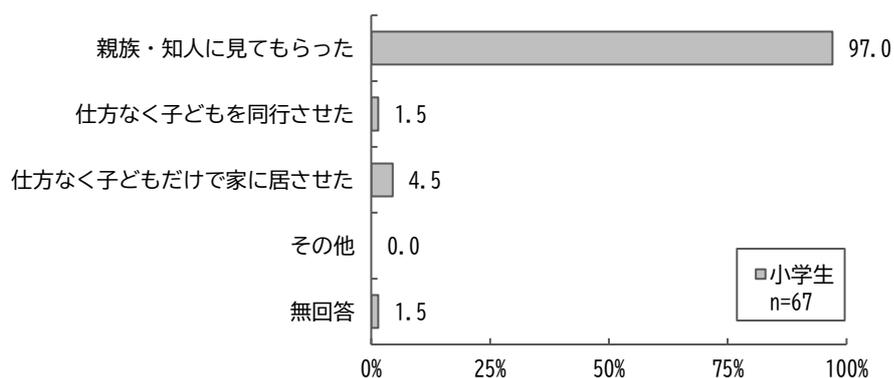
○この1年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に見てもらわなければならないことがあったかについてみると、「あった」は8.2%となっています。

○あったと回答した方の対処方法をみると、「親族・知人に見てもらった」は97.0%となっています。

【問16】 この1年間に家族以外の誰かに、泊りがけで見てもらわなければならないことの有無



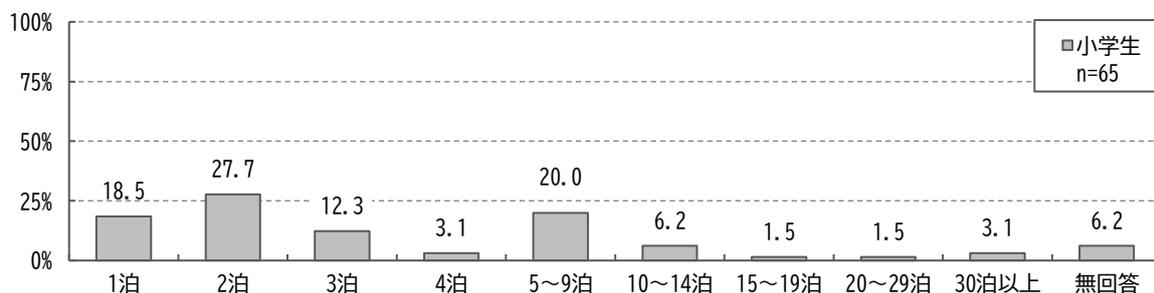
【問16(1)] 1年間の対処方法



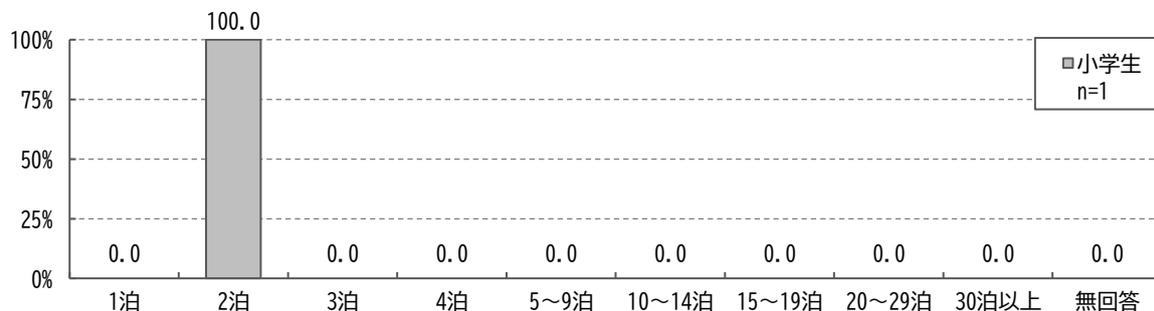


○目的ごとの泊数は以下のとおりです。

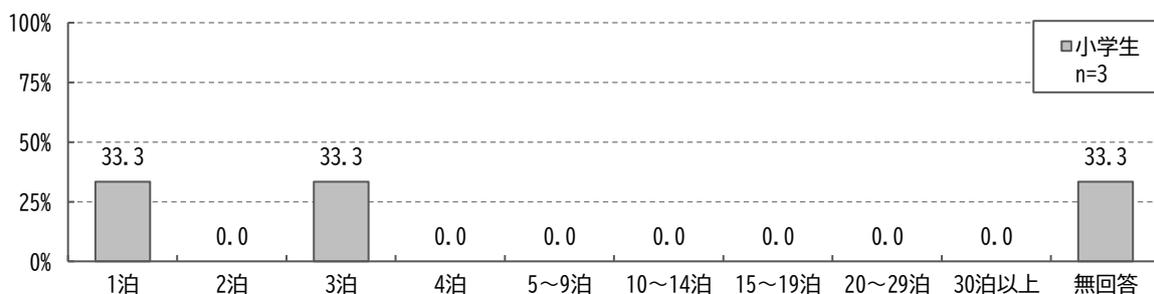
【問16(1)①】 親族・知人に見てもらった泊数(年間)



【問16(1)②】 仕方なく子どもを同行させた泊数(年間)



【問16(1)③】 仕方なく子どもだけで家に居させた泊数(年間)



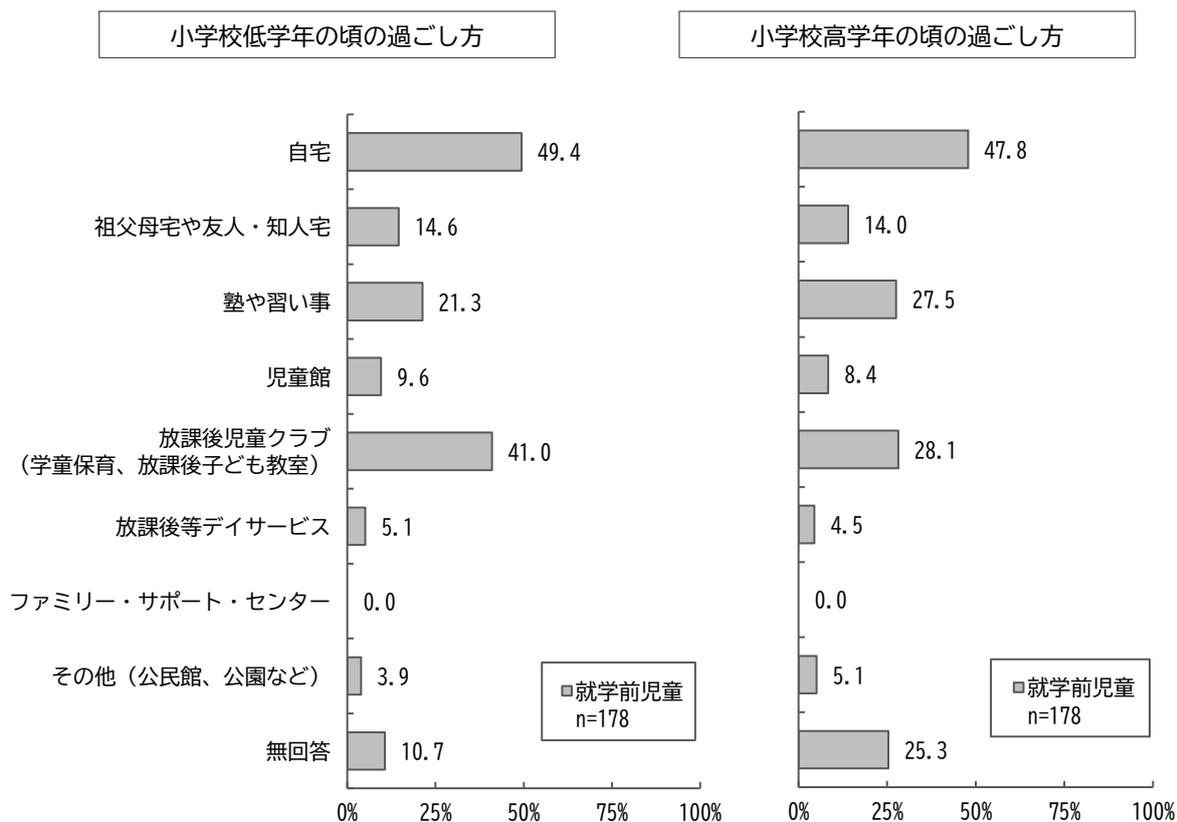


6 放課後の過ごし方について

(1) 就学前児童の平日の放課後の過ごし方について

○就学前児童のお子さんが小学生になった際の放課後の過ごし方の希望をみると、低学年時、高学年時いずれも「自宅」(低学年時：49.4%、高学年時：47.8%)が最も高く、次いで「放課後児童クラブ」(低学年時：41.0%、高学年時：28.1%)、「塾や習い事」(低学年時：21.3%、高学年時：27.5%)となっています。

問22 放課後の過ごし方の希望

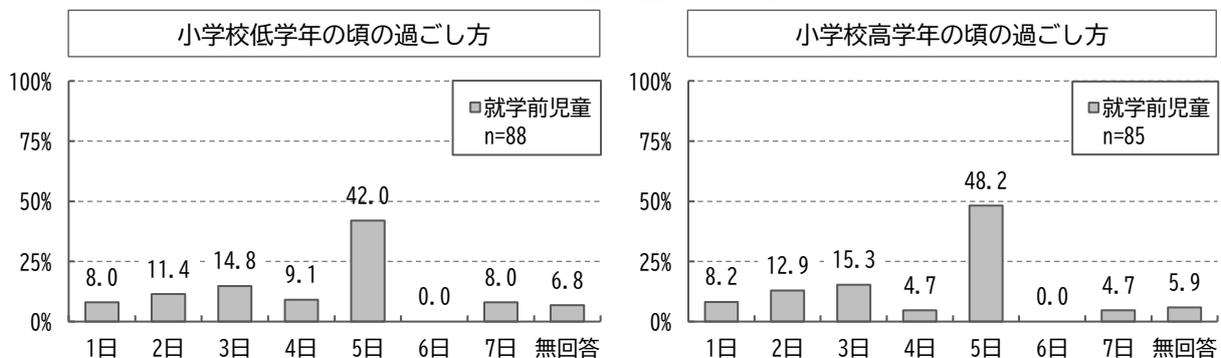


※「小学校低学年」は1～3年生、「小学校高学年」は4～6年生です



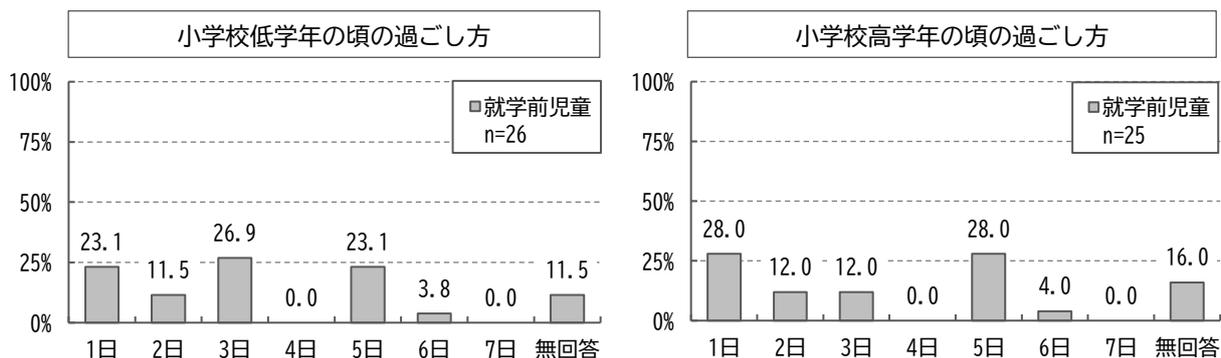
○保護者が放課後を過ごさせたい場所別に1週当たりの希望日数をみると、「自宅」は、低学年時期、高学年時期いずれも「5日」（低学年時期42.0%、高学年時期48.2%）が最も高くなっています。

問22.1 「自宅」希望日数(1週当たり)



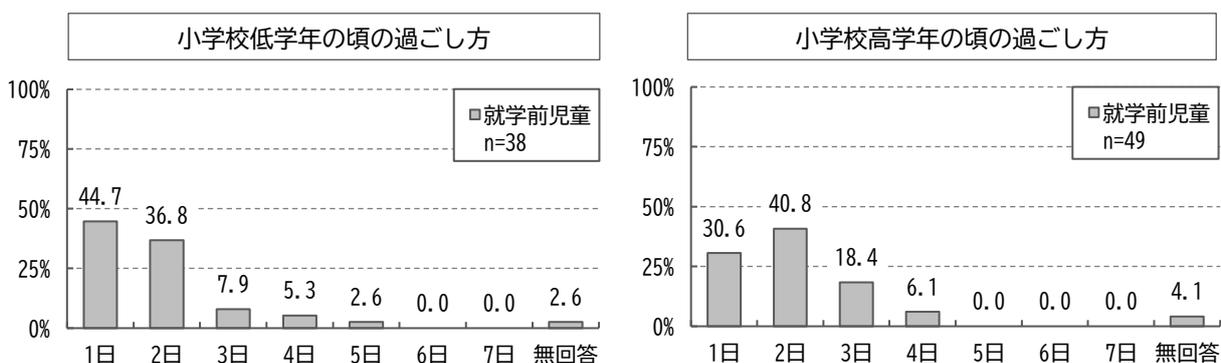
○「祖父母宅や友人、知人宅」は、低学年時期では「3日」（26.9%）、高学年時期では「1日」「5日」（各28.0%）が最も高くなっています。

問22.2 「祖父母宅や友人・知人宅」希望日数(1週当たり)



○「塾や習い事」は、低学年時期では「1日」（44.7%）、高学年時期では「2日」（40.8%）が最も高くなっています。

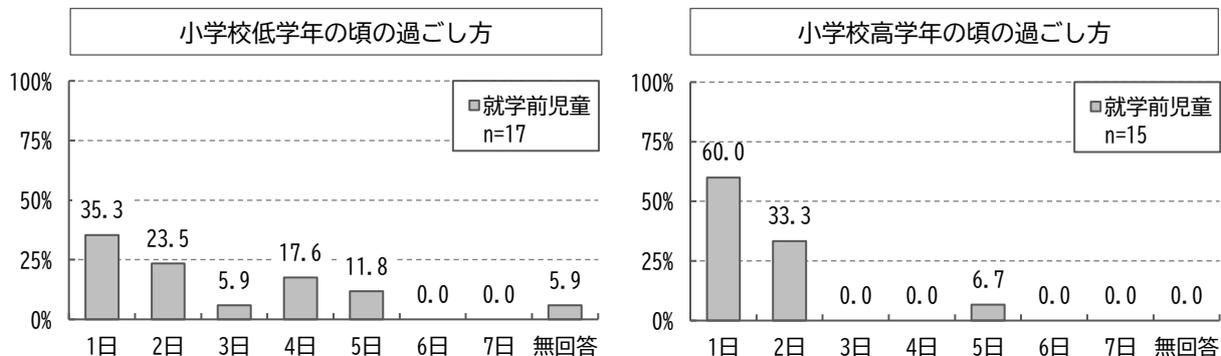
問22.3 「塾や習い事」希望日数(1週当たり)





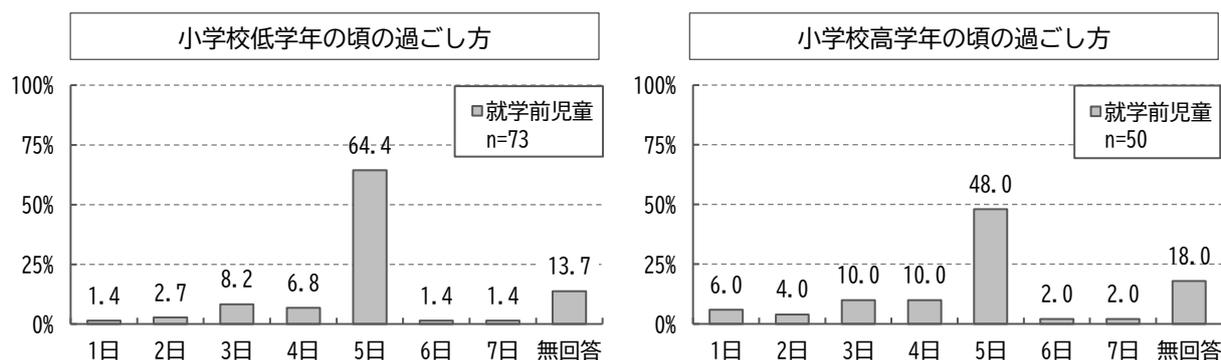
○「児童館」は、低学年時期、高学年時期いずれも「1日」（低学年時期35.3%、高学年時期60.0%）が最も高くなっています。

問22.4 「児童館」希望日数(1週当たり)



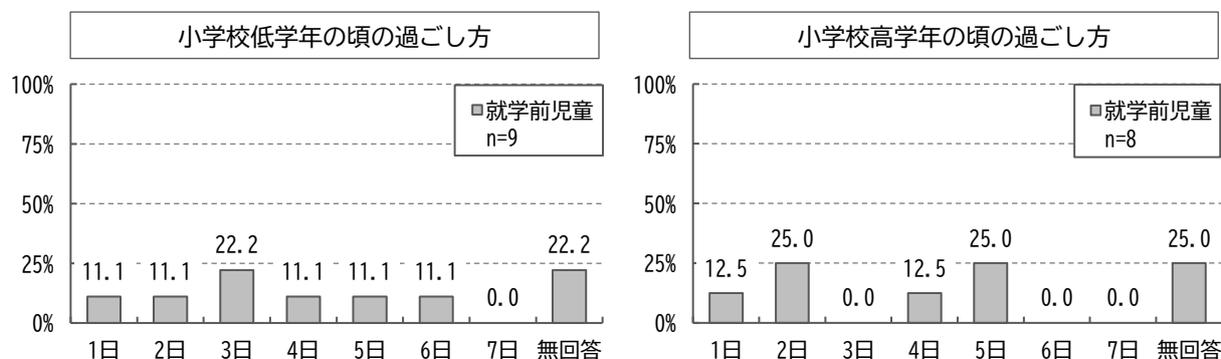
○「放課後児童クラブ（学童保育、放課後子ども教室）」は、低学年時期、高学年時期いずれも「5日」（低学年時期64.4%、高学年時期48.0%）が最も高くなっています。

問22.5 「放課後児童クラブ(学童保育、放課後子ども教室)」希望日数(1週当たり)



○「放課後等デイサービス」は、以下のとおりです。

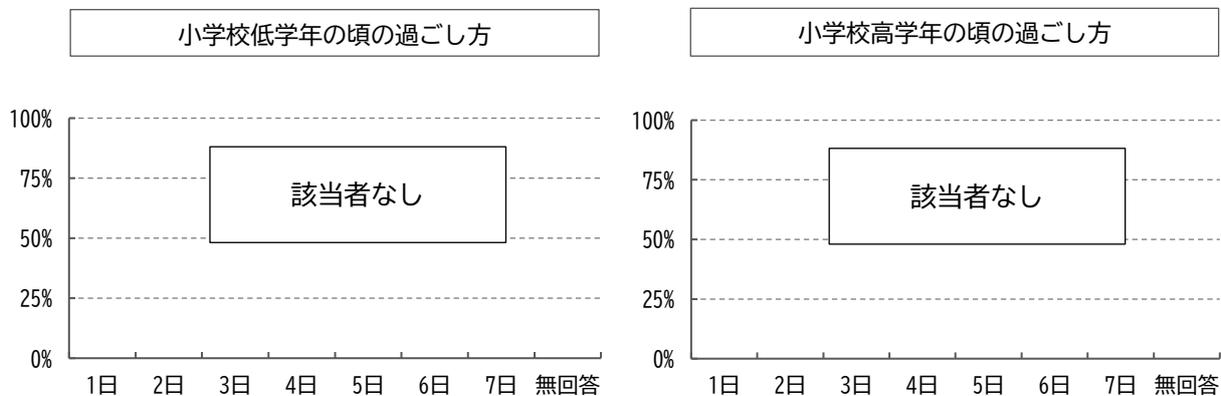
問22.6 「放課後等デイサービス」希望日数(1週当たり)





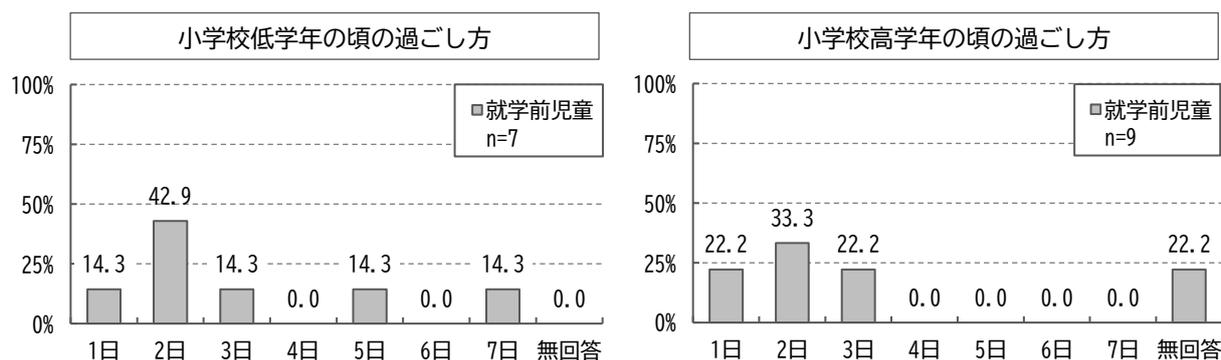
○「ファミリー・サポート・センター」は、希望者が低学年時期、高学年時期いずれもいません。

問22.7 「ファミリー・サポート・センター」希望日数(1週当たり)



○「その他（公民館、公園など）」は、以下のとおりです。

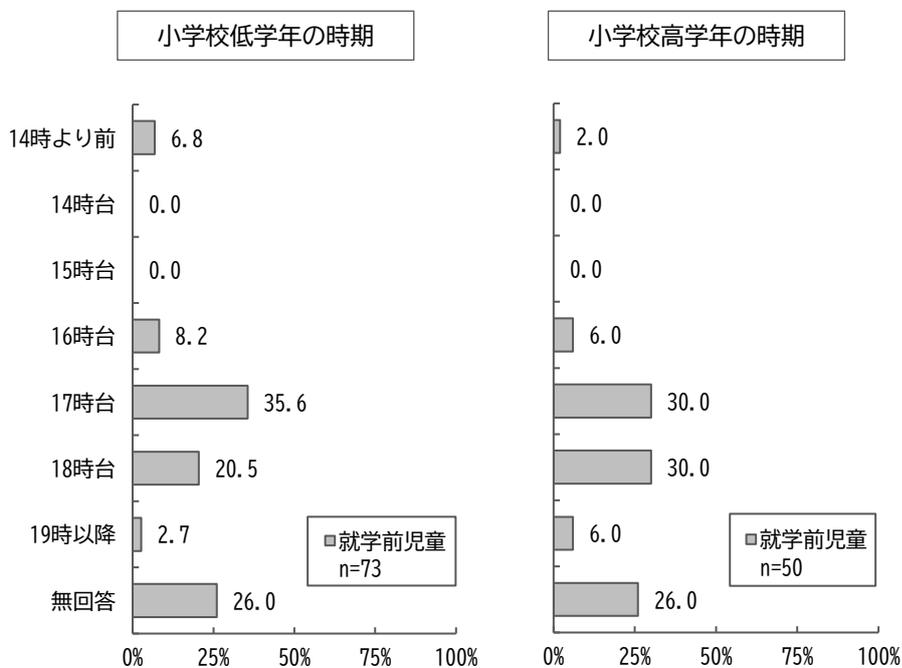
問22.8 「その他(公民館、公園など)」希望日数(1週当たり)





○放課後児童クラブの下校時からの利用希望時間帯をみると、低学年時期では「17時台」(35.6%)が最も高くなっています。高学年時期では「17時台」「18時台」(各30.0%)が最も高くなっています。

問22.5 「放課後児童クラブ」下校時からの利用希望時間

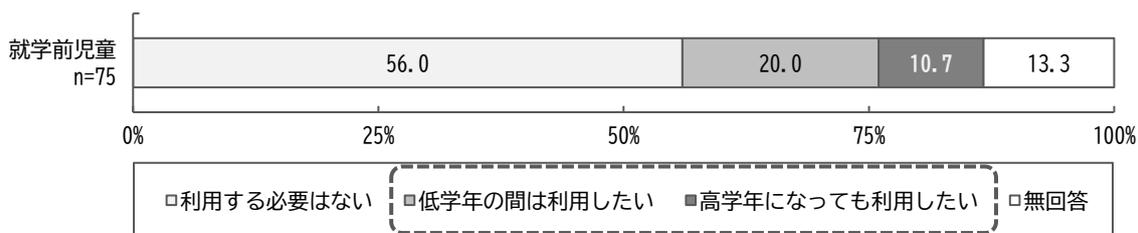




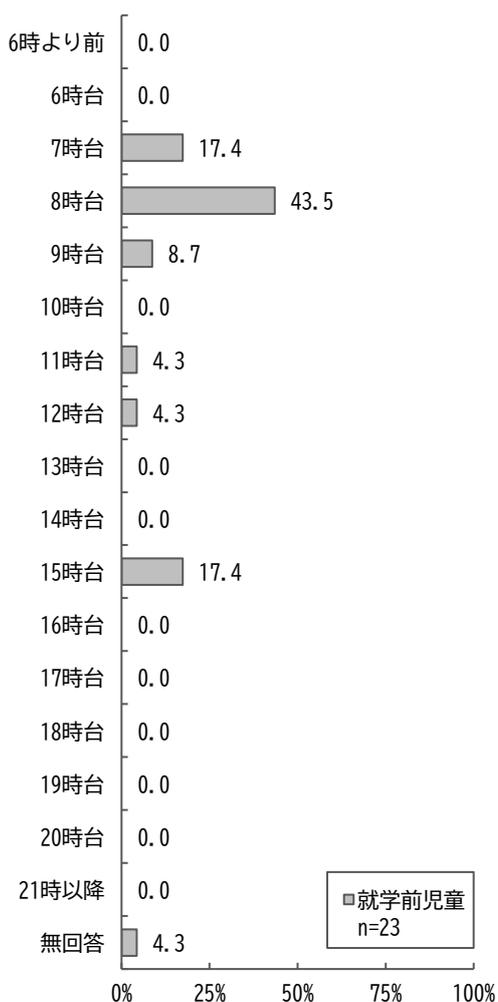
(2) 就学前児童の休日（長期休暇期間中を含む）の放課後児童クラブの利用希望

- 放課後児童クラブの土曜日の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」「高学年になっても利用したい」と回答した方は合わせて30.7%となっています。
- 希望開始時間をみると、「8時台」（43.5%）が最も高くなっています。
- 希望終了時間をみると、「18時台」（47.8%）が最も高くなっています。

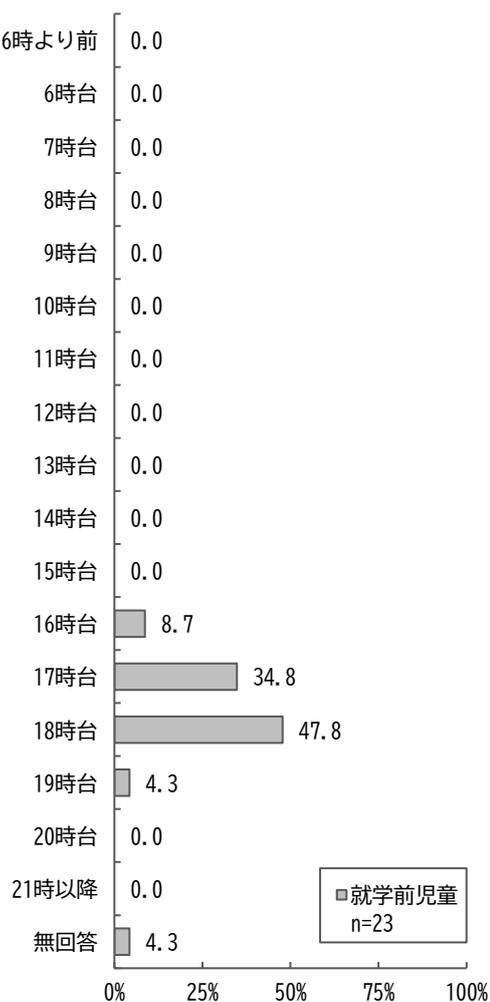
問23(1) 放課後児童クラブの土曜日の利用希望



問23(1) 希望開始時間



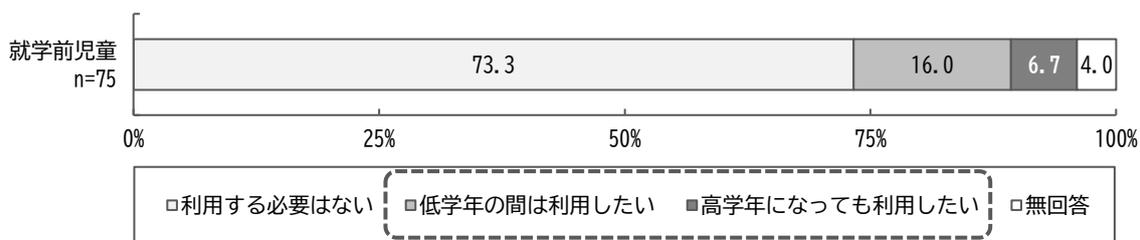
問23(1) 希望終了時間





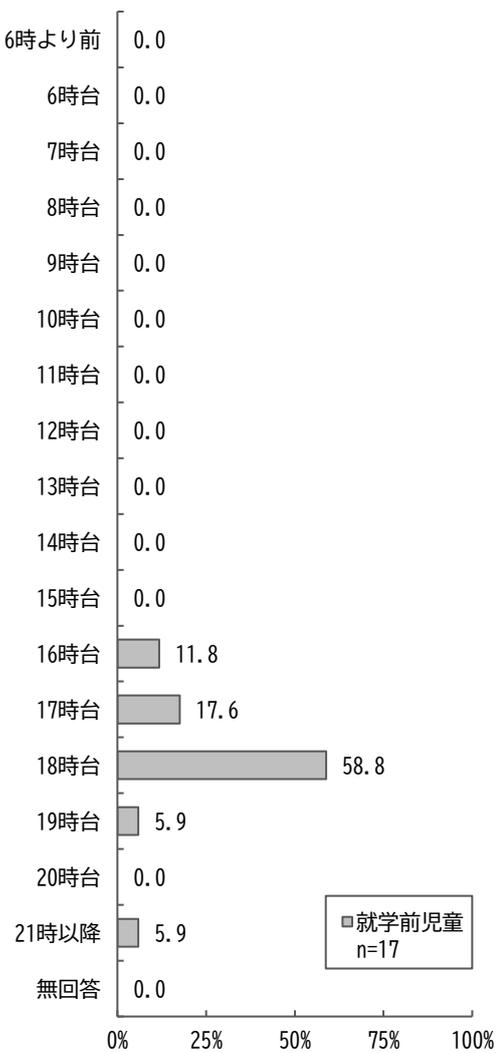
- 放課後児童クラブの日曜日、祝日の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」「高学年になっても利用したい」と回答した方は合わせて22.7%となっています。
- 希望開始時間をみると、「8時台」(58.8%)が最も高なっています。
- 希望終了時間をみると、「18時台」(58.8%)が最も高くなっています。

問23(2) 放課後児童クラブの日曜日、祝日の利用希望



問23(2) 希望開始時間

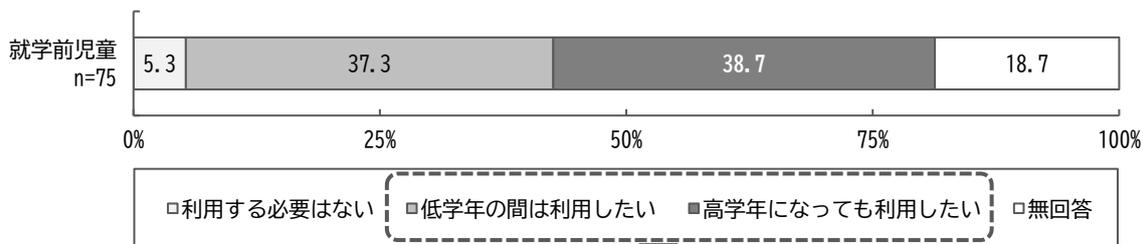
問23(2) 希望終了時間





- 放課後児童クラブの長期休暇期間中の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」、「高学年になっても利用したい」と回答した方は合わせて76.0%となっています。
- 希望開始時間をみると、「8時台」(54.4%)が最も高くなっています。
- 希望終了時間をみると、「17時台」(42.1%)が最も高くなっています。

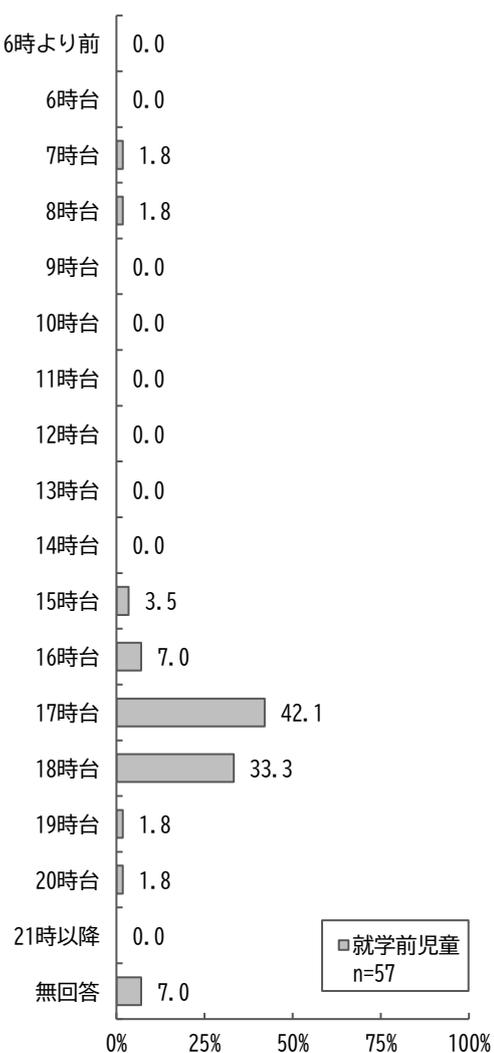
問23(3) 放課後児童クラブの長期休暇期間中の利用希望



問23(3) 希望開始時間



問23(3) 希望終了時間



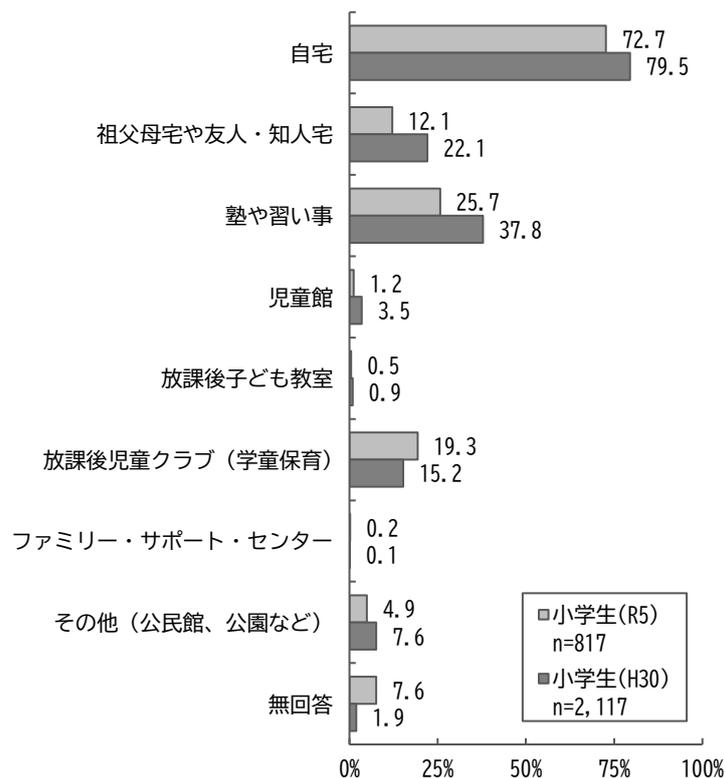


(3) 小学生の放課後児童クラブ（学童保育）の利用状況、利用希望

○小学生が放課後に過ごしている場所をみると、「自宅」（72.7%）が最も高く、次いで「塾や習い事」（25.7%）、「放課後児童クラブ（学童保育）」（19.3%）、「祖父母宅や友人・知人宅」（12.1%）となっています。

○前回調査と比較すると、「放課後児童クラブ（学童保育）」が4.1ポイント増加しています。

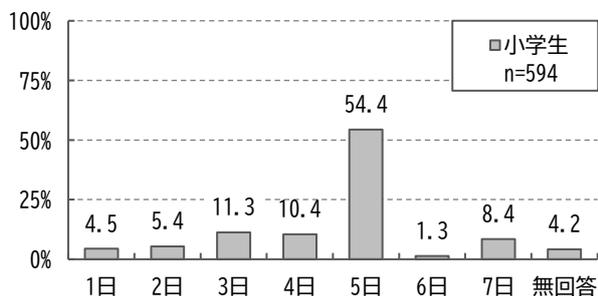
〔問11〕 放課後の過ごし方（経年比較）



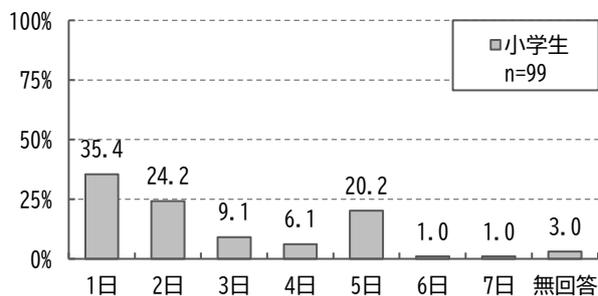


○事業別の週当たりの日数は以下のとおりです。

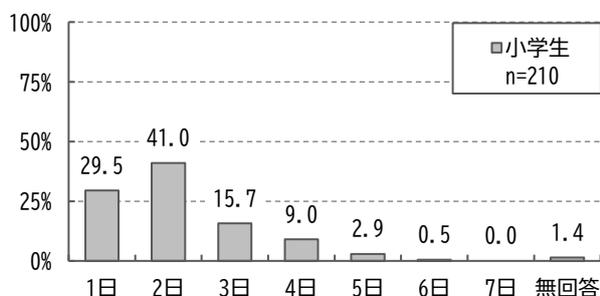
[問11.1] 「自宅」日数



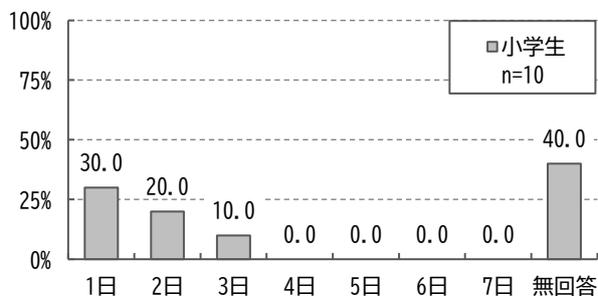
[問11.2] 「祖父母宅や友人・知人宅」日数



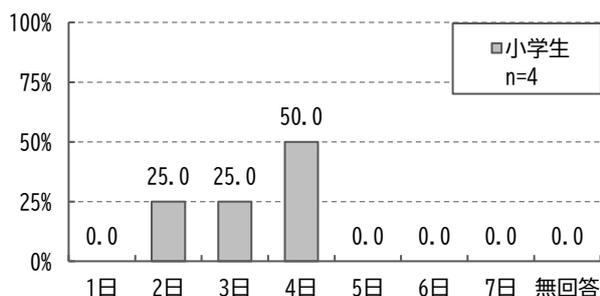
[問11.3] 「塾や習い事」日数



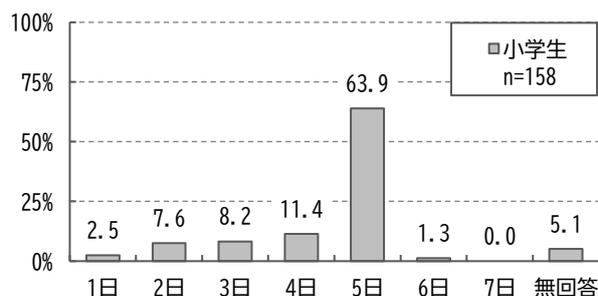
[問11.4] 「児童館」日数



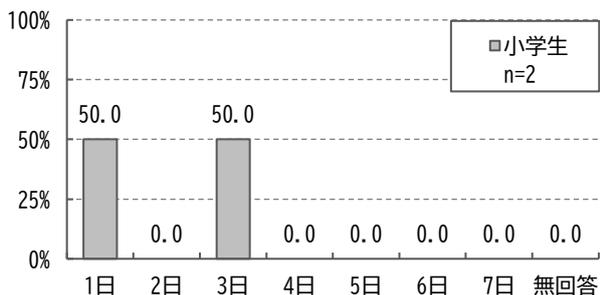
[問11.5] 「放課後子ども教室」日数



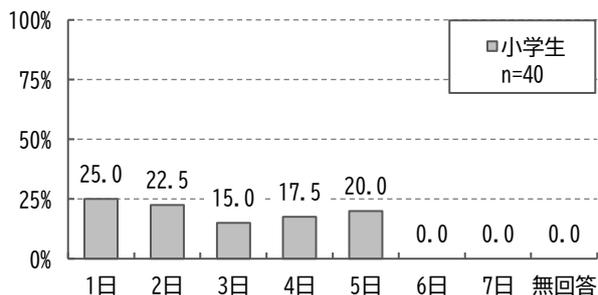
[問11.6] 「放課後児童クラブ」日数



[問11.7] 「ファミリー・サポート・センター」日数



[問11.8] 「その他」日数



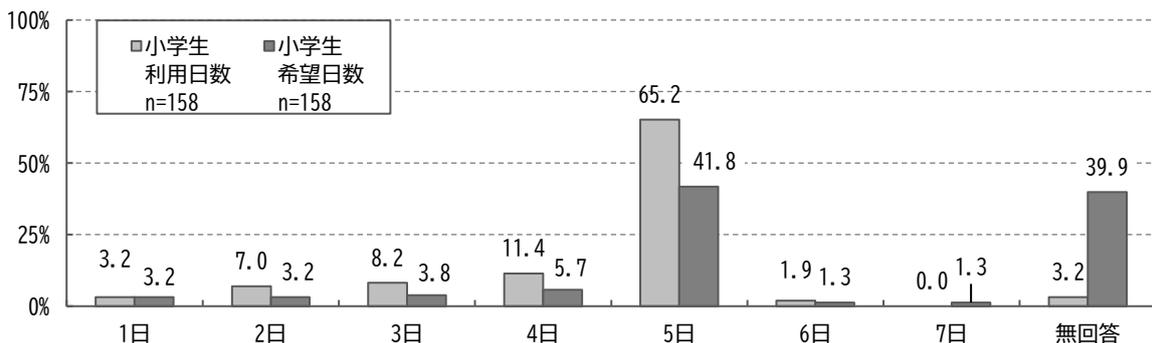


○放課後児童クラブを利用している方の1週当たりの利用日数と希望日数をみると、利用日数、希望日数いずれも「5日」（利用日数65.2%、希望日数41.8%）が最も高くなっています。

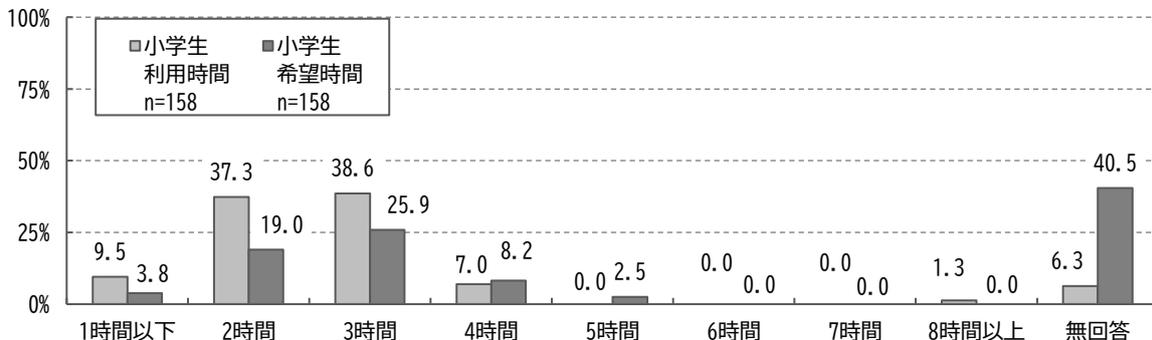
○放課後児童クラブの1日当たりの利用時間と希望時間をみると、利用時間、希望時間いずれも「3時間」（利用時間38.6%、希望時間25.9%）が最も高くなっています。

○放課後児童クラブの利用終了時間と希望終了時間をみると、利用終了時間では「17時台」（39.2%）、希望終了時間では「18時台」（25.3%）が最も高くなっています。

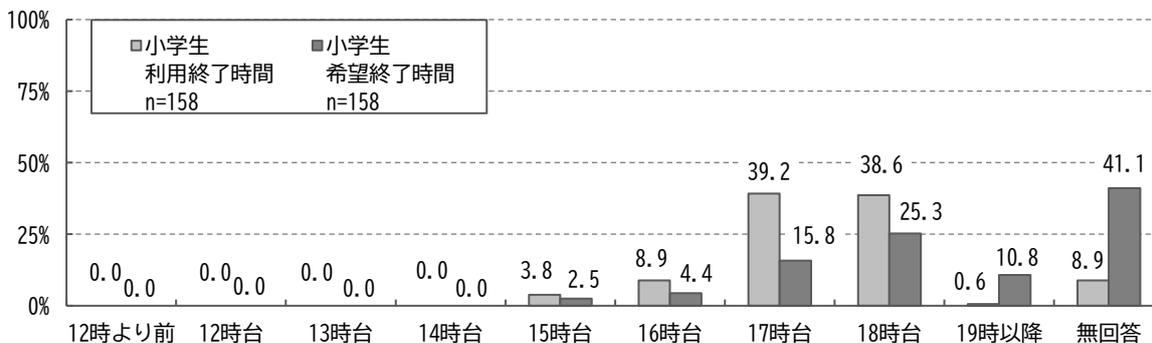
[問12(1)(2)] 放課後児童クラブの利用日数と希望日数(1週当たり)



[問12(1)(2)] 放課後児童クラブの利用時間と希望時間(1日当たり)



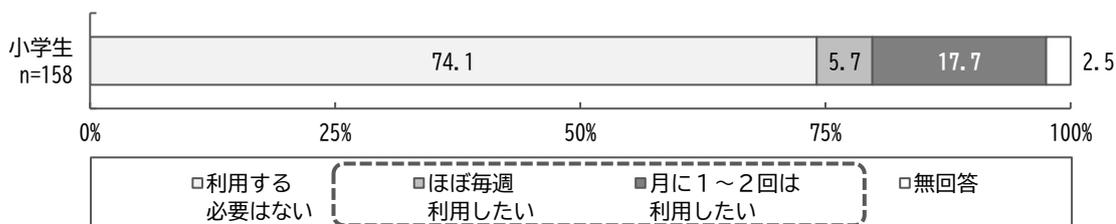
[問12(1)(2)] 放課後児童クラブの利用終了時間 希望終了時間



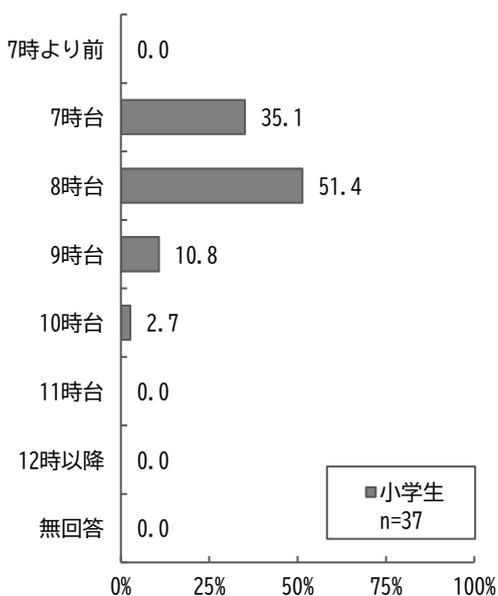


- 土曜日の放課後児童クラブの利用希望をみると、「ほぼ毎週利用したい」(5.7%)、「月に1～2回は利用したい」(17.7%)となっています。
- 利用希望者の利用したい時間帯をみると、開始時間で「8時台」(51.4%)、終了時間で「18時台」(43.2%)が最も高くなっています。

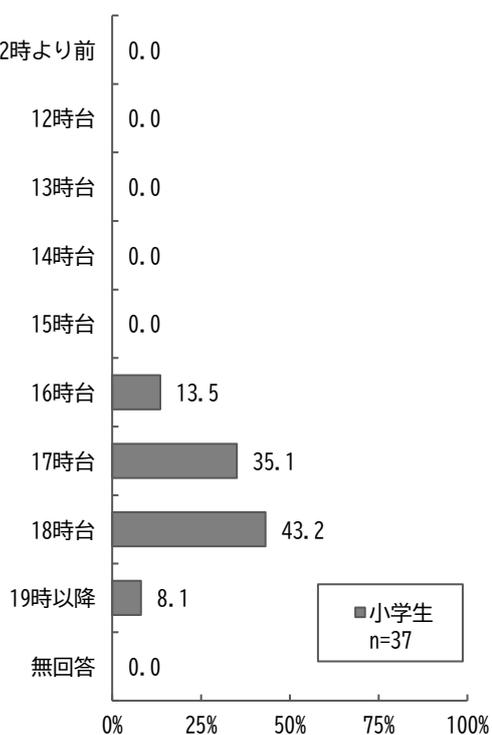
[問12-1(1)] 土曜日の利用希望



[問12-1(1)] 希望開始時間



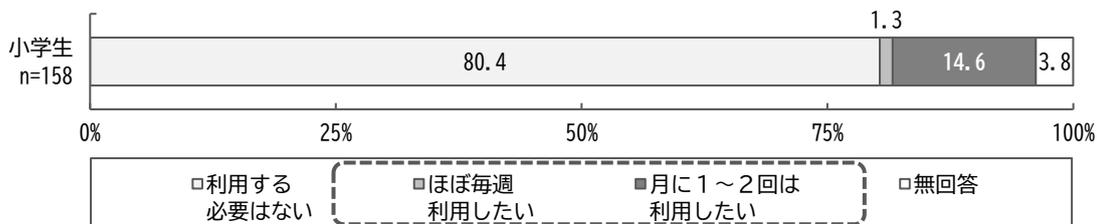
[問12-1(1)] 希望終了時間



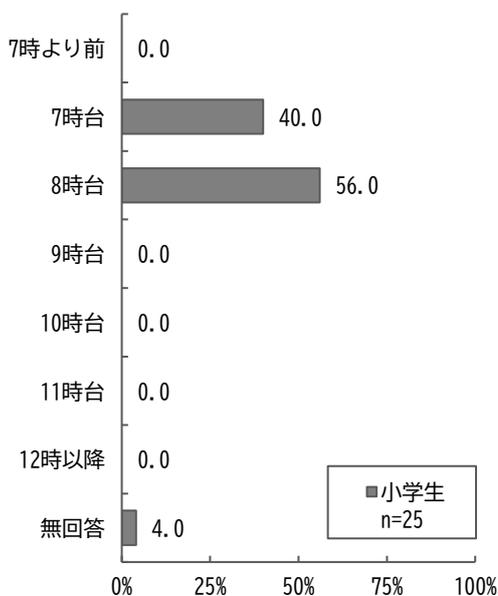


- 日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望をみると、「ほぼ毎週利用したい」(1.3%)、「月に1～2回は利用したい」(14.6%)となっています。
- 利用希望者の利用したい時間帯をみると、開始時間で「8時台」(56.0%)、終了時間で「18時台」(48.0%)が最も高くなっています。

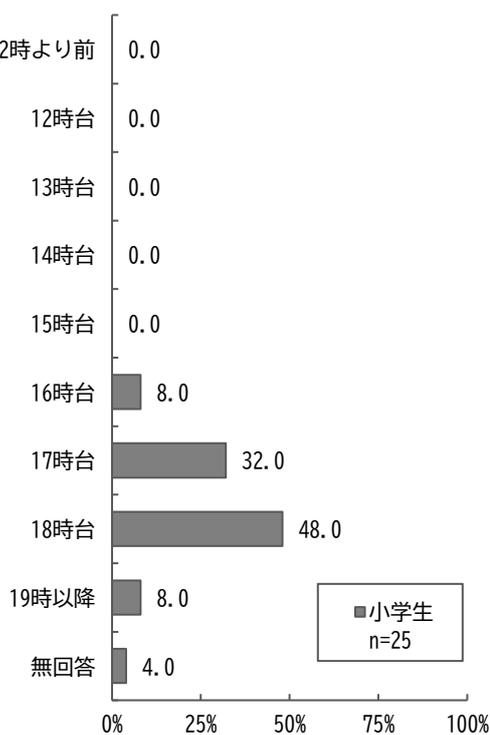
[問12-1(2)] 日曜日・祝日の利用希望



[問12-1(2)] 希望開始時間



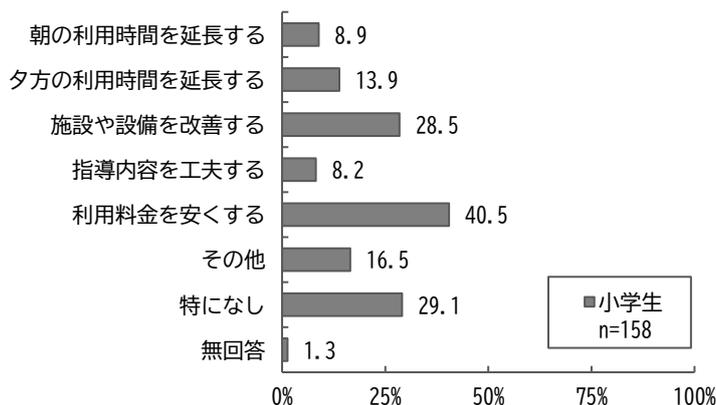
[問12-1(2)] 希望終了時間



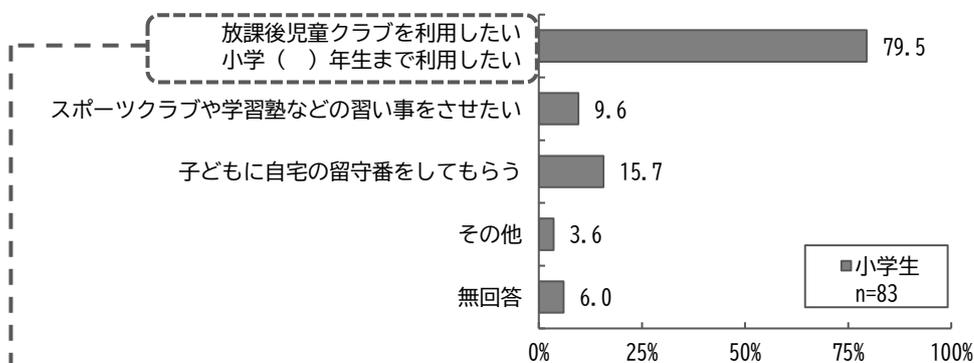


- 放課後児童クラブを利用している方に、放課後児童クラブに希望することを聞いてみると、「利用料金を安くする」(40.5%)が最も高くなっています。
- 現在小学1～3年生の方に、小学4年生以降の放課後の過ごし方について望むことについてみると、「放課後児童クラブを利用したい」(79.5%)が最も高く、次いで「子どもに自宅の留守番をしてもらう」(15.7%)となっています。
- 放課後児童クラブを何年生まで利用したいかについてみると、「6年生」が6割を超えています。

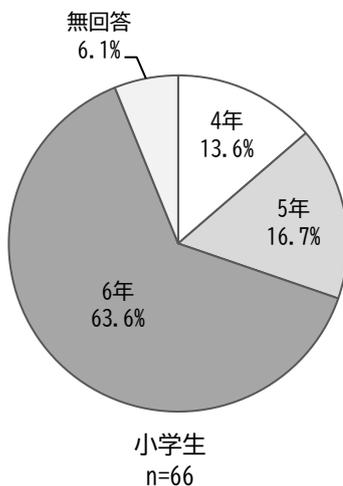
[問12-2] 放課後児童クラブに希望すること



[問12-3] 小学4年生以降の放課後の過ごし方について望むこと



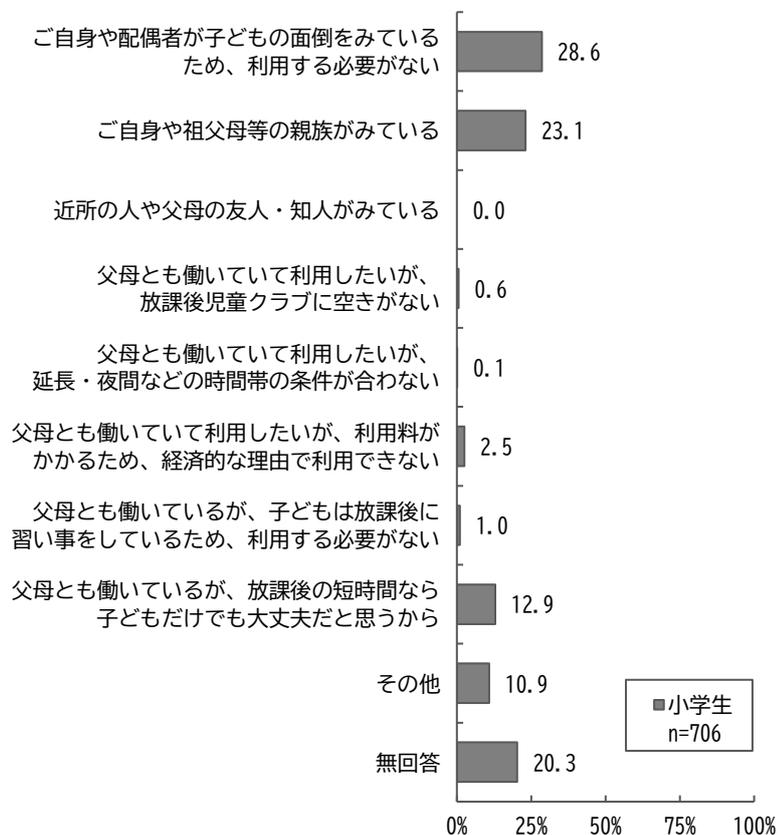
[問12-3.1] 放課後児童クラブを何年生まで利用したいか





○放課後児童クラブを利用していない方に理由ついて聞いてみると、「ご自身や配偶者が子どもの面倒をみているため、利用する必要がない」が28.6%となっています。

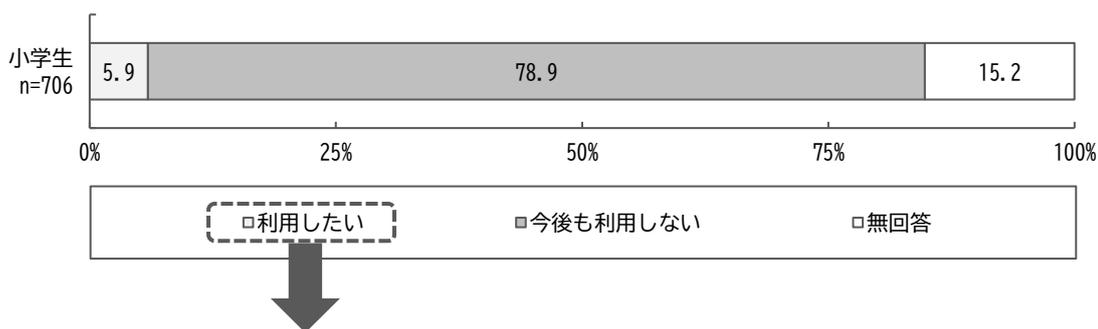
〔問13〕 放課後児童クラブを利用していない理由



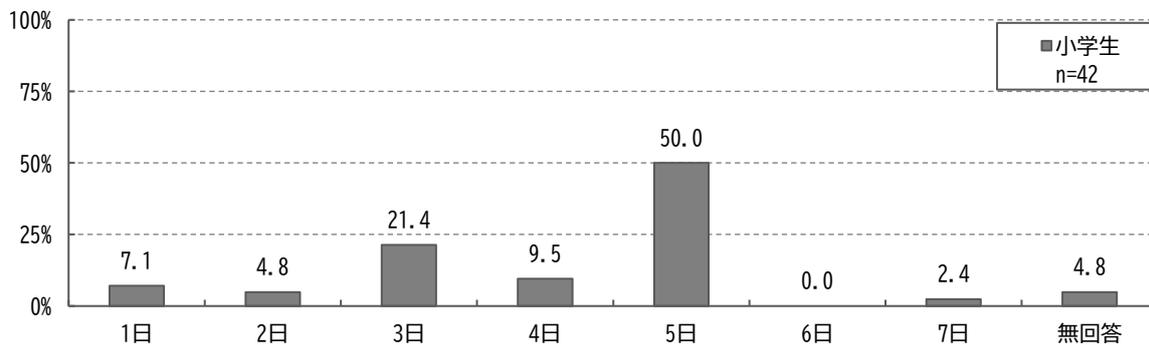


- 放課後児童クラブを利用していない方に、今後父母とも働く予定があるなどの理由で、放課後児童クラブを利用したいかについてみると、「今後も利用しない」が78.9%となっています。
- 放課後児童クラブの1週当たりの利用希望日数をみると、「5日」(50.0%)が最も高くなっています。
- 放課後児童クラブの1日当たりの利用希望時間をみると、「2時間」(38.1%)が最も高く、次いで「3時間」(31.0%)となっています。

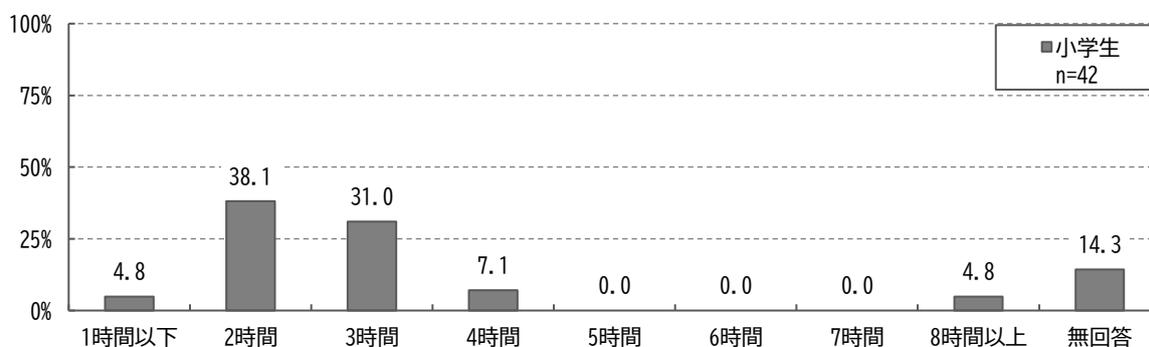
【問13-1】 今後、父母とも働く予定があるなどの理由で、放課後児童クラブを利用したいか



【問13-1.1】 放課後児童クラブの利用日数(1週当たり)



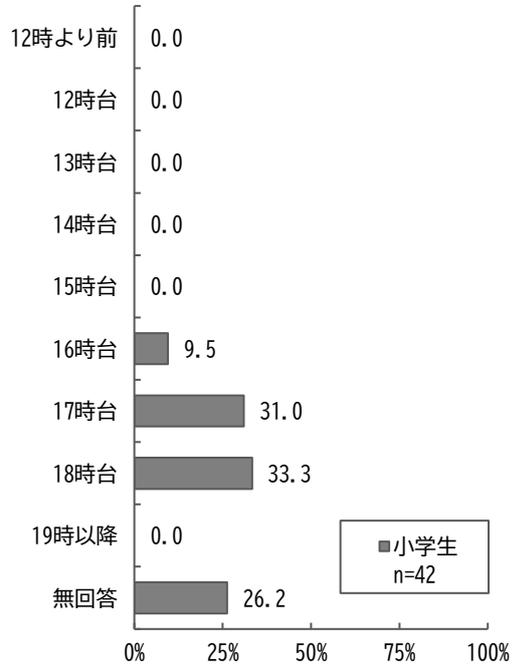
【問13-1.1】 放課後児童クラブの利用時間(1日当たり)





○利用希望者の利用したい時間帯をみると、終了時間は「18時台」(33.3%)が最も高くなっています。

[問13-1.1] 終了時間



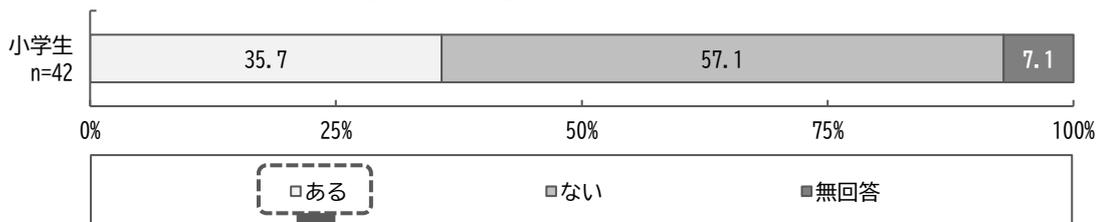


○放課後児童クラブの土曜日の利用意向をみると、「ある」が35.7%、「ない」が57.1%となっています。

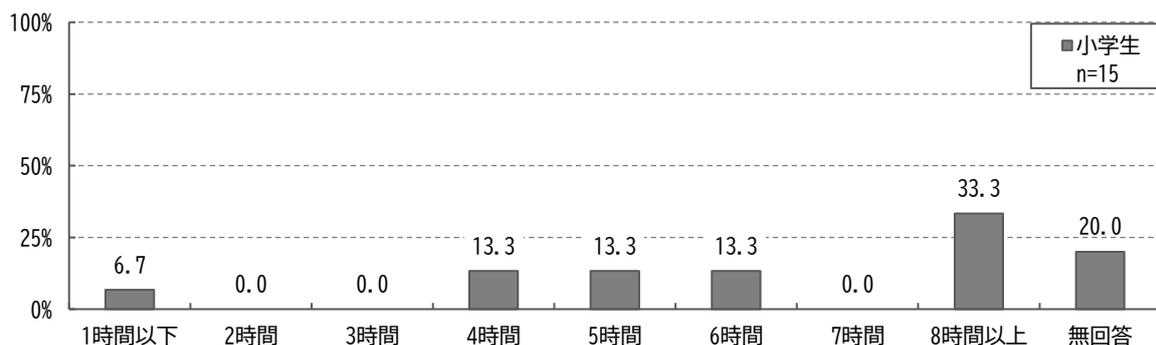
○利用希望者の利用したい時間帯をみると、「8時間以上」(33.3%)が最も高くなっています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、終了時間は「18時台」(40.0%)が最も高くなっています。

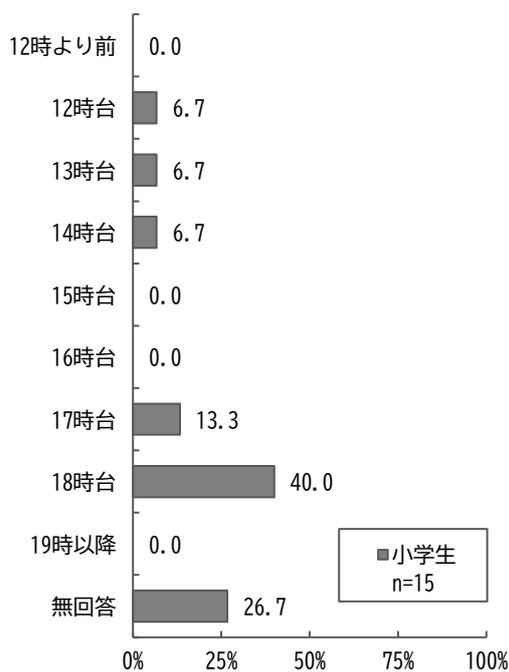
[問13-1-1] 土曜日の利用希望



[問13-1-1①] 放課後児童クラブの土曜日の利用時間(1日当たり)



[問13-1-1①] 終了時間

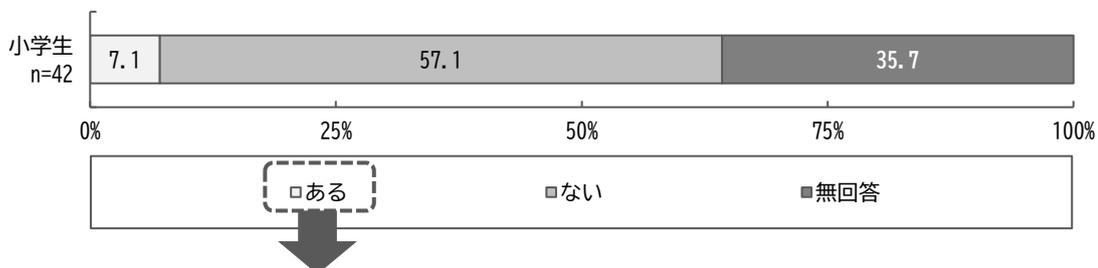




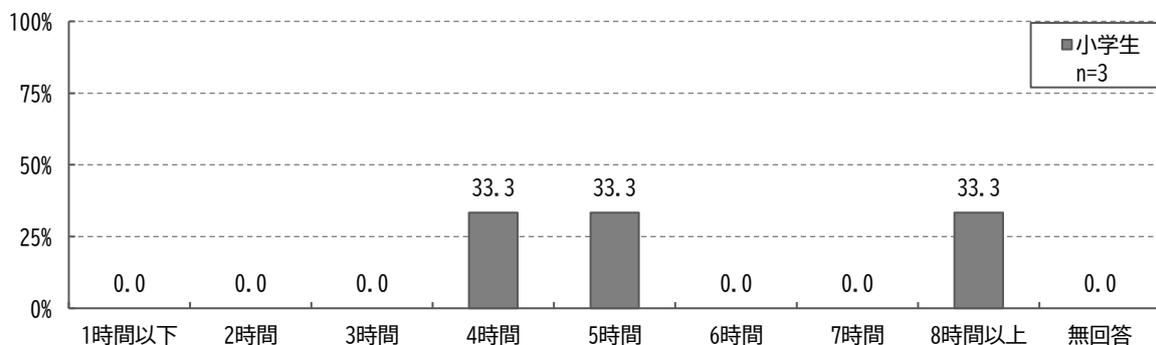
○放課後児童クラブの日曜日、祝日の利用意向をみると「ある」が7.1%、「ない」が57.1%となっています。

○利用希望者の利用したい時間帯は以下のとおりです。

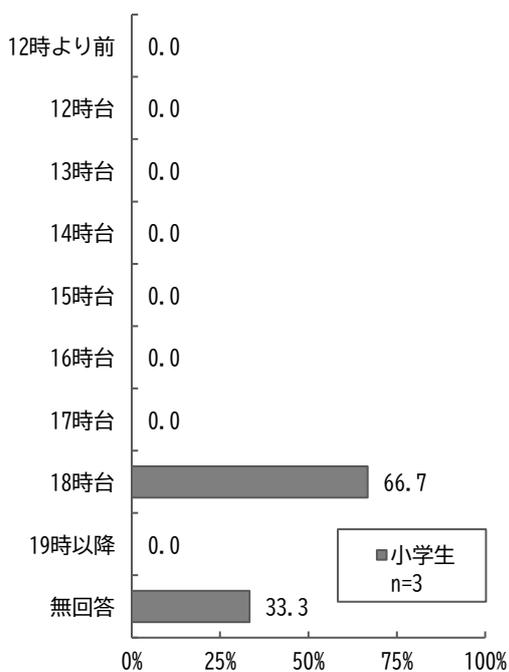
[問13-1-1] 日曜日、祝日の利用希望



[問13-1-1③] 放課後児童クラブの土曜日の利用時間(1日当たり)



[問13-1-1③] 終了時間



第4章 育児休業制度の利用状況



第4章 育児休業制度の利用状況

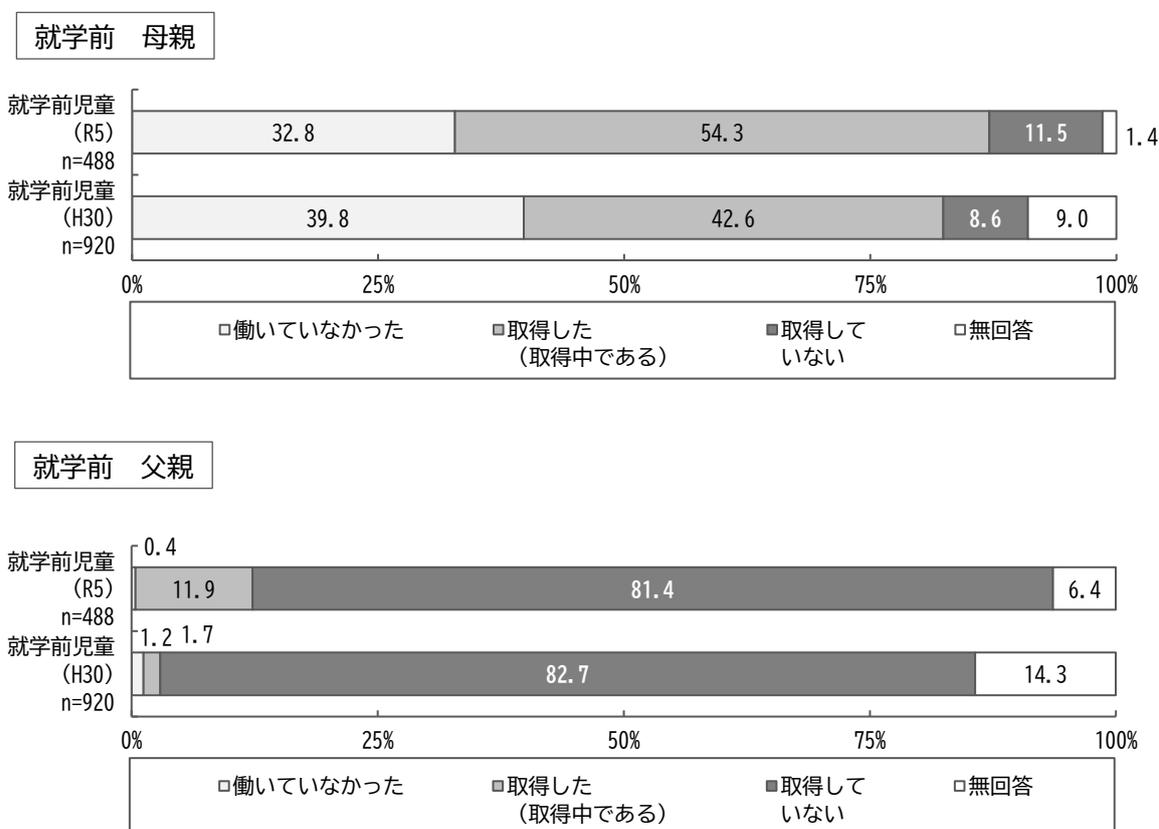
1 育児と仕事の両立支援制度について

(1) 就学前児童の育児休業制度の利用状況

○育児休業制度の利用状況を見ると、「取得した（取得中である）」母親では54.3%、父親では11.9%となっています。

○前回調査と比較すると、「取得した（取得中である）」母親は11.7ポイント、父親は10.2ポイント高くなっています。

問24 育児休業制度の利用状況（経年比較）

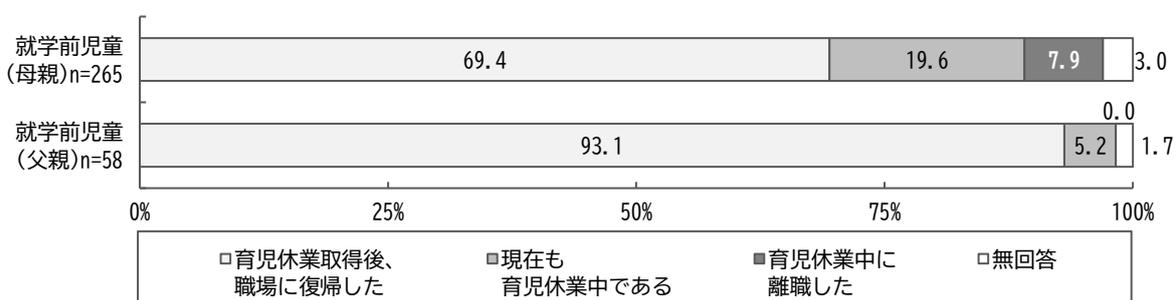




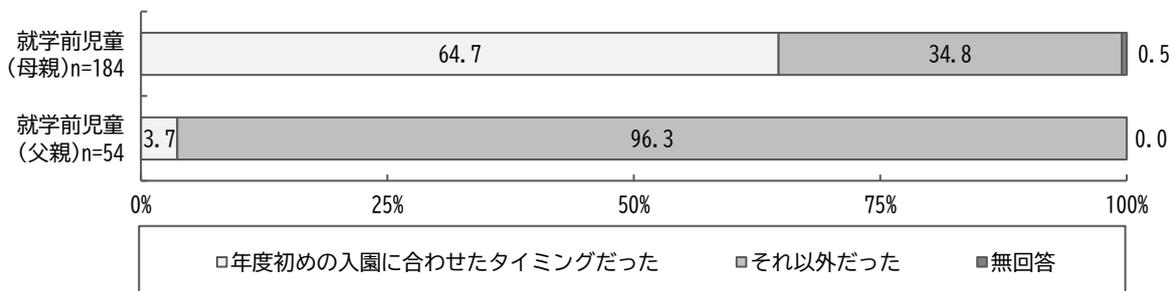
(2) 職場復帰の状況

- 育児休業取得後の対処をみると、母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」(69.4%)が最も高く、次いで「現在も育児休業中である」(19.6%)、「育児休業中に離職した」(7.9%)となっています。父親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」(93.1%)、「現在も育児休業中である」(5.2%)となっています。
- 育児休業取得後に職場へ復帰した時期をみると、母親では「年度初めの入園に合わせたタイミングだった」(64.7%)、父親では、「それ以外だった」(96.3%)が高くなっています。

問25 育児休業取得後の職場への対処



問25-1 育児休業後に職場へ復帰した時期

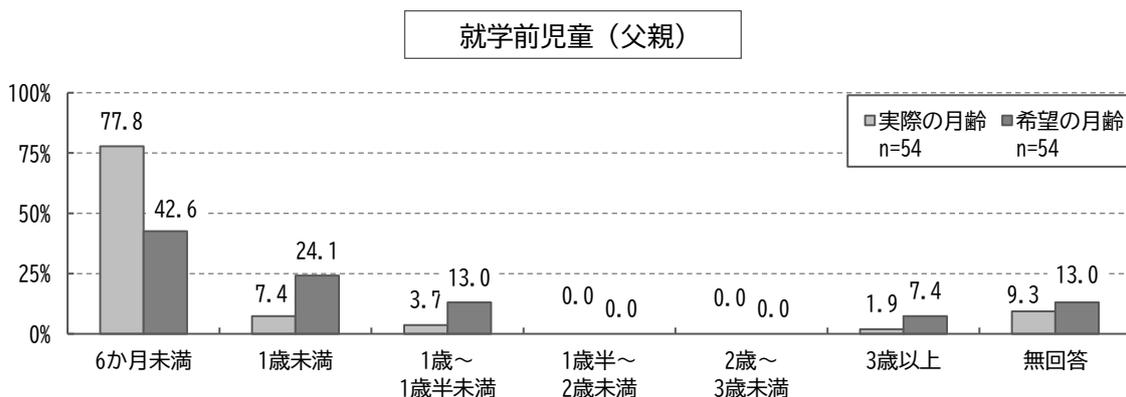
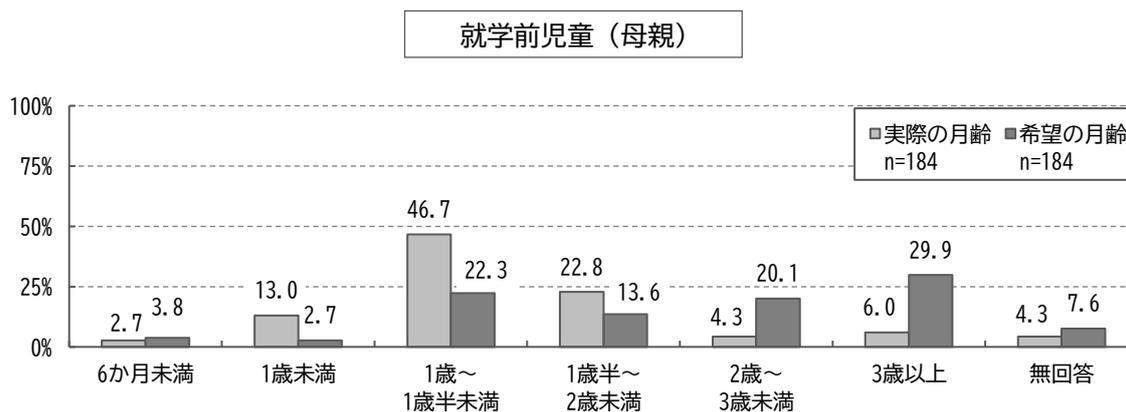




○母親が育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望の月齢をみると、実際の取得期間では「1歳～1歳半未満」(46.7%)、希望取得期間では「3歳以上」(29.9%)が最も高くなっています。

○父親では、実際の月齢、希望の月齢ともに「6か月未満」(実際の月齢77.8%、希望の月齢42.6%)が最も高くなっています。

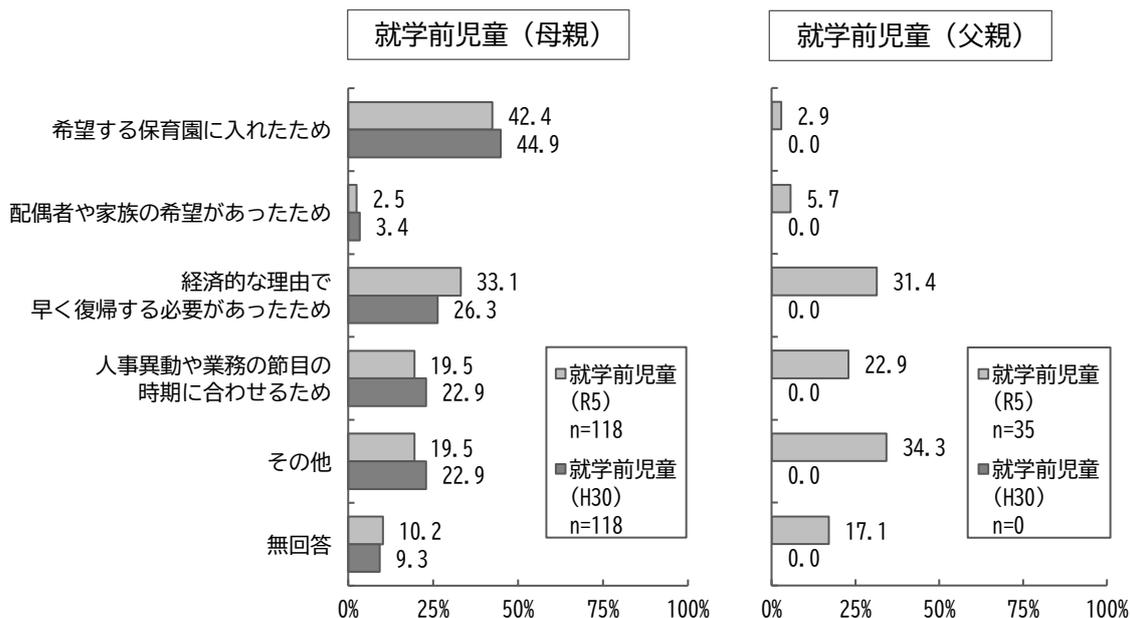
問25-2 育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望する月齢



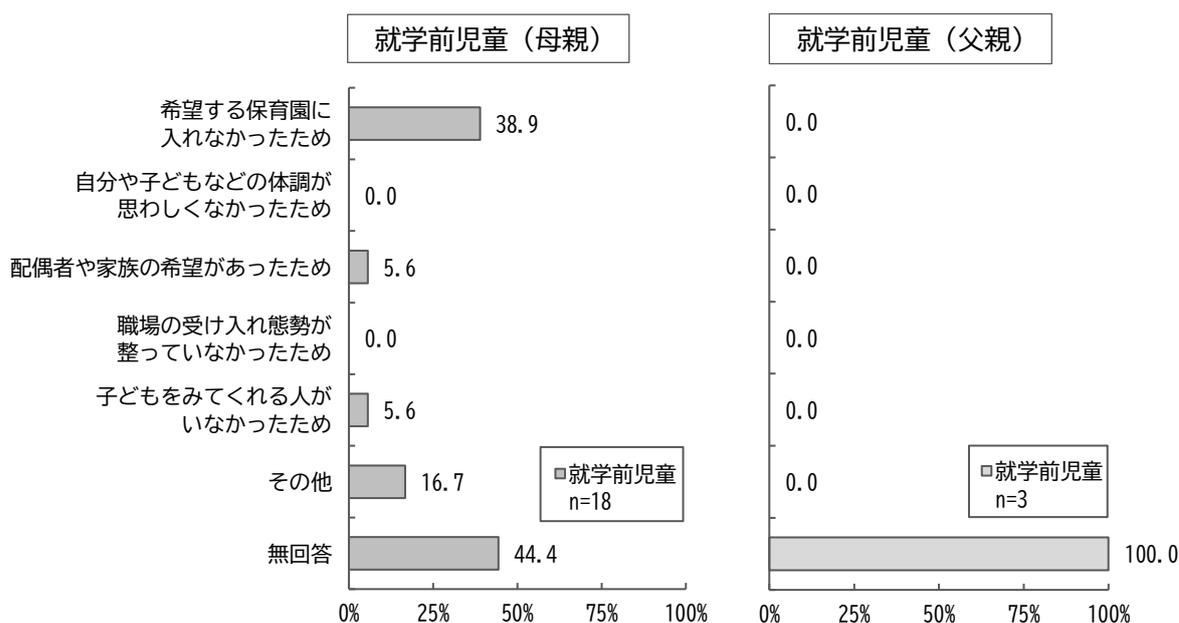


- 育児休業から「希望の時期」より早く職場復帰した理由をみると、母親では「希望する保育園に入るため」(42.4%)、父親では「経済的な理由で早く復帰する必要があった」(31.4%)が最も高くなっています。
- 前回調査と比較すると、母親では「希望する保育園に入るため」は2.5ポイント減少し、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が6.8ポイント増加しています。
- 「希望の時期」より遅く職場復帰した理由は以下のとおりです。

問25-2-1(1) 育児休業から「希望の時期」より早く職場復帰した理由 (経年比較)



問25-2-1(2) 育児休業から「希望の時期」より遅く職場復帰した理由

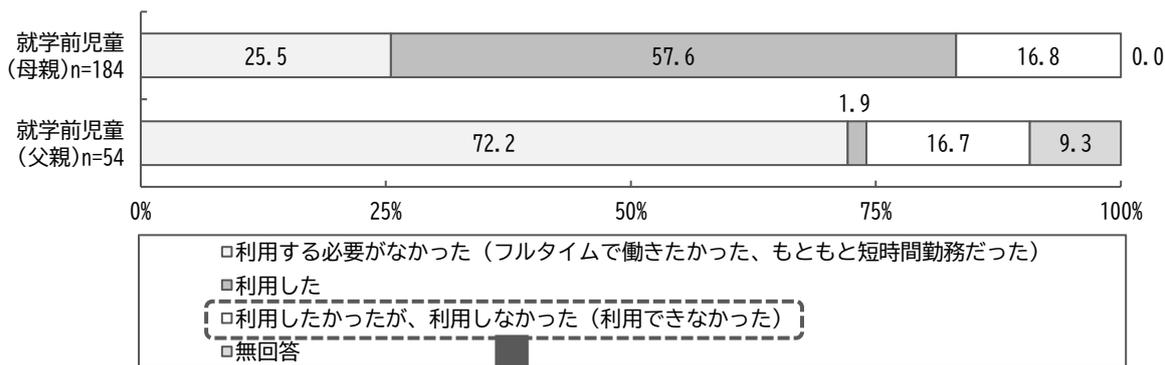


(3) 短時間勤務制度の利用状況

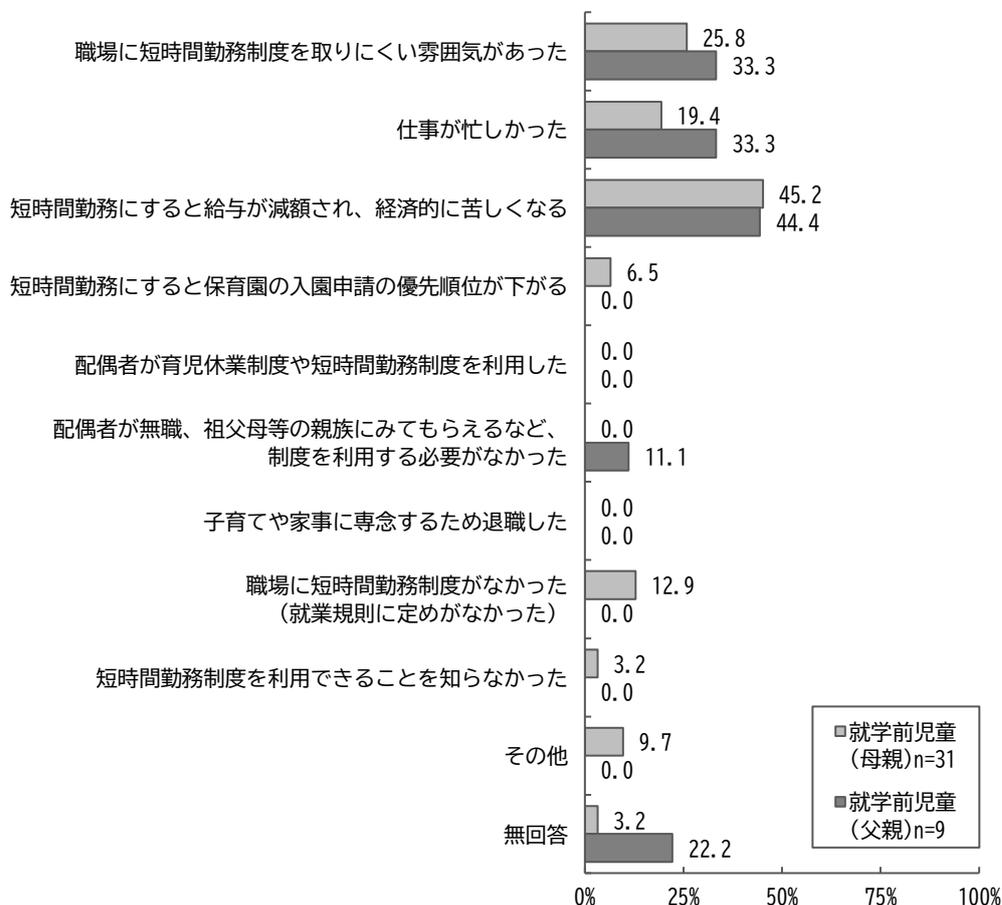
○職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、「(短時間勤務制度を) 利用した」では、母親は57.6%ですが、父親は1.9%に留まっています。

○職場復帰時に短時間勤務制度を利用しなかった理由をみると、母親、父親いずれも「短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる」(母親45.2%、父親44.4%)が最も高くなっています。

問25-3 職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況

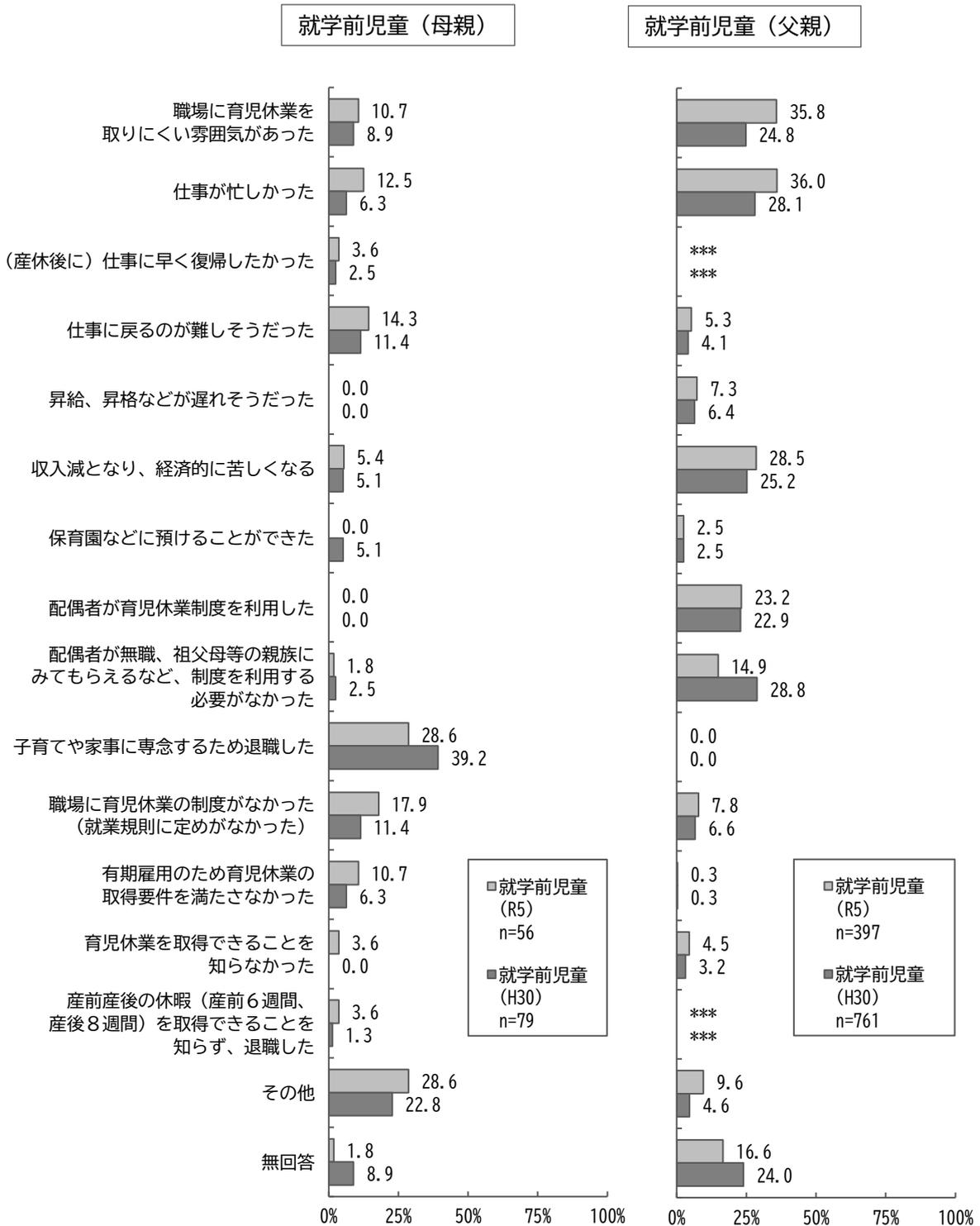


問25-3-1 短時間勤務制度を利用しなかった理由



○育児休業を取得していない理由をみると、母親では、「子育てや家事に専念するため退職した」(28.6%)が最も高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」(17.9%)となっています。父親では、「仕事が忙しかった」(36.0%)が最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(35.8%)となっています。

問26 育児休業を取得していない理由（経年比較）



第5章

子育ての環境や支援の満足度

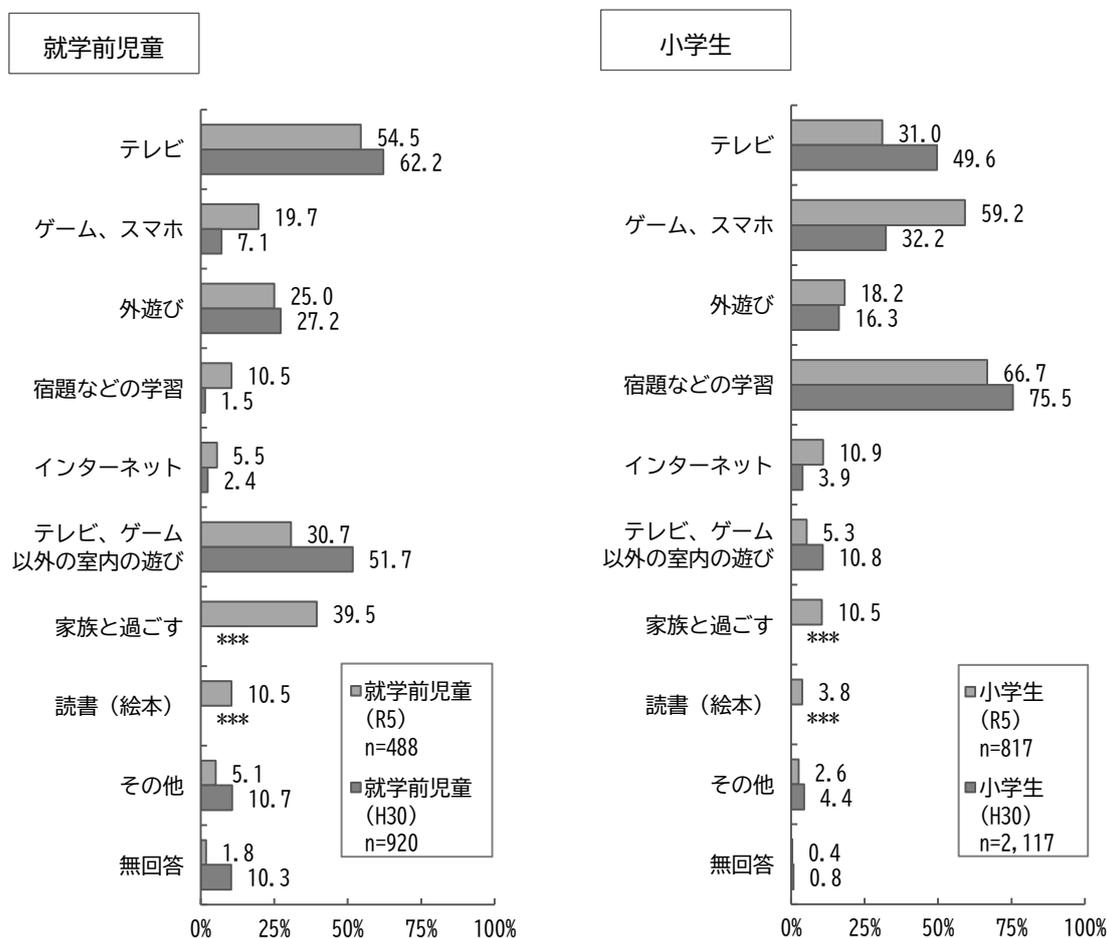
第5章 子育ての環境や支援の満足度

1 子どもの家庭環境

○帰宅後の家庭での主な過ごし方をみると、就学前児童では「テレビ」(54.5%)、小学生では「宿題などの学習」(66.7%)が最も高くなっています。

○前回調査と比較すると、就学前児童では「テレビ、ゲーム以外の室内の遊び」が21.0ポイント減少し、「ゲーム、スマホ」が12.6ポイント増加しています。小学生では「宿題などの学習」が8.8ポイント減少し、「ゲーム、スマホ」が27.0ポイント増加しています。

問27[問17] 帰宅後の家庭での主な過ごし方（経年比較）

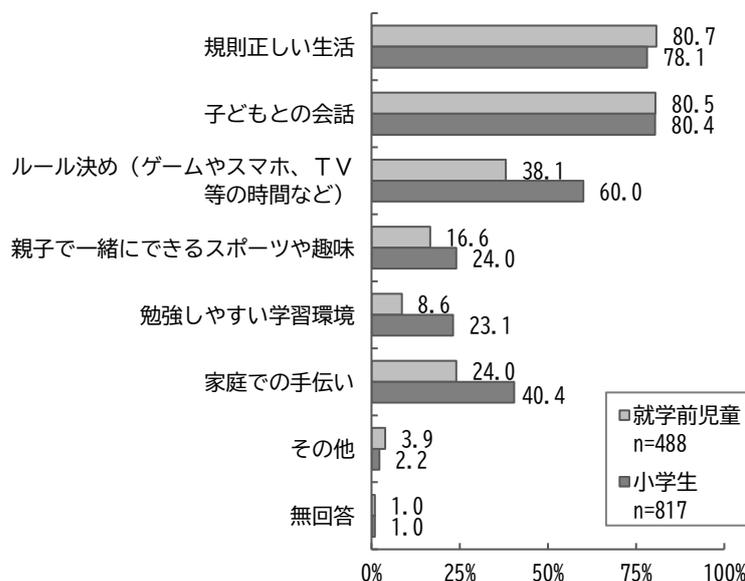


※「家族と過ごす」「読書（絵本）」はH30調査では選択肢がありません

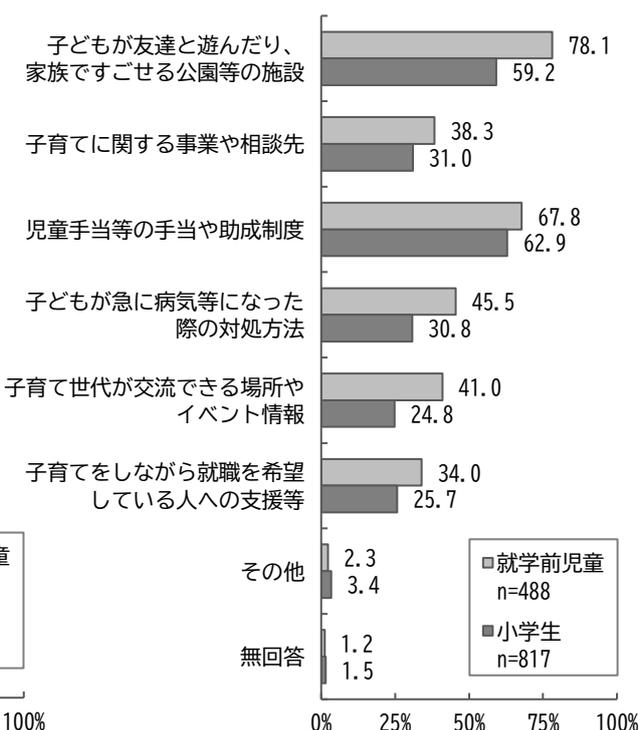
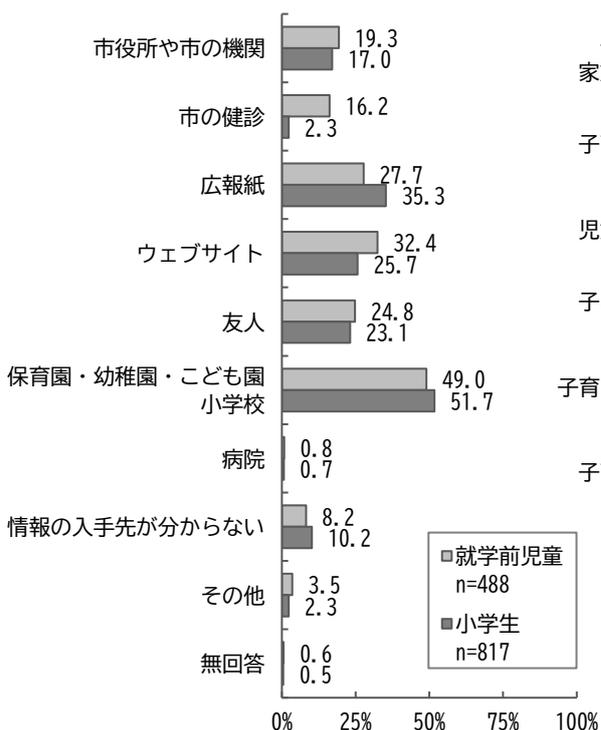


- 子どもと一緒に過ごす時に心掛けていることは、就学前児童では「規則正しい生活」(80.7%)、小学生では「子どもとの会話」(80.4%)が最も高くなっています。
- 市の子育てに関する情報の入手方法をみると、就学前児童では「保育園・幼稚園・子ども園」(49.0%)、小学生では「小学校」(51.7%)が最も高くなっています。一方、「情報の入手先がわからない」は就学前児童は8.2%、小学生が10.2%となっています。
- 子育てをするうえで必要な情報をみると、就学前児童では「子どもが友達と遊んだり、家族で過ごす公園等の施設」(78.1%)、小学生ではともに「児童手当等の手当や助成制度」(62.9%)が最も高くなっています。

問28[問18] 子どもと一緒に過ごす時に心掛けていること

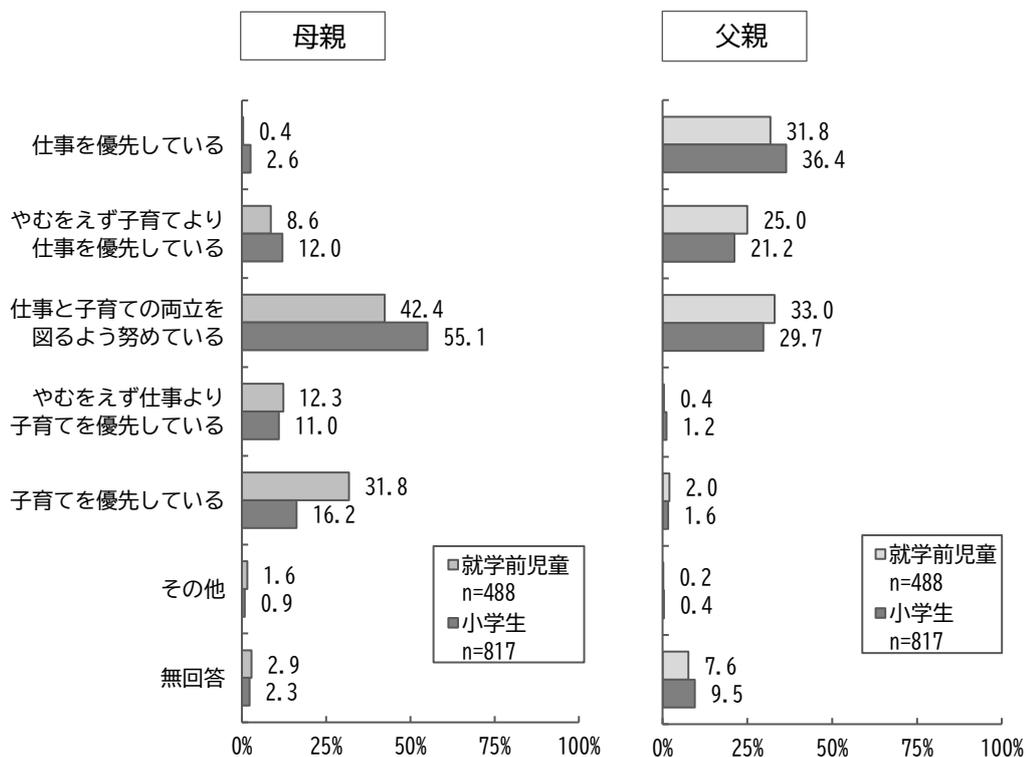


問29[問19] 市の子育てに関する情報の入手方法 問30[問20] 子育てをするうえで必要な情報



○仕事と子育ての両立についてみると、母親は就学前児童、小学生いずれも「仕事と子育ての両立を図るよう努めている」(就学前児童42.4%、小学生55.1%)、父親では就学前児童では「仕事と子育ての両立を図るよう努めている」(33.0%)、小学生では「仕事を優先している」(36.4%)が最も高くなっています。

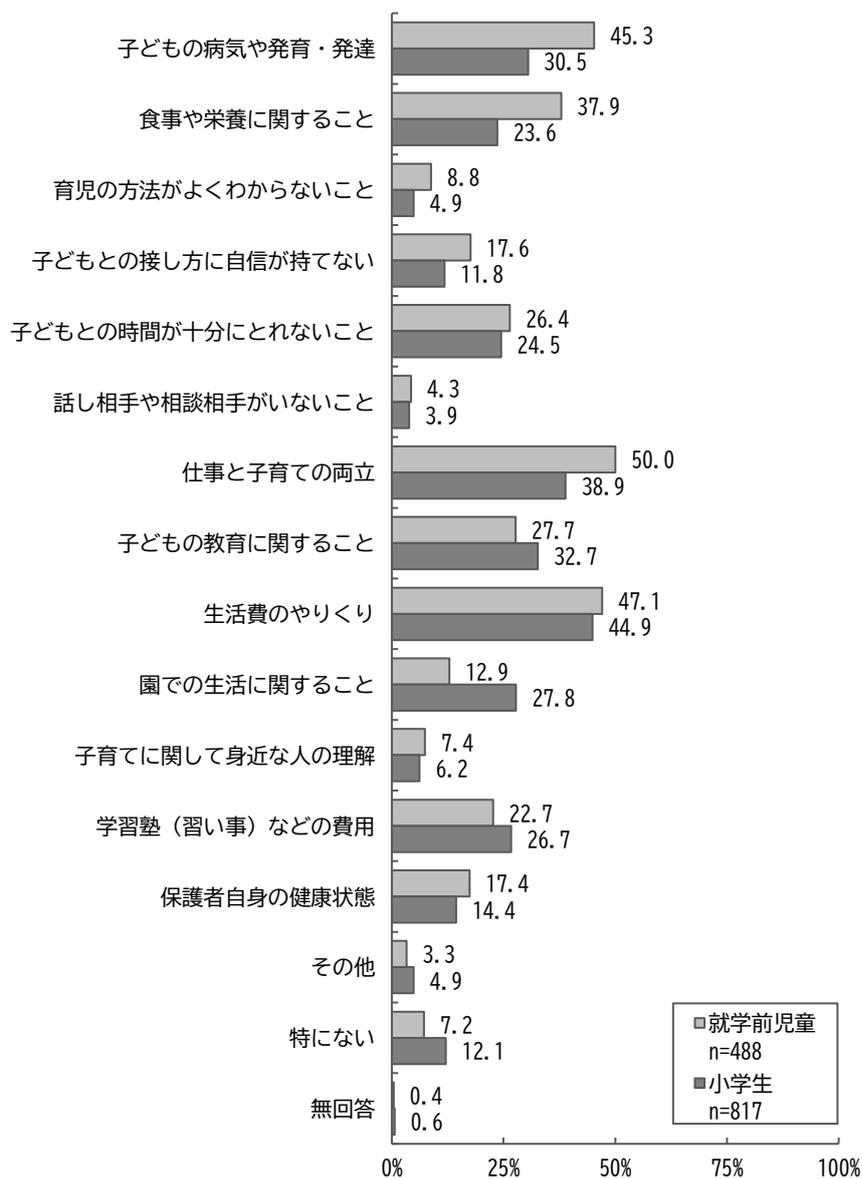
問31[問21] 仕事と子育ての両立について





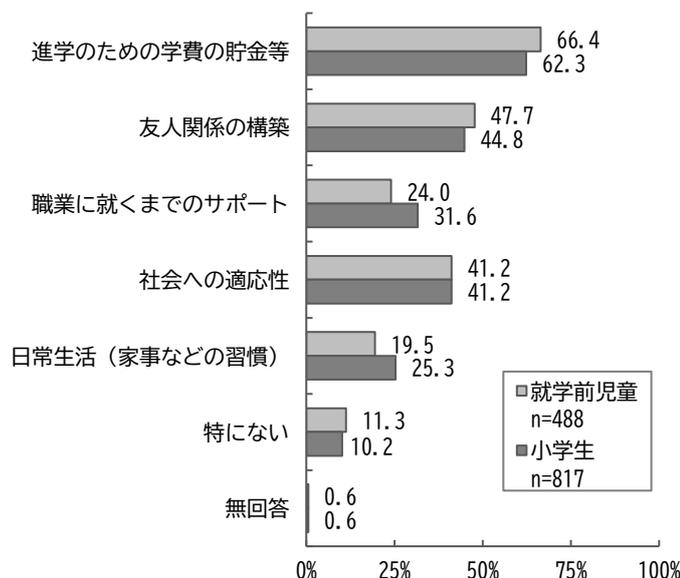
○子育てに関して大変なこと、悩んでいること、気になることについてみると、就学前児童では「仕事と子育ての両立」(50.0%)、小学生では「生活費のやりくり」(44.9%)が最も高くなっています。

問32[問22] 子育てに関して大変なこと、悩んでいること、気になること

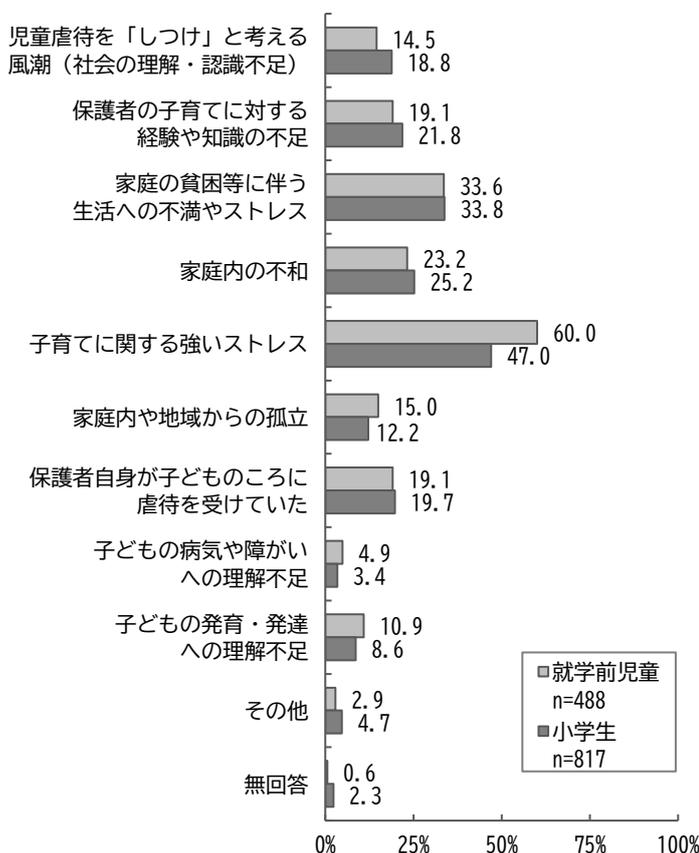


- お子さんの将来について不安なことについてみると、就学前児童、小学生いずれも「進学のための学費の貯金等」(就学前児童66.4%、小学生62.3%)が最も高くなっています。
- 一般的に児童虐待が起こる理由についてみると、就学前児童、小学生いずれも「子育てに関する強いストレス」(就学前児童60.0%、小学生47.0%)が最も高くなっています。

問33[問23] お子さんの将来について不安なこと



問34[問24] 一般的に児童虐待が起こる理由

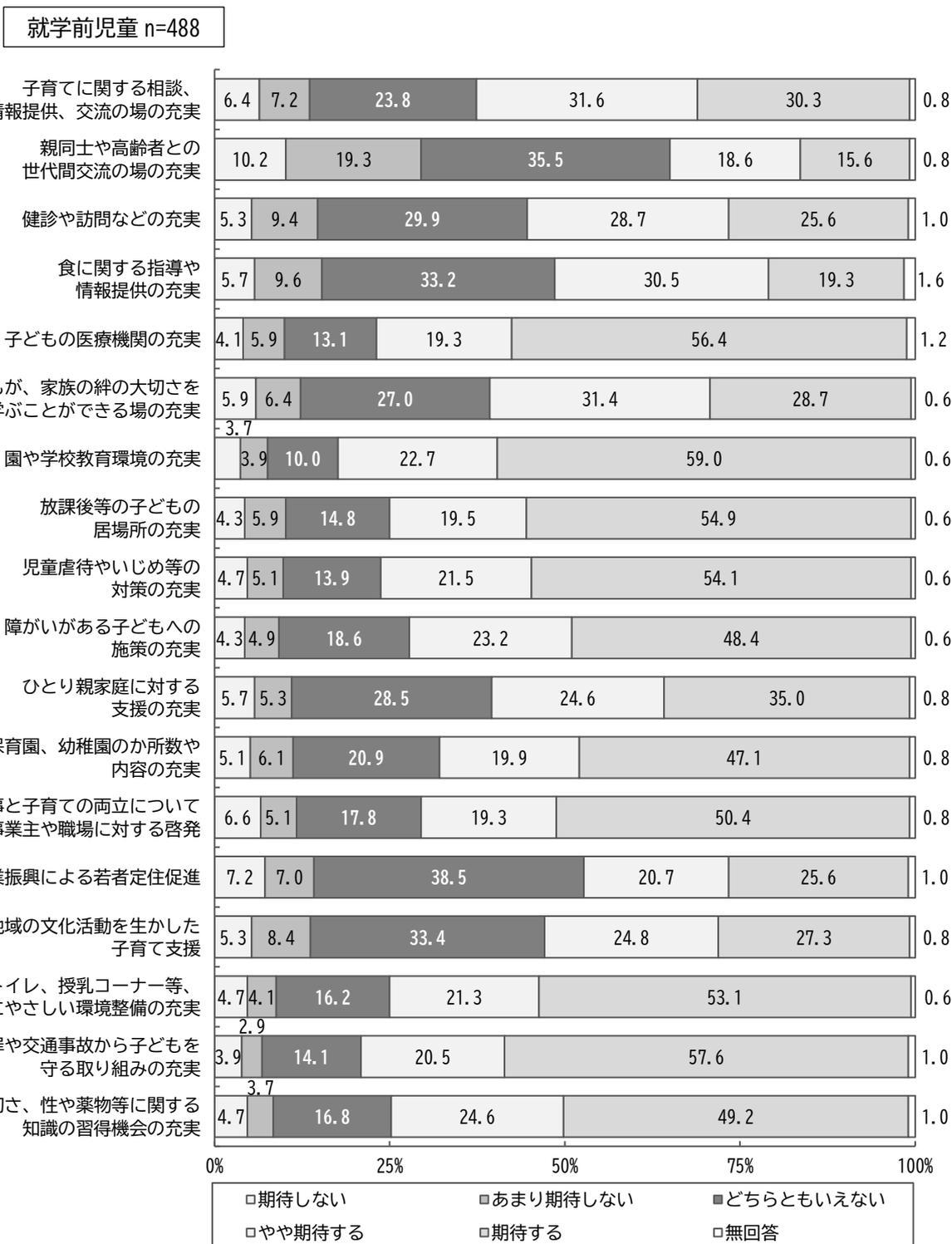




2 中津川市の子育て支援施策

○中津川市の子育て支援策に期待することについてみると、就学前児童では、「園や学校教育環境の充実」、「犯罪や交通事故から子どもを守る取り組みの充実」、「子どもの医療機関の充実」、「放課後等の子どもの居場所の充実」、「児童虐待やいじめ等の対策の充実」、「親子トイレ、授乳コーナー等、子どもにやさしい環境整備の充実」などが高い割合となっています。

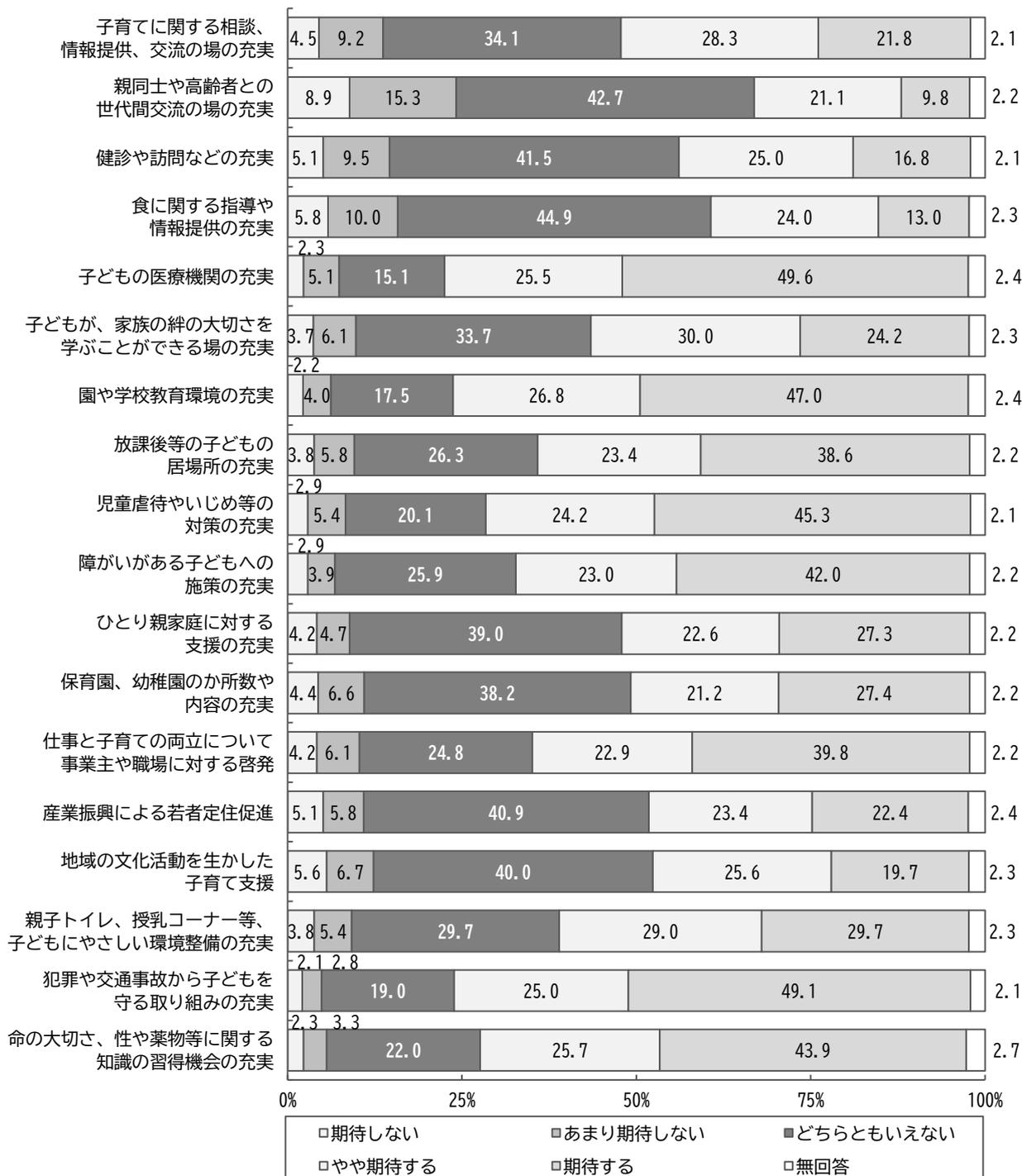
問35 中津川市の子育て支援策に期待すること



○中津川市の子育て支援策に期待することについてみると、小学生では、「子どもの医療機関の充実」、「犯罪や交通事故から子どもを守る取り組みの充実」、「園や学校教育環境の充実」、「児童虐待やいじめ等の対策の充実」、「命の大切さ、性や薬物等に関する知識の習得機会の充実」などが高い割合となっています。

〔問25〕 中津川市の子育て支援策に期待すること

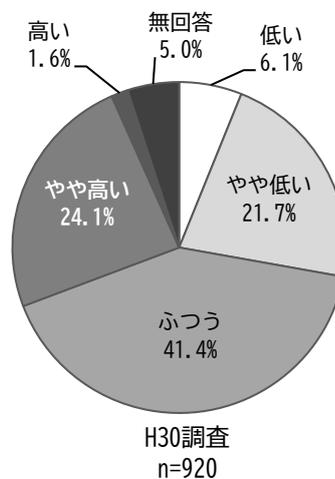
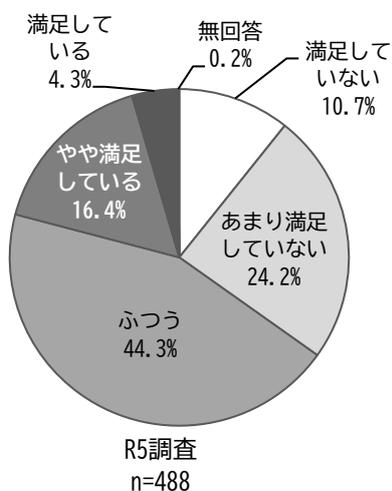
小学生 n=817



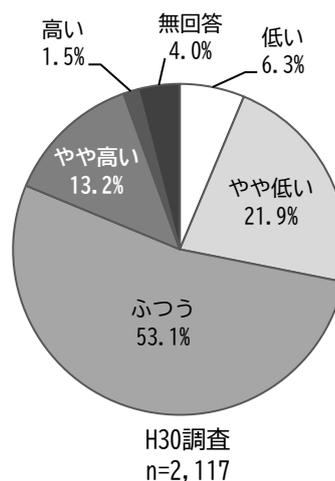
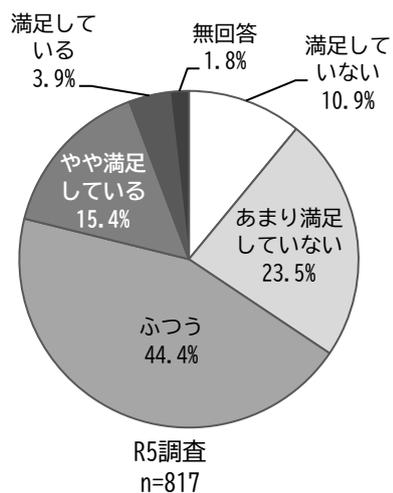
○子育ての環境や支援に対する満足度が高いと感じる保護者（「満足している」＋「やや満足している」）をみると、就学前児童では20.7%、小学生では19.3%となっています。
 一方、満足していないと感じる保護者（「満足していない」＋「やや満足していない」）をみると、就学前児童では34.9%、小学生では34.4%となっています。
 ○前回調査と比較すると、満足している割合は、就学前児童では5.0ポイント減少し、小学生では4.6ポイント増加しています。

問36[問26] 中津川市における子育ての環境や支援に対する満足度

就学前児童



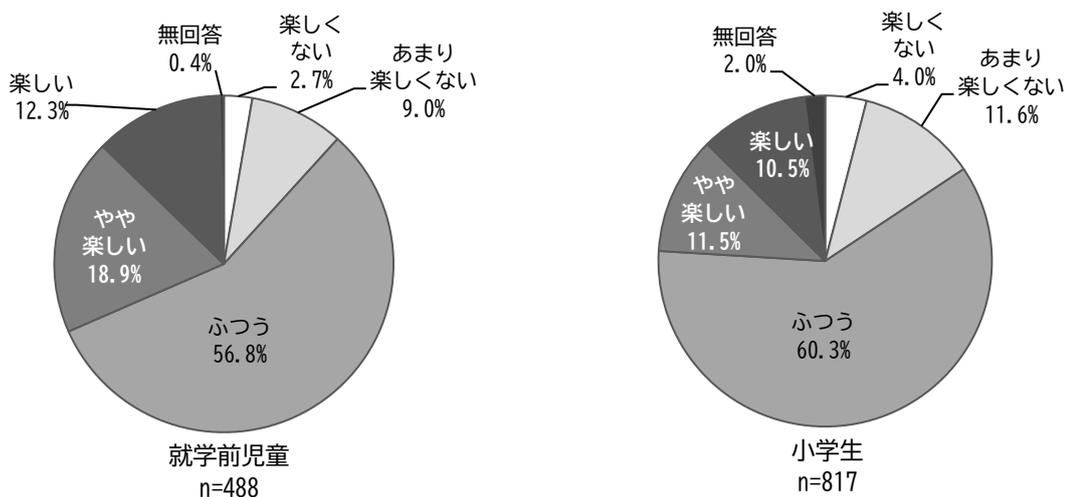
小学生





○子育てが楽しいと感じる割合が高いと感じる保護者（「楽しい」＋「やや楽しい」）をみると、就学前児童では31.2%、小学生では22.0%となっています。一方、楽しくないと感じる保護者（「楽しくない」＋「あまり楽しくない」）をみると、就学前児童では11.7%、小学生では15.6%となっています。

問37[問27] 中津川市において子育てが楽しいと感じる割合





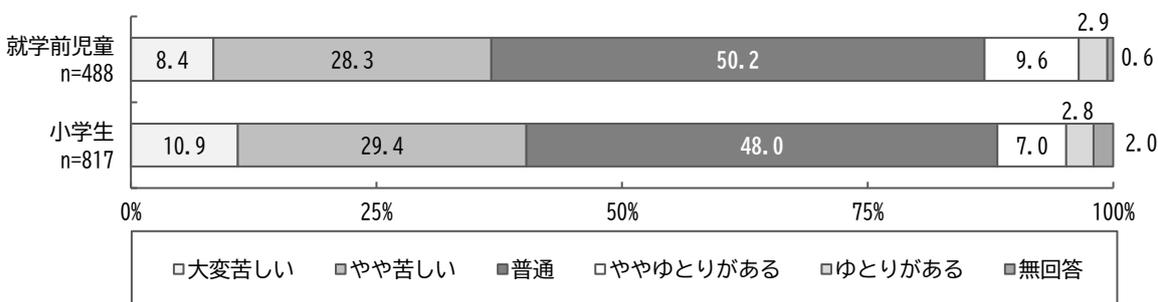
3 ご家庭の状況

○現在の暮らしの状況についてみると、就学前児童、小学生いずれも「普通」(就学前児童50.2%・小学生48.0%)が最も高くなっています。

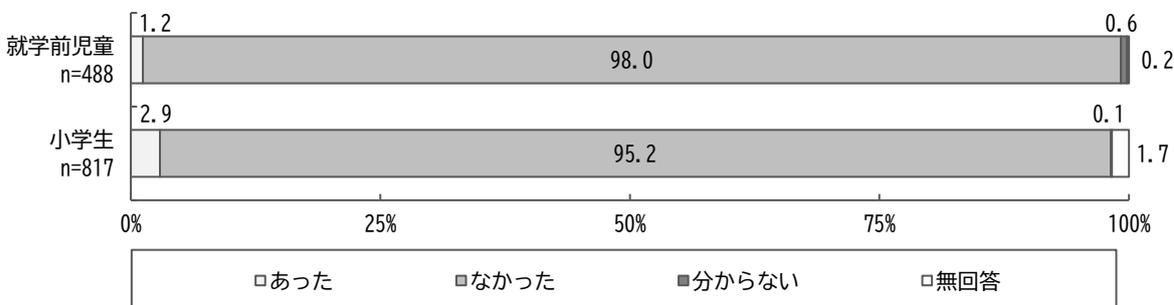
○お子さんが生まれてから現在までの間に、経済的な理由による料金滞納のために、電気、ガス、水道のいずれかを止められたことの有無についてみると、就学前児童、小学生ともに「なかった」(就学前児童98.0%、小学生95.2%)が最も高くなっています。

○生計をともにしている人数についてみると、大人こどもいずれも就学前児童、小学生ともに「2人」(就学前児童大人84.8%、こども46.5%、小学生大人70.1%、こども50.3%)が最も高くなっています。

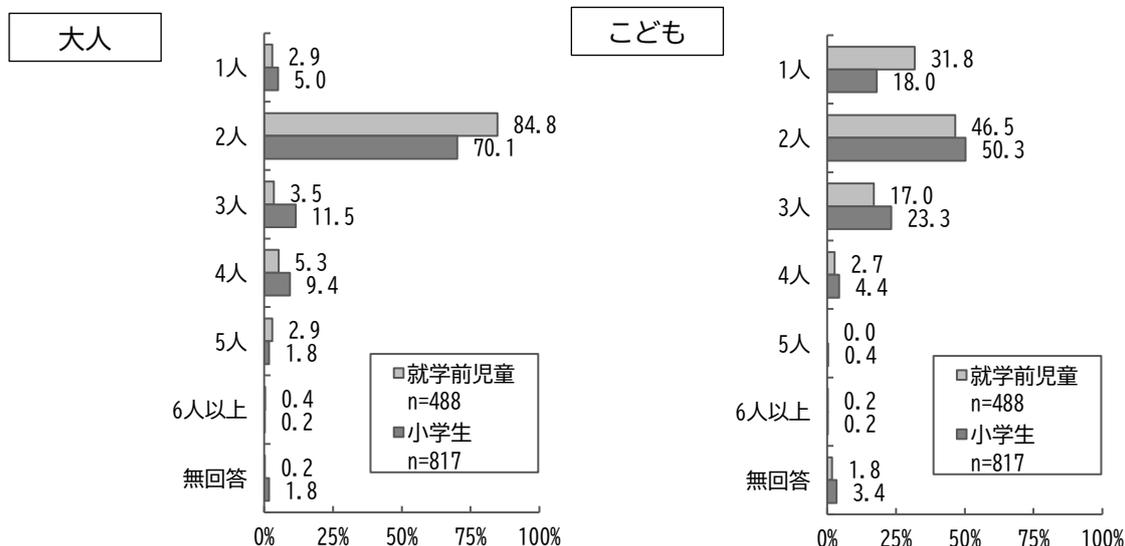
問38[問28] 現在の暮らしの状況(経済面)



問39[問29] 経済的理由の料金滞納で電気・ガス・水道を止められたことの有無



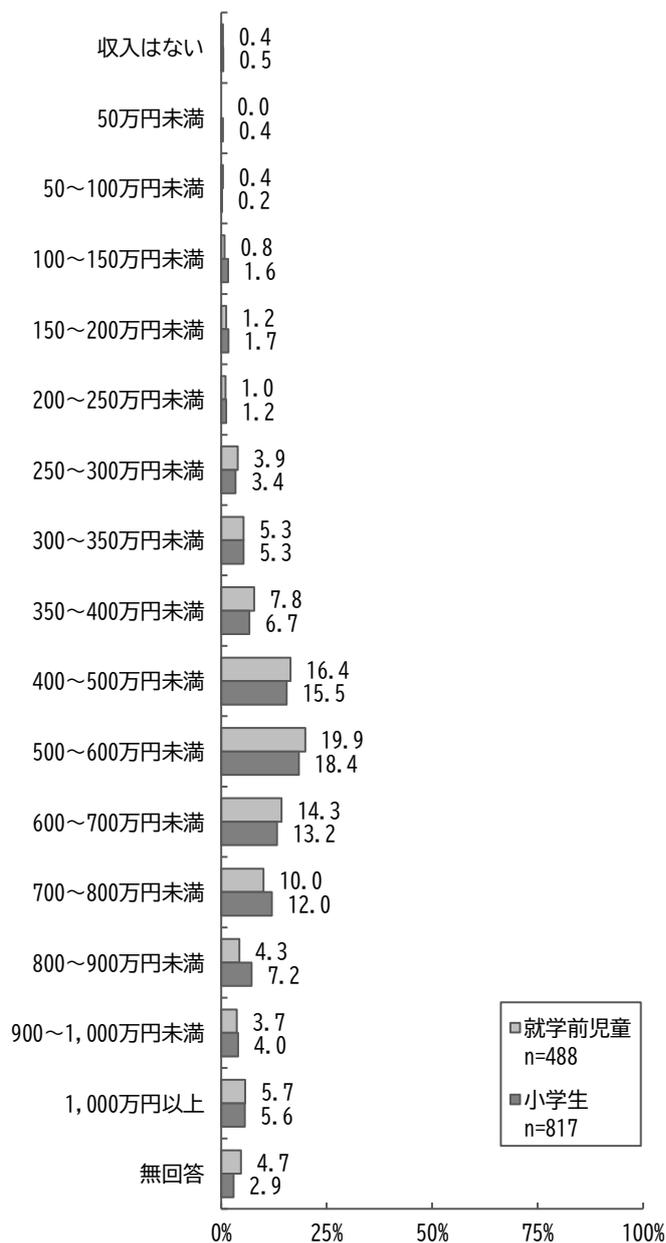
問40[問30] 生計をともにしている大人の数、こどもの数





○世帯の収入をみると、就学前児童、小学生いずれも「500～600万円未満」(就学前児童19.9%、小学生18.4%)が最も高く、次いで「400～500万円未満」(就学前児童16.4%、小学生15.5%)となっています。

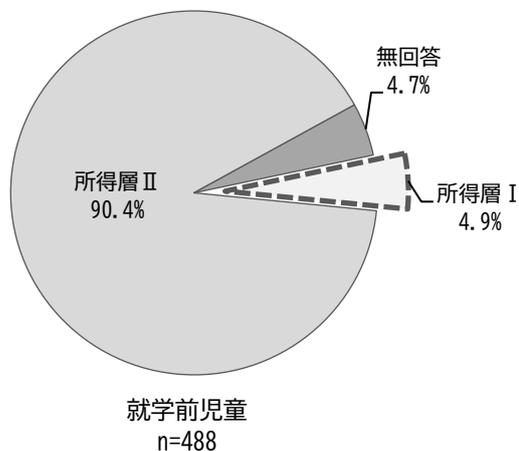
問41[問31] 世帯の収入



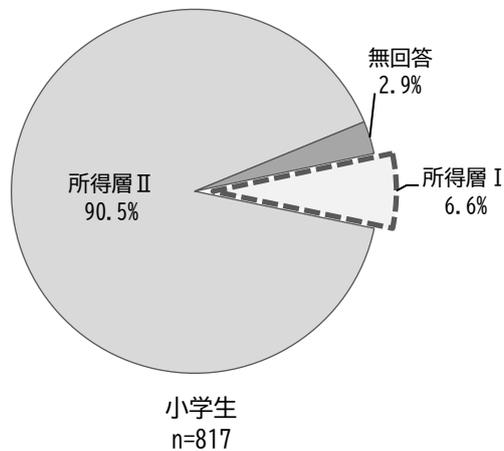


○貧困世帯基準該当の状況は以下のとおりです。

問41 世帯の収入



問31世帯の収入



低所得層(所得層 I)の算出について

アンケート内にある世帯収入の設問の選択肢における中間値を置換し、世帯人数の平方根で除した「等価世帯収入」を算出しました。等価世帯収入について、有効回答者全体の中央値の半分である133万円未満の世帯を貧困層とし、全体に占める貧困の割合を算出しました。

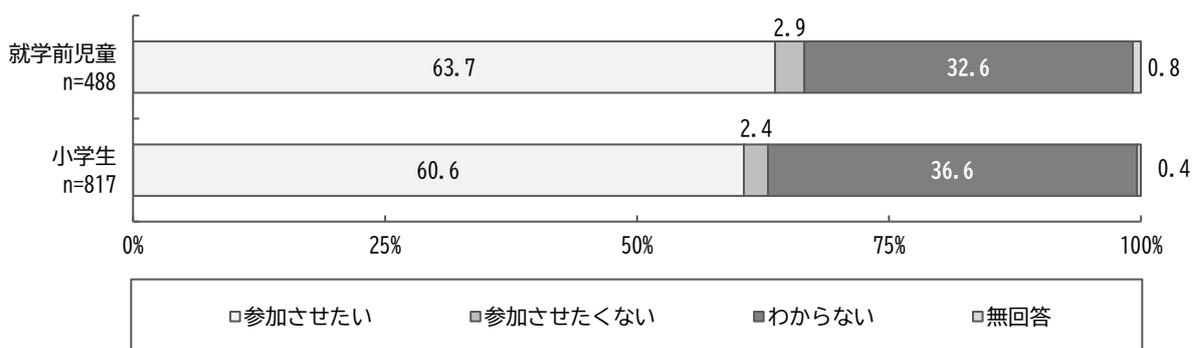
基準値133万を下回る世帯を「所得層 I」、上回る世帯を「所得層 II」としています。



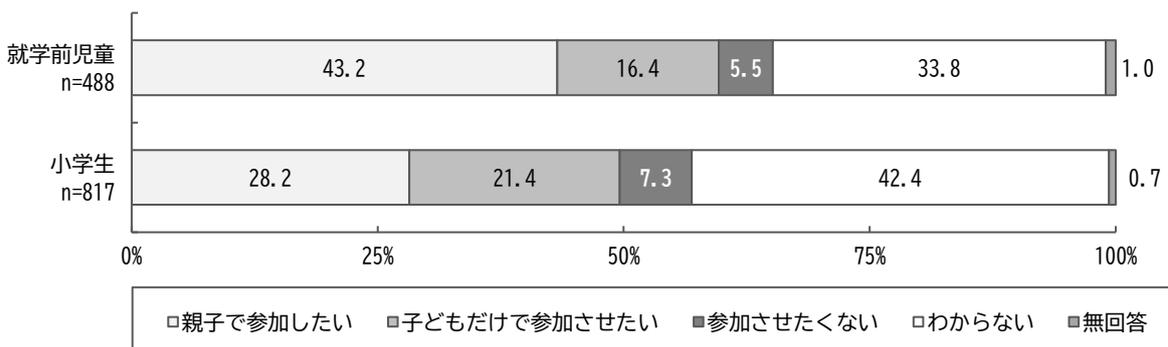
○ボランティア等による無料の学習支援の場に参加させたいかをみると、就学前児童、小学生ともに「参加させたい」（就学前児童63.7%、小学生60.6%）が最も高くなっています。

○地域に「子ども食堂」があったら、参加させたいかをみると、就学前児童では「親子で参加したい」（43.2%）、小学生では「わからない」（42.4%）が最も高くなっています。

問42[問32] ボランティア等による無料の学習支援の場に参加させたいか



問43[問33] 地域に「子ども食堂」があったら、参加させたいか



第6章

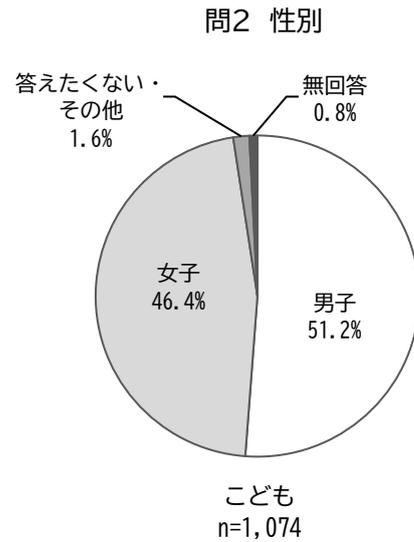
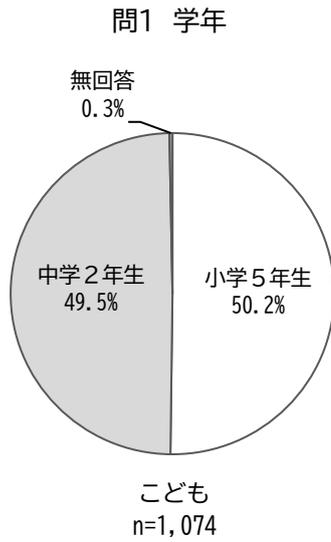
小中学生調査結果

第6章 小中学生調査結果

1 小中学生調査回答者の属性

(1) 回答者の属性

○回答者の属性は、以下のとおりです。

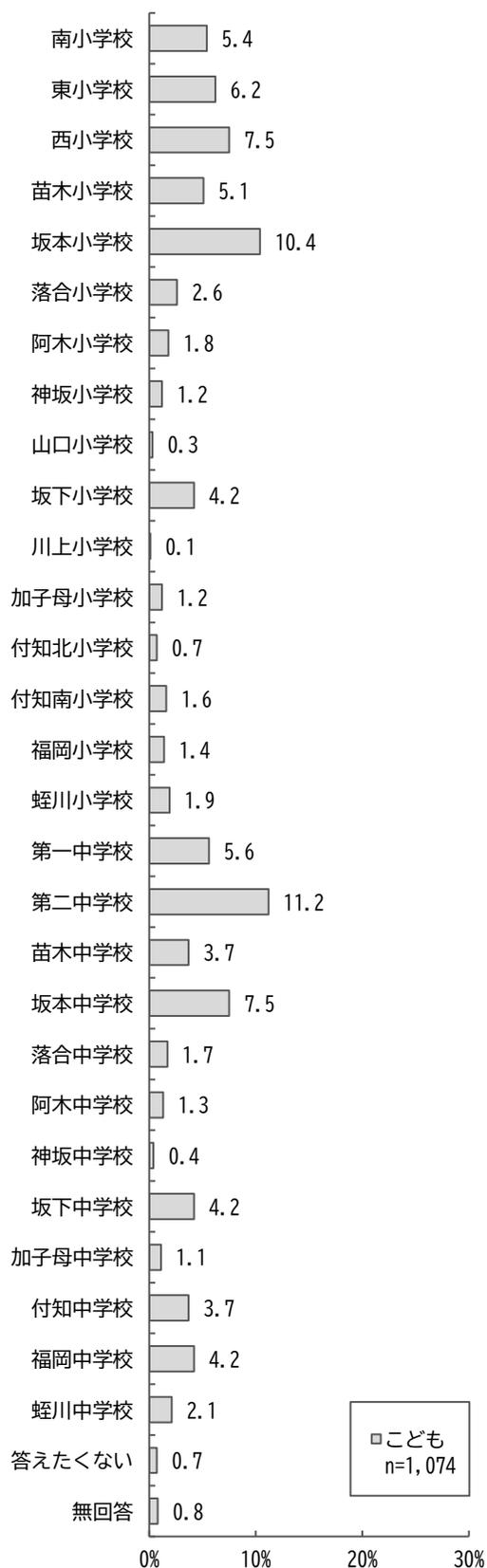




(2) 居住地の状況

○回答者が通学する小学校、中学校は、以下のとおりです。

問3 通学している学校

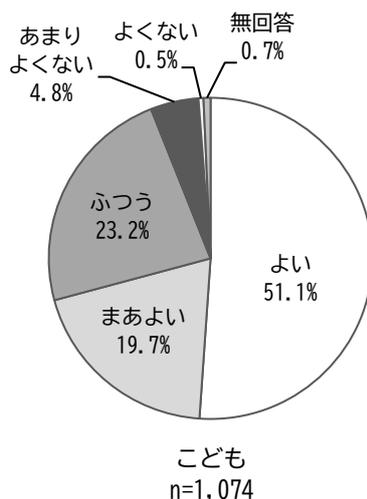


2 ふだんの生活について

(1) 健康状態

○健康状態についてみると、「よい」(51.1%)が最も高く、次いで「ふつう」(23.2%)となっています。

問4 健康状態(こども)

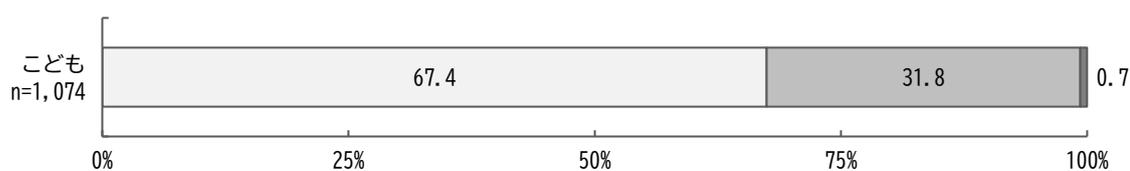


(2) 将来の夢について

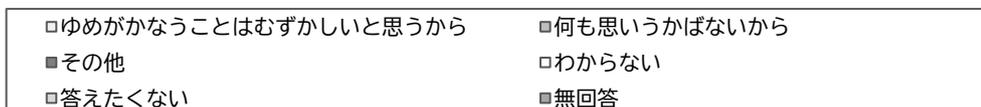
○将来の夢についてみると、「ある」は67.4%、「ない」は31.8%となっています。

○夢がない理由についてみると、「何も思いうかばないから」(59.1%)が最も高く、次いで「わからない」(20.2%)となっています。

問5 将来の夢があるか



問5-1 夢がない理由





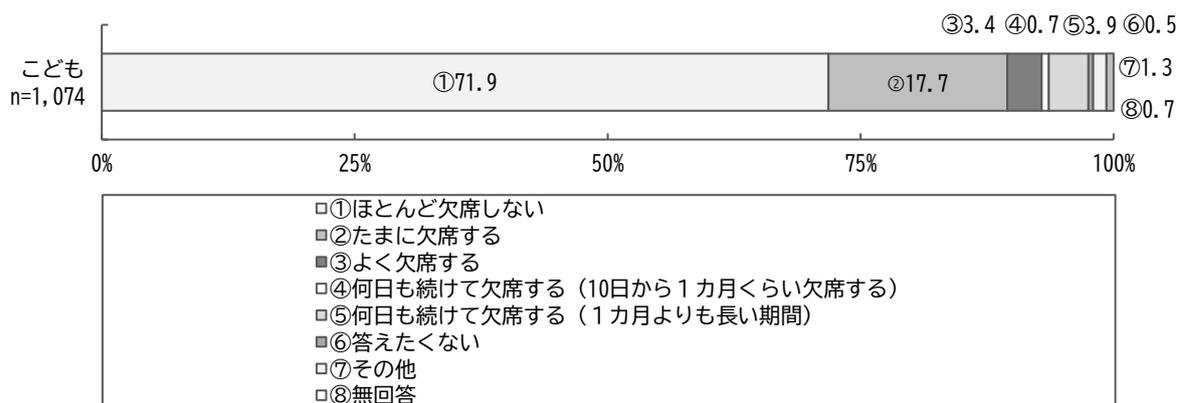
(3) 学校・家庭での生活について

○出席状況については、「ほとんど欠席しない」(71.9%)が最も高く、次いで「たまに欠席する」(17.7%)となっています。

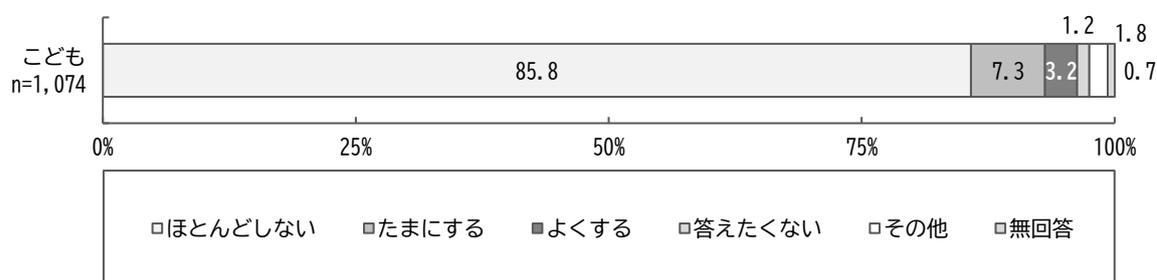
○遅刻の状況については、「ほとんどしない」(85.8%)が最も高く、次いで「たまにする」(7.3%)となっています。

○早退の状況については、「ほとんどしない」(88.0%)が最も高く、次いで「たまにする」(7.8%)となっています。

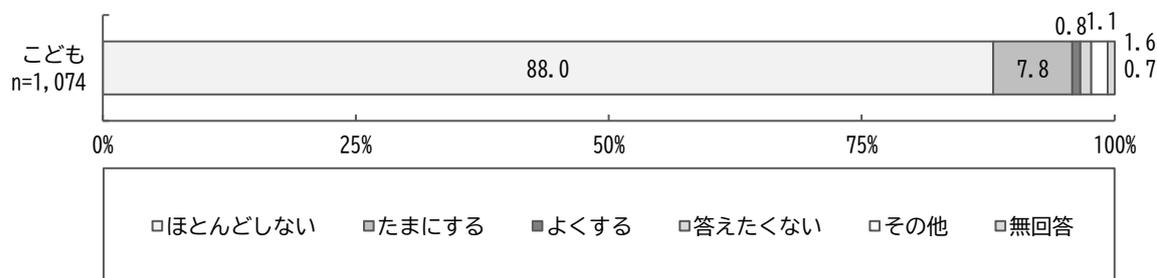
問6① 出席状況



問6② 遅刻の状況



問6③ 早退の状況

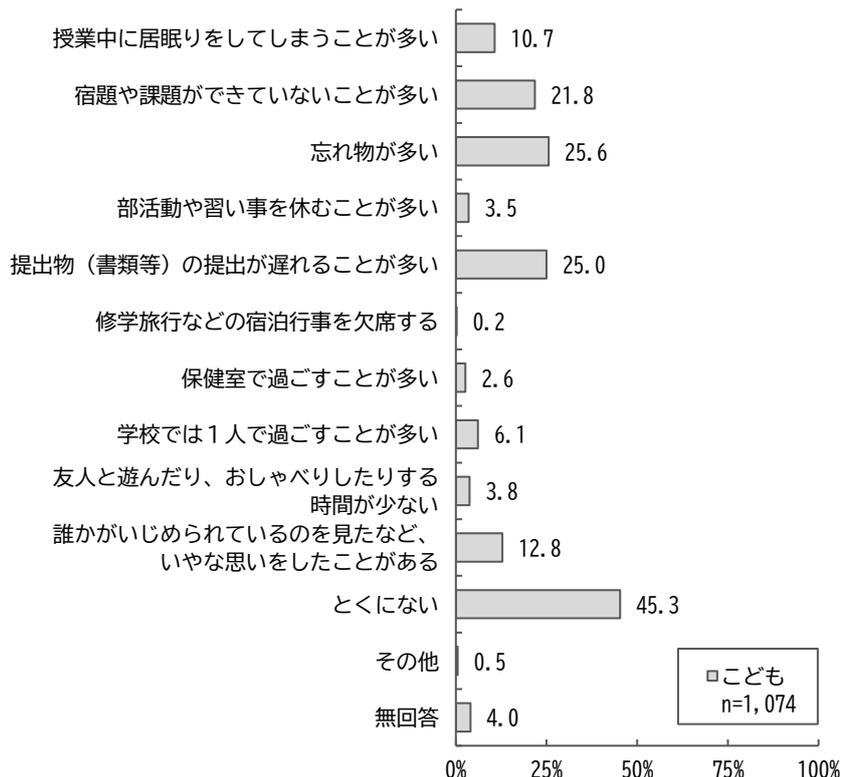


○学校生活においてあてはまるものについてみると、「とくにない」(45.3%)が最も高く、次いで「忘れ物が多い」(25.6%)「提出物(書類等)の提出が遅れることが多い」(25.6%)となっています。

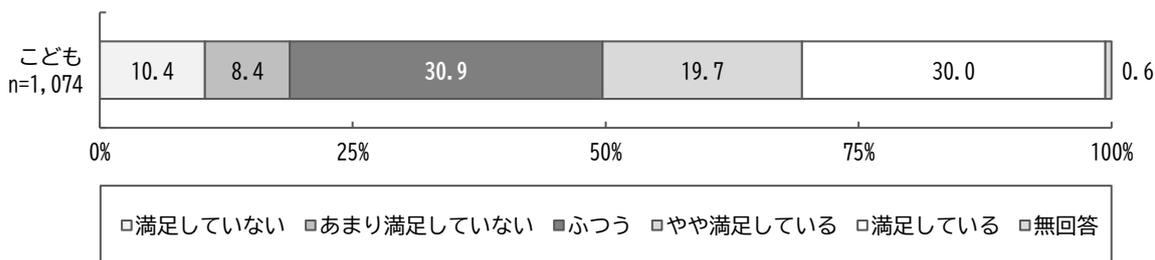
○学校生活に満足しているかをみると、「ふつう」(30.9%)が最も高くなっています。

○家での生活に満足しているかをみると、「満足している」(55.6%)が最も高くなっています。

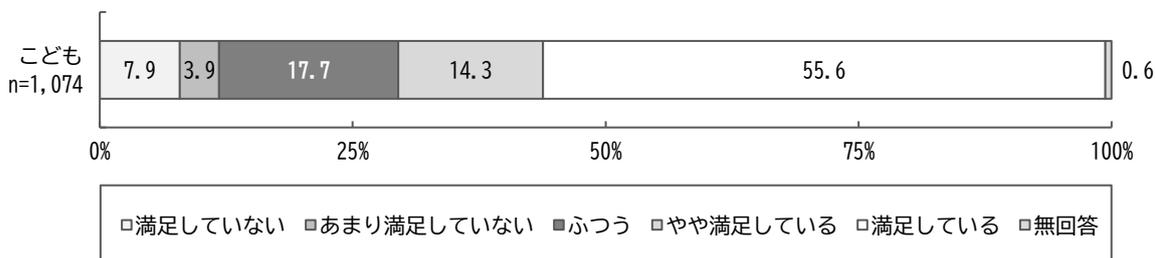
問7 学校生活においてあてはまるもの



問8 学校生活に満足しているか



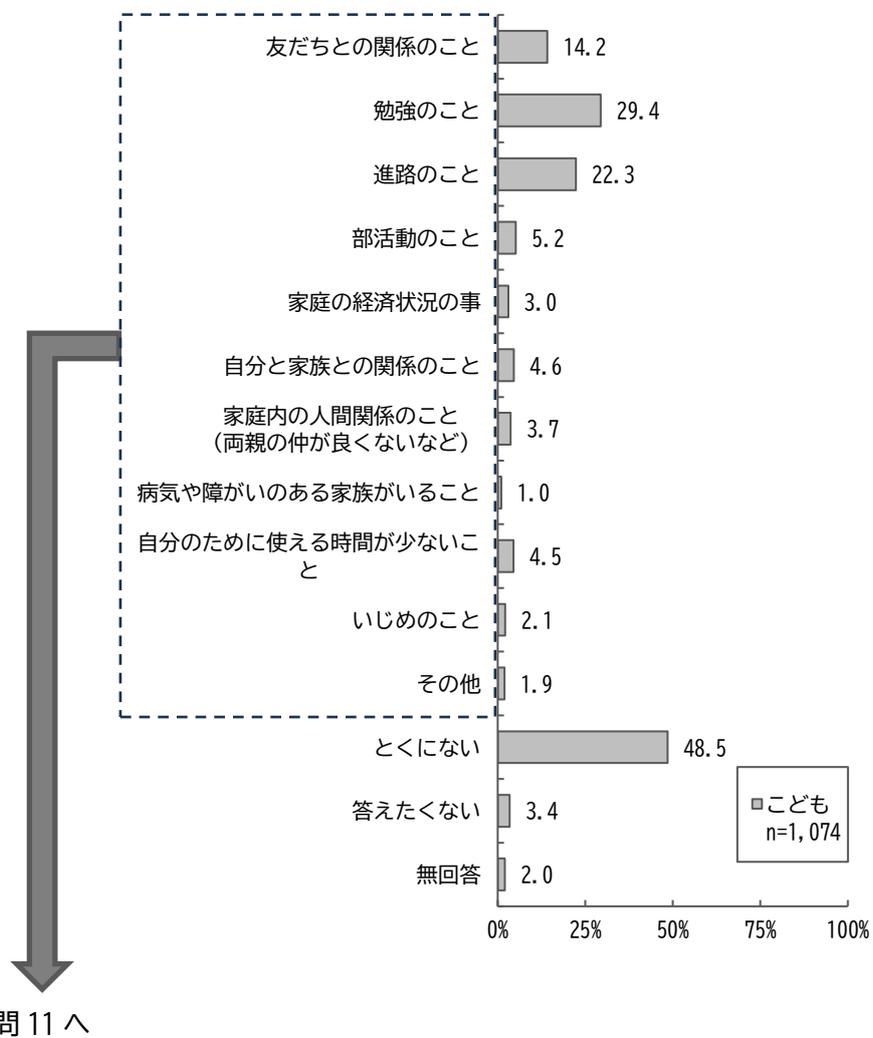
問9 家での生活に満足しているか





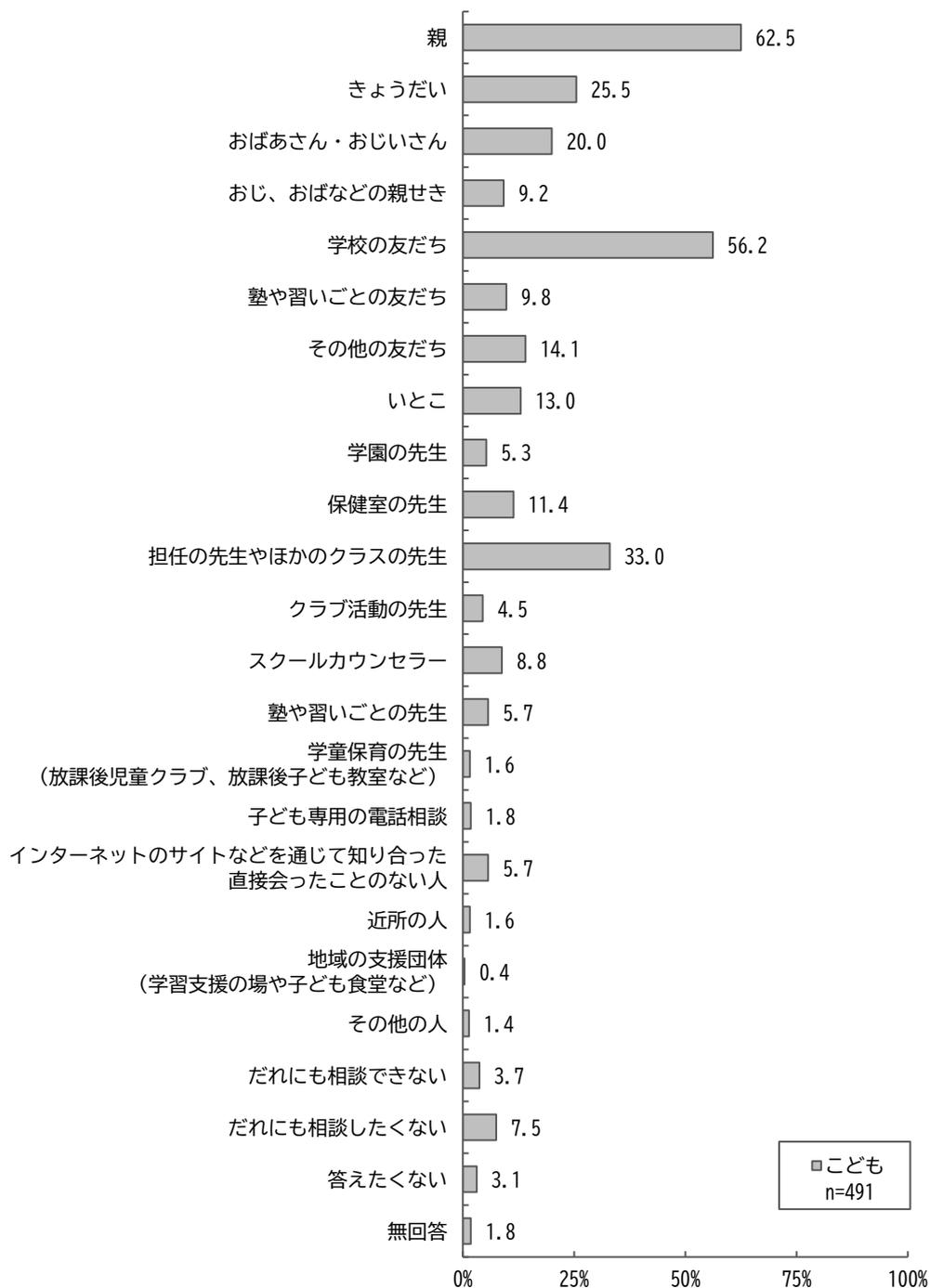
○現在、なやんだりこまっていることについてみると、「とくにない」(48.5%)が最も高く、次いで「勉強のこと」(29.4%)、「進路のこと」(22.3%)となっています。

問10 現在、なやんだりこまっていること



○悩んだり、困っていることがある時誰に相談するかについてみると、「親」(62.5%)が最も高く、次いで「学校の友だち」(56.2%)、「担任の先生やほかのクラスの先生」(33.0%)、「きょうだい」(25.5%)となっています。一方、「だれにも相談できない」が3.7%、「だれにも相談したくない」が7.5%となっています。

問11 なやんだり、こまったりしているときに相談する相手



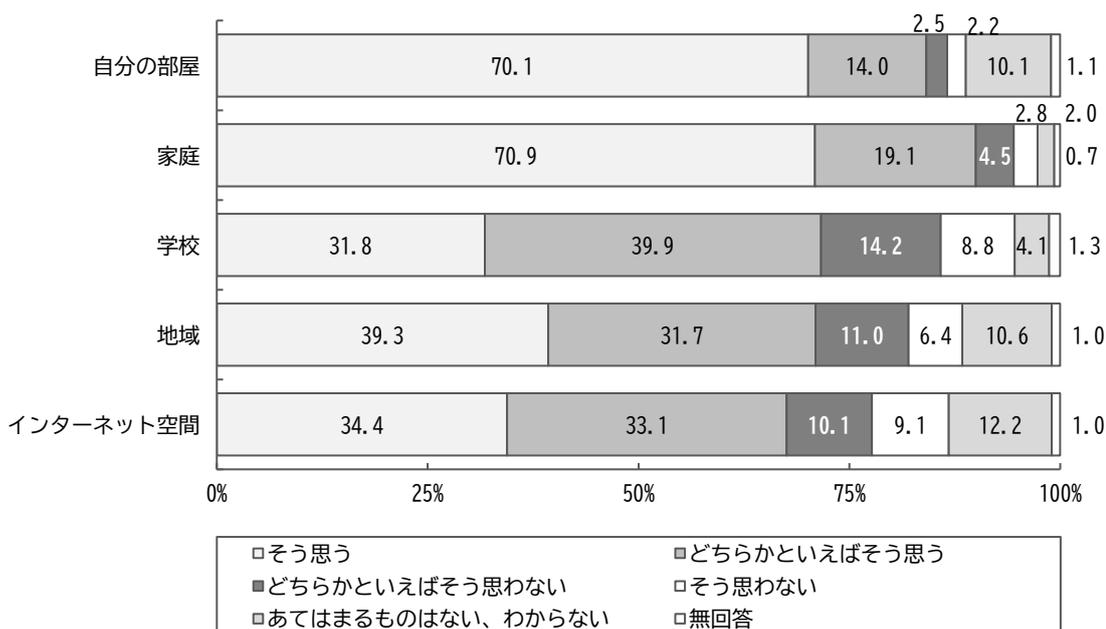


○居心地のよい居場所をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると“家庭”が90.0%で最も高く、次いで“自分の部屋”が81.4%、“学校”が71.7%となっています。

○家族とのかかわり方をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると“楽しく話せる時がある”が94.8%で最も高く、次いで“こまったときは助けてくれる”が93.4%、“強いつながりを感じている”が86.6%となっています。

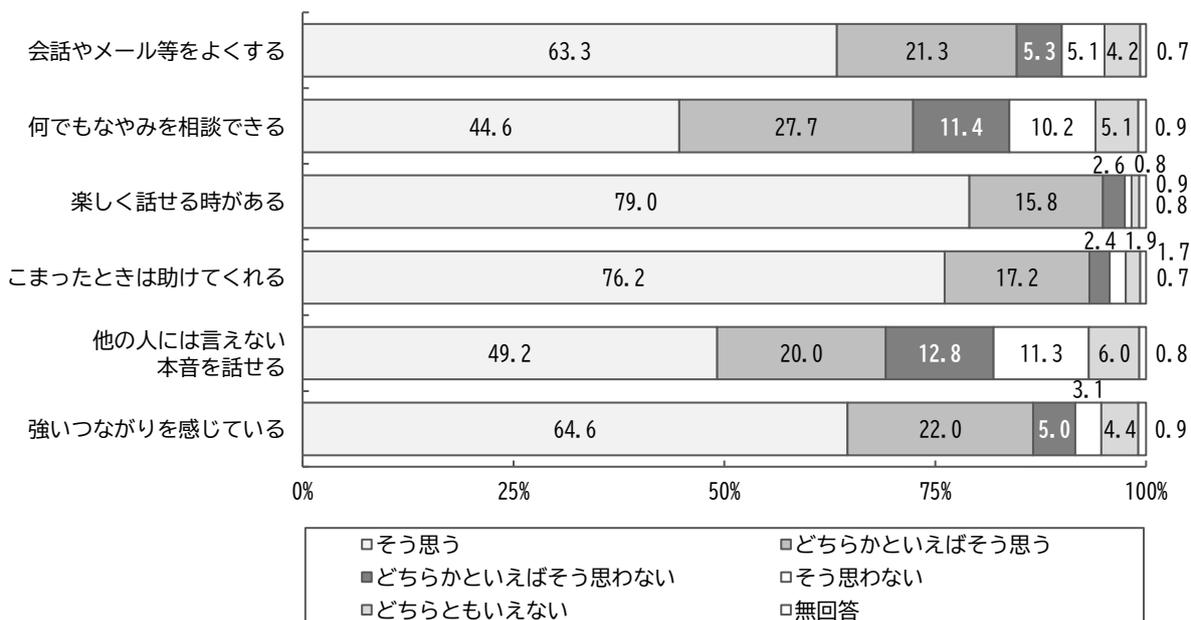
問12 居場所になっているか

こども n=1,074



問13 家族とのかかわりについて

こども n=1,074

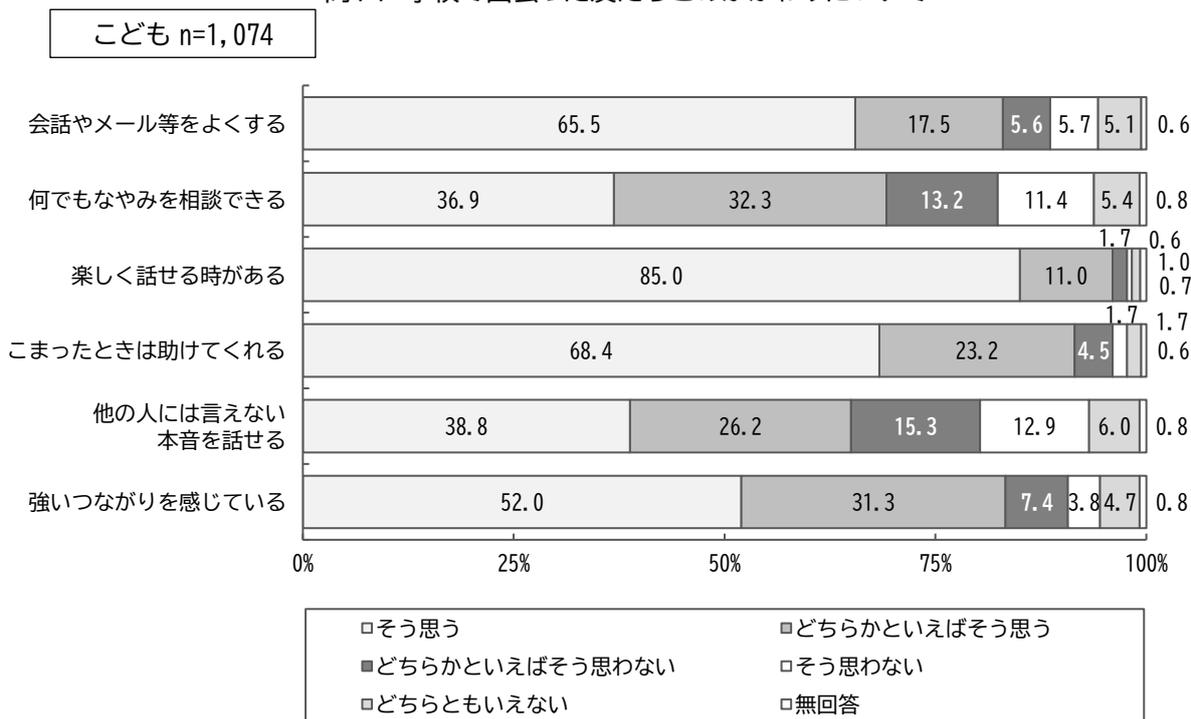




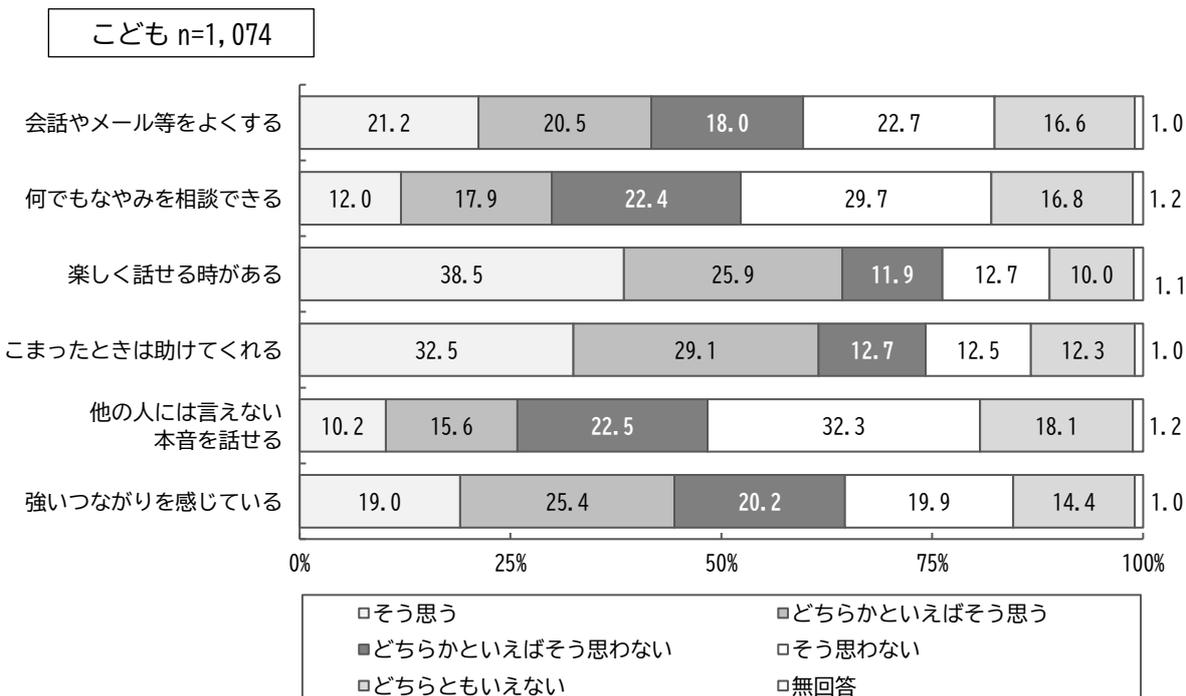
○学校で出会った友だちとのかかわり方をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると“楽しく話せる時がある”が96.0%で最も高く、次いで“こまったときは助けてくれる”が91.6%、“強いつながりを感じている”が83.3%となっています。

○地域や塾や習い事での友だちとのかかわり方をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると“楽しく話せる時がある”が64.4%で最も高く、次いで“こまったときは助けてくれる”が61.6%となっています。

問14 学校で出会った友だちとのかかわりについて



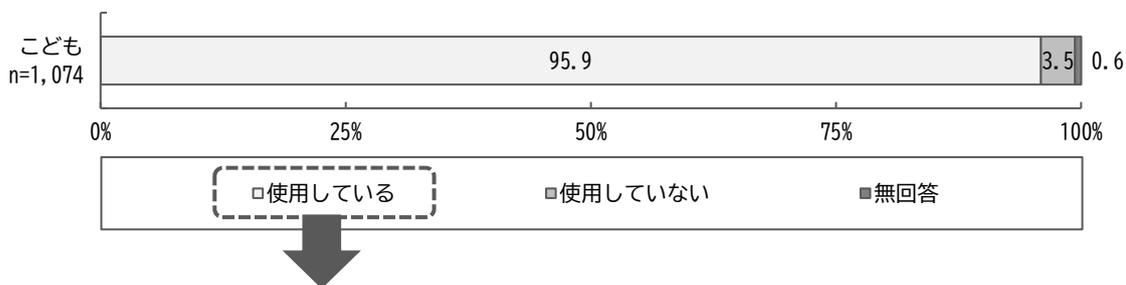
問15 地域の人や塾、習い事での友人とのかかわりについて



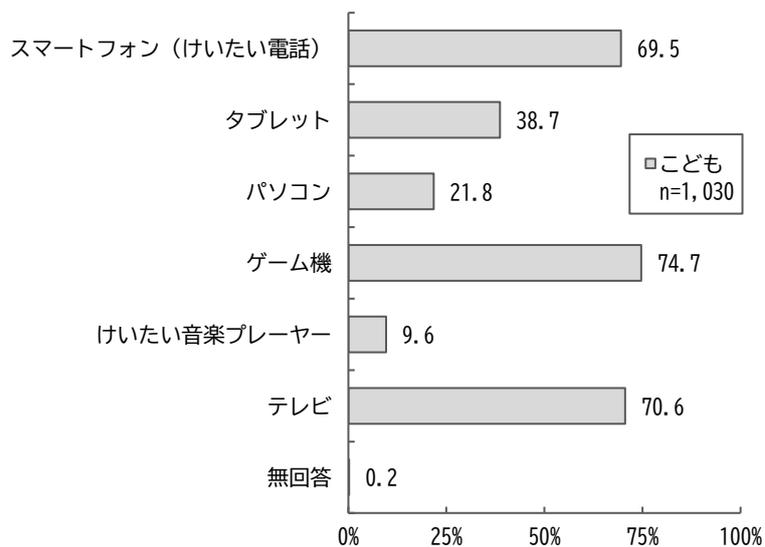


○家でのインターネットの利用についてみると、「使用している」が95.9%となっています。
 ○インターネット利用に使用している機器は、「ゲーム機」(74.7%)が最も高く、次いで「テレビ」(70.6%)、「スマートフォン(けいたい電話)」(69.5%)となっています。

問16 家でのインターネットの利用

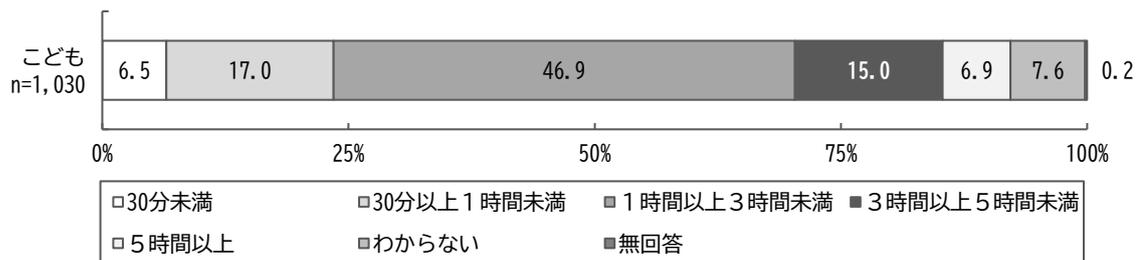


問16-1 インターネット利用に使用している機器

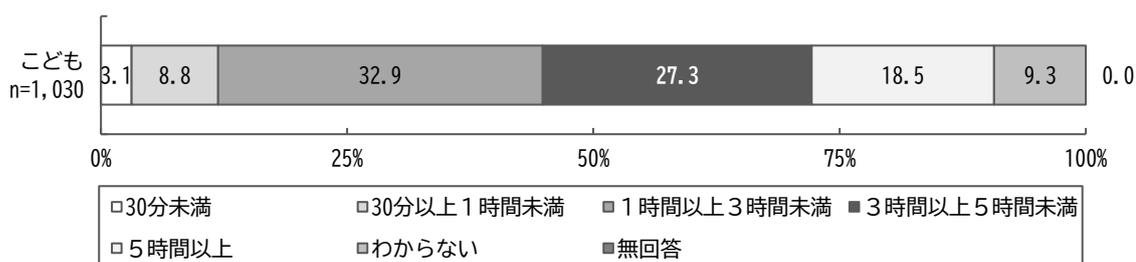


- 平日・休日のインターネット平均利用時間をみると平日では「1時間以上3時間未満」(46.9%)が最も高くなっています。休日は平日よりも利用時間が長く、「3時間以上5時間未満」は27.3%、「5時間以上」は18.5%となっています。
- インターネットを利用して何をしているかについてみると、「動画を見る」(90.6%)が最も高く、次いで「ゲームをする」(82.6%)、「音楽をきく」(71.7%)となっています。

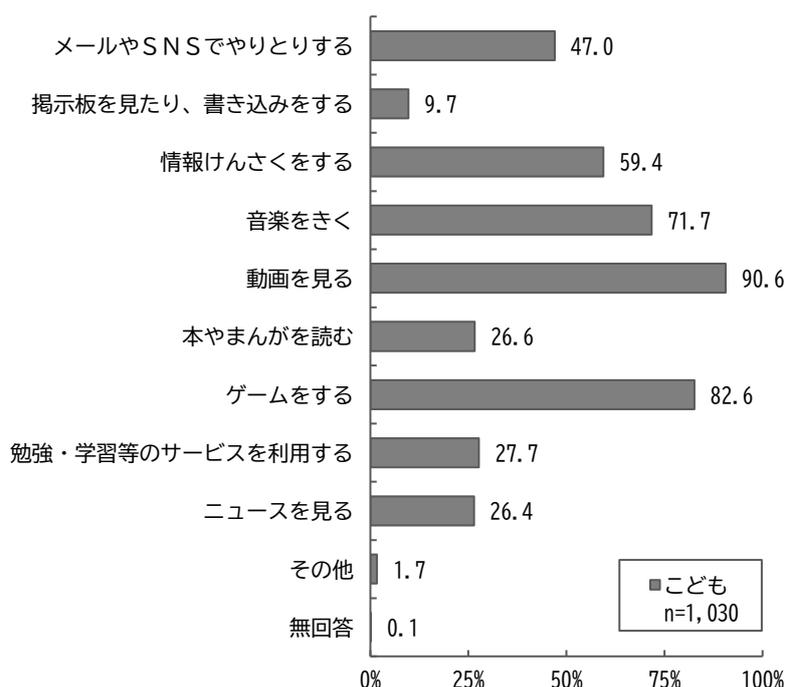
問16-2 平日のインターネット平均利用時間



問16-3 休日のインターネット平均利用時間



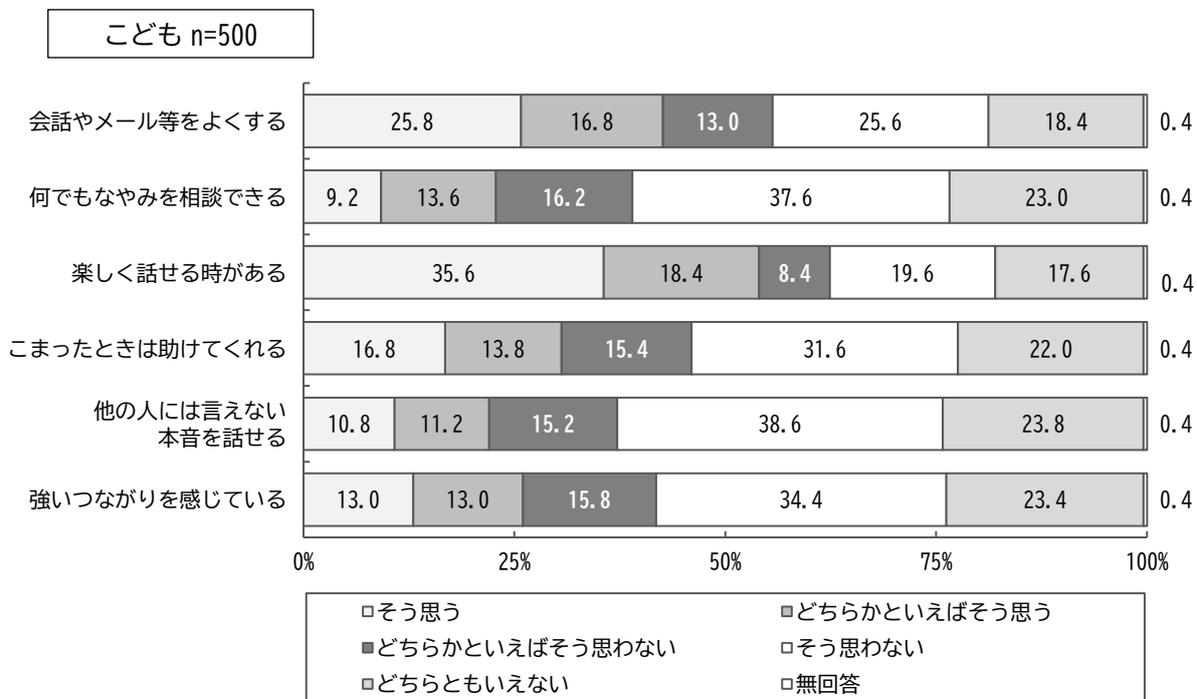
問16-4 インターネットを利用して何をしているか





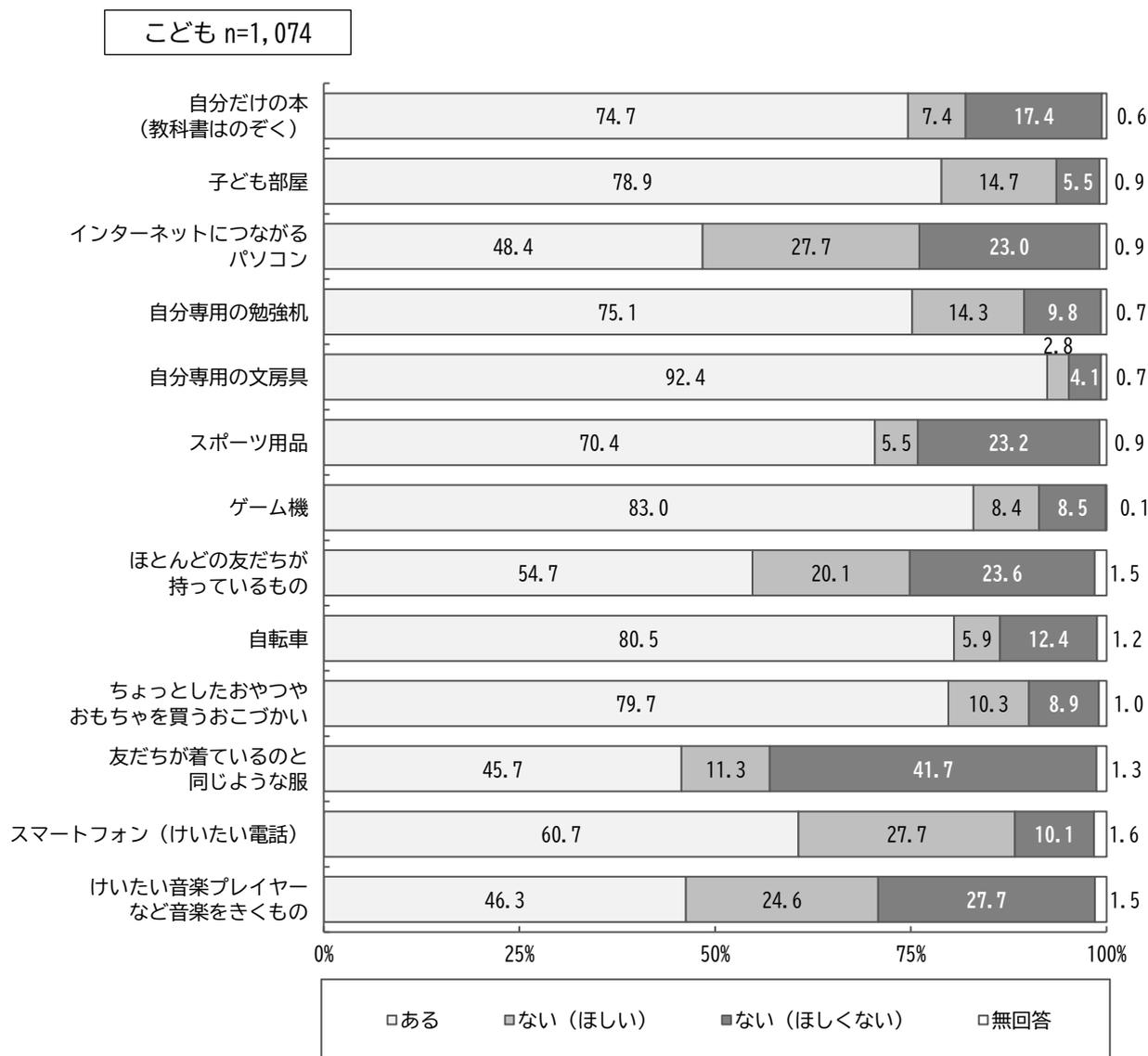
○インターネット上の知り合いやコミュニティとのかかわり方をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると“楽しく話せる時がある”が54.0%で最も高く、次いで“会話やメール等をよくしている”が42.6%となっています。

問16-5 インターネット上の知り合いやコミュニティとのかかわりについて



- こどもからみた持ち物については、もっている持ち物は「自分専用の文房具」(92.4%)が最も高く、次いで「ゲーム機」(82.7%)、「自転車」(80.5%)となっています。
- もっていない(ほしい)ものをみると、「インターネットにつながるパソコン」、「スマートフォン(けいたい電話)」(各27.7%)が最も高くなっています。
- もっていない(ほしくない)ものをみると、「友だちが着ているのと同じような服」(41.7%)が最も高くなっています。

問17 自分で使うことができるもの

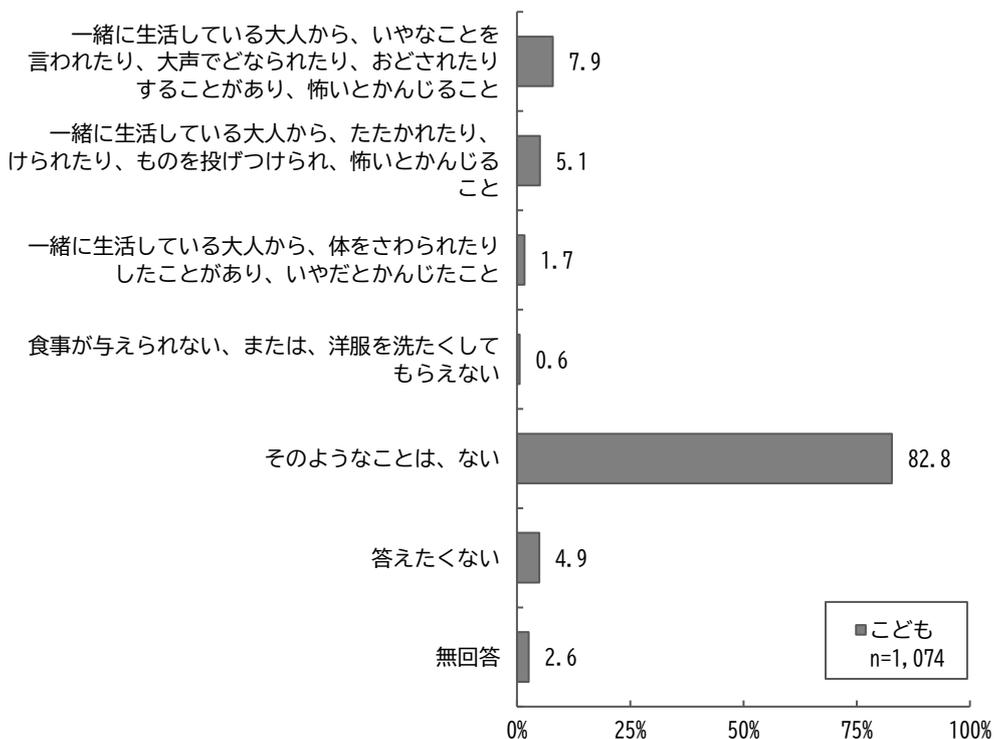




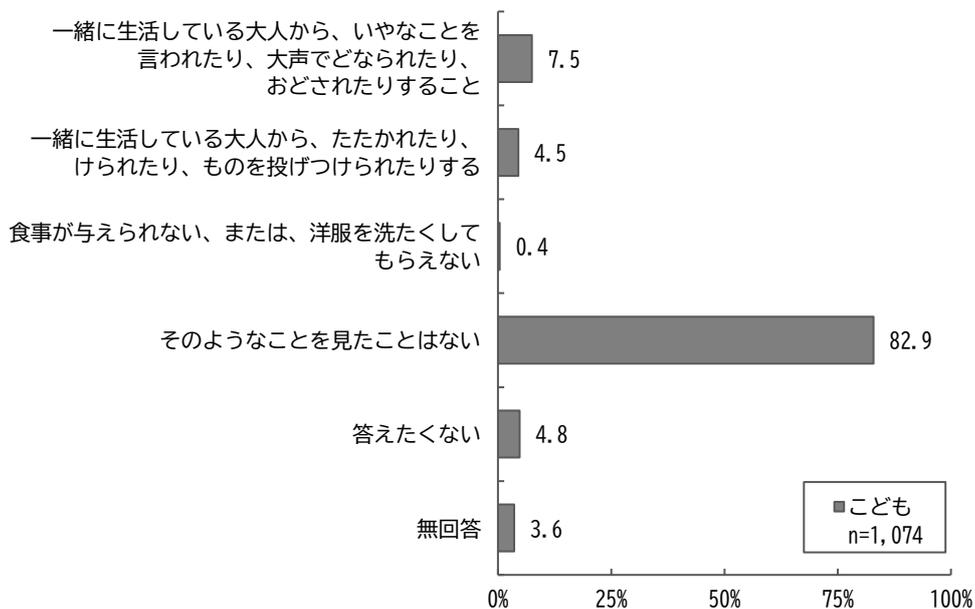
○今までにつぎのようなことがあったかについてみると、「そのようなことは、ない」(82.8%)が最も高くなっています。

○今までにつぎのようなことがあったかについてみると、「そのようなことを見たことはない」(82.9%)が最も高くなっています。

問18 今までにつぎのようなことがあったか



問19 一緒に生活している家族が、つぎのようなことをされることを見たことがあるか

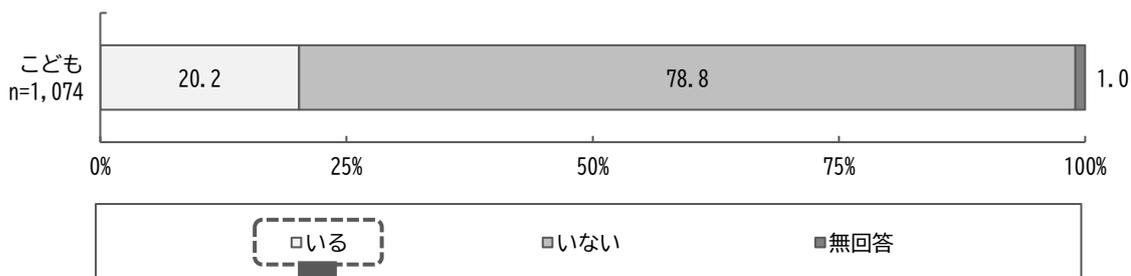


3 家族のお世話について

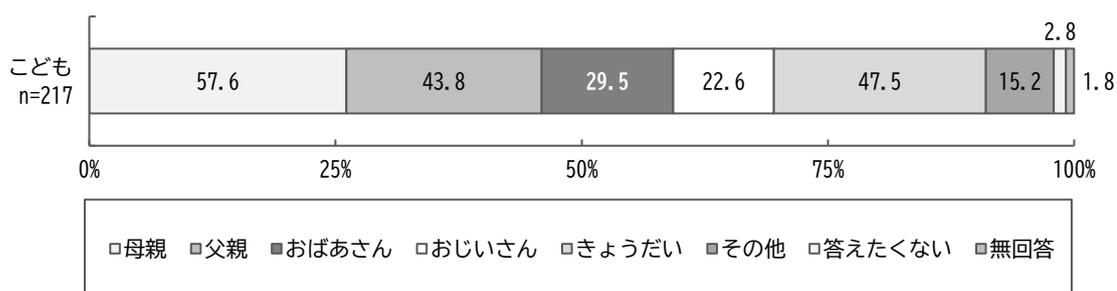
○現在家族の中にあなたがお世話をしている人はいるかについてみると、「いる」が20.2%、「いない」が78.8%となっています。

○お世話を必要としている人についてみると「母親」(57.6%)が最も高く、次いで「きょうだい」(47.5%)となっています。

問20 家族の中にお世話をしている人はいるか



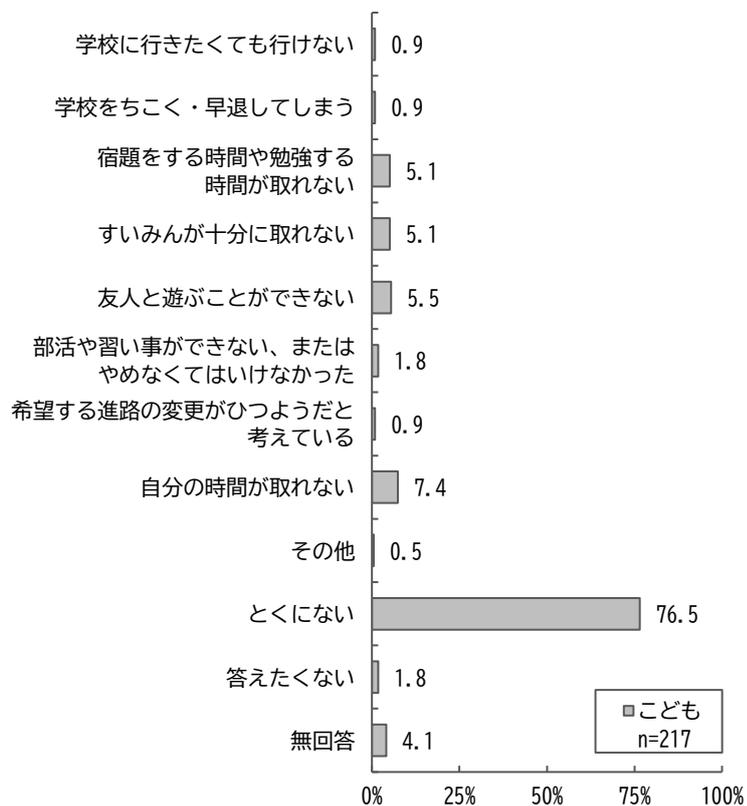
問20-1 お世話を必要としている人



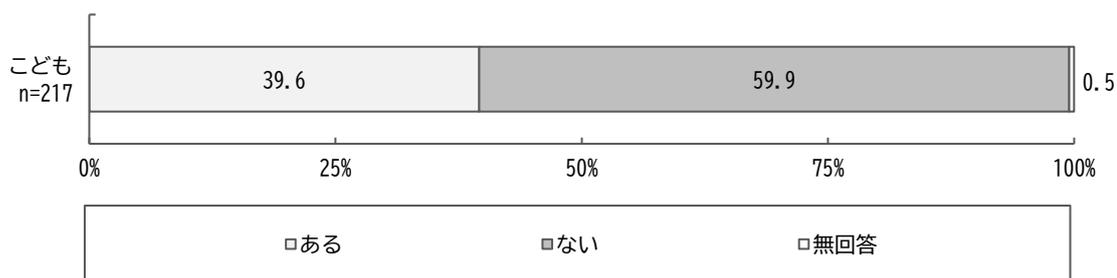


- お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことについてみると「とくにな
ない」(76.5%) が最も高くなっています。
- お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことの有無に
ついてみると、「ある」が39.6%、「ない」が59.9%となっています。

問20-2 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないこと



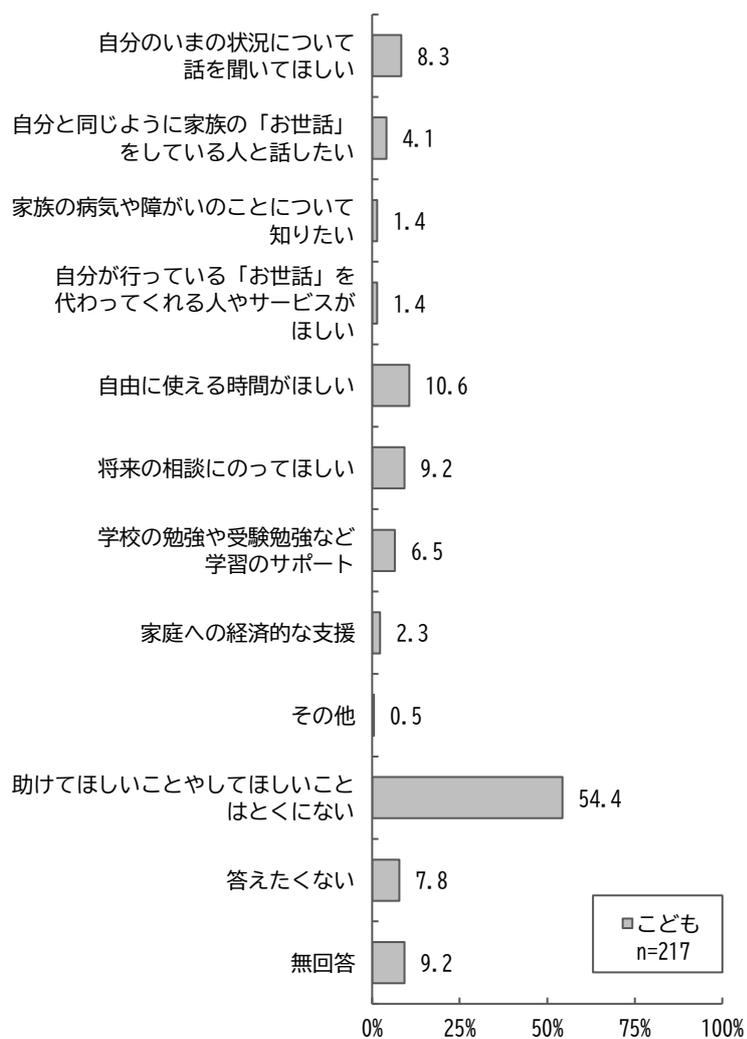
問20-3 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことの有無





○学校や周りの大人に助けてほしいことや、してほしい支援についてみると「助けてほしいことやしてほしいことはとくにない」(54.4%)が最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」(10.6%)、「将来の相談にのってほしい」(9.2%)となっています。一方で、「答えたくない」は7.8%となっています。

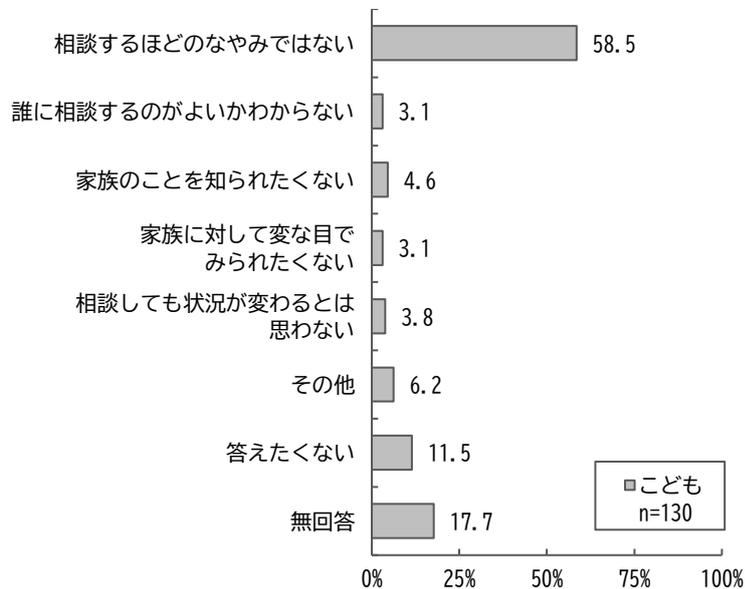
問20-4 学校や周りの大人に助けてほしいことや、してほしい支援





○相談していない理由についてみると、「相談するほどの悩みではない」(58.5%)が最も高くなっています。一方で、「答えたくない」は11.5%となっています。

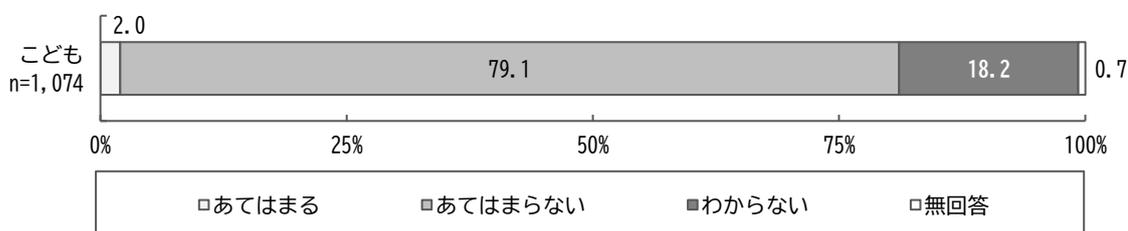
問21 相談していない理由



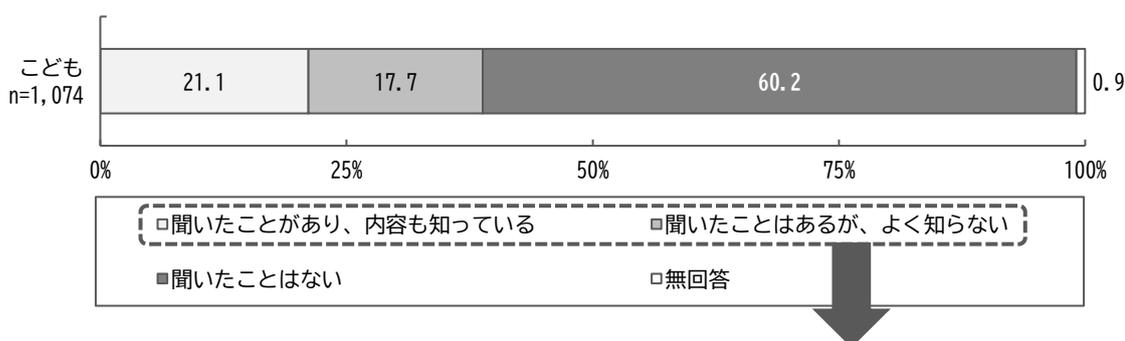
4 ヤングケアラーについて

- 自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うかについてみると、「あてはまる」が2.0%、「あてはまらない」が79.1%、「わからない」が18.2%となっています。
- 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかについてみると、「聞いたことはない」(60.2%)が最も高く、次いで「聞いたことがあり、内容も知っている」(21.1%)となっています。
- 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったかについてみると、「テレビや新聞、ラジオ」(67.1%)が最も高く、次いで「SNSやインターネット」(32.6%)、「学校」(22.8%)、となっています。

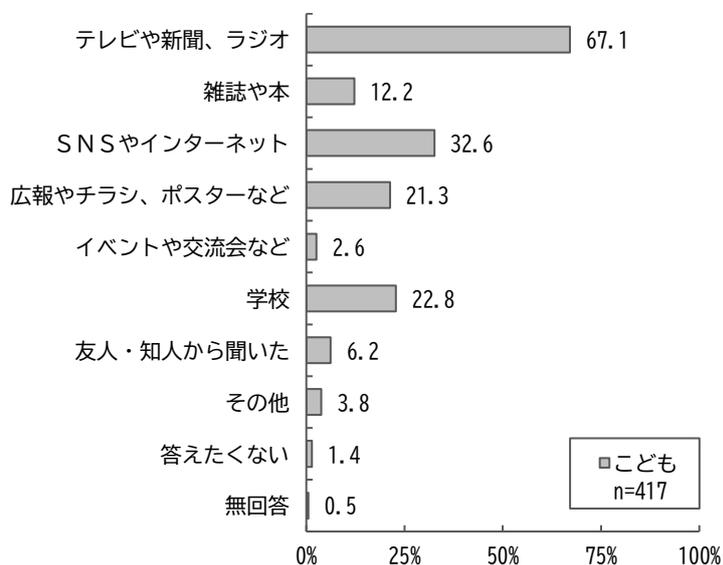
問22 「ヤングケアラー」にあてはまると思うか



問23 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるか



問23-1 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか



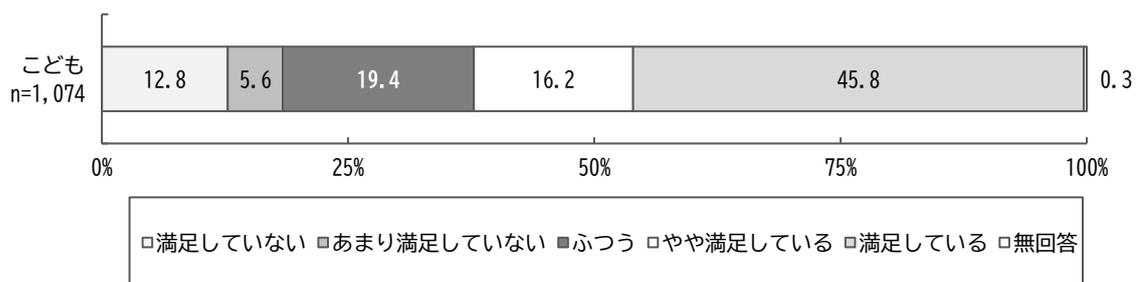


5 その他について

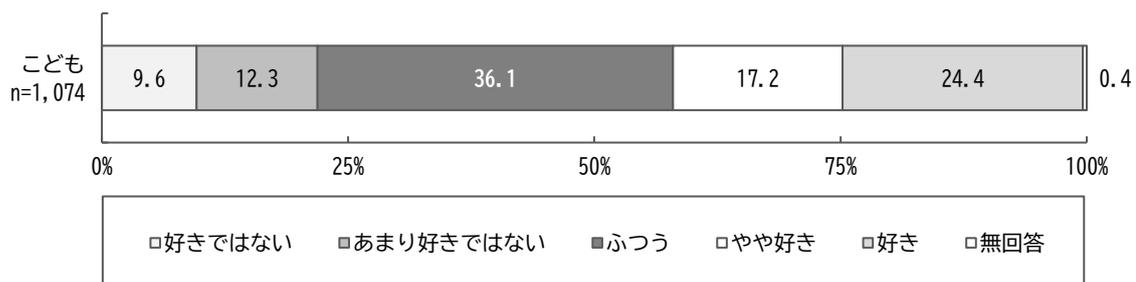
○今の生活に満足しているかみると、「満足している」(45.8%)が最も高く、次いで「ふつう」(19.4%)となっています。

○今の自分が好きかみると、「ふつう」(36.1%)が最も高く、次いで「好き」(24.4%)となっています。

問24 今の生活に満足しているか



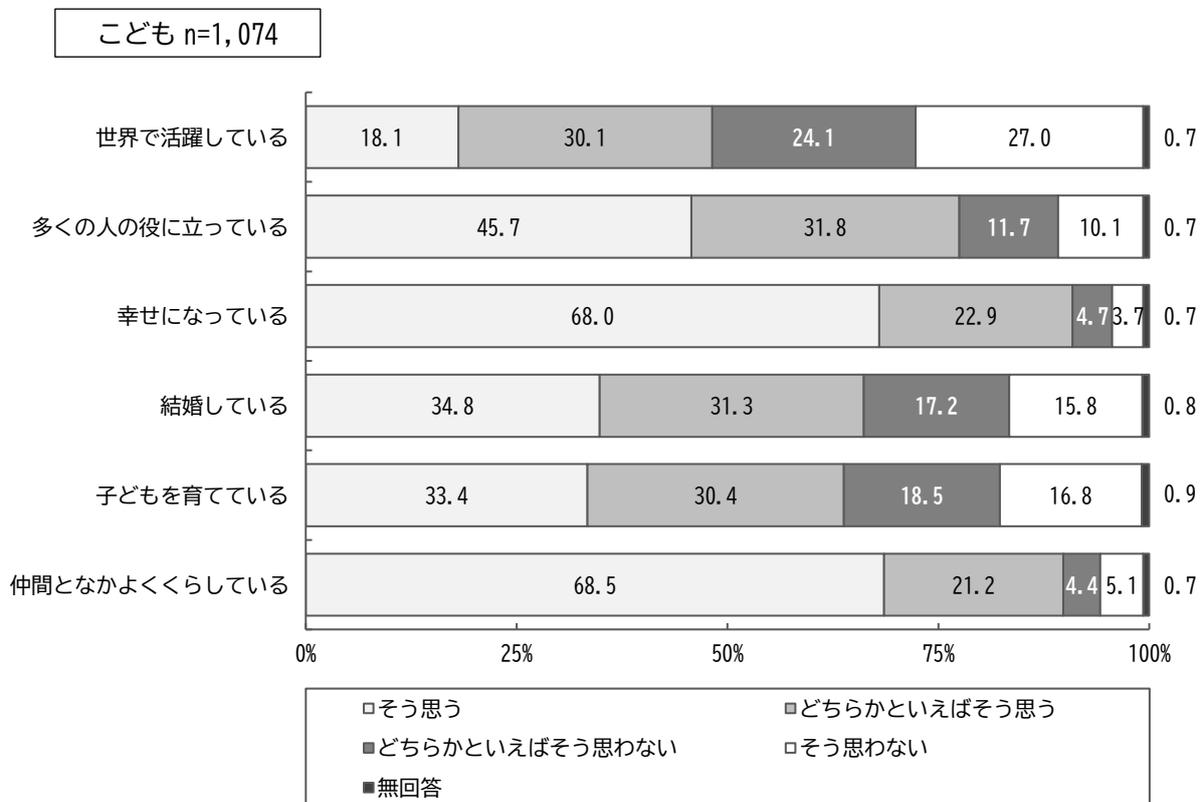
問25 今の自分が好きか





○大人になったとき、どのようになっているかみると、「そう思う」と「どちらかといえ
ばそう思う」を合わせると“幸せになっている”が90.9%で最も高く、次いで“仲
間と仲良く暮らしている”が89.7%となっています。

問26 大人になったとき、どのようになっているか



第7章

若者調査結果

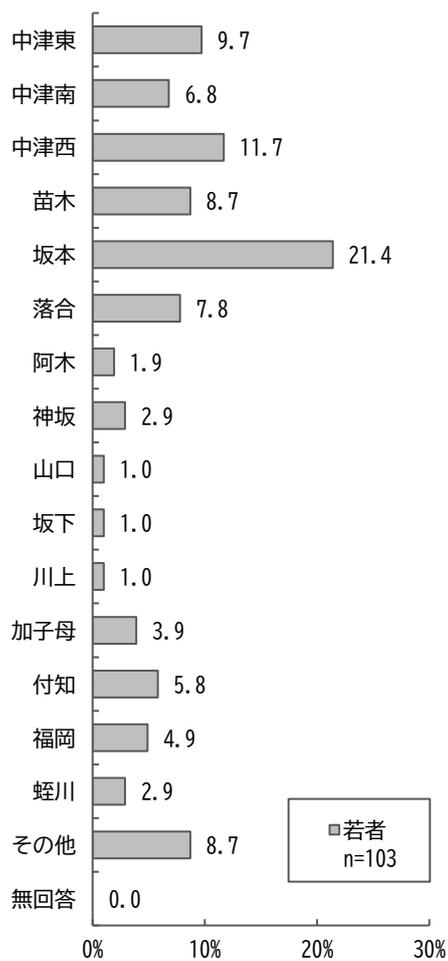
第7章 若者調査結果

1 若者調査回答者の属性

(1) 居住地域の状況

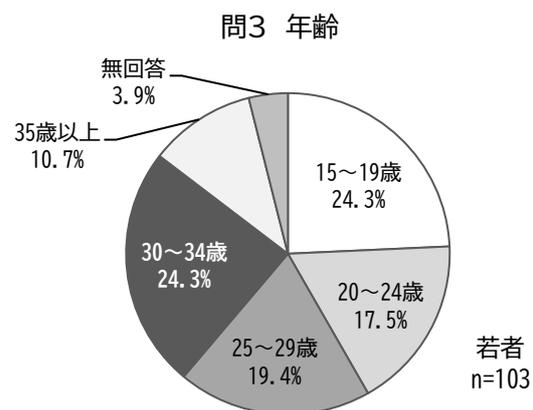
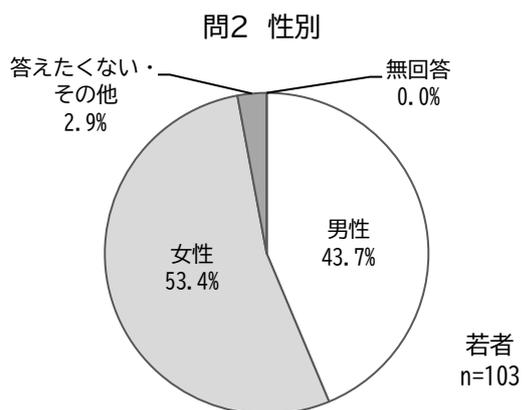
○回答者が居住する学校区は、以下のとおりです。

問1 居住学区



(2) 回答者の属性

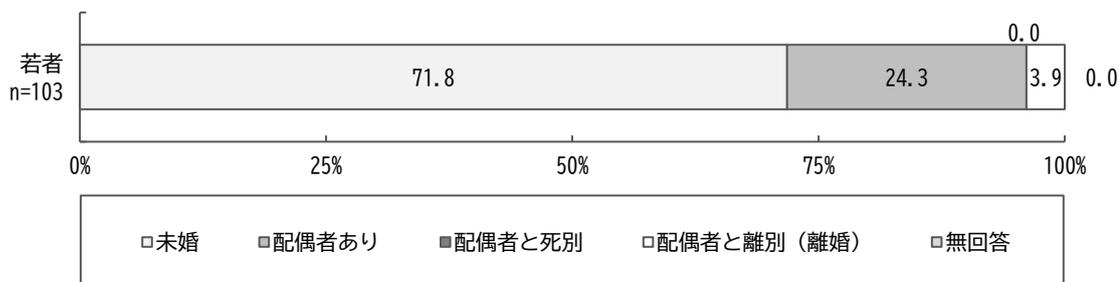
○回答者の属性は、以下のとおりです。



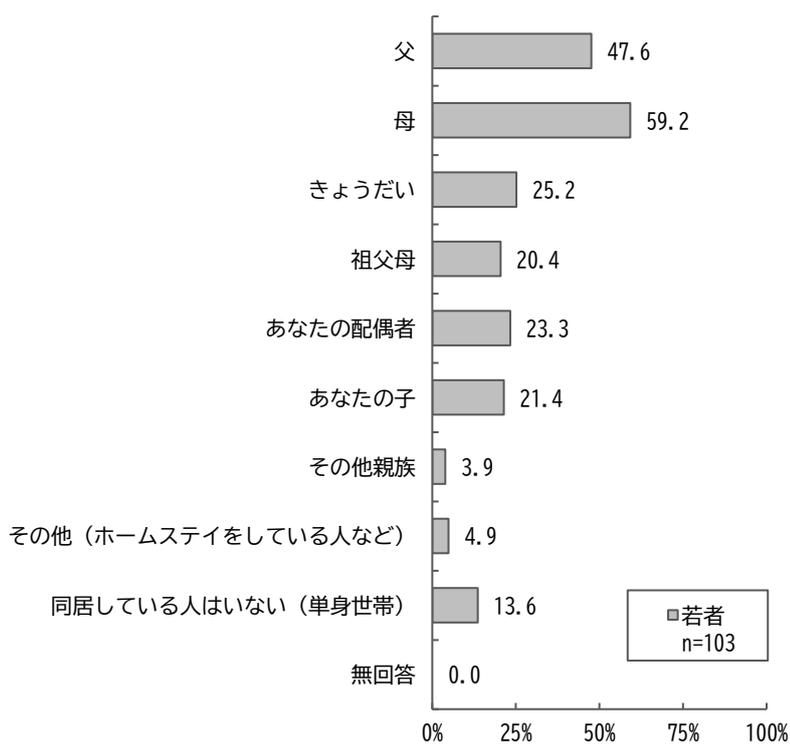


- 婚姻状況をみると、「未婚」(71.8%)が最も高く、次いで「配偶者あり」(24.3%)、「配偶者と離別(離婚)」(3.9%)となっています。
- 同居者をみると、「母」(59.2%)が最も高く、次いで「父」(47.6%)、「きょうだい」(25.2%)、「あなたの配偶者」(23.3%)、「あなたの子」(21.4%)となっています。

問4 婚姻状況



問5 同居者

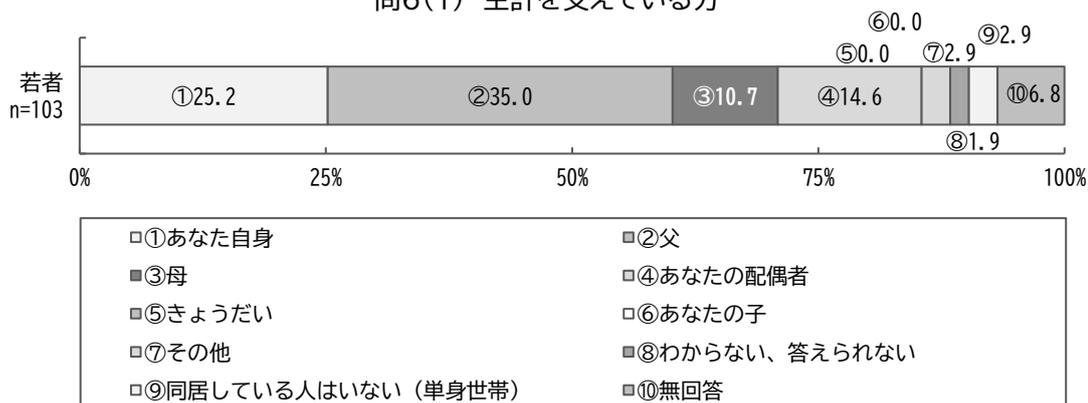


(3) 暮らしの状況

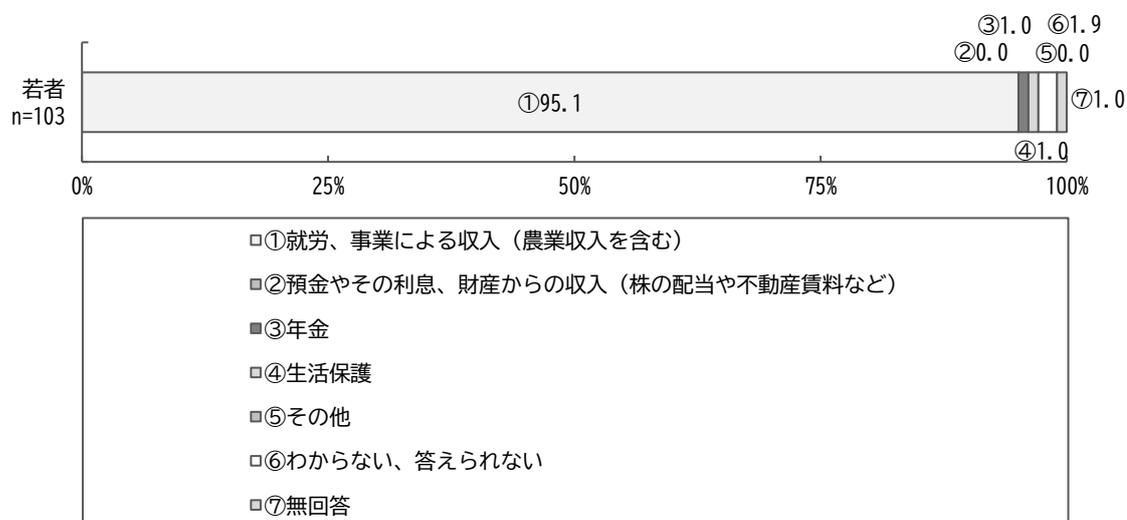
○生計を支えている方をみると、「父」(35.0%)が最も高く、次いで「あなた自身」(25.2%)、「あなたの配偶者」(14.6%)、「母」(10.7%)となっています。

○生計を支えている方の主な収入源をみると、「就労、事業による収入(農業収入を含む)」が95.1%で最も高くなっています。

問6(1) 生計を支えている方



問6(2) 生計を支えている方の主な収入源

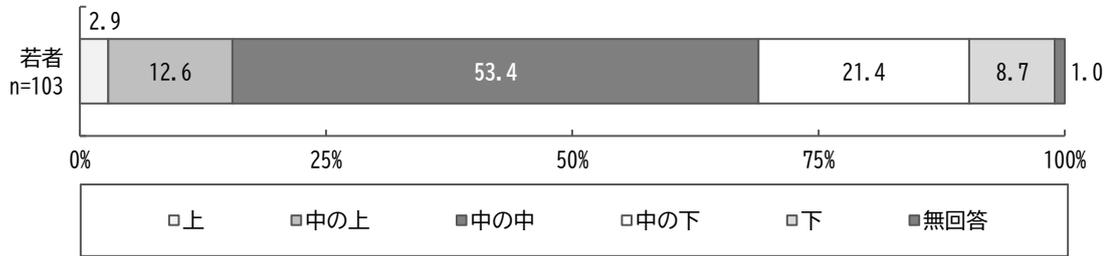


中津川市



○暮らし向き（生活水準）についてみると、「中の中」（53.4%）が最も高く、次いで「中
の下」（21.4%）、「中の上」（12.6%）となっています。

問7 暮らし向き(生活水準)

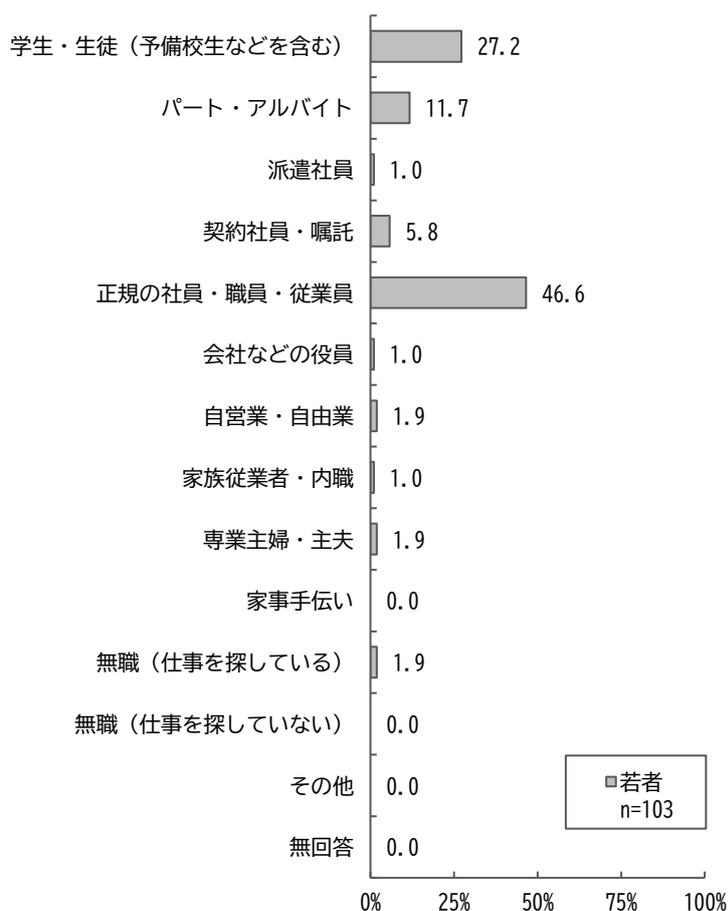


(4) 現在の就労状況

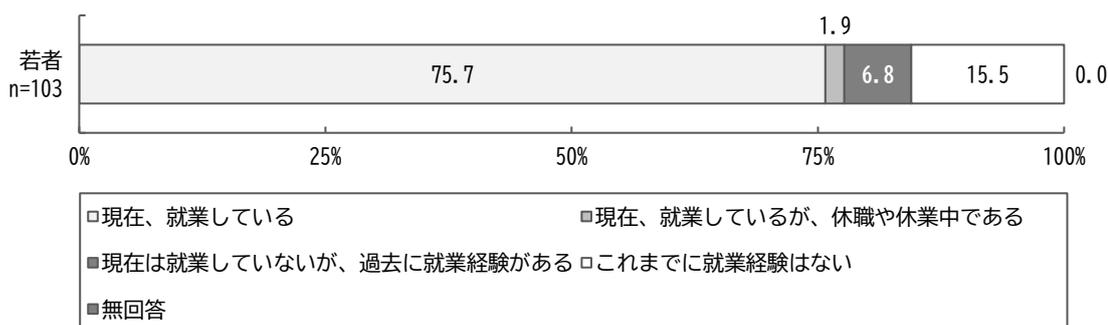
○現在の就労状況をみると、「正規の社員・職員・従業員」(46.6%)が最も高く、次いで「学生・生徒(予備校生などを含む)」(27.2%)、「パート・アルバイト」(11.7%)となっています。

○終業経験をみると、「現在、就業している」(75.7%)が最も高く、次いで「これまでに就業経験はない」(15.5%)、「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」(6.8%)となっています。

問8 現在の就労状況



問9 就業経験





2 日頃の意識と生活について

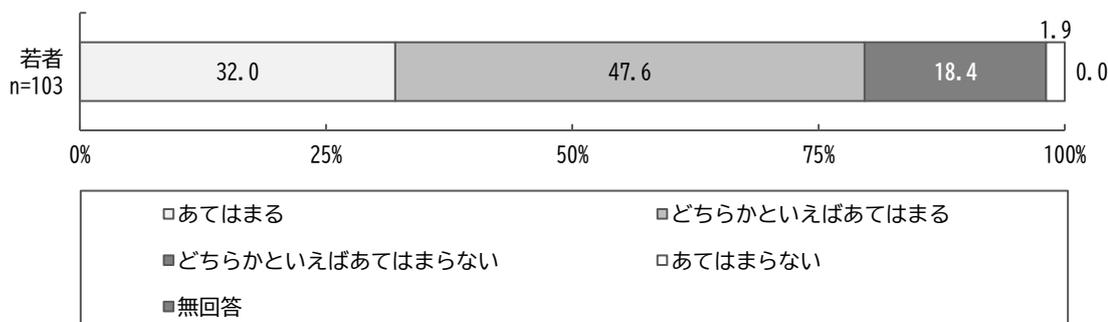
(1) 日頃の意識について

○自分らしさというものがあると思うかについて、「どちらかといえばあてはまる」(47.6%) が最も高く、次いで「あてはまる」(32.0%)、「どちらかといえばあてはまらない」(18.4%) となっています。

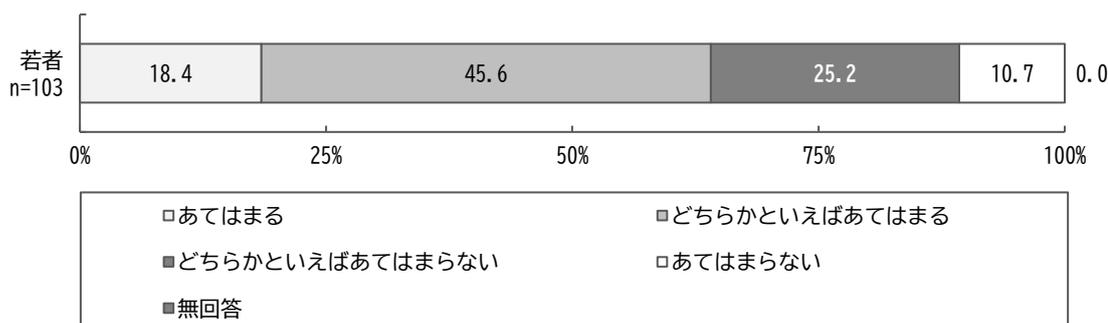
○今の自分が好きだと思うかでは、「どちらかといえばあてはまる」(45.6%) が最も高く、次いで「どちらかといえばあてはまらない」(25.2%)、「あてはまる」(18.4%) となっています。

○自分が幸せだと思うかでは、「どちらかといえばそう思う」(47.6%) が最も高く、次いで「そう思う」(36.9%)、「どちらかといえばそう思わない」(10.7%) となっています。

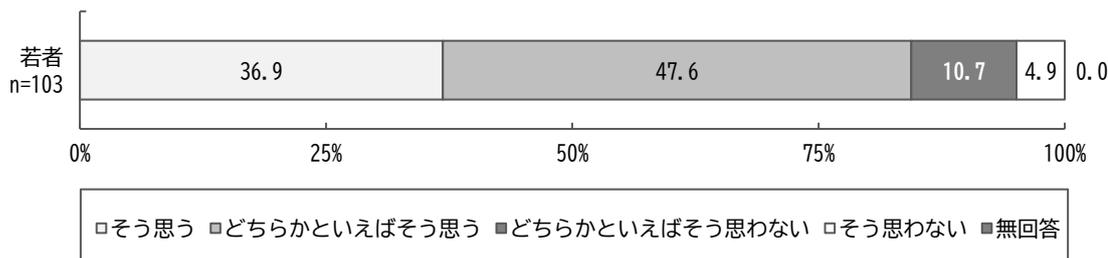
問10(1) 自分らしさというものがあると思う



問10(2) 今の自分が好きだ



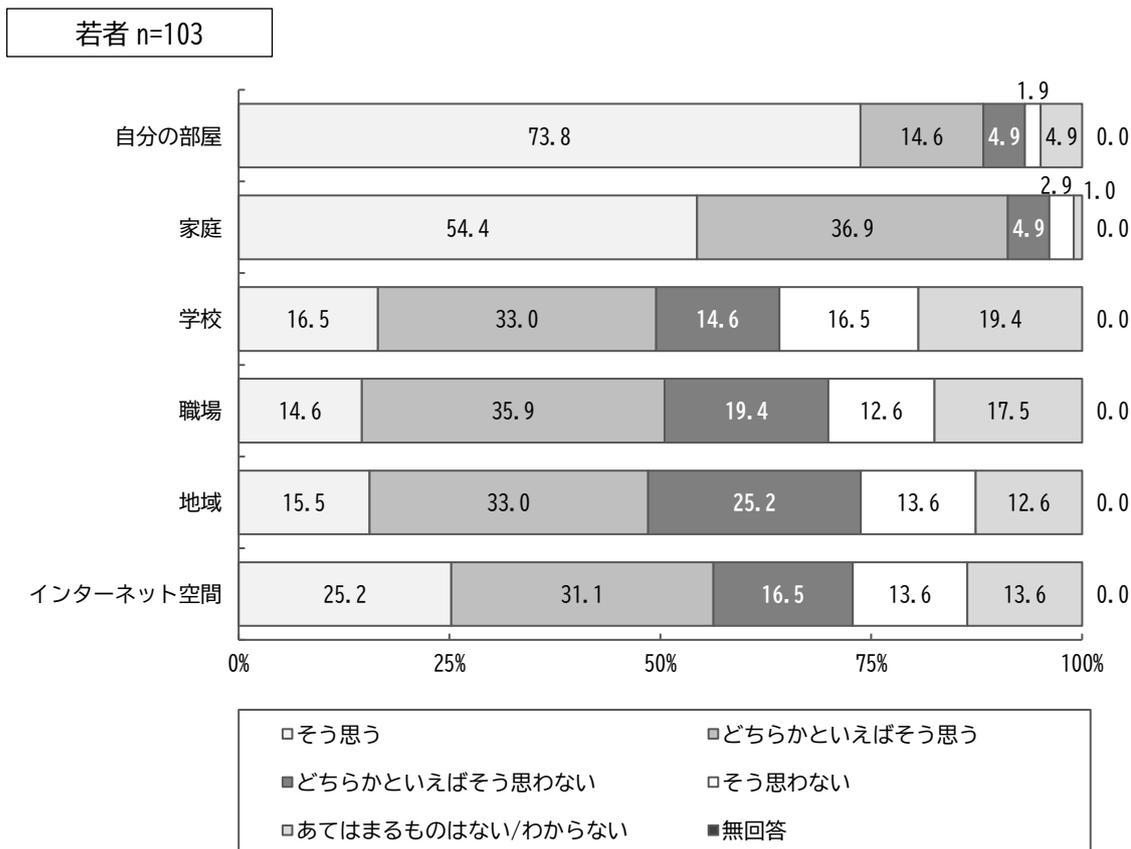
問11 自分が幸せだと思いますか



(2) 居場所やかかわりについて

○居心地のよい居場所をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると“家庭”（91.3%）が最も高く、次いで“自分の部屋”（88.4%）、“インターネット空間”（56.3%）となっています。

問12 それぞれの居場所は居心地がよいと思いますか

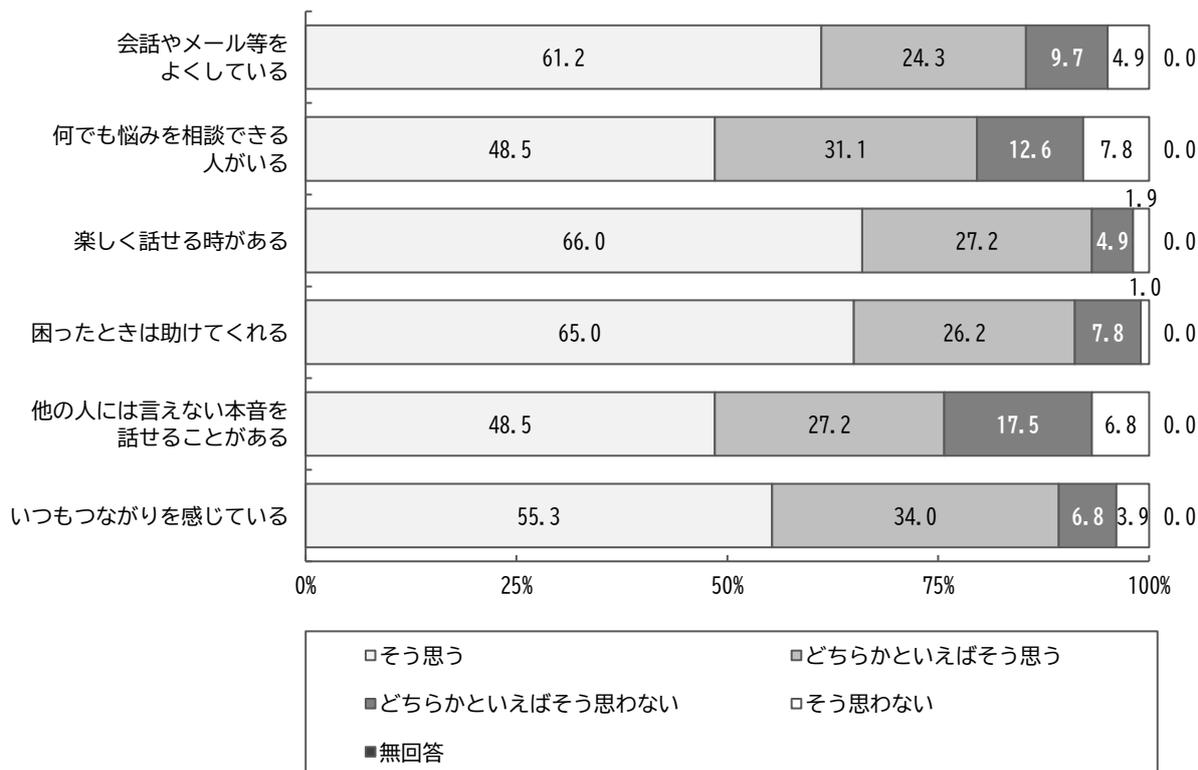




○家族・親族とのかかわり方をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると“楽しく話せる時がある”（93.2%）が最も高く、次いで“困ったときは助けてくれる”（91.2%）、“いつもつながりを感じている”（89.3%）となっています。

問13 家族・親族とのかかわり方

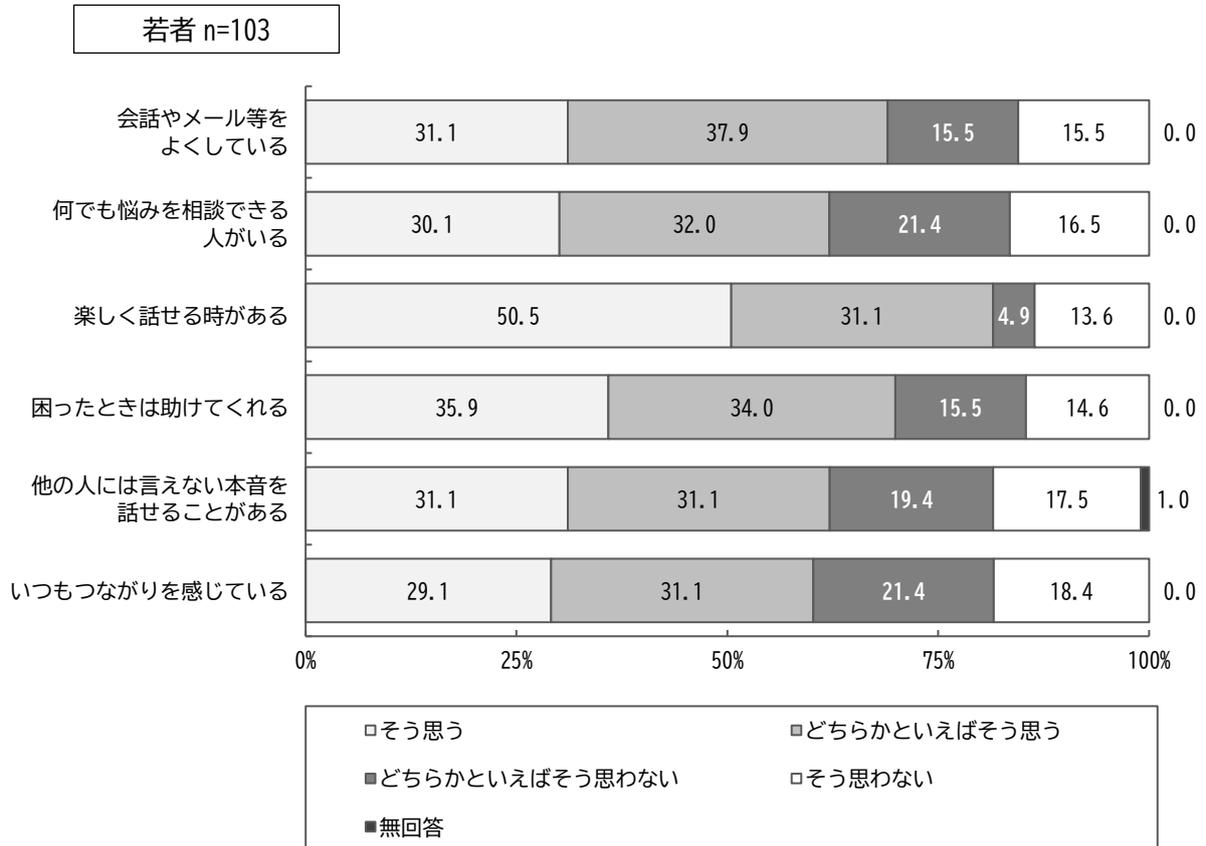
若者 n=103





○学校で出会った友達や先生との現在のかかわり方をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると“楽しく話せる時がある”(81.6%)が最も高く、次いで“困ったときは助けてくれる”(69.9%)、“会話やメール等をよくしている”(69.0%)となっています。

問14 学校で出会った友達や先生との現在のかかわり方

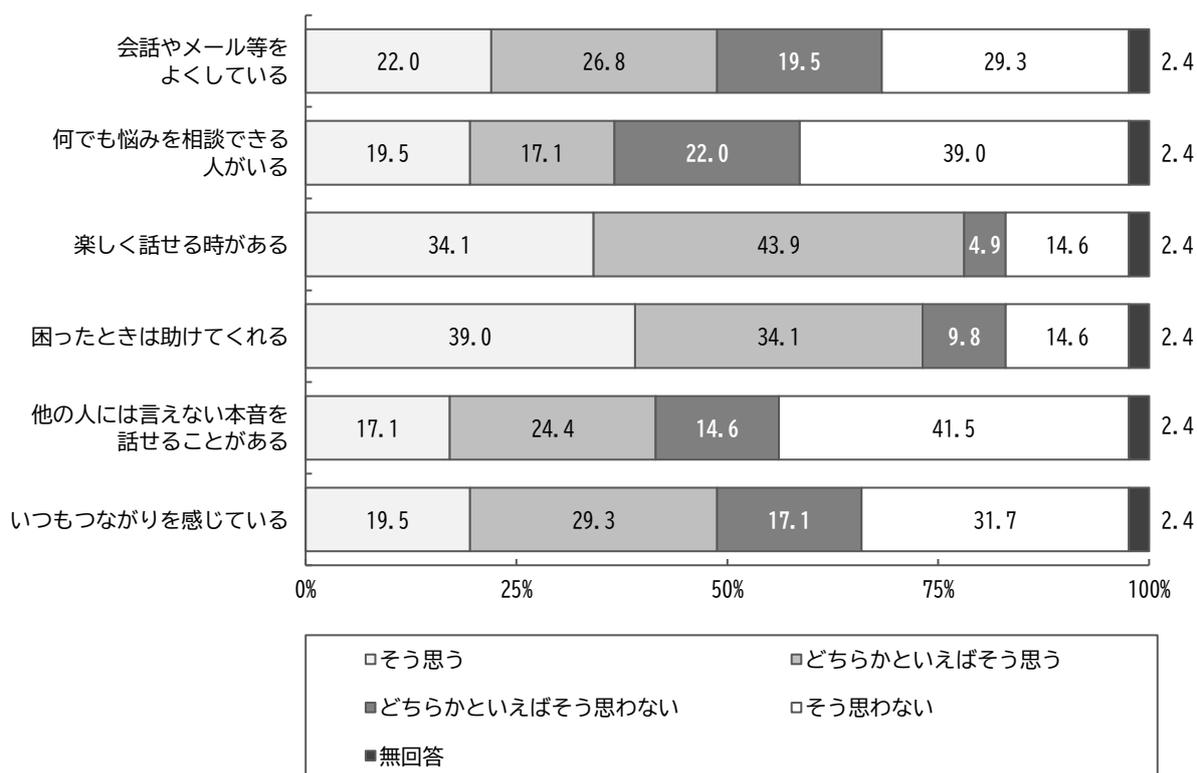




○職場・アルバイト関係の人との現在のかかわり方をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると“楽しく話せる時がある”（78.0%）が最も高く、次いで“困ったときは助けてくれる”（73.1%）、“会話やメール等をよくしている”“いつもつながりを感じている”（各48.8%）となっています。

問15 職場・アルバイト関係の人との現在のかかわり方

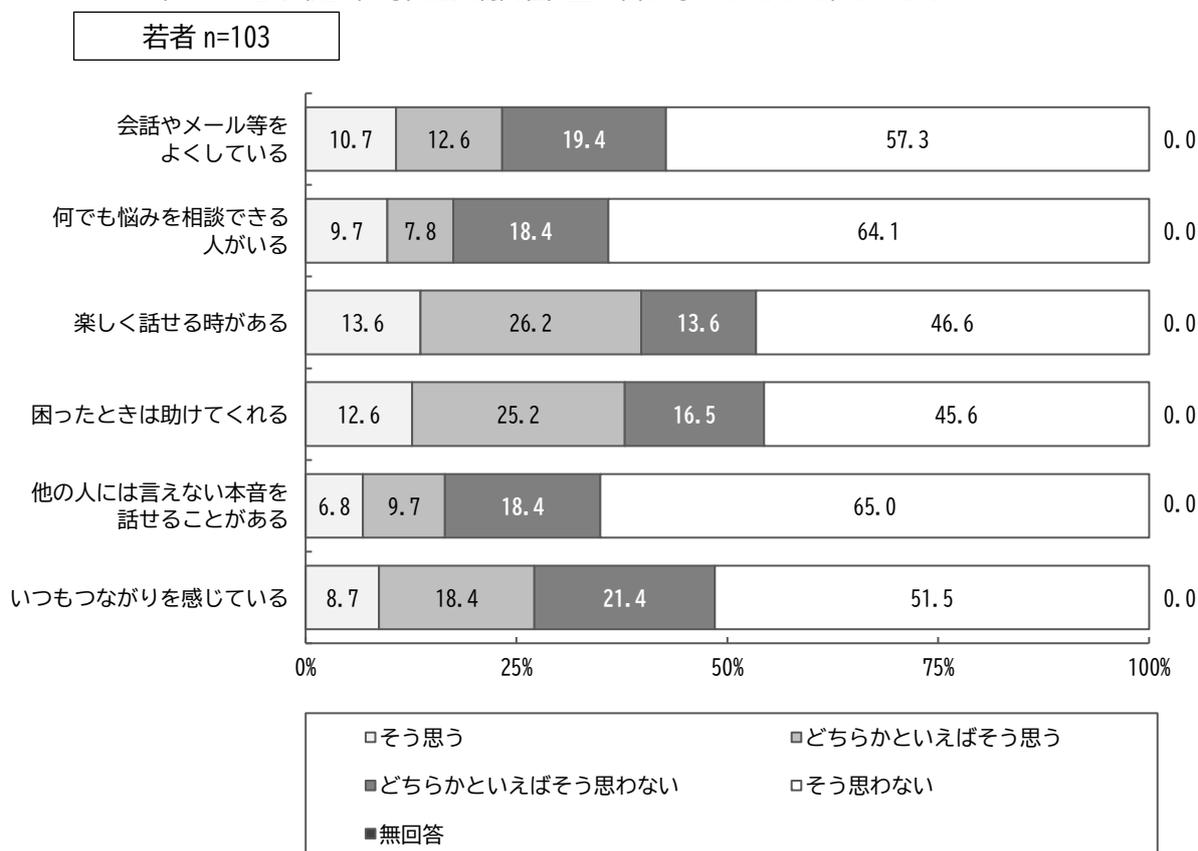
若者 n=41





○地域（近所・町内会・消防団・塾や習い事・NPOなど）とのかかわり方をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると“楽しく話せる時がある”（39.8%）が最も高く、次いで“困ったときは助けてくれる”（37.8%）、“いつもつながりを感じている”（各27.1%）となっています。

問16 地域(近所・町内会・消防団・塾や習い事・NPOなど)とのかかわりについて

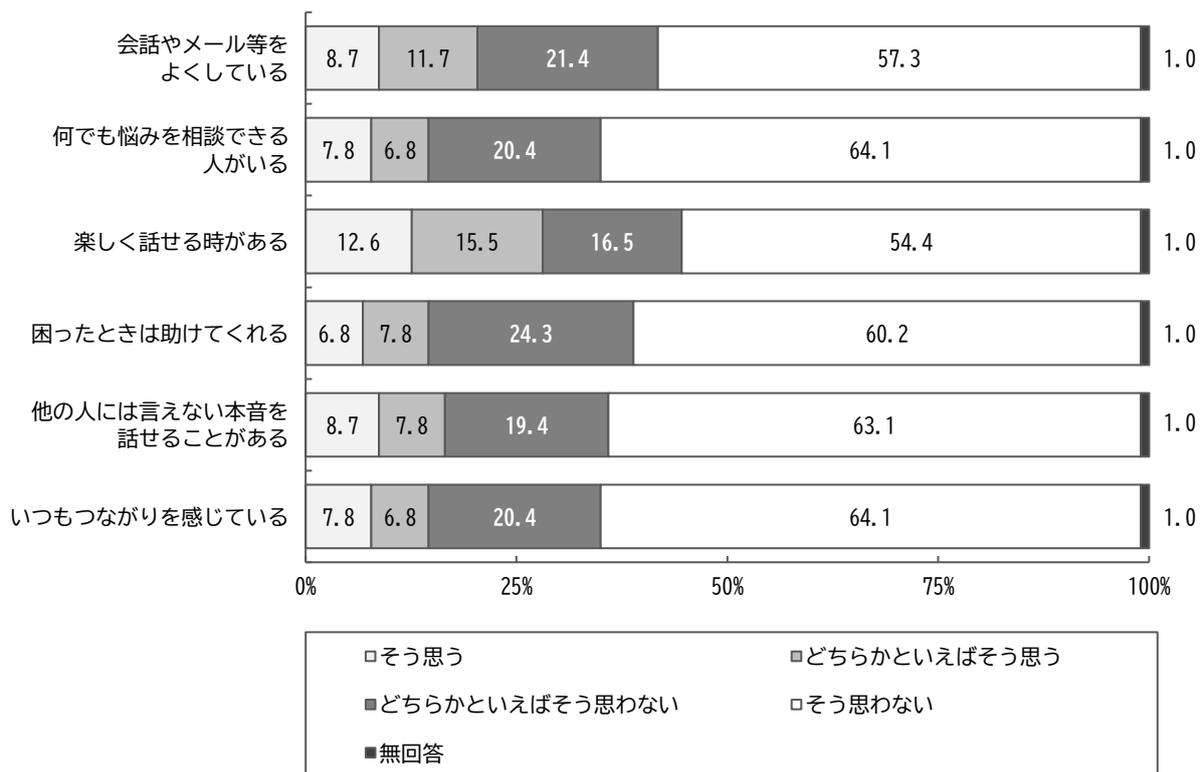




○インターネット上の知り合いやグループとのかかわり方をみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると“楽しく話せる時がある”（28.1%）が最も高く、次いで“会話やメール等をよくしている”（20.4%）、“他の人には言えない本音を話せることがある”（16.5%）となっています。

問17 インターネット上の知り合いやグループとのかかわりについて

若者 n=103

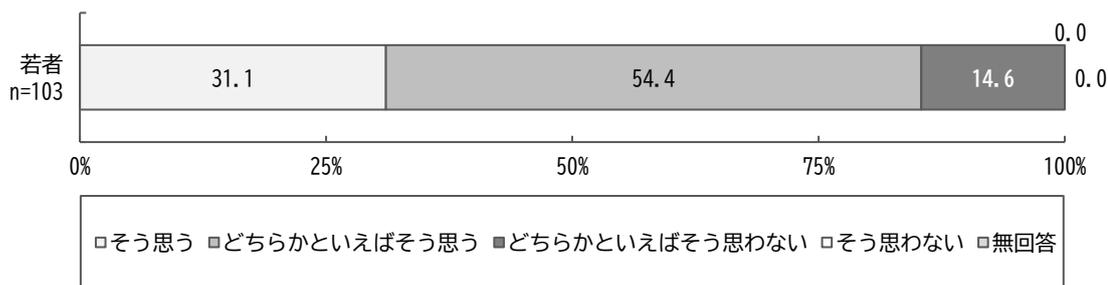


(3) 将来について

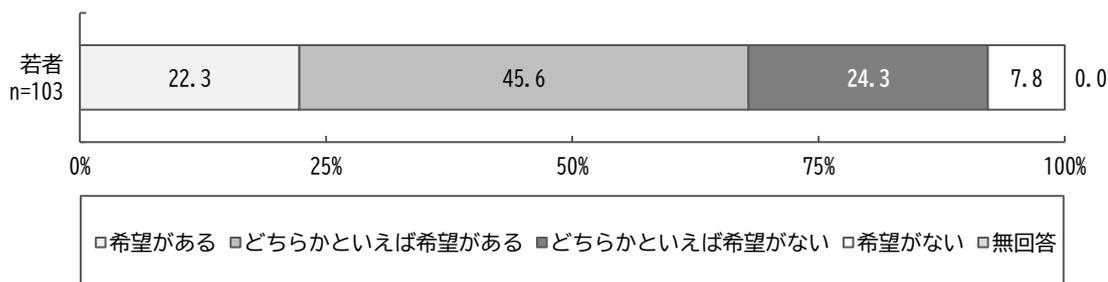
○「社会のために役立つことをしたい」と思うかについて、「どちらかといえばそう思う」(54.4%)が最も高く、次いで「そう思う」(31.1%)となっています。

○自分の将来について明るい希望を持っているかについて、「どちらかといえば希望がある」(45.6%)が最も高く、次いで「どちらかといえば希望がない」(24.3%)、「希望がある」(22.3%)となっています。

問18 「社会のために役立つことをしたい」と思いますか



問19 自分の将来について明るい希望を持っていますか

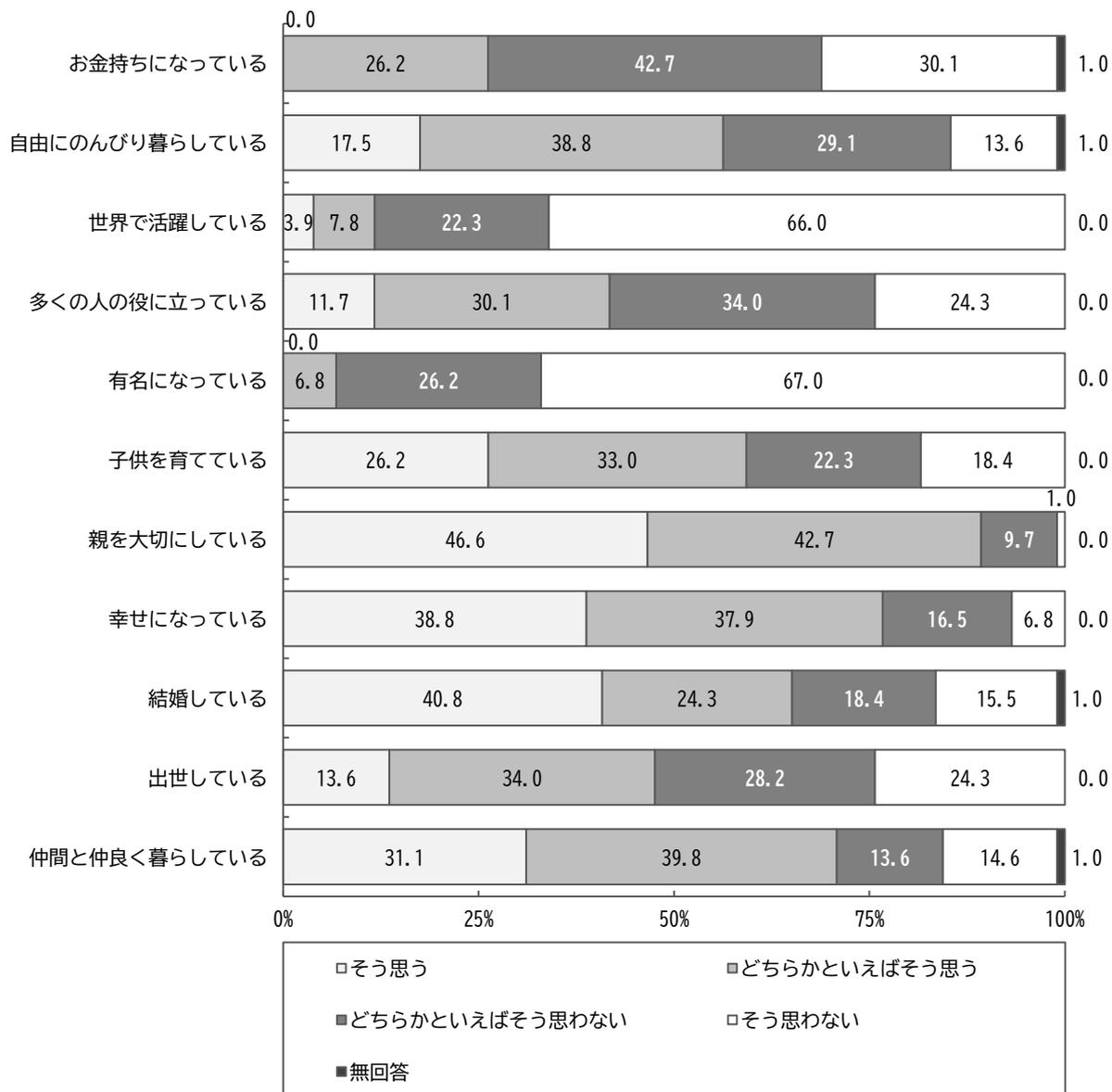




○20年後のすがたについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると“親を大切にしている”（89.3%）が最も高く、次いで“幸せになっている”（76.7%）、“仲間と仲良く暮らしている”（70.9%）となっています。

問20 20年後のすがた

若者 n=103

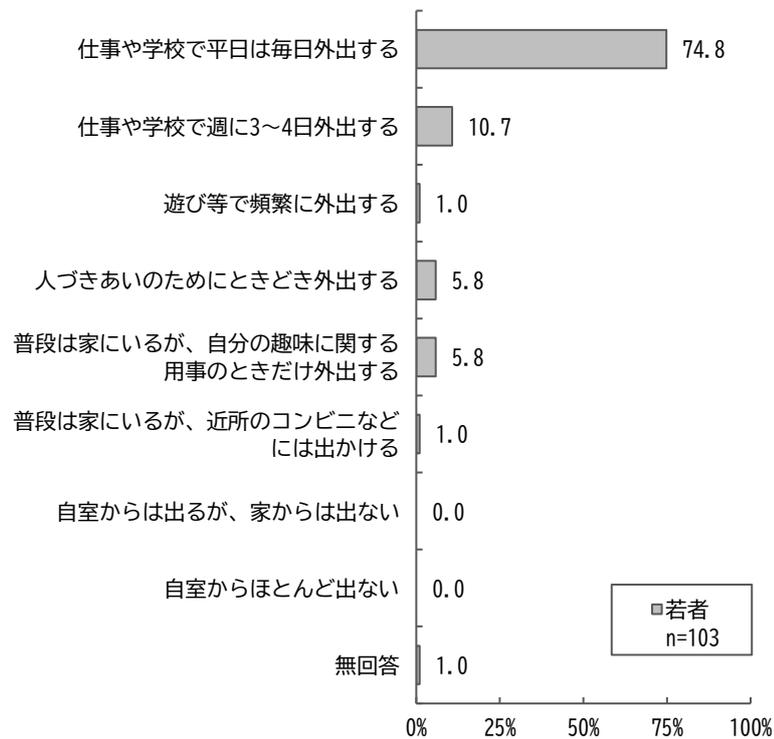


(4) 生活について

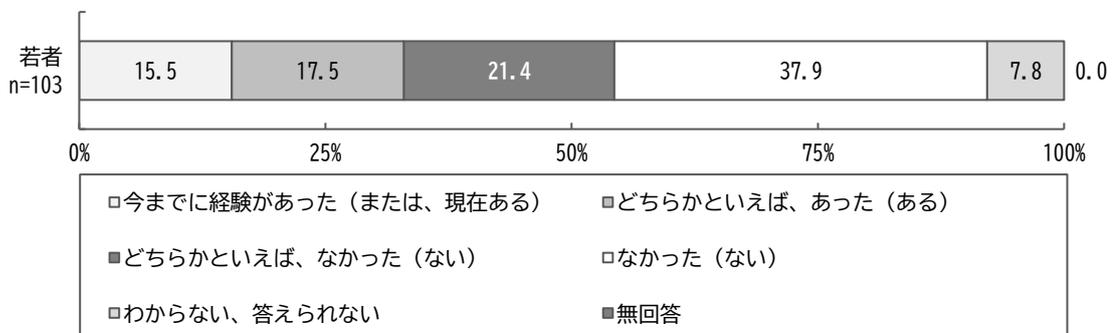
○現在の外出状況をみると、「仕事や学校で平日は毎日外出する」(74.8%)が最も高く、次いで「仕事や学校で週に3~4日外出する」(10.7%)となっています。

○社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況(今までの経験含む)について、「なかった(ない)」(37.9%)が最も高く、次いで「どちらかといえば、なかった(ない)」(21.4%)、「どちらかといえば、あった(ある)」(17.5%)、「今までに経験があった(または、現在ある)」(15.5%)となっています。

問21 現在の外出状況



問22 社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況(今までの経験含む)

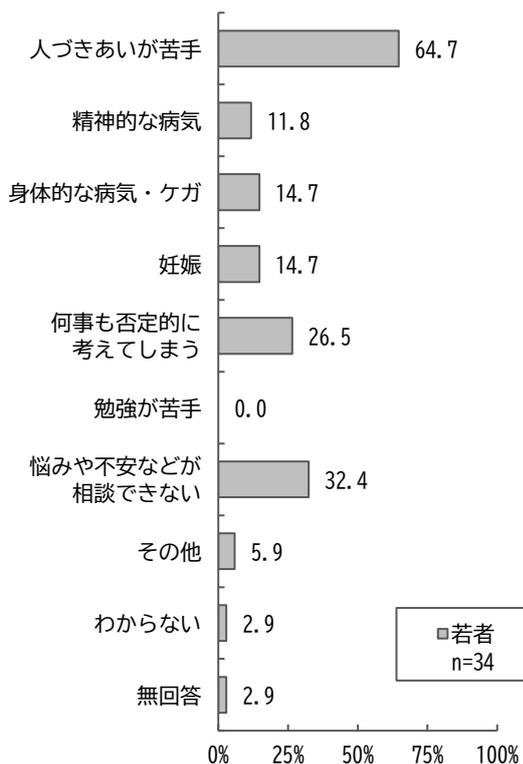




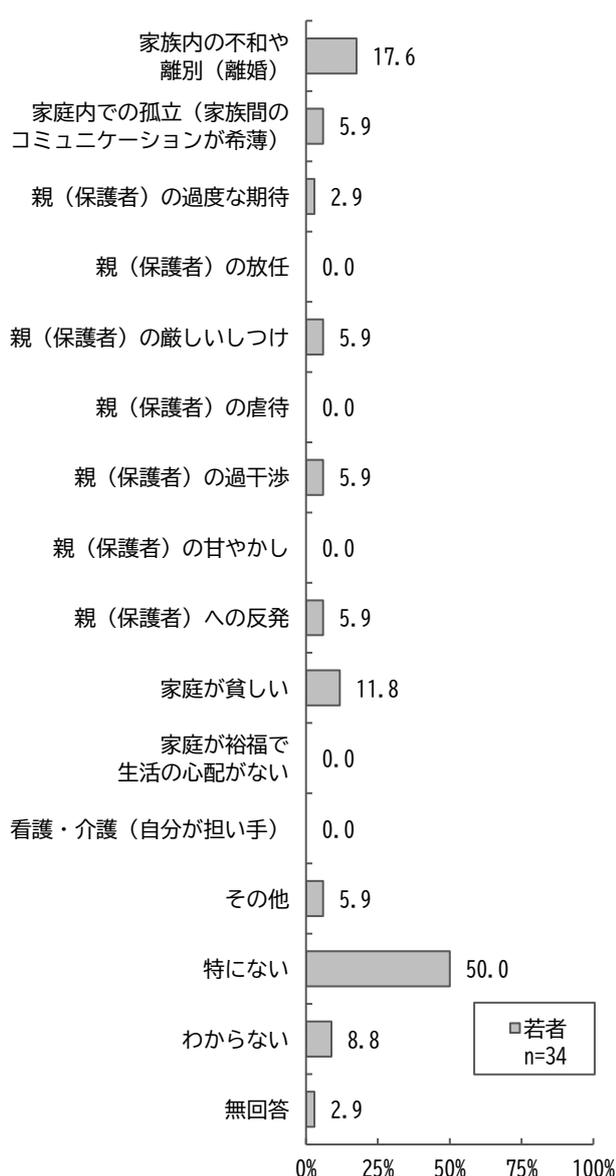
○社会生活や日常生活を円滑に送れていない原因をみると、自分自身については、「人づきあいが苦手」(64.7%)が最も高く、次いで「悩みや不安などが相談できない」(32.4%)、「何事も否定的に考えてしまう」(26.5%)となっています。

家族・家庭については、「特にない」(50.0%)が最も高く、次いで「家族内の不和や離別(離婚)」(17.6%)、「家庭が貧しい」(11.8%)となっています。

(1)自分自身について



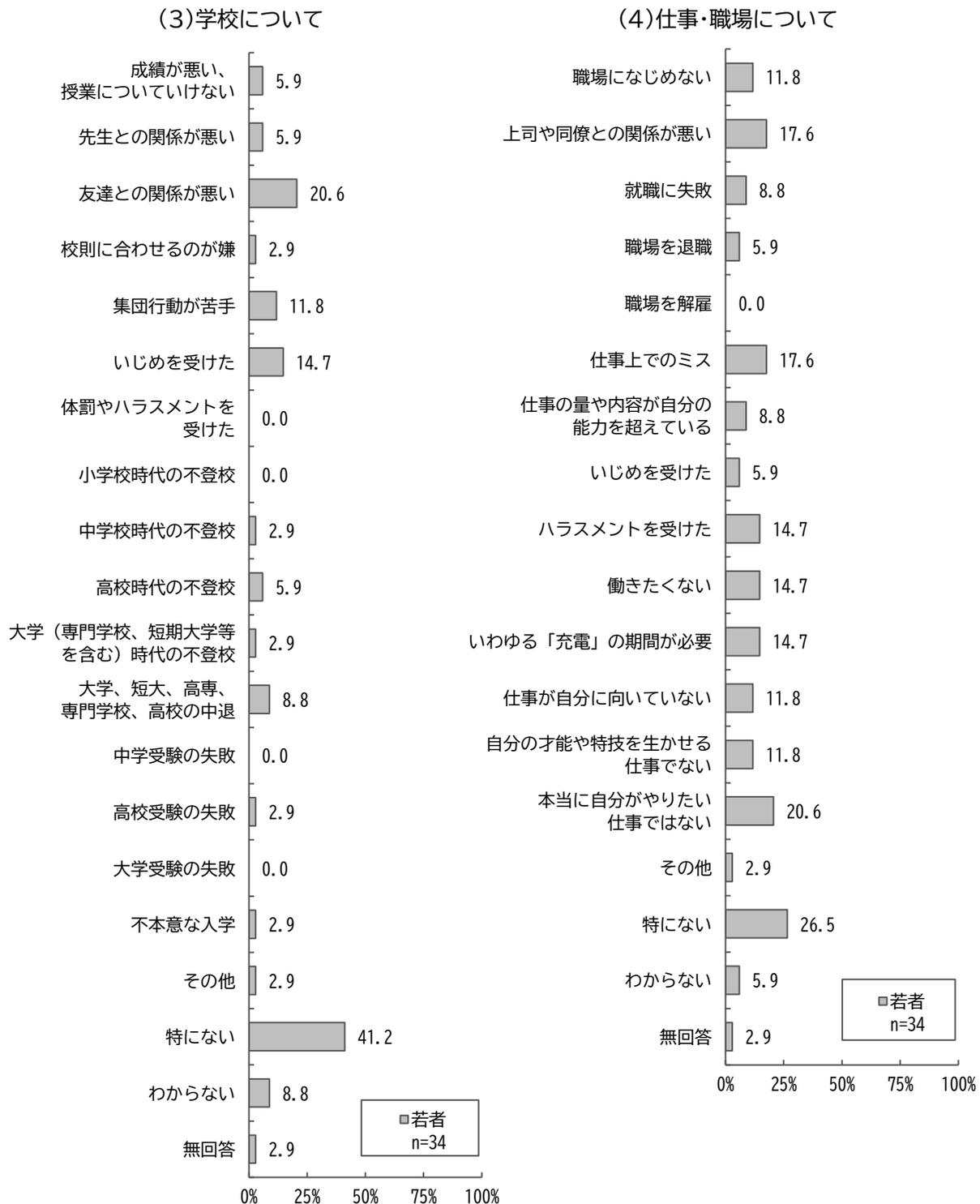
(2)家族・家庭について



○社会生活や日常生活を円滑に送れていない原因をみると、学校については、「特にない」(41.2%)が最も高く、次いで「友達との関係が悪い」(20.6%)、「いじめを受けた」(14.7%)となっています。

仕事・職場については、「特にない」(26.5%)が最も高く、次いで「本当に自分がやりたい仕事ではない」(20.6%)、「上司や同僚との関係が悪い」「仕事上でのミス」(各17.6%)となっています。

問23 社会生活や日常生活を円滑に送れていない原因

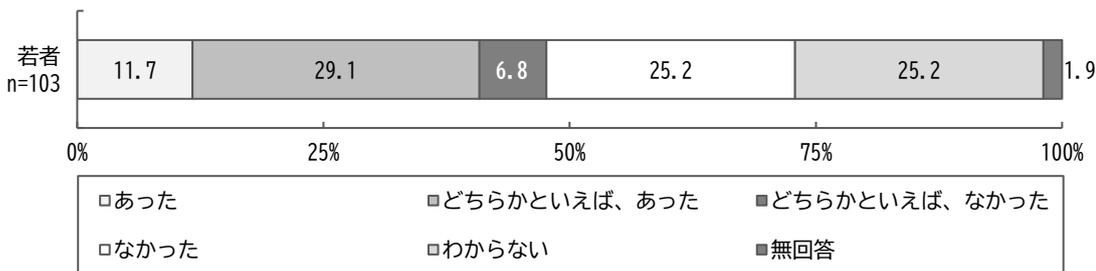




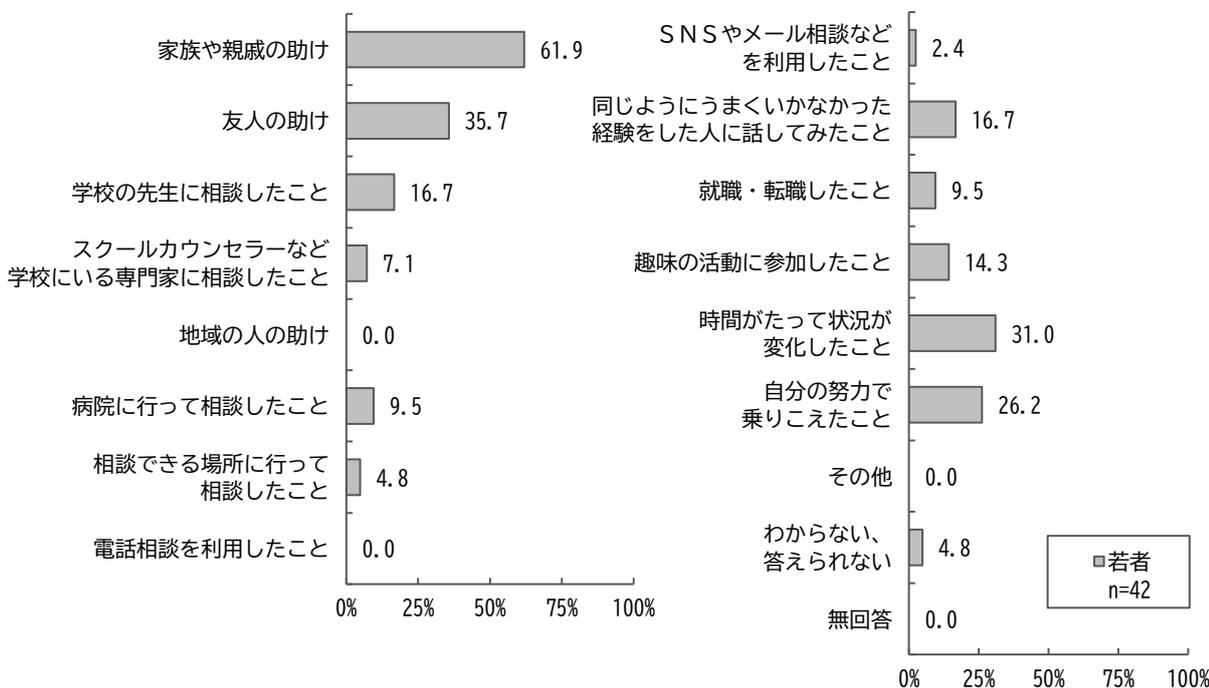
○社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況が改善した経験をみると、「どちらかといえば、あった」(29.1%)が最も高く、次いで「なかった」「わからない」(各25.2%)となっています。

○社会生活や日常生活を円滑に送れていない状態が改善したきっかけをみると、「家族や親戚の助け」(61.9%)が最も高く、次いで「友人の助け」(35.7%)、「時間がたって状況が変化したこと」(31.0%)、「自分の努力で乗り越えたこと」(26.2%)となっています。

問24 社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況が改善した経験

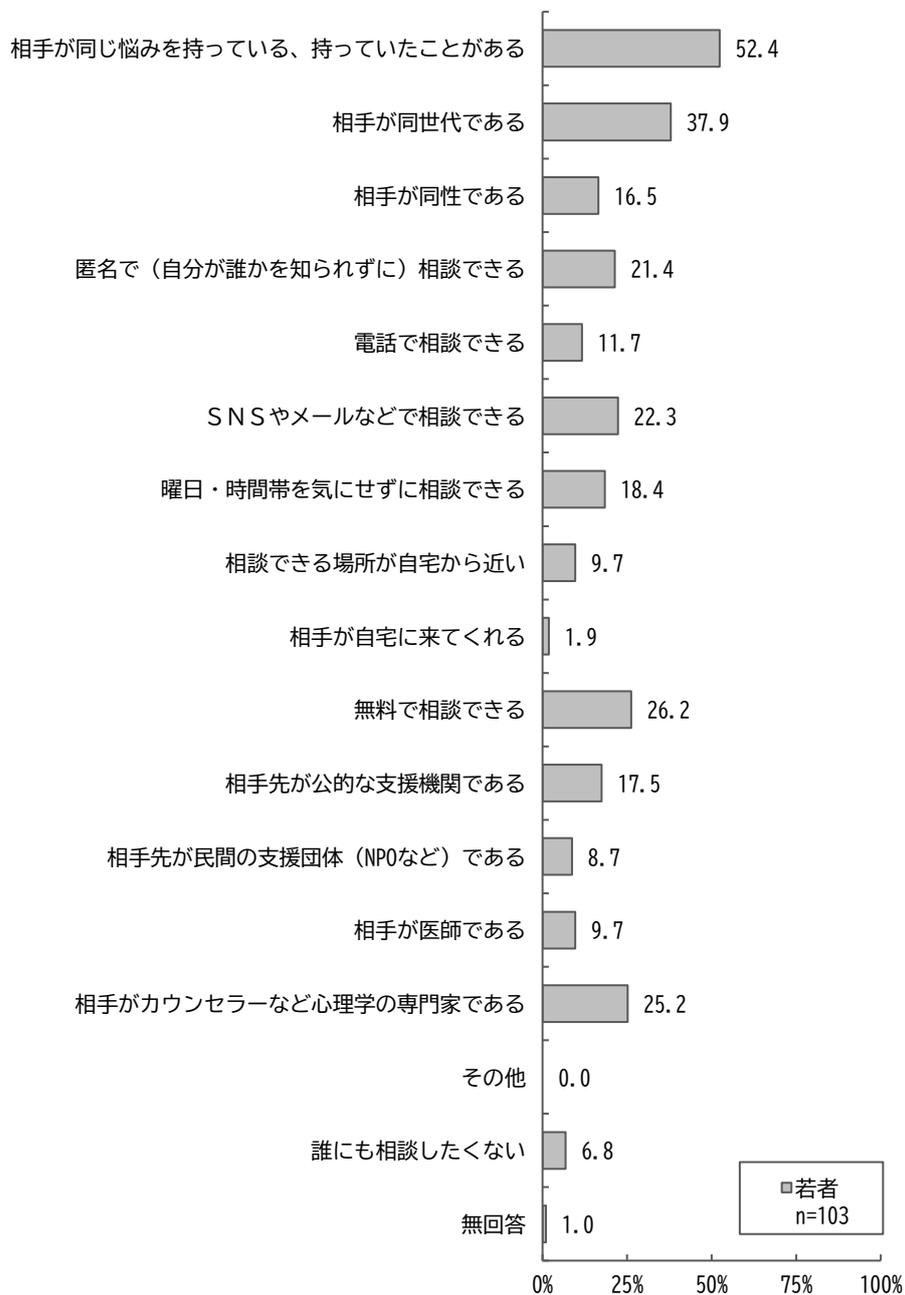


問25 社会生活や日常生活を円滑に送れていない状態が改善したきっかけ



○社会生活や日常生活を円滑に送れない状態となったときの家族や知り合い以外の相談先をみると、「相手と同じ悩みを持っている、持っていたことがある」(52.4%)が最も高く、次いで「相手と同世代である」(37.9%)、「無料で相談できる」(26.2%)、「相手がカウンセラーなど心理学の専門家である」(25.2%)となっています。

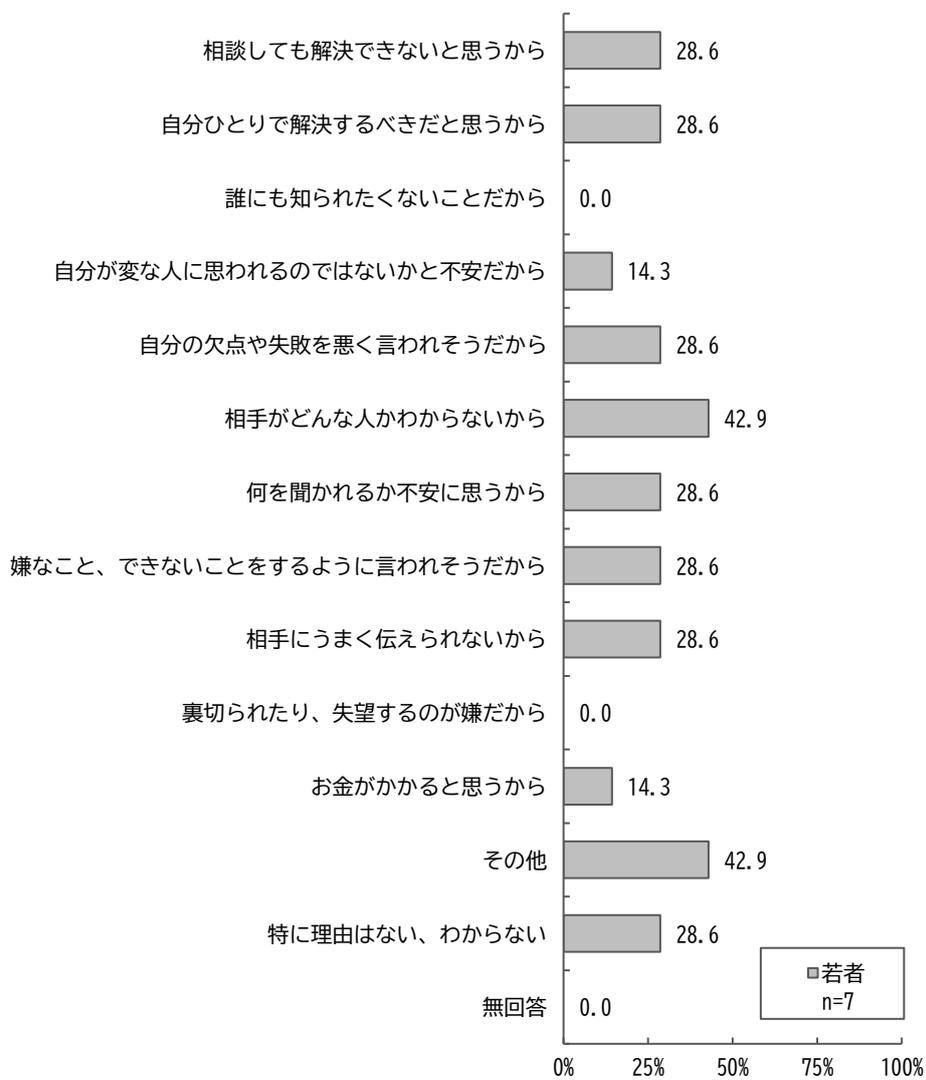
問26 社会生活や日常生活を円滑に送れない状態となったときの家族や知り合い以外の相談先





○誰にも相談したくないと思った理由をみると、「相手がどんな人かわからないから」(42.9%)が最も高くなっています。また、「その他」が42.9%であることから、理由は様々であることが伺えます。

問27 誰にも相談したくないと思った理由

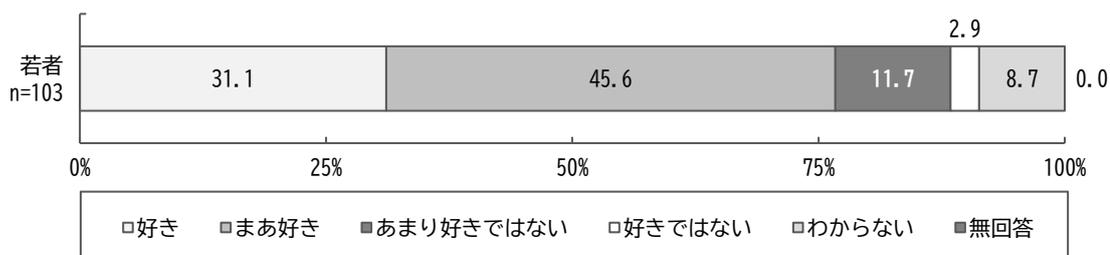


(5) 中津川市について

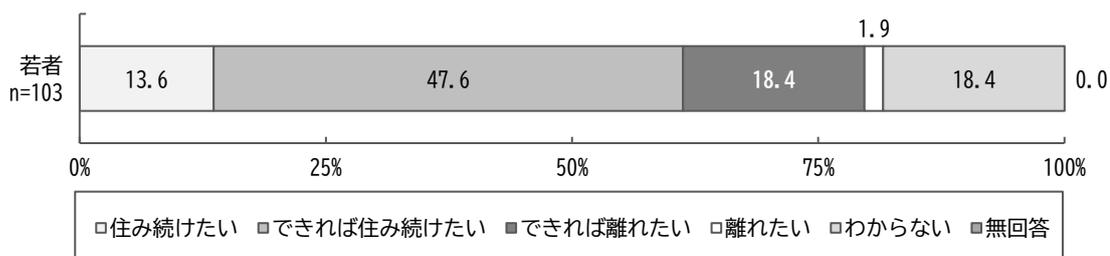
○中津川市は好きかでは、「まあ好き」(45.6%)が最も高く、次いで「好き」(31.1%)、「あまり好きではない」(11.7%)となっています。

○中津川市に住み続けたいと思うかでは、「できれば住み続けたい」(47.6%)が最も高く、次いで「できれば離れたい」(18.4%)、「わからない」(18.4%)となっています。

問28 中津川市は好きですか



問29 中津川市に住み続けたいと思いますか



第8章

ひとり親調査結果

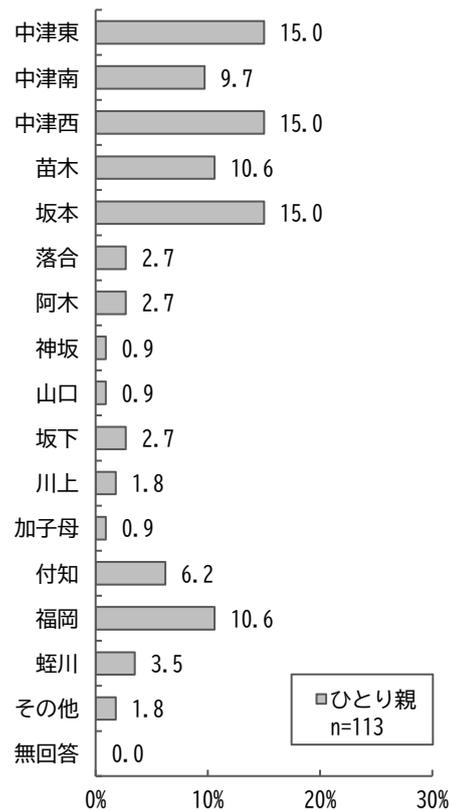
第8章 ひとり親調査結果

1 ひとり親調査回答者の属性

(1) 居住地域の状況

○回答者が居住する学校区は、以下のとおりです。

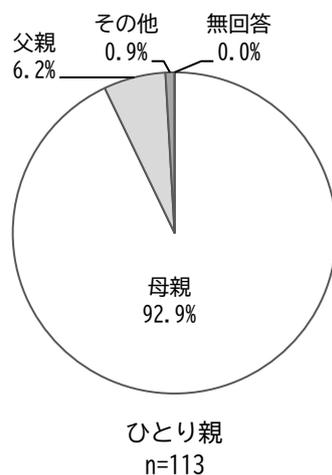
問1 居住学区



(2) 回答者の属性

○回答者の属性は、以下のとおりです。

問2 回答者

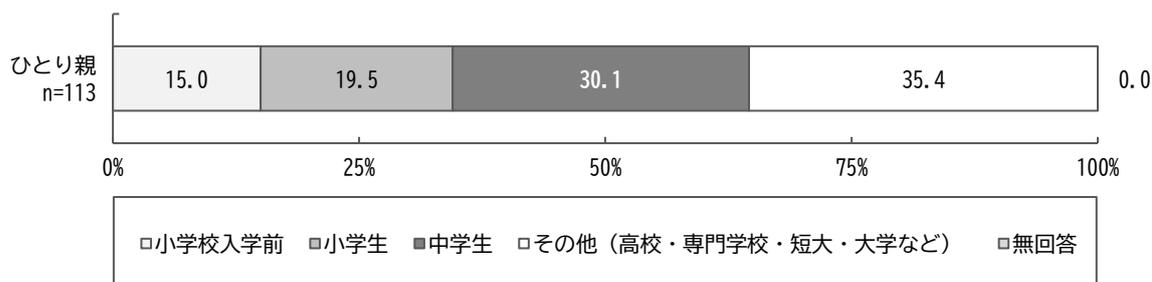




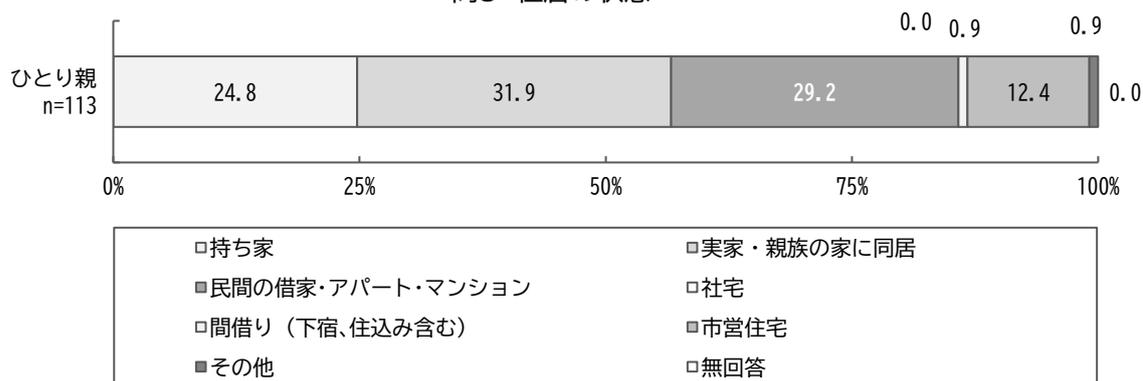
○未子のお子さんの就学状況をみると、「その他（高校・専門学校・短大・大学など）」（35.4%）が最も高く、次いで「中学生」（30.1%）、「小学生」（19.5%）、「小学校入学前」（15.0%）となっています。

○住居の状態についてみると、「実家・親族の家に同居」（31.9%）が最も高く、次いで「民間の借家・アパート・マンション」（29.2%）、「持ち家」（24.8%）となっています。

問2-1 未子の就学状況



問3 住居の状態





2 ご家庭の状況

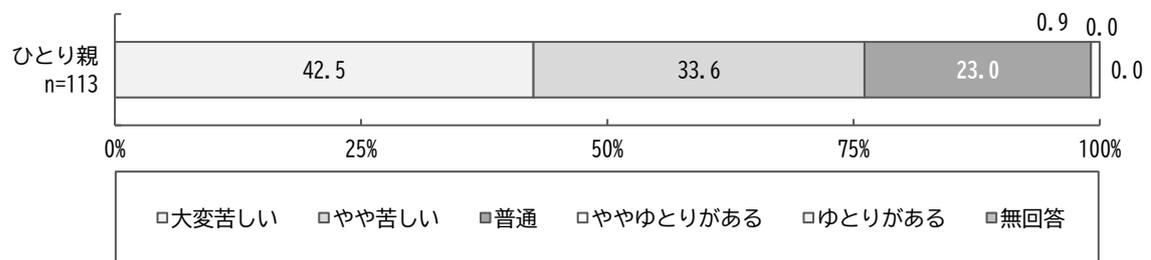
(1) 暮らしの状況

○現在の暮らしの状況についてみると、「大変苦しい」(42.5%)が最も高く、次いで「やや苦しい」(33.6%)、「普通」(23.0%)となっています。

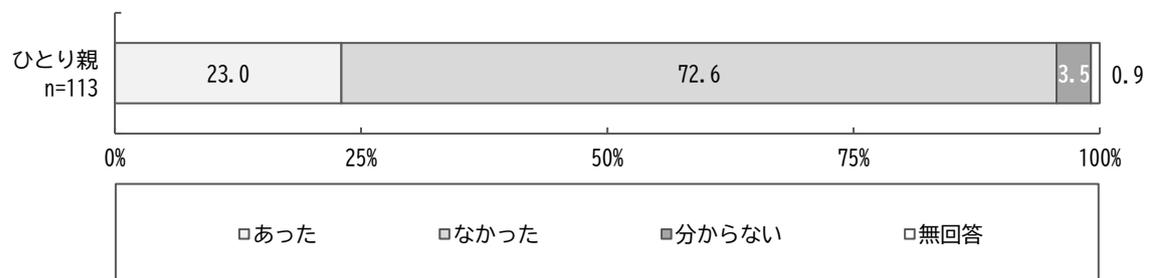
○お子さんが生まれてから現在までの間に、経済的な理由による料金滞納のために、電気、ガス、水道のいずれかを止められたことの有無についてみると、「なかった」が72.6%、「あった」が23.0%となっています。

○生計をともにしている人数についてみると、大人、こどもいずれも「1人」(大人54.0%、こども64.6%)が最も高くなっています。

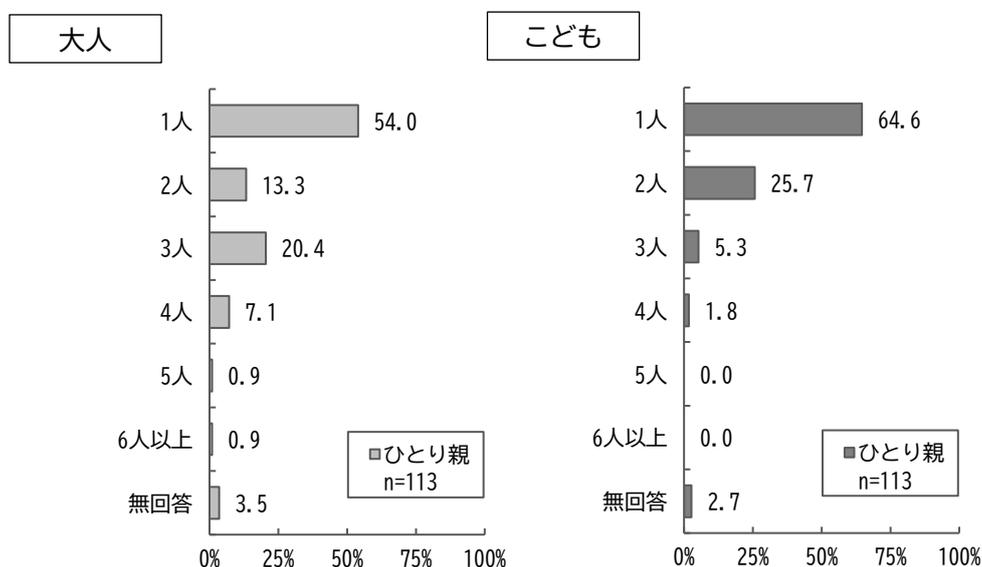
問4 現在の暮らしの状況(経済面)



問5 経済的理由の料金滞納で電気・ガス・水道を止められたことの有無



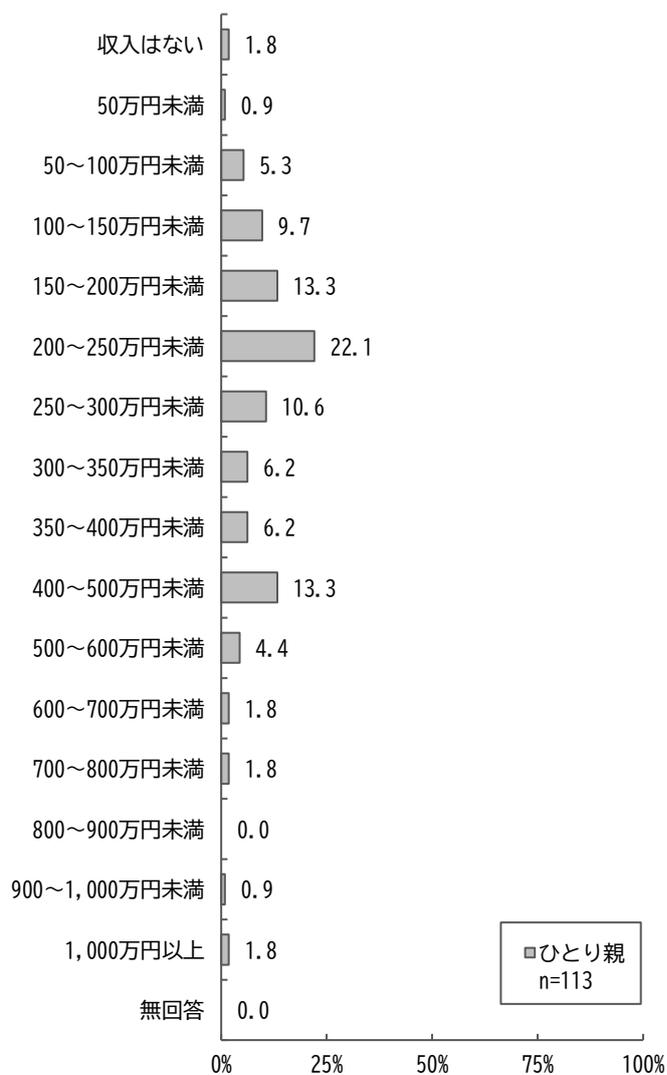
問6 生計をともにしている大人の数、こどもの数





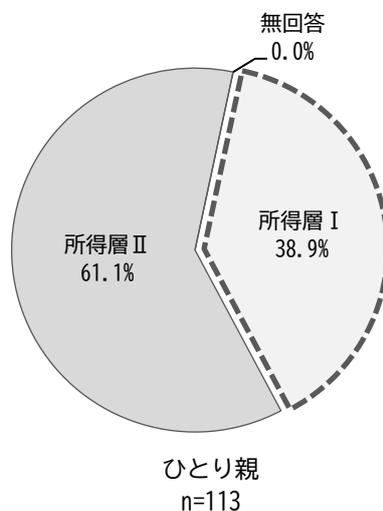
○世帯の収入をみると、「200～250万円未満」(22.1%)が最も高く、次いで「150～200万円未満」、「400～500万円未満」(各13.3%)、「250～300万円未満」(10.6%)となっています。

問7 世帯の収入



○貧困世帯基準該当の状況は以下のとおりです。

問7 世帯の収入



低所得層(所得層 I)の算出について

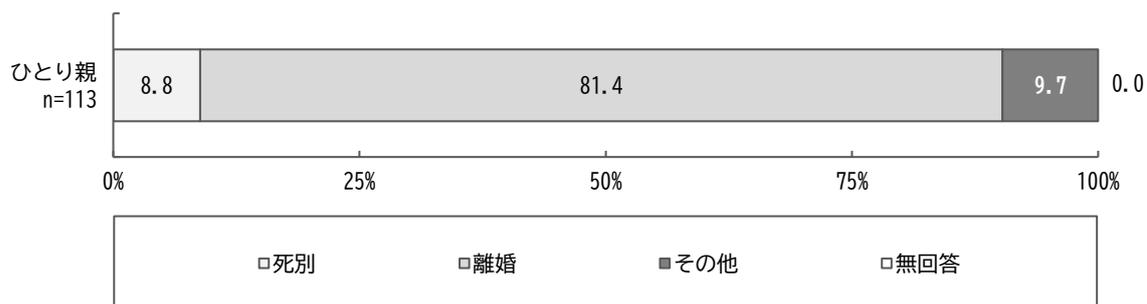
アンケート内にある世帯収入の設問の選択肢における中間値を置換し、世帯人数の平方根で除した「等価世帯収入」を算出しました。等価世帯収入について、有効回答者全体の中央値の半分である133万円未満の世帯を貧困層とし、全体に占める貧困の割合を算出しました。

基準値133万を下回る世帯を「所得層 I」、上回る世帯を「所得層 II」としています。

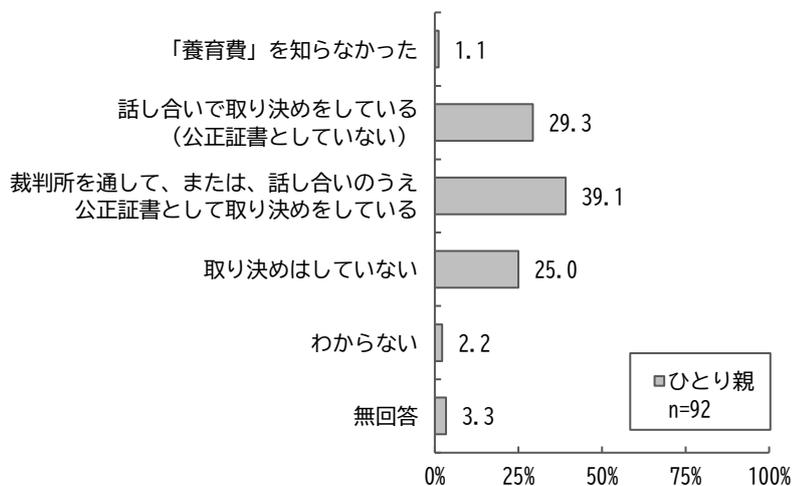


- ひとり親になった理由をみると、「離婚」(81.4%)が最も高くなっています。
- 離婚された方に養育費の取り決めについて聞いたところ、「裁判所を通して、または、話し合いのうえ公正証書として取り決めをしている」(39.1%)が最も高く、次いで「話し合いで取り決めをしている(公正証書としていない)」(29.3%)、「取り決めはしていない」(25.0%)となっています。
- 養育費の受け取り状況をみると、「受け取っていない」が51.1%、「受け取っている」が47.8%となっています。

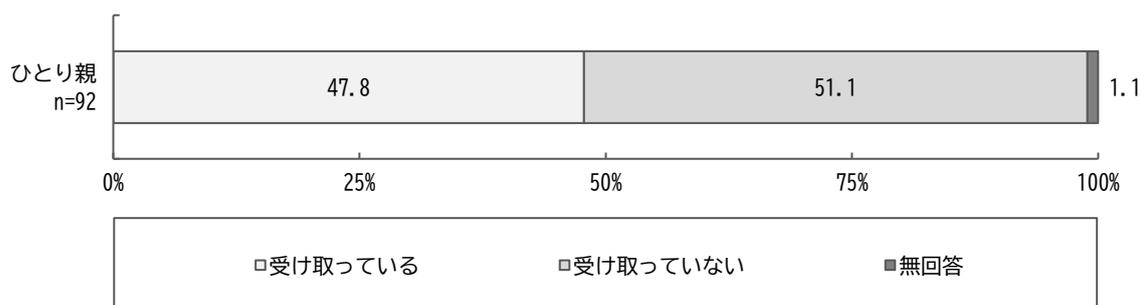
問8 ひとり親になった理由



問8-1 離婚の際に養育費の取り決めをしましたか



問8-2 養育費の受け取り状況

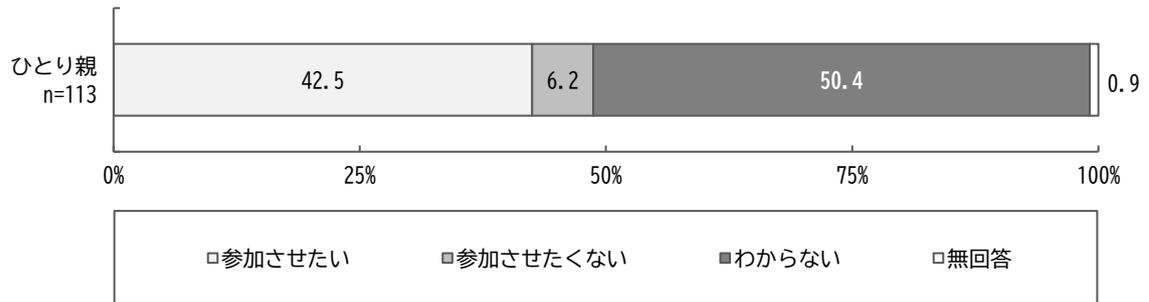




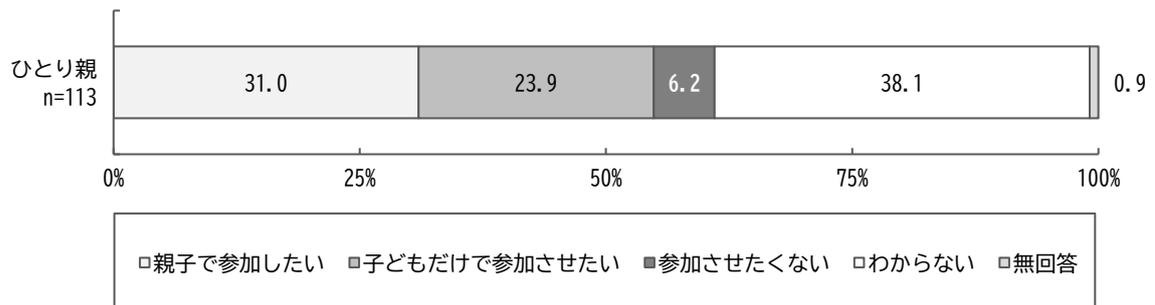
○ボランティア等による無料の学習を支援する場に参加させたいかをみると、「わからない」(50.4%)が最も高く、次いで「参加させたい」(42.5%)、「参加させたくない」(6.2%)となっています。

○地域に「子ども食堂」があったら、利用させたいかをみると、「わからない」(38.1%)が最も高く、次いで「親子で参加したい」(31.0%)、「子どもだけで参加させたい」(23.9%)となっています。

問9 ボランティア等による無料の学習を支援する場に利用させたいか



問10 地域に「子ども食堂」があったら、参加させたいか





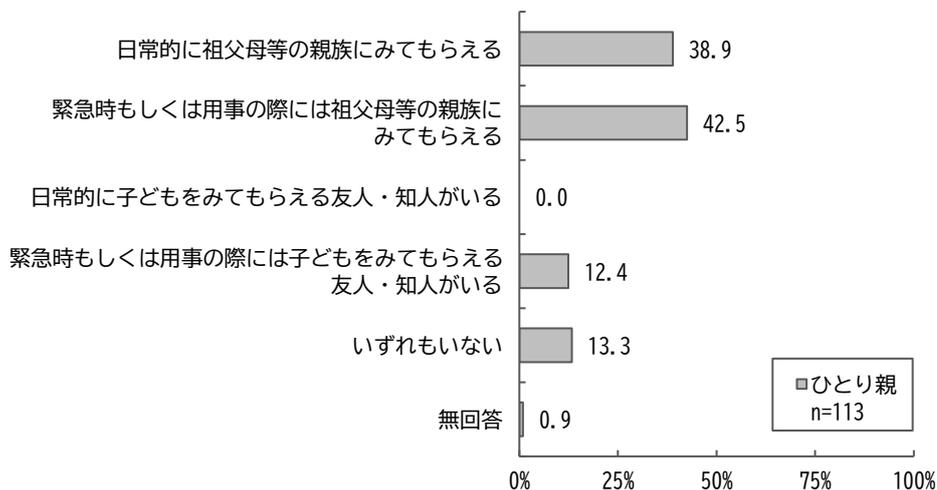
3 生活全般について

(1) 親族等協力者の状況

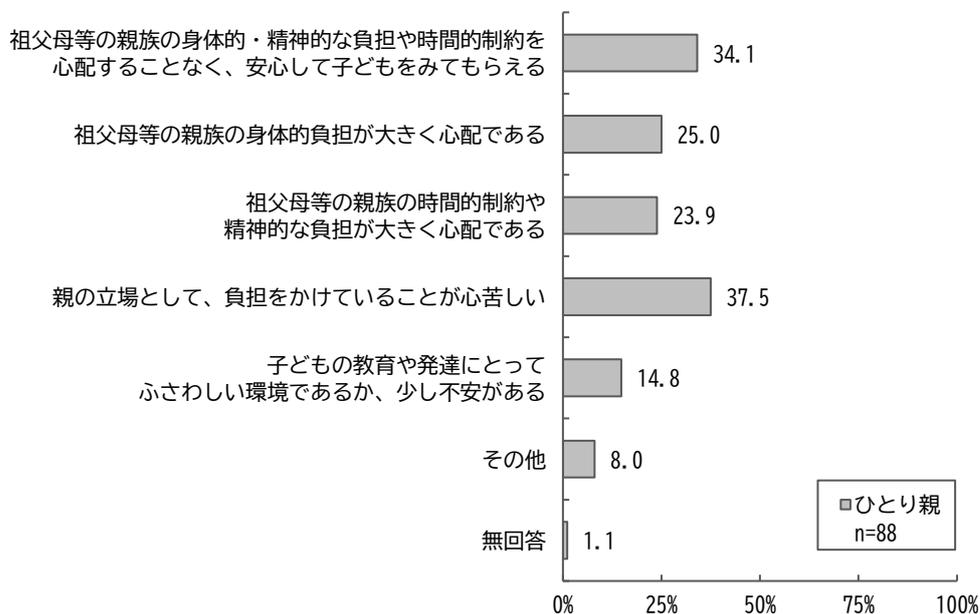
○日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいるかをみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(42.5%)が最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(38.9%)となっています。一方、「いずれもない」は13.3%となっています。

○祖父母等の親族に子どもをみてもらっていると回答された方の、みてもらっている状況を見ると、「親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(37.5%)が最も高く、次いで「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(34.1%)、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」(25.0%)となっています。

問11 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいるか



問11-1 祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考え

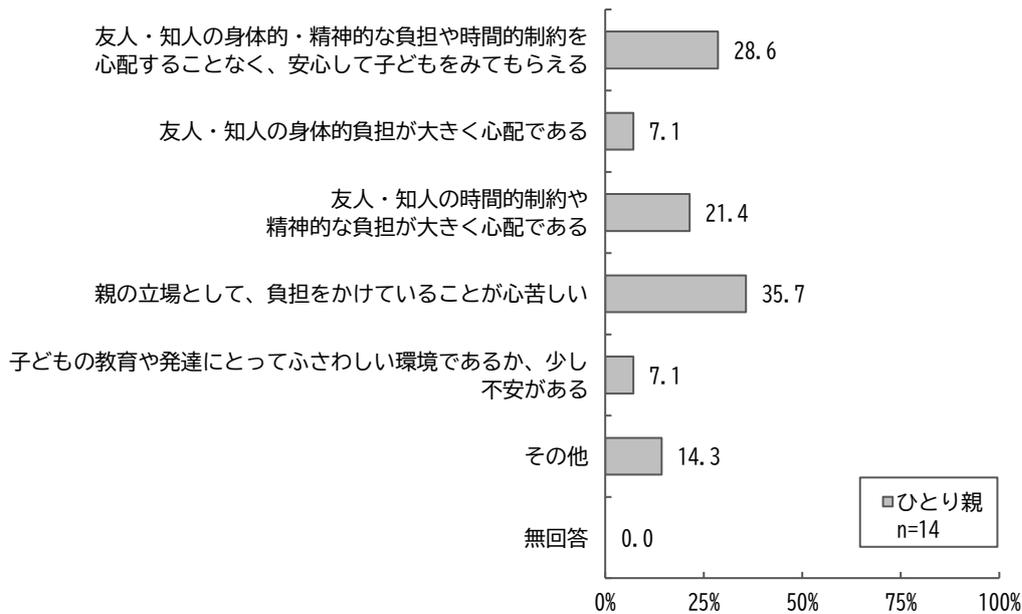




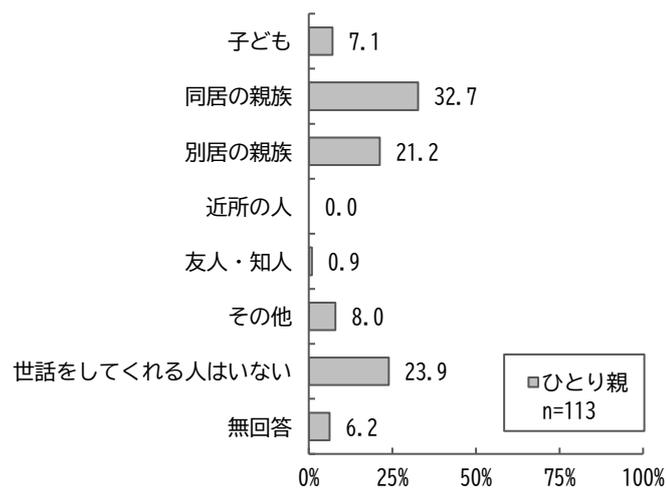
○友人、知人に子どもをみてもらっていると回答された方の、みてもらっている状況については以下のとおりです。

○あなたが病気の時、家事をおこなうのは誰かについてみると、「同居の親族」(32.7%)が最も高く、次いで「世話をしてくれる人はいない」(23.9%)、「別居の親族」(21.2%)となっています。

問11-2 友人、知人に子どもをみてもらうことへの考え



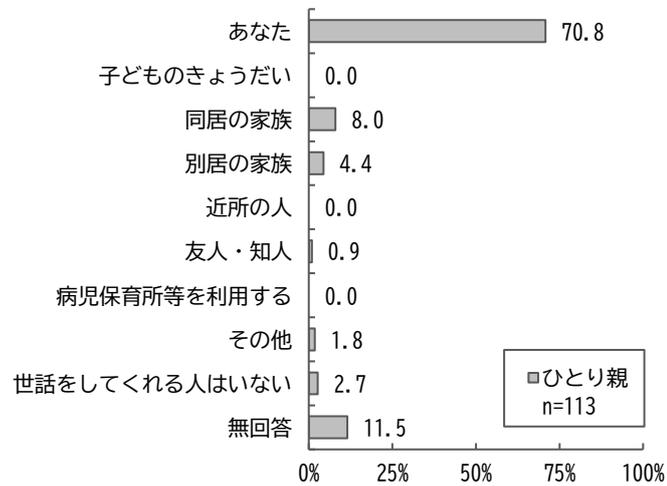
問12(1) あなたが病気の時、家事を行う人





○お子さんが病気の時、病気のお子さんを見るのは誰かについてみると、「あなた」(70.8%)が最も高くなっています。

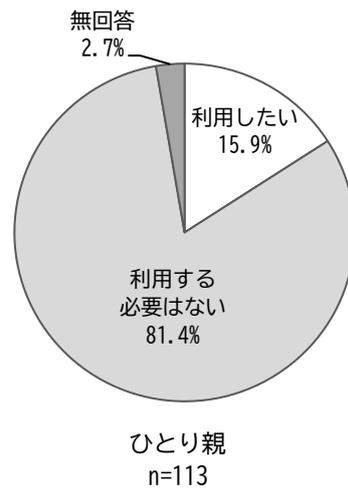
問12(2) お子さんが病気の時、病気のお子さんを見る人



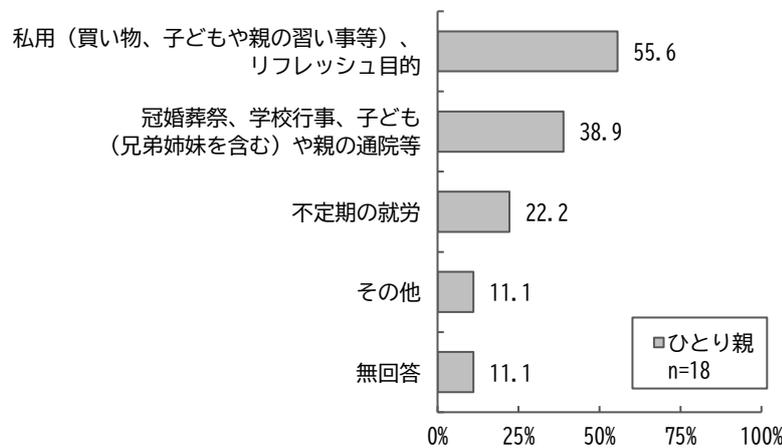
(2) 一時預かり等、宿泊を伴う一時保育の利用状況

- 一時預かり等の事業の利用希望をみると、「利用したい」は15.9%となっています。
- 一時預かり等の利用目的をみると、「私用、リフレッシュ目的」(55.6%)が最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」(38.9%)となっています。

問13 一時預かり等の利用希望

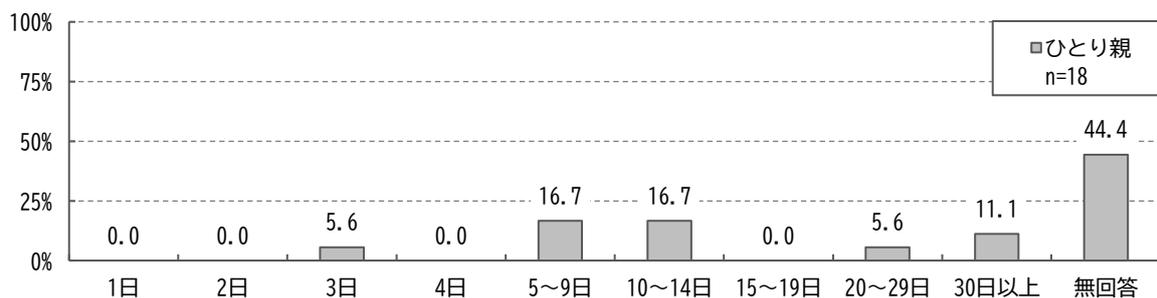


問13.1 一時預かり等の利用目的



○利用希望年間合計日数は以下のとおりです。

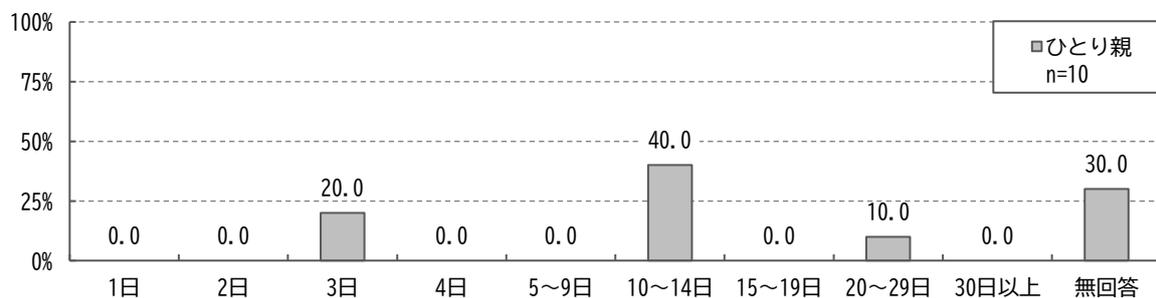
問13.1 一時預かり等の利用希望年間合計日数



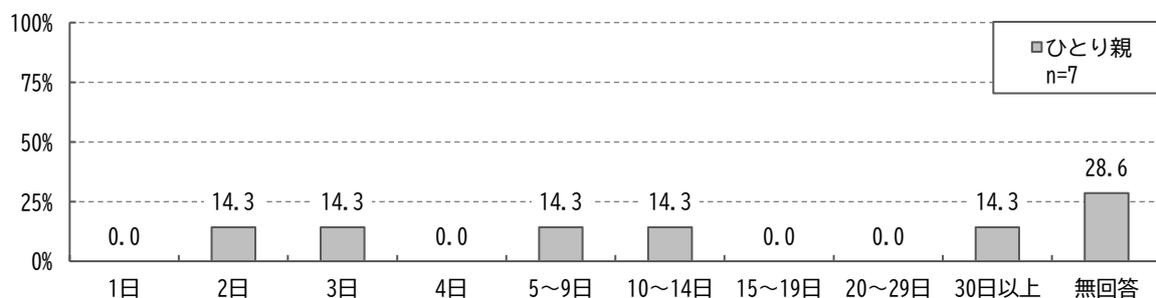


○目的ごとの年間利用希望日数は以下のとおりです。

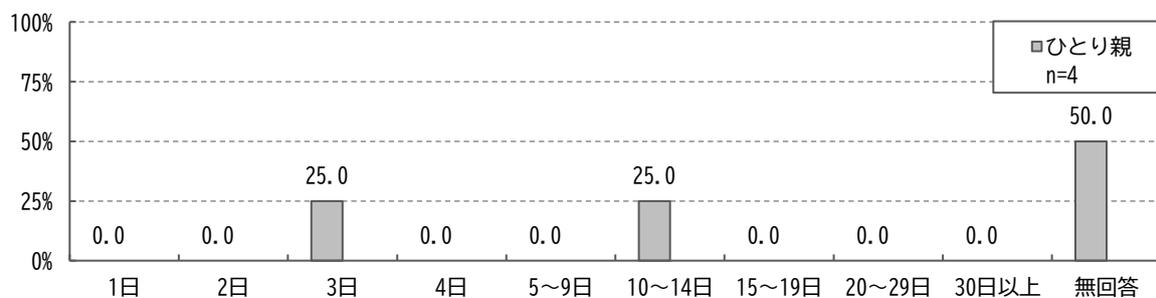
問13.1① 私用



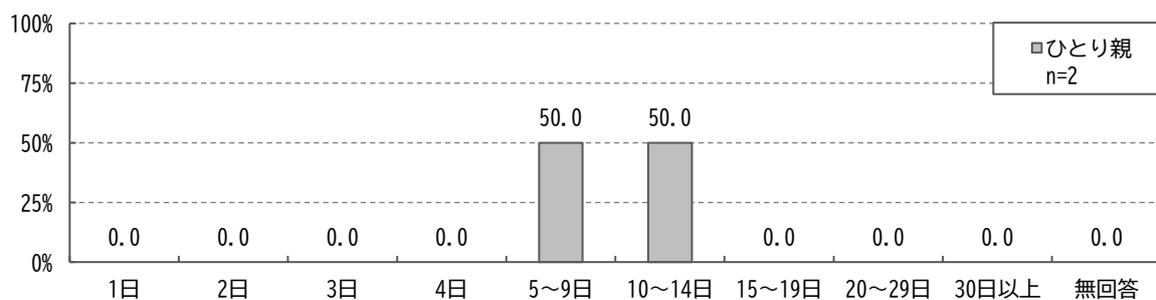
問13.1② 冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等



問13.1③ 不定期の就労



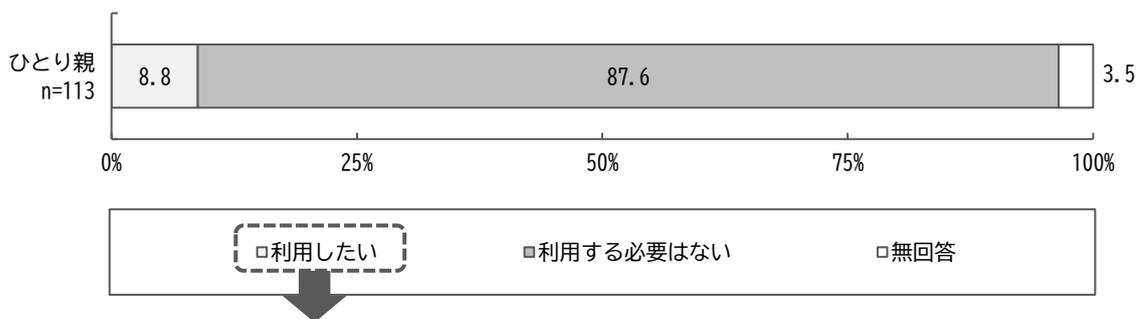
問13.1④ その他



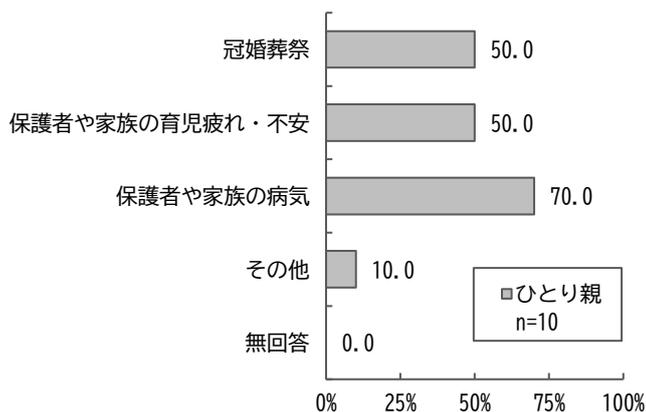


- 保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預ける事業の利用希望をみると、「利用したい」は8.8%となっています。
- 利用したい目的は以下のとおりです。
- 利用希望年間合計日数は以下のとおりです。

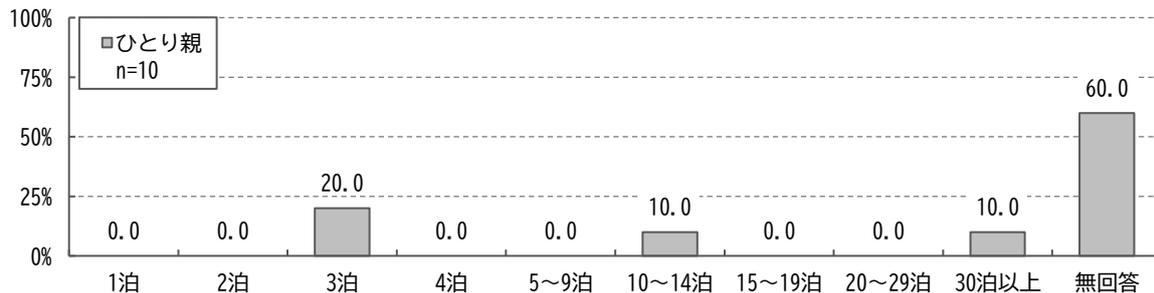
問14 保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預ける事業の利用希望



問14.1 利用したい目的



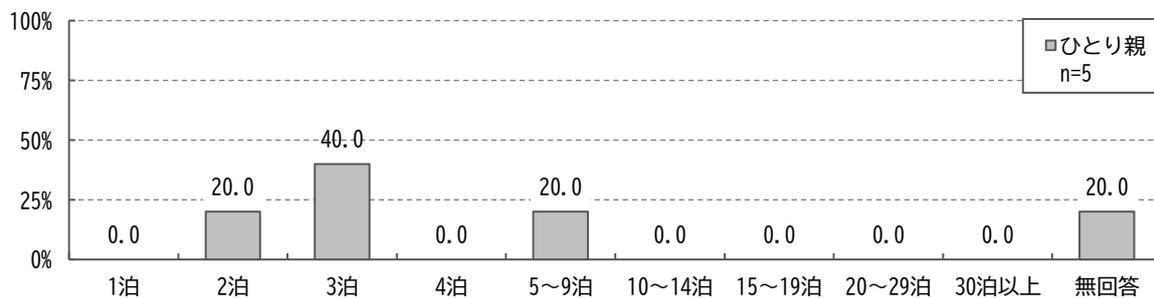
問14.1 利用希望年間合計日数



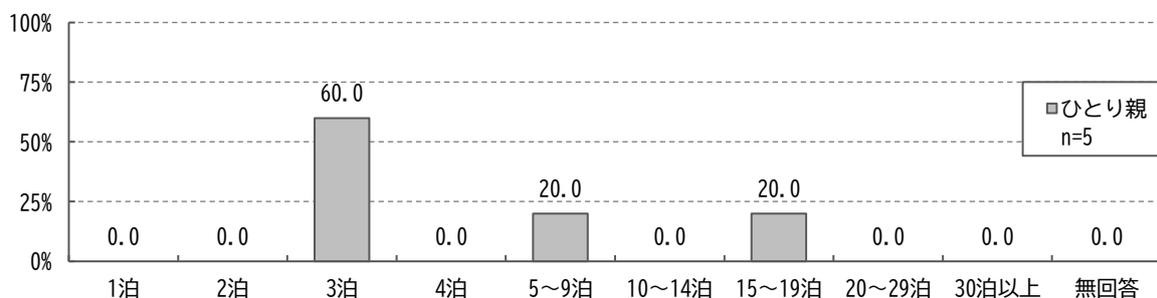


○目的ごとの年間利用希望日数は以下のとおりです。

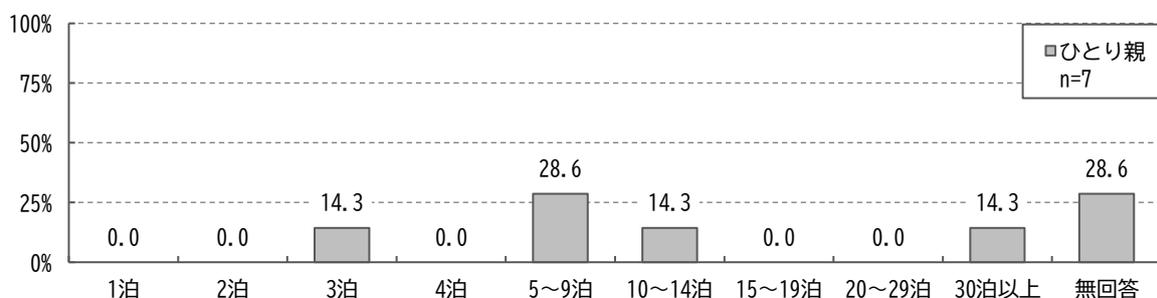
問14.1① 冠婚葬祭



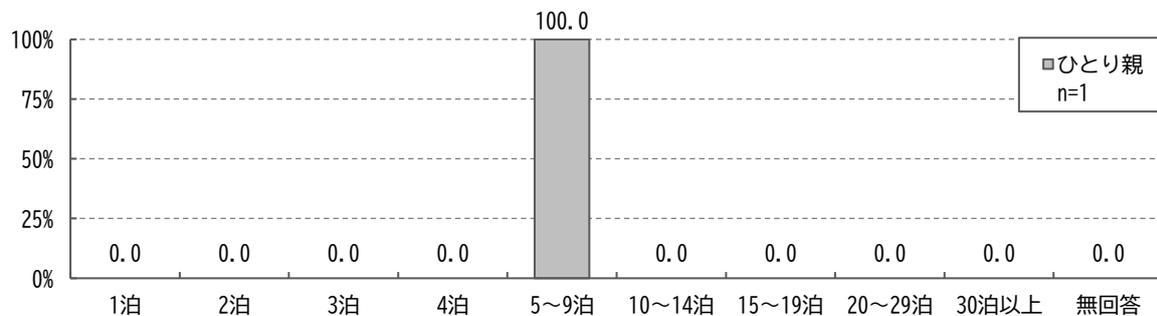
問14.1② 保護者や家族の育児疲れ・不安



問14.1③ 保護者や家族の病気



問14.1④ その他

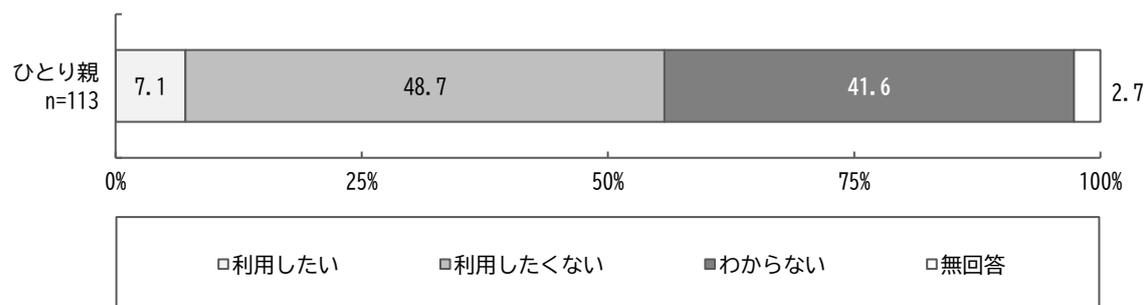




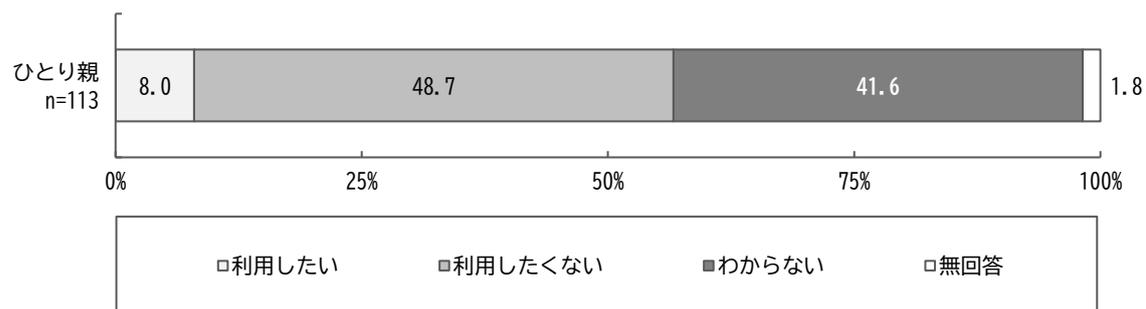
○訪問支援員が家庭を訪問し、家事支援サポートを行う事業を利用したいかをみると、「利用したくない」(48.7%)が最も高く、次いで「わからない」(41.6%)となっています。

○育児・養育支援サポートを行う事業を利用したいかをみると、「利用したくない」(48.7%)が最も高く、次いで「わからない」(41.6%)となっています。

問15.(1) 家事支援(食事準備、洗濯、掃除など)を利用したいか



問15.(2) 育児・養育支援(育児のサポート、保育所等の送迎など)を利用したいか





4 就労状況

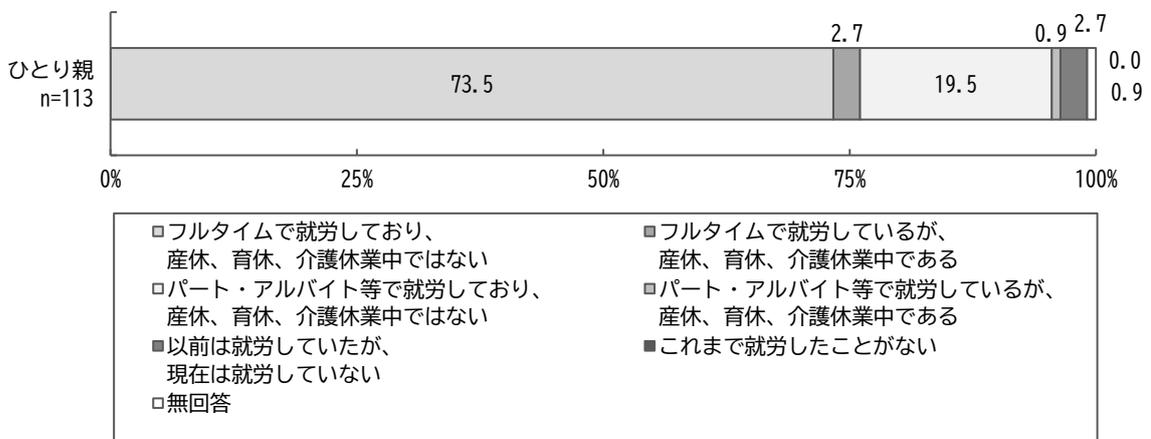
(1) 調査回答者就労状況

○調査回答者の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」(産休・育休・介護休業中含む)を合わせた現在就労している方は、96.6%となっています。そのうち産休、育休、介護休業を取得中の方は、3.6%となっています。

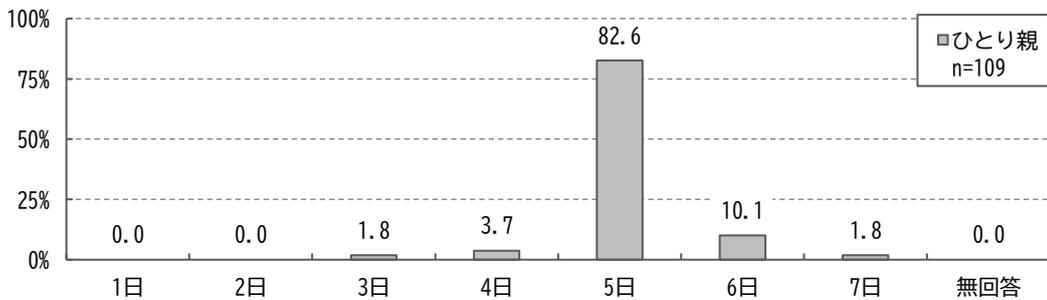
○就労日数をみると、「5日」(82.6%)が最も高くなっています。

○就労時間をみると、「8～9時間」(67.0%)、「6～7時間」(17.4%)となっています。

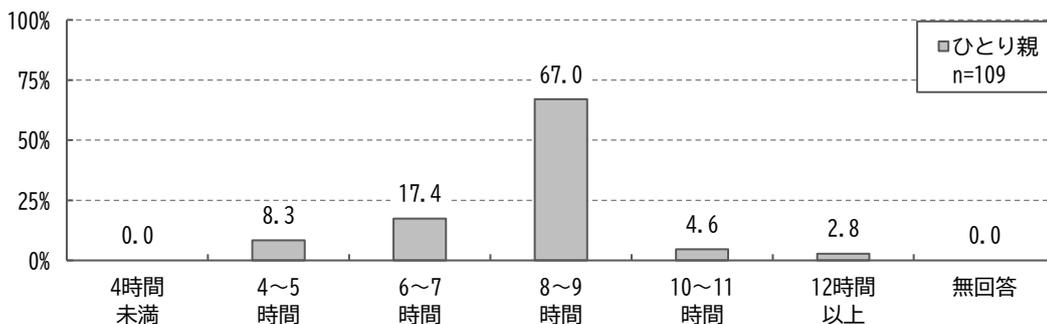
問16 就労状況(自営業、家族従事者を含む)



問16-1 就労日数(1週当たり)



問16-1 就労時間(1日当たり)

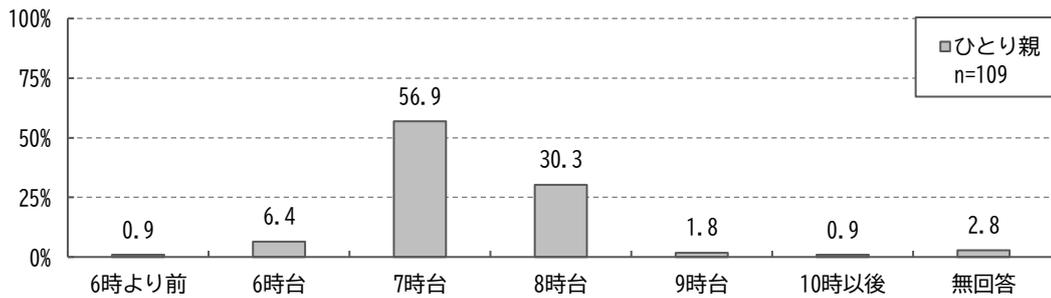


○家を出る時刻をみると、「7時台」(56.9%)が最も高く、次いで「8時台」(30.0%)となっています。

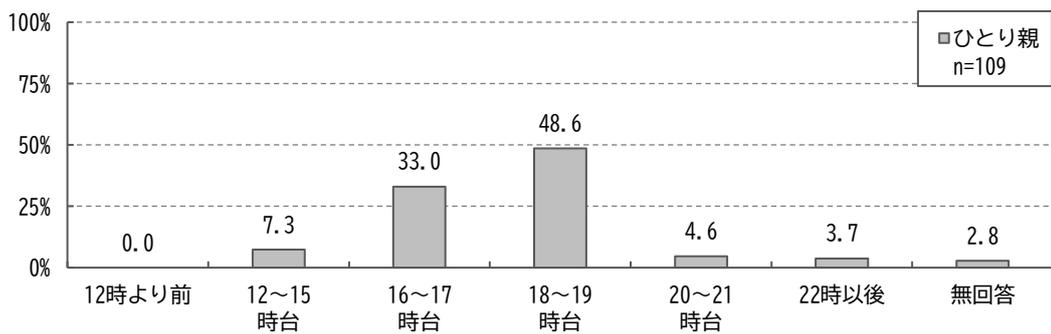
○帰宅時刻をみると、「18～19時台」(48.6%)が最も高く、次いで「16～17時台」(33.0%)となっています。

○フルタイム勤務に対する意向をみると、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」と回答した方が4割以上となっています。

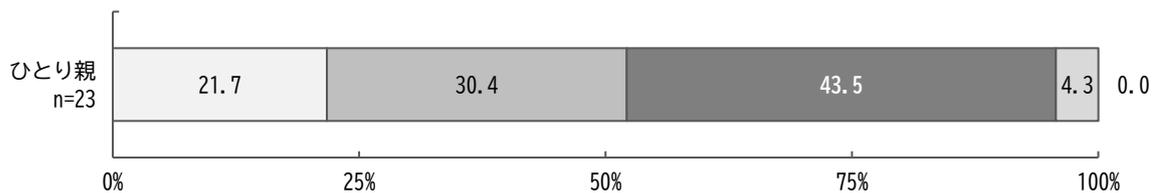
問16-2 家を出る時刻



問16-2 帰宅時刻



問16-3 フルタイム勤務に対する意向

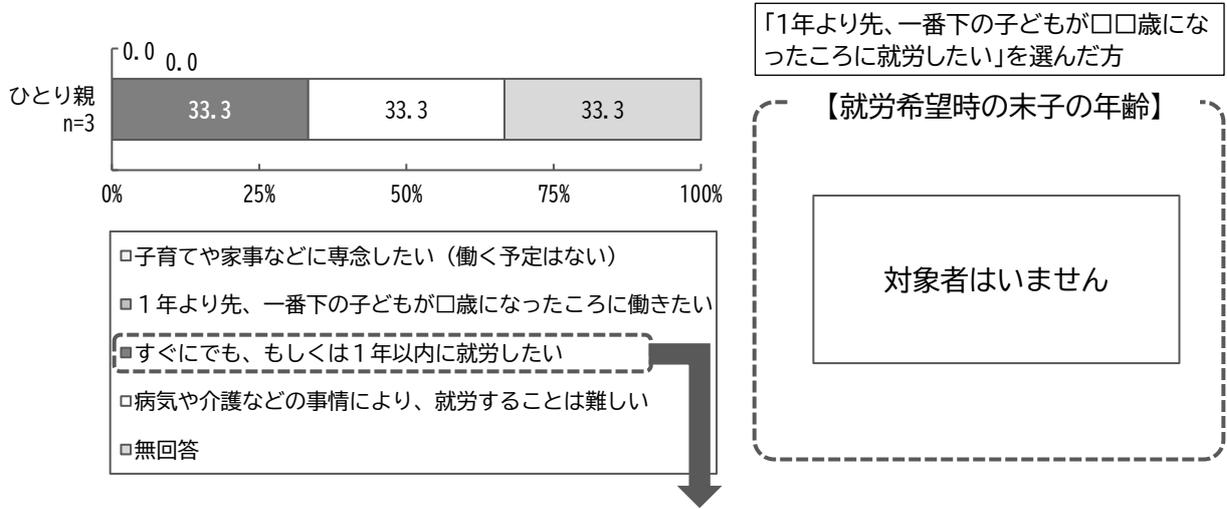


- フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
- パート・アルバイト等の就労を続けることを希望
- 無回答
- フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
- パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい

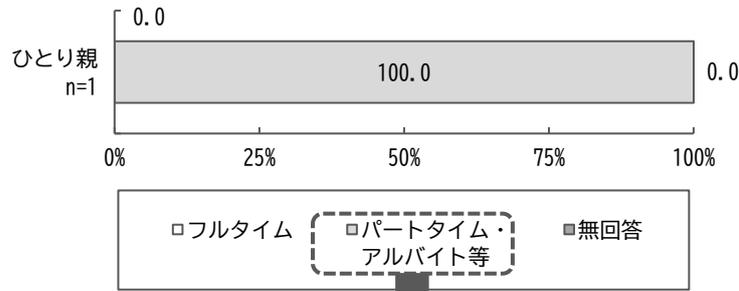


○現在就労していないが、今後就労したい方の今後の就労意向は、以下のとおりです。

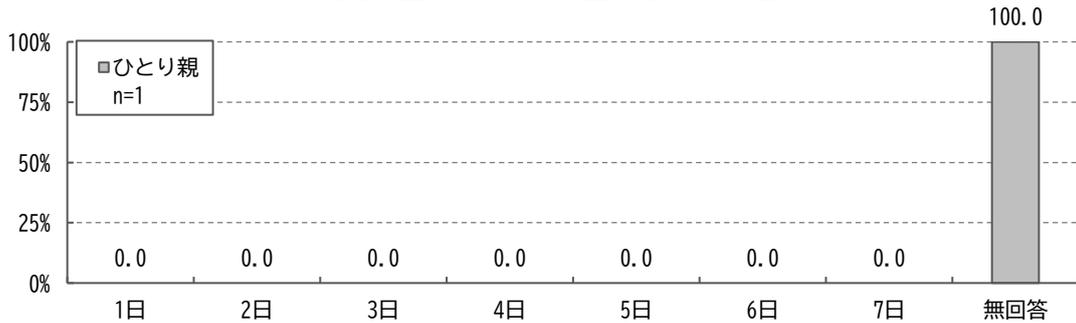
問16-4 就労していない方の就労希望



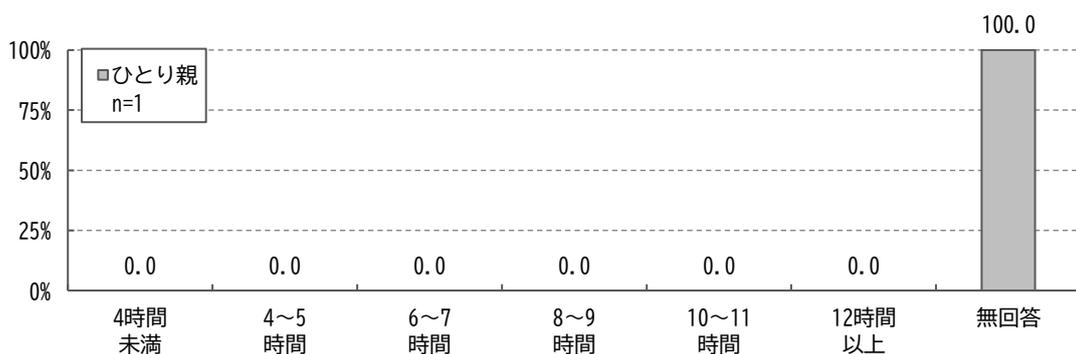
【希望する就労形態】



問16-4 就労希望のある方の希望就労日数(1週当たり)



問16-4 就労希望の方の希望就労時間(1日当たり)

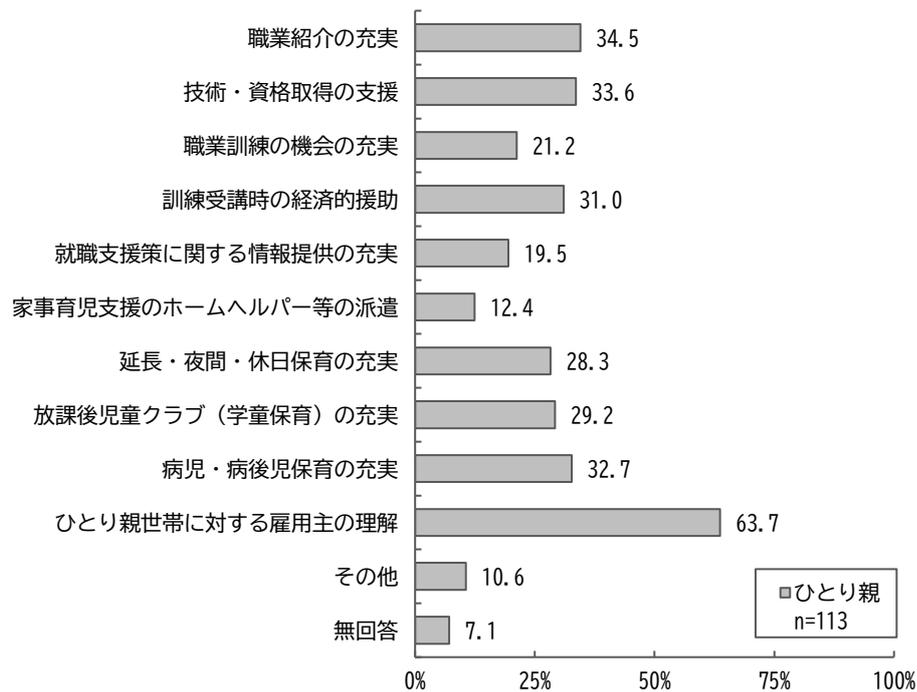


(2) 就職や仕事への支援について

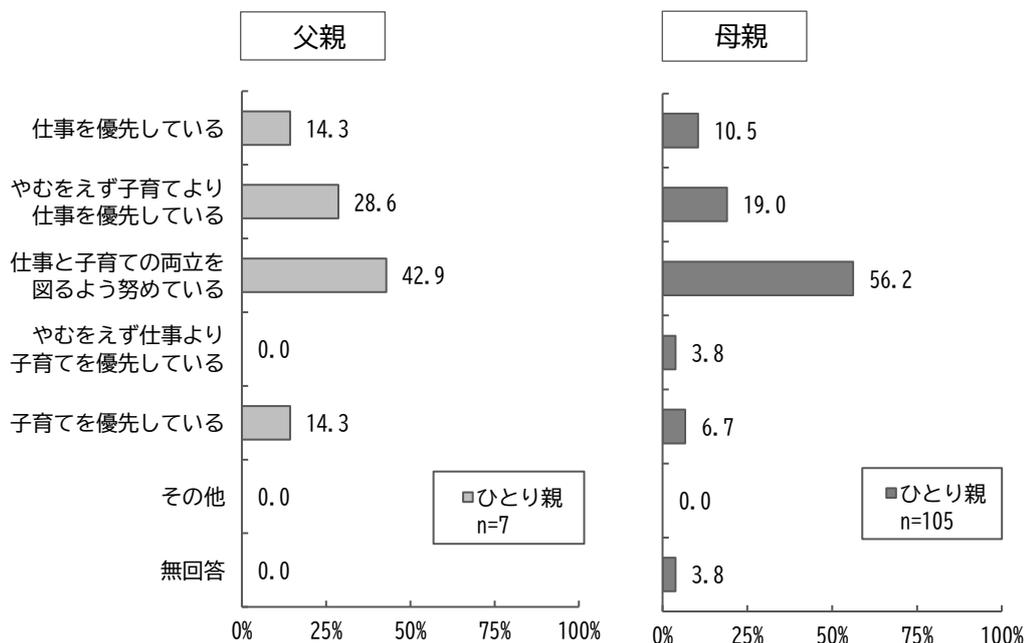
○ひとり親等世帯のよりよい就職や仕事の問題解決のために求める支援策をみると、「ひとり親世帯に対する雇用主の理解」(63.7%)が最も高く、次いで「職業紹介の充実」(34.5%)、「技術・資格取得の支援」(33.6%)、「病児・病後児保育の充実」(32.7%)となっています。

○仕事と子育ての両立についてみると、父親、母親いずれも「仕事と子育ての両立を図るよう努めている」(父親42.9%、母親56.2%)が最も高くなっています。

問17 ひとり親等世帯のよりよい就職や仕事の問題解決のために求める支援策



問18 仕事と子育ての両立について



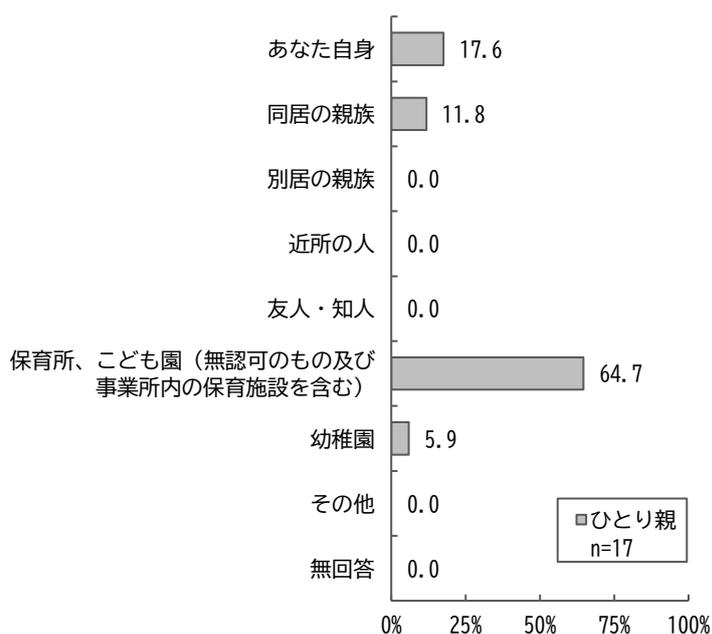


5 お子さんの状況について

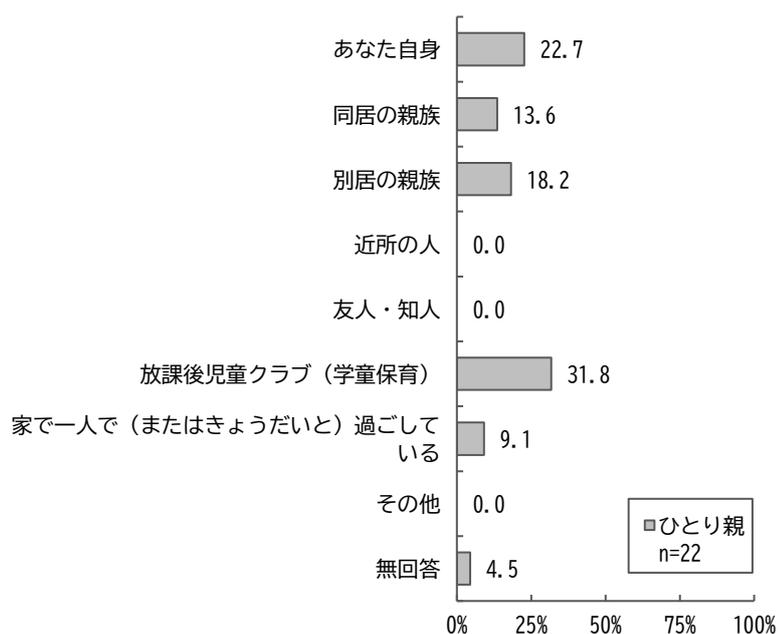
○小学校入学前のお子さんをお持ちの方の普段、お子さんの保育を行っている人についてみると、「保育所、こども園（無認可のもの及び事業所内の保育施設を含む）」が64.7%で最も高くなっています。

○小学校のお子さんをお持ちの方の放課後、お子さんをみている人についてみると、「放課後児童クラブ（学童保育）」が31.8%で最も高くなっています。

問19 普段、お子さんの保育を行っている人(小学校入学前のこども)



問20 放課後、お子さんをみている人(小学生)

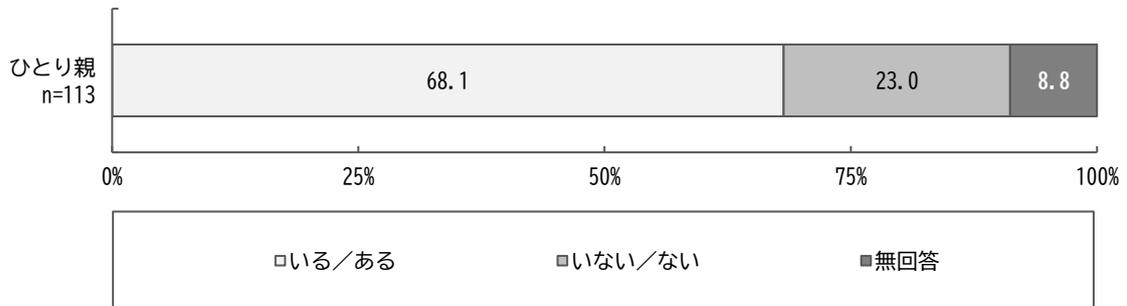




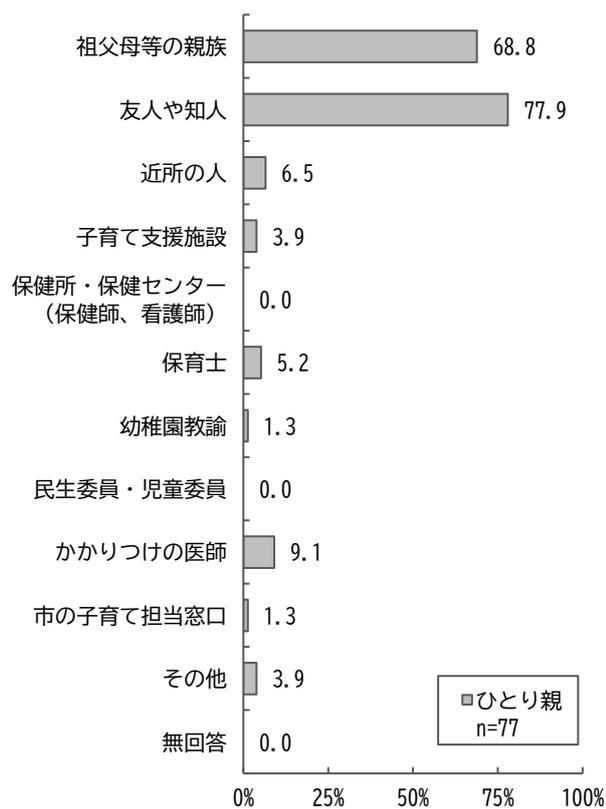
○気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」が68.1%、「いない／ない」が23.0%となっています。

○気軽に相談できる人の状況をみると、「友人や知人」(77.9%)が最も高く、次いで「祖父母等の親族」(68.8%)となっています。

問21 子育てに関して気軽に相談できる人(場所)の有無



問21-1 気軽に相談できる人



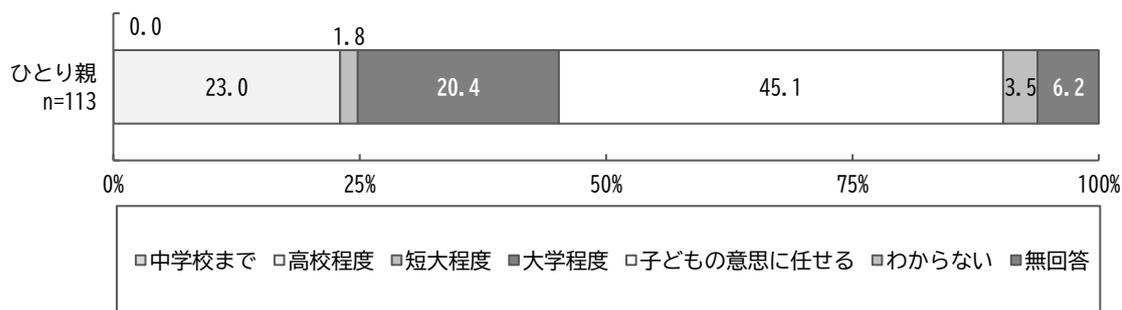


○お子さんをどこまで進学させようと思っているかをみると、「子どもの意思に任せる」(45.1%)が最も高く、次いで「高校程度」(23.0%)、「大学程度」(20.4%)となっています。

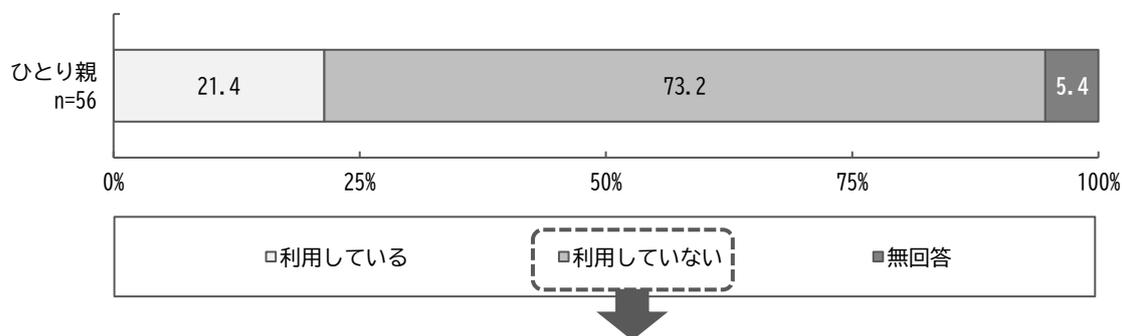
○小学生、中学生のお子さんをお持ちの方が現在、学習塾又は家庭教師を利用しているかをみると、「利用していない」(73.2%)が最も高くなっています。

○利用していない理由をみると、「経済的に余裕がないから」(61.0%)が最も高くなっています。

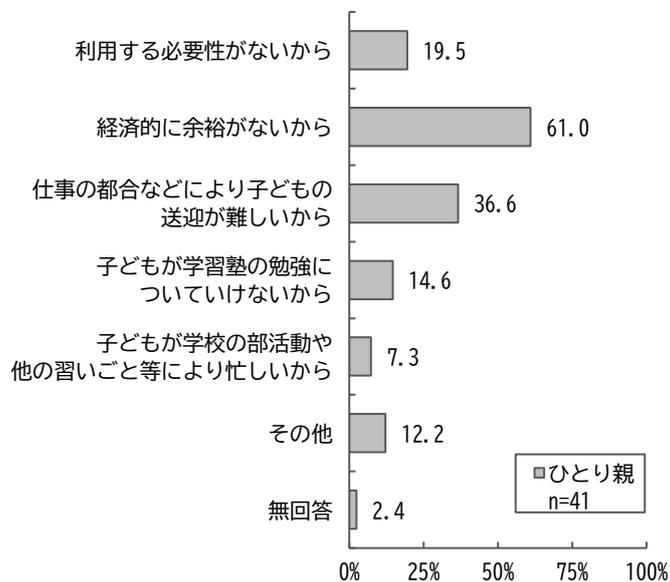
問22 お子さんをどこまで進学させようと思っているか



問23 現在、学習塾又は家庭教師を利用しているか(小学生・中学生)



問23-1 学習塾又は家庭教師を利用していない理由

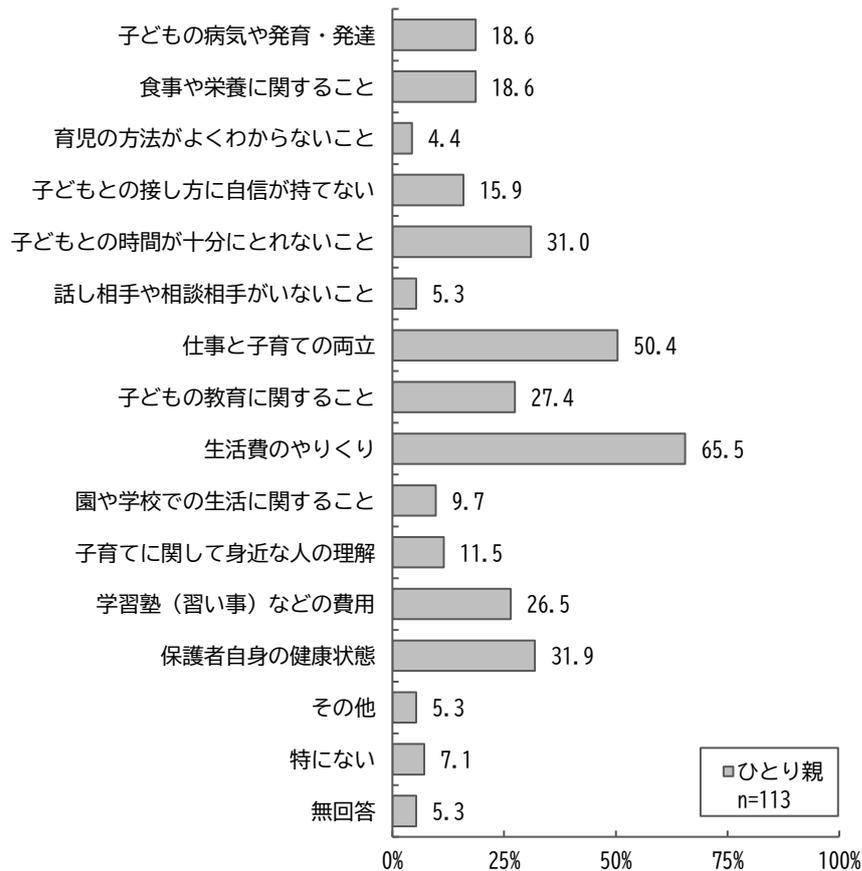




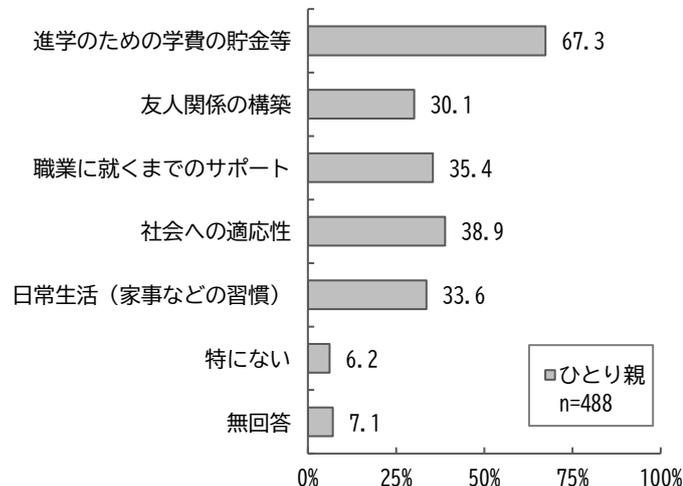
○子育てに関して大変なこと、悩んでいること、気になることについてみると、「生活費のやりくり」(65.5%)が最も高く、次いで「仕事と子育ての両立」(50.4%)となっています。

○お子さんの将来について不安なことについてみると、「進学のための学費の貯金等」(67.3%)が最も高くなっています。

問24 子育てに関して大変なこと、悩んでいること、気になること



問25 お子さんの将来について不安なこと



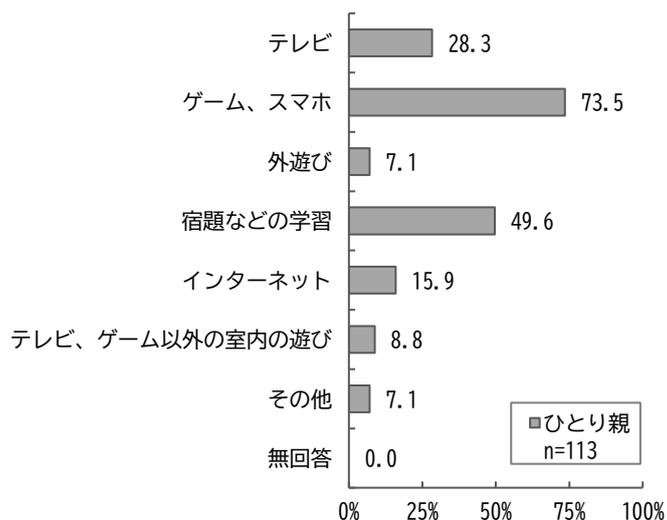


6 子どもの家庭環境

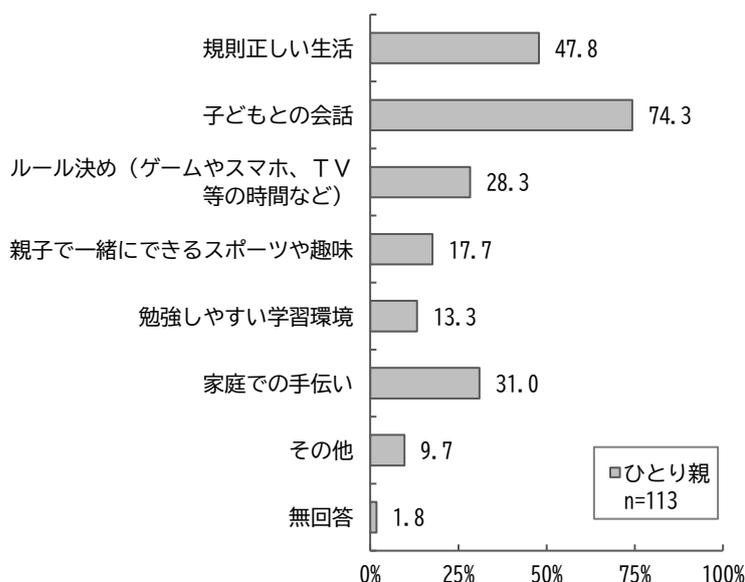
○帰宅後の家庭での主な過ごし方をみると「ゲーム、スマホ」(73.5%)が最も高く、次いで「宿題などの学習」(49.6%)となっています。

○子どもと一緒に過ごす時に心掛けていることは「子どもとの会話」(74.3%)が最も高くなっています。

問26 帰宅後の家庭での主な過ごし方



問27 子どもと一緒に過ごす時に心掛けていること



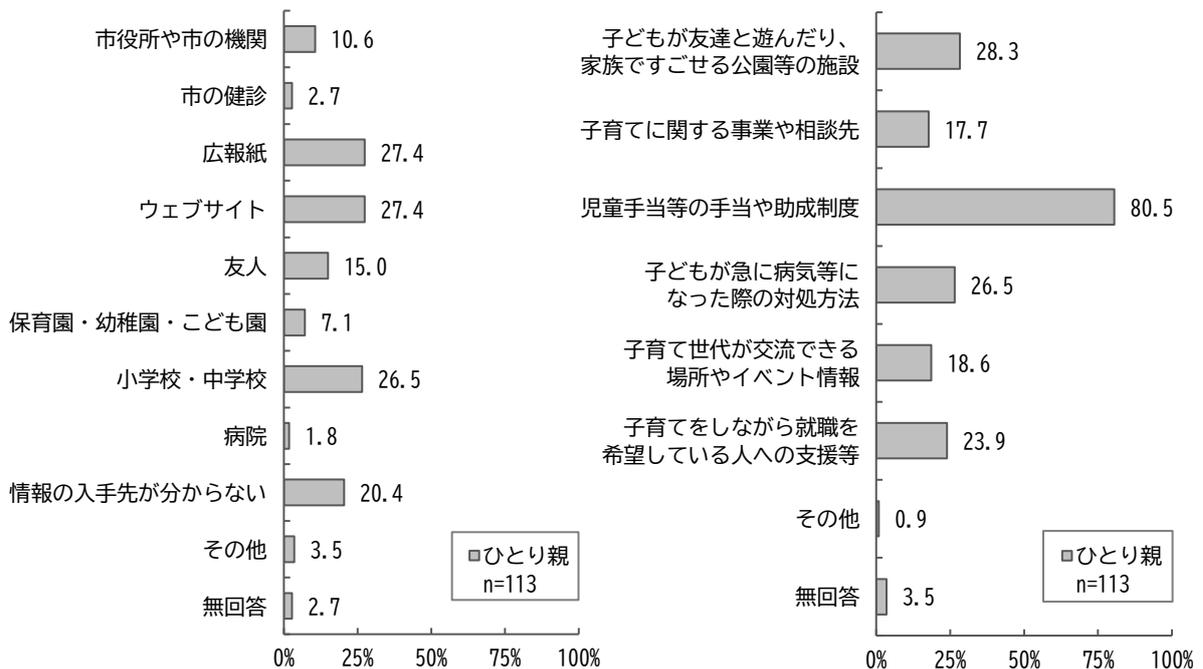


○市の子育てに関する情報の入手方法をみると、「広報紙」、「ウェブサイト」(各27.4%)が最も高くなっています。一方、「情報の入手先が分からない」が20.4%となっています。

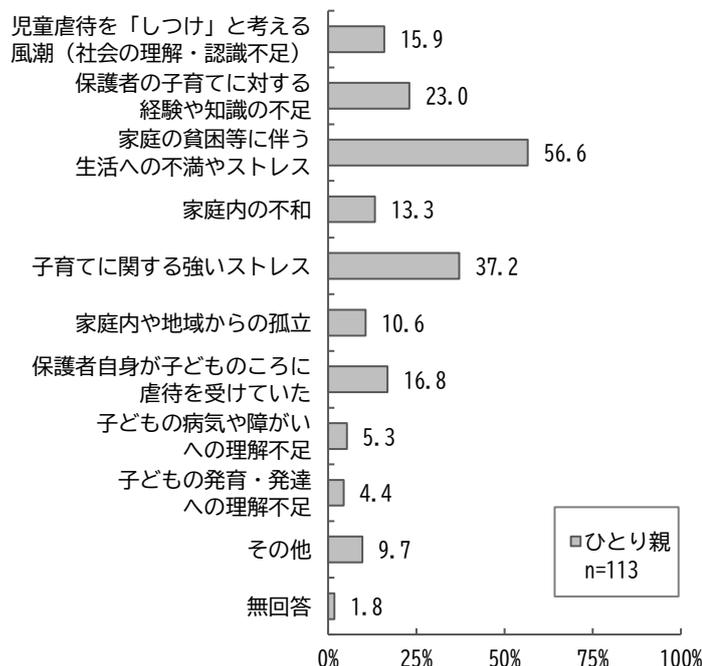
○子育てをするうえで必要な情報をみると、「児童手当等の手当や助成制度」(80.5%)が最も高くなっています。

○一般的に児童虐待が起こる理由についてみると、「家庭の貧困等に伴う生活への不満やストレス」(56.6%)が最も高くなっています。

問28 市の子育てに関する情報の入手方法 問29 子育てをするうえで必要な情報



問30 一般的に児童虐待が起こる理由



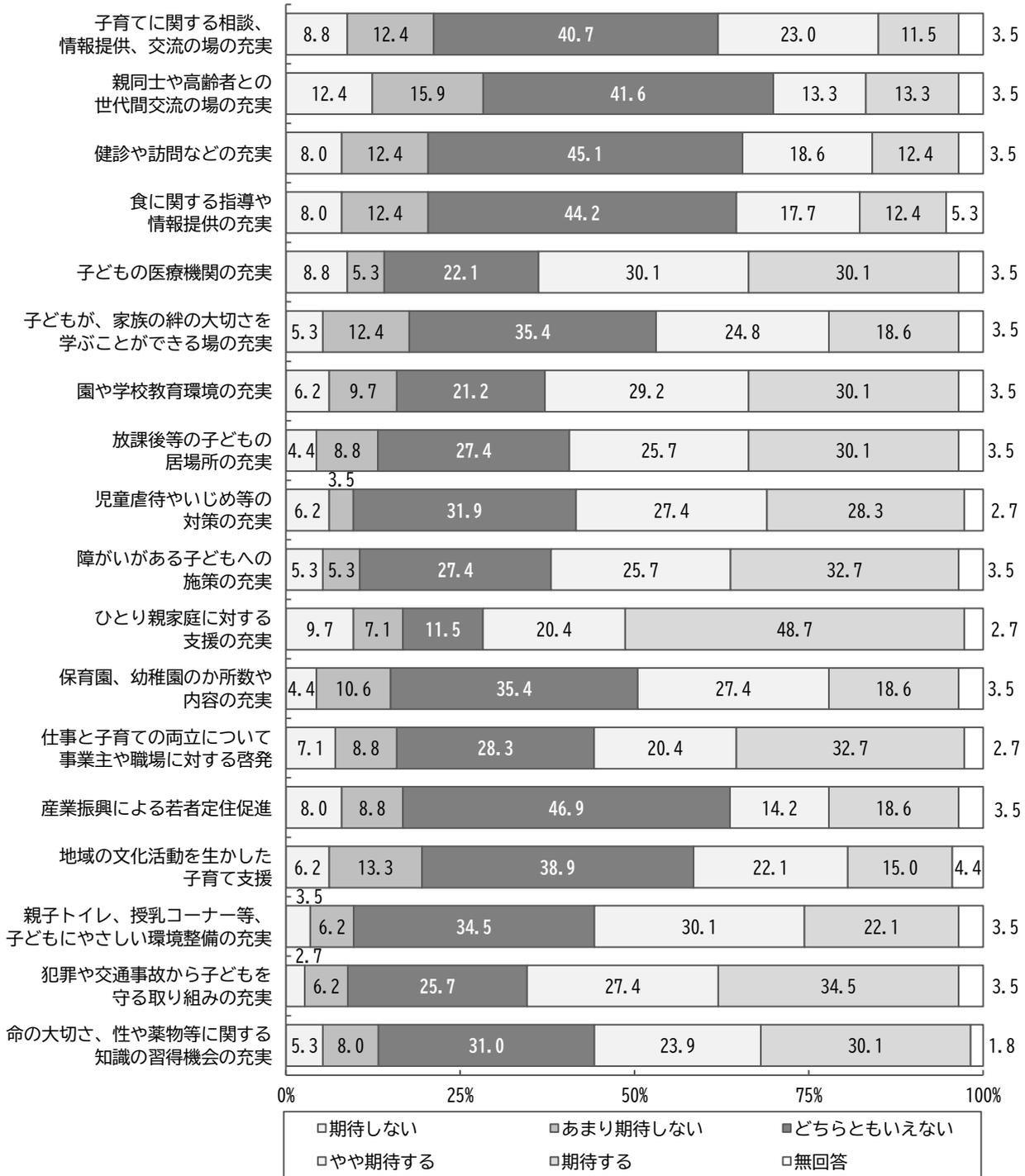


7 中津川市の子育て支援施策

○中津川市の子育て支援策に期待することについてみると、「ひとり親家庭に対する支援の充実」がおおよそ5割となっています。

問31 中津川市の子育て支援策に期待すること

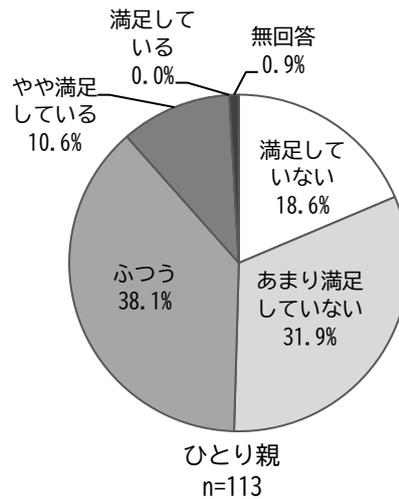
ひとり親 n=113



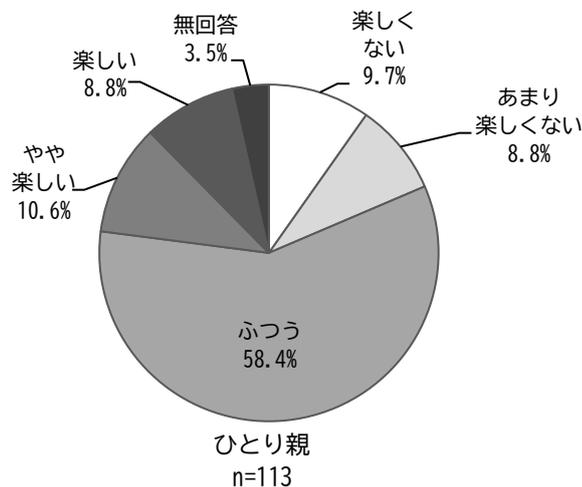
○子育ての環境や支援に対する満足度が高いと感じる割合（「満足している」＋「やや満足している」）をみると、10.6%となっています。一方、満足していないと感じる割合（「満足していない」＋「やや満足していない」）をみると、50.5%となっています。

○子育てが楽しいと感じる割合が高いと感じる割合（「楽しい」＋「やや楽しい」）をみると、19.4%となっています。一方、楽しくないと感じる割合（「楽しくない」＋「あまり楽しくない」）をみると、18.5%となっています。

問32 中津川市における子育ての環境や支援に対する満足度



問33 中津川市において子育てが楽しいと感じる割合



自由意見



自由意見

1 就学前児童の保護者の自由意見（抜粋）

※原文のまま掲載しています

意見
制度を充実することも重要ですが、それにかかわる人たち（保育士や行政職員など）の待遇をまず最初に改善して行ってほしいと思います。また、その人たちも子育てと両立できるような働き方ができるようにしてから、支援をするべきだと思いました。既存の人件費をまずは増額するとよいと思います。
将来子どもたちが中津川で働くことを選択肢に自然に入れられるような地場の教育と暮らしやすさを期待しています。
オムツなどの赤ちゃんの必需品等の支給があると助かります。離乳食開始時間に健診等でサンプルや試供品などがあったら嬉しい。
保育士さんたちの処遇をもっと良くしてもらって、受け入れを柔軟にしてもらいたい。
I just hope that parents have access to the children's facility cctv for safety and security purposes. (安全のセキュリティ上の理由から、保護者が児童施設の CCTV にアクセスできるようにすることをねがっています。)
子育て支援と女性の社会復帰の両立が果たせる政策を！働き損にならない対策を！
このアンケートがとても嬉しく、今までにないものだと感じた。市が寄り添ってくれていると感じることができ嬉しかった。アンケートの結果を市の事業に早めに反映させてほしい。
お忙しい中、市民の声を聞き取りして頂きありがとうございます。1番に願うのは子供の心身の成長です。心身が成長するには大人や友達との触れ合いの時間、習い事などたくさんの経験から育つものではないかと考えています。つまり親がお金に余裕があり、触れ合いの時間を十分に確保することだと思います。難しい話ですが外国のように残業はなるべくしないで1日の労働時間を7時間にし、給料を増やして家族の時間ももっと増えると幸せです。親に余裕(お金と時間)が生まれると子供との接し方が変わります。どうかご検討よろしくお祈いします。
未満児の保育料が高く、色々と犠牲にして働いて得たお金が減ってしまうのが悲しい。
遠方から引っ越してきた人がママ友ができる合流の場が欲しい。公園を増やして欲しい。(各地域にほしい)
小児科専門医のいるクリニックが市内にできて欲しい。
男性が有給を取りやすい仕事環境にしてほしい
公園にブランコを設置してほしい。放課後等デイサービスに通うときに、医師診断書はなしにしてほしい。
少子高齢化社会の中、子供にお金がすごくかかり生活は大変。もっと気軽に親子で使用出来る施設など増えればよいなと思います。未満児保育園の料金が高すぎる。物価高騰で生活にお金がかかるのに生活のために未満児で保育園へ入れ働いているのに保育料が高すぎてなんのために働いているのが分からなくなる。保育料見直ししてほしい。
現在、発達支援センターと公立園に通っているが、それぞれの活動であったり取り組みが一元管理できておらず、それぞれ違う支援が行われている。親が希望した場合、親、園、支援センターで連携し、子どもに対しての対応方法を一緒に考えてほしい。就学前の子どもたちに関わる施設はあっても連携が取れていないことで、支援が遅れたり、受けられなかったりすることで、就学後に様々なトラブルが出てくることもある。適切な支援を受け、より成長を促せ、地域での就学を諦めずにする場合も出てくると思う。
屋根のある遊び場、年齢ごとに分けられている遊び場、柵があって安全に遊ばせれる場所、ベビーカーが車からおろしやすい遊び場、トイレが綺麗、キッズトイレのある公園が欲しい。
子育て支援センターほっとけーきには本当にお世話になりました。双子の会等、職員の理解があり無ければ双子の乳児期を乗り切れなかったと思います。中津川市で子育てできて良かったと思えた1番の理由です。保育園に通い出すと利用できませんが、多胎児への支援がより充実すると思います。



意見
給食費無償化が1番公平でありがたい政策だと思う。
中津川市立の保育園の数が減ってしまうのに不安を感じる。東と南に保育園がなくなってしまうことに不安がある。幼稚園をこども園化するなど検討が必要では？
公園に駐車場が欲しい(本町公園、えびす公園) 中津川公園の遊具は撤去なのか修理なのかかわからないが、遊べる遊具を設置して欲しい。LINE やインスタなど園や市からの情報受領が便利な一方で、広報の全戸？配布は不要と感じる。ネット上で確認しており紙の無駄。園からの便りもメールでいい。必要な人のみ紙で受け取れば良い。ゴミを捨てるのも労力がかかりタダではない。会社の問題もあるが、園への就労状況の提出(雇用証明書提出)もマイナンバーで何とかならないかと思うほど会社への請求が手間だし、個人事業主は自分で自分の就労証明を出しているため意味はあるのかと思う。園なのか市なのかかわからないが、目的達成のための簡易な他の方法がないか検討して欲しい。園が素晴らしく、保育環境充実しているが、先生方の責任感が強すぎると感じる部分もあり、先生方の負担になっていないか心配な時もある。市からのお願いとして、家族が風邪でも可能なら園で保育を願う通達があったが、風邪を広める可能性があるなら休んで、来ないで欲しい。子供は本当にすぐに蔓延する。そこは集団の場合である園ではない個別保育のサービスが担うべきだと思っただけ、家族の体調にも気をつけて登園させている身としては勤弁してほしいという気持ちになった。
小学校までの希望者バス通学 我が家はバス通学可能な地区の手前なので、徒歩でも1時間以上かかります。親としては女の子なので、実費でもバス通学可能にしてほしいです。今はまだ娘は保育園ですが就学する前に変わって欲しいです。
子育て世代を呼び込む施策をお願いしたい。企業誘致など。また、他の地域より恵まれている環境を明確にアピールできる内容があって欲しい。
遊具がたくさんある公園をもっとたくさん作ってほしいです。
0~2歳が安心して遊べる公園が増えたらいいなと思います。
無料である必要はないですが、子供が自分の将来を選択できるような学力や知識を身に着けることができる環境の整備をしていただきたい。
このアンケートを本当に目を通して頂いているのであれば、詳細理由に記載した内容は各家庭の親御さんはみんな声に出さずとも思っている内容だと思います。いきなり大きな変更を求めてはいけません。少しずつ確実に変わって街に馴染んでいけば「この街で子育てができていいね」となるんじゃないかなと思います。
児童手当の所得制限をなくしてください。教育にお金がかかるため。思いやり駐車スペースや車椅子マークの駐車場を使うことができる人をみんなに知って欲しい。自分が妊婦の時に中津川市内の車椅子マークの駐車場に車を停めたら、面識のないおじいちゃんに注意されたことが2回もあった。おじいちゃんは身体障害のある人のみ車椅子マークの駐車場に停めていいと思っていた。子育てしやすい町になりますように。よろしくお願いします。
子どもへの支援もとても大切だと思うが、生きがいや夢を持っていない母親が多いことも非常に問題だと思う。今回のアンケートもリモートワークの場合の回答がなく、市の考え方が古いままだなと感じた。巻き込み型の運営を期待します。
0・1歳児保育の実施、一時預かり事業の充実
子育てにあたり、自然豊富なこの地域はとても魅力的ですが、働きながら育てていきたいと思うと、施設や制度がまだまだ足りていないと感じます。2人目3人目を望むにはここが引っかかってしまっています。 名古屋まで小さい子供を連れて出かけるには少し距離があるので、この近くにそういった施設があると嬉しいです。せっかく作るなら小さい子供から大きい子供まで遊べる大きな施設にして、地元住民はもちろん、県外からも遊びに来てもらえるような自然を生かした目玉施設を作ると活気溢れるのではないかなと思います。これからの中津川に期待しています。
様々な価値観に溢れ、様々な考えを持った家族が増えてくる現代。「こうでなければならない」教育ではなく、多様性に対応してくれる教育現場がもっと増えたらいいと思う。保育園、幼稚園は市内でも選べるが、小学校は、地域の学校に通うことが“普通”であり、選択肢もない。教育を選べたら、既存の小学校でも、もっと柔軟な対応をしてもらえると嬉しい。例えば、地域の特色を生かした教育など、“みんな一緒”ではなく、それぞれの学校が、これまでしてこなかった学び方を取り入れ、“この町が楽しい”“この町で生まれ育って良かった”と子ども達が思えたらいいなと思う。

意見
<p>子どもが産まれてから仕事を諦めざるを得ない状況は本当にありました。ハローワークでは週 20 時間程度の時間確保を求められ、保育申込では就労してないと保育の必要性が認められないので結局無理でした。</p> <p>スーパーのパートなども距離が遠く無理でした。こういった子育て中の親が働きやすい環境を一緒に考えていけると大変ありがたいです。主婦の叫ぶ場が欲しいです。また、ハローワークでの職業訓練では、受けたい講座が岐阜にしか無かったので、サテライト講座が出来ればいいのにと考えていました。あとは???男女育休を市役所関係から始めてはいかがでしょうか。最低 3 ヶ月程度からで。雇用調整などとても大変だと思うんですが、産後の 1 ヶ月は本当に記憶が無いので、あの修羅場を夫婦で乗り越えさせてあげられたらと思います。</p>
<p>アンケートに書かれたことを無駄にしてほしくないです。中津川市で子育てと仕事をわたしががんばります。わたしは、中津川市に帰ってきました。だから、中津川市を本気で応援しているので、この声が届き、子育てがしやすい町になることを期待します。たくさんの方のがんばりを無駄にほしくないです。</p>
<p>保育園や学校の周辺道路が狭い。送り迎えの時に不安を感じる。</p>
<p>子供がもう 1 人欲しいと思いましたが、世帯収入が低かったため諦めました。親が稼いでいないという親の責任でもあると思いますが、子供が社会人になるまで必要になる費用が高いことも理由です。</p> <p>また、親が稼ぐために小さい子供を兄や姉に任せて仕事に行く家庭、親がお金が払えなくて学校行事に参加できない子供がいます。(実際に見聞きした話です) 親の収入の差で子供に影響が行くのは親の責任かもしれませんが、子供は守られる存在だと思います。せめて、子供が教育を受けられる時期は、子供が選択できるよう平等に教育の機会を与えて欲しいです。子供を 1 番に考える中津川市になれば、大人も地域も住みやすくなるも思います。よろしくをお願いします。</p>
<p>他県から嫁いできたので、中津川市内の普段の買い物や遊び場、子供の保育園など知らないことがとても多かったです。支援センター(ほっとけーきやどーなっつなど)で保育士さんや他の保護者さんたちに情報を教えてもらいすごく助かりました。乳幼児学級びっころ、児童センターのぞうさんクラブにも通ったことがあり、そこで同じ年頃で近所に住んでいる方も知り合うことができ、中津川での友達ができました。なので、中津川市は子育てをしている方の交流の場が多い所がとても良い所だと思います!</p>
<p>小手先だけの支援風ではなく、きちんとお金をかけて下さい。子供に予算をかけなさすぎだと思えます。地区に公園すらなく、旧小学校の遊具も使用禁止。遊具の維持ってお金がかかるからですよ。情けない。</p>
<p>2 人目の育休に入っても 1 人目を継続してそのまま保育園へ通えるようにしてほしい。(育休退園をなくしてほしい)</p>
<p>中津川市商品券 1 人 5000 円配布が嬉しかったです。アプリなどの手続きがいらず(小さい子供がいるとアプリを使う時間もないため)郵送で届いたのも良かったです。これを毎年やってくれたら嬉しいなと思いました。</p> <p>また、似たような形の子どもに特化した商品券(おむつ代等に使えるなど)があれば助かるなあと思いつきました。</p>
<p>生活する為に働く。働く為には子供を預ける必要はある。介護職で働いている為、シフト制であり、時間もバラバラ、365 日誰かが働くので、月～土のみの保育園では(日)や祝日は見てももらえない為、仕事を休むしかないのが現状です。フルタイムが難しいならパートに、そうしたら年間 100 万円変わってくるのです。今の生活を維持する必要がある。両立の難しさ、子供に貧困な思いをさせない為にも、フルタイムでいる必要がある。年収が高くなると、ひとり親の手当がなくなるのもおかしいと思います。高齢者ばかりではなく、子供に目を向けてほしい。ほっとけーきやどーなっつ、保育園に入ると行けなくなるのが寂しかったです。月 1 回でも行くのを続けたかった。</p>
<p>公園の遊具を充実してほしい。未就学児でも安心して遊べる環境にしてほしい。歩いて行ける距離に公園がない。必ず車での移動になるので、公園の数も増やしてほしい。</p>
<p>子の発達に不安を感じた際、こども園を通して市と相談する場をもうけていただき、大変助かりました。はみがき教室 再開していただきたいです</p>
<p>子供が赤ちゃんの時は、市からの検診とか色々で市とのつながりを強く感じていたけど、大きくなればなるほど、その関わりが薄くなっていく気がする。保育園、小学校があるから、そちらへ相談してってことかな?</p>

意見
<p>横断歩道のない五叉路が通学路になっています。見直し、または横断歩道や信号設置希望です。子供も親も小1の壁が大きい。子供は生活スタイルも環境も急に変わり、身近に不登校になった子供も多くとても心配ですが、親（母）も仕事があるので、学童以外でも小学生のサポート（特に低学年）があったり、入学前から子供親ももっと学校の事を知る機会（見学、体験等）が増え、不安なくスムーズに学校生活をスタートできると良い。上の子が卒業しても、下の子は半額のまま希望。熱中症、熊、不審者、雷等、学校への通学が心配なので、2km以上（直線ではなく歩きで）はスクールバス、中学生は自転車OKにしてほしい。昨日まで園にいた6才弱の子が、急に1日3km以上（片道）1人で歩くのは無理があると思います。</p>
<p>子どもの教育面で、ボランティア活動、職業体験、高齢者や障害者、外国人等さまざまな人との交流体験ができる環境機会づくりをお願いします。イベントも毎回同じような内容が多いので、その道のプロ（シェフ、職人）との関わり、子ども達が将来像をイメージしやすく、大人になりたい、中津川で子育てしたいと思えるようにしていただきたい。そのためには、教育学びの機会づくりが大切であると感じます。</p>
<p>子育てしながら働くのは会社の理解がしっかりとないとなかなか厳しいです。実際、転職して働くと子供の看病で休まないといけない時があり、休むと「明日は来れる？頼みたい仕事あるけど」と言われたり、有休が無くなると仕事をやめないといけないと人事の人に言われ、つらいです。</p>
<p>私の息子は心疾患です。現時点では発達は同じ年の子と一緒にです。来年度入園です。家に一番近い場所のこども園も視野に入れていますが、看護師のいる保育園も考えていますが、車での通園にも不安があります。私がすぐに行ける園で看護師が手厚くみていただける先生をつけてほしいです。夫婦の気持ちなども聞いていただきたいです。</p>
<p>土曜日の保育で毎月会社の証明をいちいち出さないといけないのが面倒です。それも両親2人共…。1か月もしないうちに出さないとなので間に合いません。就労証明で土曜日働くのが分かっているのに、なぜ出す必要があるのでしょうか。それに毎週ではなく、突然土曜日に仕事に出なくてはならない時、その申請をしてないと預けれないのは困ります。結局、認可外に預けて、お金が必要になります。あと、認可外保育も補助とか出るならもっと利用したいです。子供や親が入院することになったとき本当に大変だったので、フォローがあればなと思いました。学童に預けたくない場合、送迎で塾に送ってくれる制度があると、学校が終わってから塾に通わせれるし、時間も程よく安心して迎えに行けるのにはと思います。このままでは学童の人数が増えるばかりなので、学校から塾の送迎を市にはお願いしたいです。</p>
<p>子どもの病気の時、休みをいただくことはできるが、本来休みだった日に働いてほしいと依頼される時、申し訳ない気持ちももちろんあるが、遊んでいたりと、ゆっくり休めていたわけではないので理解不足だと思う。分娩施設も中津川市民病院1件のみで、お年寄りとの混合病棟。わざわざこの病院を選んで産みに来ません。</p>
<p>子育てしやすい地域だとは正直あまり感じられません。自然が多く、少し足をのばせば遊べる場所はありますが、屋内でも遊べる施設があるととてもありがたいです。買い物も急に入り用になっても、市内では買えないことも多く困ったこともあります。小学校では水泳の授業はないのでしょうか。</p>
<p>公立園の建物をもう少しきれいに清潔にしてほしい。私立園と比べてかなり古く、使いにくいところがあると思います。保育士の方々も時短制度をもっと活用し、子育てしながら無理なく働ける環境が大切だと思います。</p>
<p>卒業後の障害者の生活できる場所があるとうれしいです。重度障害者だと、行きたい所も断られて生活が難しい。中津川市内だけではなく、いろいろな所に作ってほしい。</p>
<p>キレイで雨の次の日も使える公園。たくさんつくってください。トイレもキレイにしてください。ひとり親だけ特別扱いしないでください。保育料高すぎます。無痛分娩できる病院つくってください。→子ども産みたい人増えます！！！！</p>
<p>乳幼児の施設（ひとまちテラス）があっても、幼児や小学生が遊ぶ施設がない。雨の日など県外の施設まで行かないと遊べない。つくってほしい。公民館講座も幼児向けのものが少ない。市主催で開催できないのか。保育園の布おむつ問題や高校生の医療費無償化など、恵那市と比べて対応が遅すぎる。先行して取り組んでほしい。給食費など市への引き落とし口座をネット銀行対応にしてほしい。</p>



意見
今現在子育て中の家庭の支援をもっと充実させてほしいです。(地域によっては←同居してない場合も)本当はまだ子どもが欲しいけど、看てもらえる人がいないとか、経済的にムリとあきらめている方が多いように思います。まだ1人産んでも大丈夫かな?と安心して希望が持てるような中津川市になってほしい。もう1人産んでも「なんとかなるさ!」ってみんなが思えるような地域や環境や支援があってほしいです。

2 小学生保護者の自由意見 (抜粋)

※原文のまま掲載しています

意見
学童保育の運営を父母で行う負担がとにかく大きい。
給食費を無料にしてほしいです。
親の収入や時間の自由に関係無く、子供のやりたいことをやらせてあげられる環境にして欲しい。高い塾に通える子供だけ進学校に行けたり、習い事が出来たり子供には関係無いことで子供の格差が生まれてしまう。 そのようなことで学校でもカーストが出来、いじめがおこる
子どもの学校にかかる様々な費用や医療面の費用の負担が少しでも軽くなったら嬉しい。
主人も私も親が近くにはいないので、自分の親にすぐに頼ることはできませんが、地域の方によくしていただいて、この地域に移住してきてよかったと思っています。
子供の発達障害について、同じ子を持つ親さんたちと交流が出来る場がほしい。うちは、双子の男児で1人は知的障害もう1人はグレーゾーンなので先先の不安や心配だらけです。同じ立場の親同士、意見交換や前向きになれるヒントがあればと常々思います。
今後、幼稚園や学校の統合等あると思うが、子どもが不便にならないように考えていただきたい。
学校や園の環境整備をハード、ソフトともにしっかりとって欲しい。
市民プールが老朽化しすぎてます。
習い事が限られた物しかないので、色んなものを子供に知ってもらおうイベントを、市でやって欲しいです。
雨の日でも思いっきり遊べる施設などが増えると嬉しいです。
一人目の時と比べて7年経過し、3人目の時は色んな面で改善されているので、今後も改善して欲しいですし、親世代が納めている税金を有意義に使って欲しいです。
坂本地区では安全な通学路がない上、リニア工事で日々大型トラックなどの往来で毎日とても不安をかんじながら子供をみおくらせています。スクールバスなど早急な対応をおねがいします。
子育てがしやすいというより、子どもが集まれる場をもっと増やして欲しい。近くに公園がなくて、放課後に友だちと交流する機会が減る。
公立にもっと自由度が欲しい。子どもたちに選択する自由が欲しい。公立やその他のオルタナティブスクールなどの連携が欲しい。公立以外にも無料で学べる場所が欲しい。子どもファーストな社会であって欲しい。
学校でタブレットを使用して授業をしているようですが、せっかく良いものを使っているのに、活用しきれなくて、もったいない気がします。
食育を充実させて欲しいです。
無料の塾や、こども食堂ができて、市の中心部だけで、行くために、車を使うような所では意味がない。中心部だけの支援は不公平。
小児科が少ない。
地域格差をなくしてほしい 早く小学校の統合を進めて欲しい。

意見
学童保育などを利用したいが、ひとり親で低収入であり利用料が高くて負担になるため、利用出来ない。
施設の充実や便利さを街中だけでなく 田舎にも広げてもらいたい。子ども食堂があったとしても街中だけだったら田舎の子達は利用する事はないと思う。バスもない、駅もない親の車がないとどこにも行けない遊べない子ども達が自分の住む地域内でもっと満たされるサービスがあると嬉しいと思う。
小さい子どもだけでなく、中学生以上の子どもに対しての支援・援助も充実させてほしい。
子育てに関する中津川市の取り組みの意気込みを感じる事が出来ました。今まではこのような取り組みをしているのかも分からなかったです。自分の家庭はそこまで子育てに困っていませんが、このような取り組みから、子育てに困っている方の生の意見を拾い上げて頂ければと強く思います。
支援学級入学等の際の診断書廃止。病院にかかることすら大変な状況を理解してほしい。診断書をもって嬉しい親はいません。義務教育での先生方一人一人の発達障がい児童の理解を深めてほしい。不登校児童の家庭の支援。 学校行けないと親も働けない仕事もできない、生活苦になります。しかし学費などひかれます。そして生活費もなくなります。現状物凄く生活苦です。子供を支えたいのに生活苦で負の連鎖となります。どうかその辺りの支援が充実してくれることを願います。そして不登校児童の支援を充実させてください。実際行けないなら行けないで終わってます。義務教育なのでもっと手を尽くしてください。
学校、病院とも古い建物が多く、新しくなると良いなあと思います。
3人目以上の児童への補助、支援の拡充。
とにかく遊べる施設が少ないと思います。イベントや行事について古い考え方が抜けず強制参加みたいな風習が抜けていない。誰もが参加したいと思えるイベントが出来るといいと思います。
保育士や学校教職員の確保をしてほしいです。先生たちが忙しすぎて手が足りない目が届かない状況になるのが怖いです。
蛭川から買い物や習い事、高校からの通学も中津に比べて、交通費がかかる 市内一律ではなく、地域性も考慮して欲しい。もしくは、高校生の交通費の補助など、格差のないようにして欲しい。
生活と教育にお金がかかり、どうしても仕事中心で子供との時間がとれない。保育園や学童の充実も希望しますが、本当は子供と一緒にいたい。そのために教育にかかる費用の補助や子育て世代への金銭的な支援も充実させてほしい。
近隣に比べて、子どもに対する支援が少ないように感じます。
子どもが夢を持って勉強したり、生活できるよう、子供向けの職業紹介の場があると嬉しいです。
習い事などの送迎が大変なので、バスや送迎車の充実。
森林や河川、里山など魅力ある中津川の自然の整備に力を入れて欲しいです。
校区編成やスクールバス利用による学校施設の柔軟性のある対応に期待します。がんばろう中津川。
給食費の無償化を実現してほしい。
4月に小学校不登校気味になりました。学校の先生方に相談したり、支えてもらいながら一年を通してほぼ登校出来るようになりましたが、完全に不登校になった際の勉強の不安がかなりありました。また不登校になる可能性もあります。子ども本人も親も、ハードルの低い、通しやすい施設があったらいいなと思いました。公共も民間も関係なく、子どもと親の選択肢が増えるような施設を増やして欲しいです。子どもが不登校になった時に色々調べましたが、詳細が出て来ず、子どもも学校以外で学びたい気持ちがあったのでもどかしい思いをしました。親としては出来ることはしてあげたいので、学校以外の選択肢があれば子どもの可能性も広げてあげられると思いました。
学校でも子供たちへのサポートがもっと増えてくれると安心です。担任の先生が一人だけだとサポートしきれない部分もあると思います。例えば、校内にフリーの教師がいて、授業中に困ってる生徒がいれば対応してくれるような方が欲しい。
金銭面を気にせず、安心して子育て、仕事出来る環境にして欲しい。

意見
蛭川に小さな子どもが遊べる公園がなく、以前から保護者が要望をしています。
加子母地区は子供が非常に少ないので、年々PTA活動時の保護者の負担が増えています。学校の老木の伐採、学校の環境整備や清掃など、ある程度業者さんをお願いできることがあれば良いなと思います。
あまりどんな政策があるのか分かっておらず、もしかしたら必要な情報も見逃している可能性があるかもしれません。まずは私達を知ることが大切なのかなと思いました。あと、安心して子育てするには精神的、経済的な余裕があると親もゆとりを持って子育てできると思うので、相談する場所や支援なども充実していただけるととても嬉しいです。こうやって意見を聞いていただけることもありがたいなと思います、ありがとうございます。
小・中学校の先生、保育園の先生には本当に助けていただいて感謝している。私達、子育て世代の生活も充実させてもらえると嬉しいが先生方の負担は増やしたくない。
我が家には第三子がいるが、保育園料が高い。これが、3人とも同時在園か所得が低ければ無料になるのが納得できない。年齢差があっても第三子は第三子なのと思う。また児童手当なども所得の制限をかけて支給しないのが、なぜだろうと思う。所得が多い人が子供を持つ意欲がなくなると思う。また子供に障害があり、特別児童扶養手当をもらっているが、これも所得に制限がある。今はもらえるからありがたい。でも子供が育てやすくなったわけでない、3年に1回の判定時に知的レベルの成長がみられなくても、親の所得の制限がかかればもらえなくなる。理不尽であると思う。障害者への支援への所得の制限は撤廃してほしいです。
机上の空論ではなく子育てしている人の意見を取り入れ、表面上だけでなく、本当に子育てしやすいまちづくりをしてほしいです。中津川市は他の市町村と比べ、子供のための施設が少ないです。特に雨の日に遊べる施設を作って欲しい。
子供だけで行ける場所になれば、無料の学習塾も食堂も意味がない。結局は立地であり、過疎化が進み、公共交通機関がないところでの送迎問題を解決して欲しい。
1クラスあたりの定員を減らして欲しい。発達障害や愛情不足などで周りに暴力をふったり暴れる子供たちの対応をもっと手厚くしてあげて欲しいです。
小学校の学習環境が良くない。もう少しレベルの高い教育を期待する。
子育てイベント等、結局市役所の方まで行かなければならない。行くだけで30分。子ども食堂にしても、近くでは無い。移動式のキッチンカー等で回ってほしい。子ども達の交流の場。児童館、各地域に作って！
愛知県のように、支援学校に通わなくても、地域の学校に通うことができ、加配をつけてくれる制度があるといい。
もっと子供向けの文化的なイベントを充実して欲しい。市民グループレベルではなく、本格的な劇団やオーケストラ、国際交流など、生で体験できる機会が市内であれば良いと思う。
収入と、貧困、教育費における生活の苦しさは比例しません。全員に平等な支援をしてください。
働き方改革が保育士、教師に本当にプラスになっているか知りたいです。
いろんな種類の習い事の体験が安価で受けられるとありがたい。塾や習い事の紹介
学童保育の先生の教育等にも市が関わっていただきたいです。
可能であれば、子供がよく行く場所や通学時間帯に見回りやパトカーなどでの巡回が時々でもあると少し減るのかと思います。よろしくお願いします。
巡回バス等が利用出来れば共働きの世帯としては大変有難いです。以前に予約のできる巡回バスみたいなものが試運転であったのですが17時45分が最終だった為利用出来ませんでした。
子供達が年間通して長期休みだけでなく楽しめる主体となれる様なイベントが欲しい。
こども達の通学路は、舗装、雑草除去などを定期的に行なって欲しいです。
病児保育のハードルが高い。個人での習い事による家庭差が不安。
PTA活動も、市の連合会は片道30分かけて行かなくてはいけないなど負担がある。子どものために親が動くものなのかもしれないが、子どもを置いていくリスクもあるし、子どもと関わる時間もけずれる。子どもたちがもっと気楽にひとまちテラスや市民プールなどを、遠い地域の子どもたちも利用できるようにしてほしいです。

意見
積極的な少子化対策をしていただきたいです。他の市町村では保育園の数や保育士数を増やすことで若い世代のリターンや移住が促進され、人口が大幅に増えた例もあるそうです。そうした実例の情報をしっかりとつかみ、将来の中津川市への投資として、今費用がかかっても実効性のある対策を行っていただきたいです。(加えて保育士さんの給与や処遇も見直されるべきだと思います。仕事を続けたくてもあきらめている方たちがいることも大きな問題だと思います) また子供の減った地域の学校を安易に統合することは、学校を失った地域の過疎化を促進することに他ならないと思います。例えばそうした学校を活かして少人数での指導を希望する他の学区の子どもが通えるようにしたり、特色を設けて(他にはないクラブ活動など)同様に希望者が通えるようにするなど、様々な方法があるのではないのでしょうか。子どもたちにとってもよい環境につながるのではないかと思います。一時的なお金や商品券を配るのではなく、本当の意味で子どもをもっても安心して生活ができる、ここで子どもを育て暮らしていきたい、そう思える街づくりを進めていただくことを願っています。
近年は、男性の実家近くで住むより、女性の実家近くで住む家庭が増えてきたように感じます。その方が、子育てのサポートを頼みやすいのと、介護が必要になった時に娘の方が頼みやすいという利害の一致があるのかもしれませんが。男性の地元就職者を増やすことも大切だが、女性が地元で長く働き続けることが出来る職場を充実させることも大切になってくるのではないのでしょうか。
病児保育は、市民病院ともっと連携してほしい。何のためにそこにあるのですか？
子育てに関する情報の「見える化」をしてほしい。市としてどのような支援があるのか分かりにくい。子育て世帯へお金を配るのではなく物を！！全員ではなく支援が必要な人に、取りに来たらいつでも渡せるみたいな(取りに来られない人もいる)。
子供が学級閉鎖の時の預かり先など、もしくは突然の休みでも受け入れてくれる仕事先など、世の中の仕組みを変えていかないと、お年寄りが増え子供がどんどん少なくなっていく現状は変わらないと思います。
今は子供も大きくなってそれほどでもありませんが、子供が小さい時は本当に大変で苦しくて、相談したい、話を聞いてほしいと思うことが何度も何度もありました。でも相談所の前に行っても本当に困っていても、助けを求める勇気がありませんでした。その一歩がなかなか出来ませんでした。面と向かってというのはなかなかできないものです。そういう思いのお母さん達は結構多いのではないかと思いますので、電話相談の場を増やしたり、気軽にチャットのような形で顔を見なくても相談や話を聞いてもらえる場所があるといいなと思います。
子どもに発達障害があり、幼い頃から市の支援を受けてきました。他市に比べて、支援の手厚さを感じています。これからもこのような子どもたちへの支援(相談・学校での配慮など)をよろしくお願い致します。
同じ学区の子と放課後に集まって遊べる公園があれば…とずーっと思っています。
コロナがら類になったので、母子(父子)交流の場の拡充・拡大を行い、子育てに関しての保護者の意識向上を行ってほしい。
子供を育てるようになって、何をやるにも役員や地域行事への参加が多く、とても良い事だとは思いますが、経済的な理由で共働きのため苦痛に感じることもある。色々な行事や支援に参加してみたい気持ちはありますが、今の現状では、子供を育てる上で躊躇してしまう時があります。このようなアンケートで意見が言いやすいため、今後の中津川の子育て支援に期待できます。
坂下に児童館があったら良かったのに…とよく思います。子供はどこかで遊びたいのに、なかなか遊ぶ場所がありません。
少人数でも授業が受けられる体制をつくっていただきたいです。
ボランティアの学習支援ですが、教員免許を持っていない人が教えるのかと思うと心配です。子ども食堂は田舎なので子供が自分では行けないので親が連れて行く事になる。食事の配送(弁当)を考えては。
子ども食堂の場は親子でほしいと思います。とても助かると思います。気が合う人達とお話ができたり、相談する場所づくりは充実していただきたいと願います。中津川市にも月1など無料提供していただける食料(自治体)があると嬉しいです。
フリースクールや通級といった学校以外に通える場所がもっと増えてくれたら良いと思います。

意見
教員の働き方をしっかりと改革してほしいです。子供のいる先生が遅くまで学校にいるのを見ると悲しいです。保育士の人数配置も、市独自で改正していただきたいです。1才児を4.5人に1人の配置でどのように食事介助したらよいのでしょうか？教育に携わる職の人達が余裕を持てる中津川市になることを新しい市長に期待しています。
学校で学年が上がるにつれ、授業についていけない子・聞ける子・聞けない子といて、勉強がどんどん苦手で嫌いになってしまう子が出てくると思います。我が子は中々聞けないタイプで、授業も普通コースとゆっくりコースがあったら助かるなと思います。
高校生や大学生のほうがお金がかかるので、何か補助等があると助かります。
中津川市に発達障害の先生がいない。もっと発達障害のある子どもの支援に市が協力的になってほしい。とにかく専門の先生を中津川市に迎え入れてほしい。
特支への理解や子ども達への説明？みたいなものがもう少しあれば…と思います。
物価が上がリ、家計が厳しくなっています。習い事も増やしたいですが控えています。中津川市は水道代が高く感じますが、気のせいでしょうか？子供を育てるにはお金がかかります。子供のための支援をもう少し増やしていただくと大変ありがたいです。
学校が合併することが多いが、子供への悪影響についても追跡調査してほしい。
少子化に伴い、学校の生徒数は減少傾向にあります。女性の社会進出により、学童のニーズは増えるのではと思います。働いて下さる方々の労働環境の改善も一緒に考えて頂ければと思います。
学校の教育で音楽会がないことにびっくりしました。今の中津川の教育で勉強が苦手な子、運動の苦手な子はどこで輝けば良いのでしょうか？不平等な気がします。
今回の子育て等に関するアンケートを実施されていることに感謝致します。学用品などの隠れ教育出費の負担が大きいと感じます。高校になってからのお弁当の準備を考えると時間的、金銭的負担が心配になってきます。
育児をしている家庭が仕事復帰をしやすいように、企業に対してワークライフバランス推進を斡旋してほしい。
学校のホームページ、日頃の生活、出来事など子供達の様子がよく分かり、とても良い、嬉しい情報でした。
とにかく高校に通うバス代のことをもっと考えてほしい。同じ市内で年間にかかる金額がバス代だけで随分差が出るのはおかしい。学校に通うのに時間がかかるだけでも学習時間に差が出るのに、習い事にかかるお金とか時間にまで差があるのだから市でもっと考えてほしい。平等にお金を配るのは変。高校に選択肢があればいいが、選択肢が無いのだから、市は子育てについて支援と思うのであれば、通学費用は無料であるべき。今から考えてもこの子の時に間に合うのかと思うと、早く考えてほしい。今のバス保護者会では足りない。
子どもの歯の矯正費用の補助があったらありがたいです。・不登校児の親の交流が出来る場があったらいいと思います。
児童精神科の先生・科がない為、岐阜市まで通っています。発達障がいの子供が増えている中、近くに相談にのって下さる医師がいないのは不安です。
子供が体調を崩したら休みますと気軽に言える会社が増えてくれるとよいなあとと思います。
学校、保育園の物品や子供対象へのサービス支援、割引サポート援助も積極的にしてもらえると家計が助かる。参考書や本を買うのもつらいときがある。学習サポートを気軽に利用できるといい。
タブレット（クロームブック）学習があまり進んでいないように感じる。学級閉鎖などでももっと使うと思っていたが、使わず。図書館が新しくなり、親子共々ワクワクしています。これから色々楽しみです。
給付金はなぜ世帯収入で決めるのか？子供や年寄り和生活している人数が多ければ、収入だけで見ても割に合わないと思います。人数が多ければ、電気代、水道代等、家の大きさと税金や車も小さいのでは無理なので大きい車に乗らざるを得ないため、税金も倍。現実中間層もきついです？子供の為に扶養内で働かなくてはいけないのに。
ひと・まちテラスのようなところをもっとあったらなと思います。夕方はいつも学生ばかりで、私たちのような子連れ親子は行きづらいです。
小学校の下校時間が早い日、その都度仕事を休んだり、早退しないといけないのは困ります。学童に入る事もできないので、何とかしてほしいです。

意見
学童保育所は父母会運営です。役員を勤めることが順番に回ってきます。保護者の負担（役員）を減らす運営の仕方にできないでしょうか。進学する際、特別支援学級がなくなってしまう不安があります。定員が足りない理由ではなく希望者がいれば対応できる仕組みになるといいと思っています。
小学校、中学校の地域の子ども会、なるものを廃止にしてほしいです。PTAと違い、学校の援助、介入はほぼなく、役員になった人の負担が大きすぎます。
大学の進学に関する補助金や負担金制度について、もっと充実してほしい。
保育園の先生方、小学校の先生方、地域の方が、子ども達のために毎日活動してくれていて、安心して仕事ができる子ども達も成長しているので、本当に感謝しています。
発達障害の理解がなく、知識なく、ある程度成長した後に、支援を受ける子を見たりすると、親が後悔している事多いです。
運動会等の行事で、コロナ前ではお弁当持参が大変な面もあったと思いますが、それも子供にとっては大切な思い出になるのではと思います。なるべくそういう経験をさせてあげたいので、1日通しての開催も良いのではないかなと思います。地域での学習支援の場所があるととても良いと思います。
子どもを小学校に通わせていて、支援の必要な子どもたちが非常に多いように感じている。子どもと共に親の成長、自律の必要性も痛感しています。
ボランティア活動に興味があります。市から積極的に情報を流してもらえるとうれしいです（広報だと見にくく探しづらいです）。
中津川市の中心以外の地域の医療、福祉、教育を縮小・合併で不安になります。取り残された気持ちになります。
子ども食堂は大賛成です。自身も働いてみたいと思いました。
学校などでもいろんなことに取り組んでいただいて、先生方も一生懸命やったださりありがたく思います。科学館などもイベントをやったださり、参加したいと子どもが言えば申し込んだりしています。もっとやったださると嬉しいかも。少年団でも我が家はお世話になっています。今は「子どもだけで公園に遊びに行く」などはないので、私らの時代とは違うなどは感じています。色々考えてくださりありがとうございます。
上の子の状況から鑑みて、市内の中学生の学力が低すぎると感じるのので、その対策も課題としていただきたいです。
知識だけでなく知恵を身につけられる環境がほしいです。世代を超えた交流の場が必要。
中津川市民病院の小児科に一番近いトイレに子供用便座を設置してほしい。坂本地区は中津川公園しか遊具がある公園が無いので、増やして欲しい。通学路が狭いため、ダンプなどが通ると大変危険。子どもが遊べる場所を増やしてほしい。B&Gのように気軽に借りれる場所が中津川中心、苗木にもほしいです。学校の体育館にヒーターと扇風機（クーラー）がほしい。スポーツするのが辛いです。
もっと子どもが遊ぶ所を増やしてほしいです。外で遊べるようにアスレチックなどの施設がほしいです。雨の日でも遊べるトランポリンや体を動かせる施設がほしいです。
ひとまちテラスで、学習スペース等が増え、子供たちにとっても、充実した環境で学べることができ、感謝しております。ボランティアなど今もありますが、もっと色々経験できる機会やきっかけがあるといいなと思います。
これからの未来を担っていく子供たちに、親としても市民としても色々な事を経験し、自分の力に変えていってほしいです。これからの中津川市が楽しみです。
せっかくひとまちテラスを作ったのだから、もっと有効に使ってはどうか。屋内で、年代別に楽しめるスペースづくりとか。子供バス定期のようなものを作ってほしい。年間500円ぐらいなら皆出すと思う。歩きしか手段が無いのはかわいそう。そしたら、親の送迎の負担も減るし、子供だけで勉強しに、ひとまちテラスに行ける。
親子で参加できる楽しいイベントが増えたらいいなと思いました。
学童を市営にして頂きたい。役員になった時の負担が大きい。PTA等、簡略させたい。
中学生以降の発達支援、進学支援に力を入れてほしいです。
学校、体育館のトレイの多くが古く、洋式トイレがないところもある。子どもたちだけでなく、災害時の避難場所になることも考えて、整備していく必要があるのではないかと思います。環境を整えるという点で市で考えていってほしいです。

3 小中学生の自由意見（抜粋）

※原文のまま掲載しています

意見
中津川市は都会と違って自然いっぱい暮らしやすいし、恵那山もきれいで好きです！
大型のショッピングモール・映画館をつかってほしい。
自分は魚のコイが好きなので、もっと付知川にコイがいるようにしてください。買い物できる所が少なく、恵那や他へ行かなくてはならないので、買い物ができる所を増やしてほしいです。
きのこに興味があるので、きのこに関する施設をつかってほしい。
今の中津川市はポイ捨てなどが多いから、環境にやさしい中津川にしたい。
リニアが建つことで人の住まいや自然環境に影響を受けていない街だいいと思います。
たくさんイベントを行って、中津川にたくさんお客さんが来てくれる町にしたい。小学生や中学生でお店（屋台など）をイベントで出して中津川のたくさんの人と交流したいです。
中津川市のみんなが男女関係なく色々な人に自分から挨拶ができるようになってほしい。
学校の設備を安全にしてほしい。蛭川地区内にコンビニ。
東京のような都会になってほしい。新幹線がほしい。ライブが来るような場所になってほしい。ディズニーがほしい。デパートができてほしい。髪を染めてもいい学校になってほしい。
人工芝のサッカーグラウンドをつかってほしい。
誰もが学校に行けるようにしたらいいし、差別、いじめなどない過ごしやすい学校に。
環境に優しい町。
学校内に自販機を置く。高校に給食をつける。スマホの持ち込みをありにする。高校を無料にする。高校（中学校）への通学金を払ってあげる。付知に高速道路。付知町に線路をつなぎ、付知駅をつくる。
古い町並みも残しつつ、新しくなってほしい。
中津川市がもっと栄えるように商業施設をもっと増やす。SNSを上手に活用して、中津川市の知名度を上げた方が良い。
付知の一番の魅力である自然をもっと増やしたい。小さい子どもがもっと安全に過ごせる町づくり。
地域全体で体を動かす取組。お祭りを増やしてほしいです。部活やクラブで使う器具を新しくしてほしいです。中学校の（テニスコートなど）。
体を動かせるところがもっとあるといいなと思いました。
安全な公園。子どもが遊べる場所。
環境を守ってほしい。
アニメイト、ジャンプショップなど、アニメのグッズが買えるところ。
雨の日でも遊べる場所（暑い日なども）
子育て支援はお金ではなくサービスがいいと思う。公衆電話を残してほしい。理由は災害の時に役に立つから。
女の子らしい店がないので、そういう店がほしいです。
バッティングセンターを作してほしいです。
大きいゲームセンターを建ててほしい。野球のスタジアムを建ててほしい。
リニアの駅ができるから観光客を増やす何かをやってみたらいいと思う。
もっと障害のある人たちが暮らしやすい場所にしてほしい！
体の事で相談できる場所。



意見
花粉を少し減らしてほしい。いじめのない市にしてほしい。
気軽に人助けができる雰囲気になってほしい。
安心・安全で暮らしやすい中津川市がいいです。
全ての子どもが平等に安全に暮らせる中津川市になってほしいです。全ての子どもがそうなれば、一人親家庭のみ対象とはなくなるのではと思います。
もっと目立つ市になってほしい。
川がもっときれいで安全になってほしい。
便利な物や乗り物があって、自然があるといいと思う。
今はゴミが公園などに落ちていて気づいているのに拾わない人、高齢者を優先しないところを見かけたので、これからはもっと中津川市が優しさや楽しいで包まれる所になってほしい！
何かあったときの近所の優しさがとても過ごしやすい。
中津川市が豊かでいい街になって欲しい。
中津川市ではみんなで協力して「ゴミのポイ捨てが一番少ない市」になって欲しいです。
中津川市の事故などを減らして幸せな生活を送れたらいいと思います。
観光客が楽しめるようになってほしいです。
小学校を早く統合してほしい。
リニアの駅周辺を自然を守りながら発展させたり、各地に路線バスを走らせたりしてほしいです。
交通機関を発達させて無料にして欲しいです。
もっと仲間との繋がりを大切にする活動をしてほしい。
中津川市でのイベントなどを活発に行い、私達の街をもっと活性化させられるといいと思う。
あまり都会化しないでほしい もっと中津川市に関わる食べ物を広めたほうがいいと思う。
人々が安全で自由で新しいものを取り入れ経済的に良い中津川がいいです。
古い建物や空家の再開発。少子高齢化の対策。
天体観測ができるところがほしい。
街灯を増やすべきだと思います。
もっと学生が遊んだりできる場所と勉強できる場所増えるといいと思う。
古い建物を壊して、商店街とか作ったらいいと思う。
交通機関が不十分なのでもっと整備してほしい。チェーン店がほしい。
みんなで挨拶をしあえるようになりたい。
仲間とのつながりを大切にする活動を行って欲しい。
馬籠宿などの観光資源を活かして観光客の増加。少子高齢化対策。
もっとはやくリニア作って欲しい。ひとまちテラスをもっと広くしてほしい。駅前にサイゼリアなどのファミレスを作って欲しい。人工芝のサッカーグラウンド作って欲しい。
新しい図書館よりも、古い図書館のほうがリラックスできた。
不便は感じていない。ただもう少し若者向けの施設が増えてほしい。
もっといろんな市や県との交流やイベントなども増えて欲しいと思います。
今のままでいいと思う。
お金や食べ物を全員に支給。

意見
お金や食べ物を全員に支給。
中学校に学園祭があつて欲しいです。
部活のクラブ活動のことで、クラブに行きたいと思つても、親がめんどくさい、遠い、忙しいなどやりたいのに親があつてなつてしまうので、そのようなことのない、送り迎えのバスなどがいつかできるといいなと思います。
モノクロスができるようにしてほしい。バイクの競技ができるようにしてほしい。
中津川市は広いので、様々で違つた文化があります。それを一度に見られるマップだったりとか、有名なものを集めたマルシェだったりがあるとちょっと地元のことを知れると感じました。
生徒会サミットを聞いて実現してほしい。
学校で活発な話し合いができていないからみんなが意見や疑問を持って話し合いができるといいなと思う。
一人で静かにできる場所があつたらいいと感じる。
休日にも他の地域に行っている人がとても多い印象があります。もっと地域が盛り上がるような催し・施設があるといいと思いました。
太陽光発電を作らないでほしい。山に。自然維持。
今中津川市では、新高速道路やリニア中央新幹線の岐阜駅の工事をしていたりするわけですが、「寄つてみようかな」と思わせるような施設を（可能なら）造つていったほうが良いと思います。（中津川 IC から下呂市に行くには中津川市を通過して下道に行くので高速道路ができてしまつたら行く理由がなくなつてしまう。）また、それができなくとも今ある観光資源、馬籠宿や和菓子を積極的に PR していったほうが良いと思いました。
もっと有名人（芸能人）が来てほしい、もっとイベントをしてほしい、遊園地などの楽しい場所をもつと作つてほしい、学校のイベントを増やしてほしい。
スポーツをするところを増やしてほしいです。
ペットと一緒に遊んだり、買い物できたりするお店や広場を増やしてほしい。
図書館があつたらしくなつたのが嬉しい。
スポーツのクラブ化を勧めてほしいです。
変に都市化とかするのではなく、中津川の強み（お菓子や、中参道）などを全面的にアピールできる施設を増やしたほうが良いのと、森を守るような体験や、自然をいかした施設などを作つた方がよいと思う。
あと、お菓子が美味しいのももっともっと、お菓子に関するお祭りを増やした方がよいのと、中津川公園とゆう素晴らしい公園があるので、スポーツまつりみたいなものがあると良いと思う。
アパートやマンションが増えないようにしてほしい。どんどん緑がなくなつていつている
学生が行けるようなお店があるとよいと思う。
中津川市は発展しすぎず、不便ではなく自然を大切に、たのしめるような今の状態を保つてほしい。
子ども食堂ができて、困っている人がいつでも利用できる。お金がなくても、高齢者が介護施設にはいられる。不登校の人が生きがいを感じられる場所がある。
歴史のある建物は無くさないでほしい。
病気や障害を抱えている家族に対しての財政支援を手厚くして欲しい。遠方の病院への定期通院等における、①高速道路代金、ガソリン代の補助金②車椅子や松葉杖等の特殊医療器具の購入補助金。
森林をきらないでほしい。
道路がせまい。雨がふると水たまりができて車が水をはねてぬれる。
もう少し安全にボール遊びができる公園が欲しい本町公園でわ道路にボールがで出してしまうことがあつて怖いです。
高校がもっと近くにあるといい。住みやすい街もいいけど、ずっと住み続けたい街になるといいなあ。僕は、付知のためになる仕事がしたい。



意見
犯罪の件数0。みんなが楽しく安全に過ごすこと。遊べるところ。
いじめをなくす、きれいな街。
中津川市は、いい人がたくさんいるのでとてもいいと思います。しかし、自分の住んでいる中津川市に大きな地震が来ると言われているので、市全体で防災をしていきたいです。私は中津川市が大好きです。
家族みんなあそべるところがあるといいと思いました。
中津川市の公園に花を沢山植えればいいと思います。博物館、牧場を増やしたほうがいいと思います。
坂下診療所を残してほしい。
中津川が人のために頑張れる人が多い街になってほしいと願っている。
いつまでも神坂の自然がたもたれてほしいな。
自然を守って行きたい。戦争が起きてほしくない。
森林がもっと増えて、子供が増えて友達をたくさんつくりたい。
学校で子供に恐怖を味合わせない。先生が教育法を今一度考え直す。。生徒の嫌がることをしない。
中津川市は親切な人が多いと思います。
リニアが通ることで、様々な工事や、施設の開発も進むと思いますが、自然が減りすぎたり、自分の地域の周りの、なじみのあるものや場所が（建物、環境など）あまりにも変わりすぎると悲しいので、開発や工事をするときがあれば、適度に調整を入れてほしいです。お願い致します。
お祭り(十日市)のある日に学校があるのでお祭り行けないのが嫌だ。だからお祭りのある日は中津川市の学校を休みにしてほしい。
歩道を広くしてほしい。
もっとにぎやかになって、学校でも快適に過ごせるような環境をより良くして、みんなが学校に来たり、好きな友達と過ごせるようになってほしい！
小学生、中学生、高校生に1ヶ月ごとに1500円支給してほしい。
リニアによって壊されてしまった自然を取り戻してほしい
にぎやかな街になってほしい。
買い物を楽しめる場所等がもっと欲しい。
早くリニアが完成してほしい。
ライブ会場のようなホールが出来たらいいな。
中津川市が経済格差のない市になるといいな。
みんなが協力をして、もってくらしやすい中津川になってほしい。
はんざいのない中津川市になったらいいなと思いました。
春休み、夏休み、冬休みがもっと長くなっほしい。
中津川市が日本の都市になって欲しい。
中津川市の人が意地悪な人がいないようにしたい。
建物がもっと発展していて少し都会になって欲しい。
観光地になるといいな。
すいぞくかんがつけられてるといいな。
中津川市のみなさんがみんな笑顔にらせていたらいいと思います。
なつやすみとかの宿題を減らしてほしい。
『誰でも安心して生活出来る所になるといいな』と思っている。

4 若者の自由意見（抜粋）

※原文のまま掲載しています

意見
地域で働きかけるべきだと思う。相談がしやすい雰囲気が必要。相談する場所に信頼性が無いと相談出来ない。→信頼が無いならする場所があっても無いのと同じだと思う。金銭的な負担をかけない。
中津川市は物価高騰給付金などをたくさん、くれるから非常に助かってます。 これからも良い街にできるように頑張ってください！
若者への支援、高齢者への支援、その他、サポートが必要な方への支援など、たくさん中津川市としてサポートして下さっていることがあると思います。 それらの予算の振り分け方を変えるだけで救われる人はたくさんいると思います。
お客さん（市民）だからといって、厳しいことを言わなさ過ぎると、客観的に見て異常行動をしている方が増えてしまう（つけあがる）ので、ルール違反箇所は厳しく指導する。という気構えが接客業には必要だと感じる。
28番の質問で「中津川市は好きですか。」とあり好きと答えました。しかし、具体的には阿木は好きですが生活が恵那中心で中津川市に恵那より愛着があるとは言えないです。僕としては阿木がもっと中津川市と繋がっているなど感じられるようにしてくれたいと思います。
生活していく上で税金やらなんやらでお金がどんどん減っていく為生きにくい。もっと補助金や支援金があってもいいと思う。もしくは減税。
加子母や付知に住んでる人に対しての高校生のための寮を作ってほしい。通うのも楽になり、勉強の時間が増える。出来れば家賃なども安めにしてもらって学生がバイトと親からの少しの支給で生活できるくらいがいい。もしくは、バス代を安くしてほしい。バス代だけで私と弟で60万超えて、3年間で1人90万超えとかバス代で余裕でかかるから負担を減らしてほしい。大学などに行くお金がない家庭もあるから。もう少し若者に住みたいって思ってもらえるような町作りをするべきだと思います。子育てがしやすいと自然と人が集まりお金が集まると思います。なので、中津川は老人が多いかもしれないけど、老人ばかりに支援するのではなく子育て世代に支援を重点的に置くべき。
昨年、結婚のため秋田から中津川へ移住をしました。知り合いが全くいないので職場の悩み事や不安などを打ち明ける人も出来ず溜め込んだ結果ハラスメントによる適応障害という診断を受けました。 リニアがくる街だけあってこれから移住者も増えると思うので、人と人が気軽に交流できる環境を増やして頂けたら凄く有難いです。
ひとり親世帯で、援助を受けずに実家暮らしをしている 家庭に少しでも援助してほしい。
難病を患っており、いずれ両親がいなくなり、自動車が運転できなくなるとライフラインを維持する事が困難。タクシー券はもとより生活の足の確保をもっと手厚くしてほしい。
現在、市長自ら対話会を開いたりするなど市民との関わりをしているのが見てとれます。このように、市の中心的な人物が市民の前に出て会話等をする事で、生活に困る高齢者、外に出ることが出来ない若者を変えられるチャンスだと思う。これを続けて欲しい。また、生活水準が高くなる事も大切かと思う。例えば、中津川市には今までない商業施設や、観光業を盛り上げて行けば、中津川市自体が良くなりそれに追従して、生活困窮者、若者の活性化に繋がっていくのでは無いかと思います。
もっと子供が遊べる場所が欲しい。小さい子でも遊べる遊具がある公園が近くにあると、息抜きに連れていけるのになあ…と思う。周りに何もなくて、休日に子育て支援センターがやっていないと行く場所がない。気軽にいけるところがあると嬉しいです。
皆が思っているよりも心の病気を抱えている若者は多くいます。でも中津川市内には心療内科がない為「それが病気だ」という意識も低く、相談する人がいなくて1人で抱え込んでいる人がいっぱいいます。
現に私もうつ病と戦っていますが、前月名古屋まで病院に行っています。お金も時間もかかります。まずはこういう方たちの病院をつくってあげる事が大切だと思います。調子が悪いから病院に行ったのに、「どこも悪くない」「心の病気かもしれないけどここでは分からない」と投げ出される人たちの気持ちは分かってあげてください。とっても辛いです。このアンケート、私はすごく嬉しかったです。少しでも私みたいなのうつ人間に寄り添ってくれるのかな、私みたいな子を少しでも減らしたい、そう思ってたくさん書きました。ぜひしっかりと役立ててほしいです。



意見
送迎サービス（車を持たないお年寄りの方向け）
阿木地区の市営住宅の増設。親と同居しているシングルマザーに対する支援の充実。世帯分離をしている家庭には児童扶養手当を支給してほしい。児童扶養手当や母親の医療費補助など一部支給でもいいのでもらえると助かる。阿木地区には民営のアパートやマンションがないため、地元に戻ってきたくても親と同居するか家を建てるしか選択肢がなく、困っている若者もたくさんいると思う。子供を持つ家庭へ習い事への補助金があると嬉しい。高校バス通学補助金の対象に明知鉄道が入っているのはありがたいが、補助金額が少なく、あまり援助を感じない。JRを使っているのに、明知鉄道だけでも半額くらいまで補助してもらえると助かる。 子供関係、地域関係で役員が多すぎる（種類が）。私はシングルマザーですが、子供2人いて、毎年3つほど役員を掛け持ちしている。仕事もしなくてはいけないので学童に入れているが、学童も保護者運営。PTA会議や交通ママ、婦人防火など、無くせる組織は無くすか併用するなどしてほしい。

5 ひとり親の自由意見（抜粋）

※原文のまま掲載しています

意見
何をするにもお金が必要です（生きていくための）。いまだに家族に協力してもらえばお金などがけず子育てができるという人がたくさんおり、子育ての相談をしたところで何も解決せず、ただただ相談したことを後悔するそんな時間が一番つらく思います。口では多様性の時代だ！！と偉そうに言う方も、結局のところどこか蔑んでいて、最後には「ま、みんなつらいんやで何とかするしかないね」とか「ひとり親やで市から金もらっとるで羨ましい」など心無い言葉を投げかけられる日常を味わっている人がたくさんいること、そんな人々が気に病むことなく相談できる場所であってくれることを心から願っております。
付知の図書館に本がもっとあったら良いと思います。図書館で学習（学校が終わってから）していますが、環境を良くしてほしいです（結構古いので）。保育園バスがなくなりましたが、あると山地区に住んでいる人は助かると思います。山の中で住んでいるので冬自転車に雪で乗っていけない時、小学校のバスに中学生も乗せてもらえたら良いと思うことがありました（朝のみ）。雪が降るとすぐ積もるので、雪かきしなきゃ子供を中学まで送りづらいです。が、もう来年卒業です。学校に行けていない子供が多いです。そんな子供たちの居場所があったら良いと思います。ずっと学校に来ていない子供たちの未来が心配です。
病院がなくならないようにしてほしい。リニアははっきり言って必要ない。地震大国なので怖い。中津川はリニアに執着しすぎ。
ひとり親の充実（死別のみ）
子供が学生のうちは医療費がかからないようにしてほしい。専門学校や大学へ行く子供の支援をしてほしいです。
何かしらの手続に行く際も職員さんが丁寧なのでうれしく思います。
正社員で10年以上働いていましたが、子育て中の方は要らないと突然1か月後に辞めました（辞めさせられた感じ）。有給も少なく給料も毎月貯金を崩しています。保育園児なのに…大きくなったら何もしてあげられないんだろうと思います。職に対してのサポート、資格取得などのサポートはどこで受ければいいのか迷っております。土・日なども気軽に相談できたらいいなと思います。職も安定させたいです…。シングルで自分の通院も行きづらい。子供に対してゆとりを持って接することができないのも悩みです。スマホなど利用し検診など受けられるのが安心です。スマホも利用し、職や子供のこと相談できるとうれしいです。
子育ては親だけでは無理なので、職場での理解や雇用の面でも支援は必要と思いますし、お金もかかるので何らかの支援は必要と思います。ひとり親ならこれらの事は急務です。教育にかかる費用も大変なので、もう少し支援していただくと助かると思います。
学童の料金が安い。病院が少ない（安心して診てもらえる病院がない）。補助金（市政として）をつくってほしい。子が高校卒業するまでは家賃半額補助等。シン・ナカツガワに期待しています。

意見
<p>これは中津川市だけでなく日本中ですが、日本の教師は世界一忙しいと言われている職業です。先生方の業務をもっと子どもに使える時間に使えたら、学校も教育も変わると思います。そして、子どもたちの学校での学びの時間数1日6時間ある中で、休憩が1時間もないこと。これじゃあ子どもも本領を發揮するわけありません。40分休憩があっても20分と20分で分けられていて…そりゃあ授業が嫌になります。せめて連続して1時間はあっていいのでは（給食の時間を抜いて）。大人になったら何十年と働くから、小・中学生、せめて小学生の時間くらいは余裕があるといいと思います。というより、そのほうが学ぶ力がつくと思います。そして、もっと子どもたちが自分で考えられるような授業を作っていく必要があると思います。だからこそ、先生方の子どもへ向かう時間を増やす時間がとても大切だと思います。上のことにもつながりますが、小学生時代にもっと自然と触れ合い、私たちは自然と共に生きていくこと、地球を汚さないことは基本中の基本のこと、小学生時代に学ばば地球を大切にすると大人が増えると思います。性教育についても日本は遅れています。外国では、性教育を取り入れることで望まれない妊娠が減っています。もっと力を入れるべきことだと思います。</p>
<p>仕事があるから保育園を利用しているのに、休みの子どもとの時間がたくさん取れる土・日に行事に参加しなければいけないのは不満です。小学校に上がったなら学童に入れないと、給料が減ってしまいシングルではかなり厳しいのに、先輩ママから「親の負担が多すぎる、役員をやるまでやめさせてもらえない、揉め事があると保護者会で夜22:30まで話し合いがあった」など悪い事しか聞かず絶対入れたくないと思う。仕事をするために入れているのに、クラブ活動や塾以上に負担がかかる事に理解ができない。改善していただきたいです。</p>
<p>小1の壁について。放課後に子どもが安心して過ごせる場所を作るために予算を割いていただけるとありがたいです。共働き、片親の家庭でも、仕事と子育ての両立が図れるようお願いいたします。また、そのようなサービスがあれば早めに周知してほしいです。</p>
<p>離婚してから休むことなく毎日のように必死に働いていますが、働く中で精神的にやられ、心も身体もボロボロになりつつあり、休みが欲しいと思っても、働かないと生きていけない…これからの不安などがあり、なかなか休むことができません。「休みにくい環境」というのもありますが、もう少しシングルマザーに理解ある人が増えてほしいです。</p>
<p>給付金があっても結局は非課税世帯のみ。ギリギリ非課税ではない低所得者は除外。働かない人が得しているように思えてしまいます。ひとり親の手当が頂けているのはありがたいですが、細かく収入をチェックされて少し増えただけでも手当は減らされる。トータルだと収入が増えた分以上のマイナスになっているのでは？と思うのに、非課税の給付金は大したチェックもされず給付されているのは正直複雑な気分です。</p>
<p>母子家庭で高3までは医療費無料ですが、大学生になると有料です。そこも無料にしてください。</p>
<p>奨学金貸与の金額を引き上げて欲しい。保育園の民営化が進む中で、公立を希望しても入園できなくなる事に対し理解ができない。</p>
<p>ひとり親でフルに働いています。夜勤もしています。時短勤務で働いていますが、なかなか時短で帰れません。しっかり時短で帰れるように、時短勤務への理解を深めるような取り組みをお願いしたい。ひとり親なので時短勤務が延長できる制度があればうれしい。</p>



中津川市子ども・子育て支援事業計画策定に関する
アンケート調査報告書

発行日 令和6年3月

発行者 中津川市 市民福祉部 子ども家庭課

住 所 〒508-8501
中津川市かやの木町2番1号

T E L 0573-66-1111 F A X 0573-62-0058

U R L <https://www.city.nakatsugawa.lg.jp>

